福井工業高等専門学校

自己点検・評価報告書

平成18年3月

独立行政法人高等専門学校機構
国立福井工業高等専門学校

ま　え　が　き

本校は、昨年創立４０周年を迎え、この間、本科卒業生５５０３名、専攻科修了者１５８名を社会に送り出し、わが国の産業発展に寄与するとともに福井地域に貢献してきた。本校は全国に設置されている５５の国立高専とともに、「独立行政法人国立高等専門学校機構」として、新しく生まれ変わって２年が経過しようとしている。国立高等専門学校には、国民の税金で運営されている以上、その運営状況を外部に公開し、内容を国民に積極的に説明するとともに、改善に努める責任が科せられている。本校も法人化後は、「機構本部」が策定した５年間の中期計画に従い、独自の中期計画を打ち立て、目下その計画に従って着々と計画実現に邁進しているところである。この中期計画に沿った教育プログラムは、昨年、日本技術者教育認定機構（JABEE）により認定され、認定校としての社会的評価を得るとともに、本校専攻科修了生は技術士一次試験が免除され、最短２６歳で技術士の資格が取れることとなった。

本校では、自己点検・評価委員会を中心として「福井高専教育点検システム」を常時稼働させ、普段から本校の教育内容のレベル維持に努めている。本自己点検・評価報告書は、平成１４年１２月に著した同報告書に続くもので、昨年受審した「大学評価・学位授与機構」による認証評価に際して編纂されたものの要約に、あらたに、教育研究スタッフ一覧として各教員の活動状況と、資料として外部資金受け入れ状況や出前授業・公開講座・公開授業等の社会貢献を添付したものである。

上記福井高専教育点検システムでは、計画（Plan）、実施および運用（Do）、点検・検証（Check）、見直し・改善（Action）の、いわゆる PDCA サイクルが運用されるが、その要が本報告書であり、外部に公開されて第３者のご批判、評価、ご意見を戴くために刊行するものである。本校では、学外有識者の意見を仰ぐため、福井工業高等専門学校評議員会を設置し、本校の教育研究目標と計画、自己評価、その他本校の運営に関する重要事項について助言と勧告を得ることとしており、本書はそのための基礎資料としても活用される。

本書が本校内外で活用されて、本校の教育研究内容のより一層のレベルアップにつながることを期待している。

平成１８年３月

福井工業高等専門学校長
駒井　謙治郎

目　　次

ま え が き

1　本校の現況と目的・・1
2　教育組織（実施体制）・・・10
3　教員及び教育支援者・・17
4　学生の受入・・・30
5　教育内容及び方法・・・50
6　教育の成果・・・86
7　学生支援等・・120
8　施設・設備・・143
9　教育の質の向上及び改善のためのシステム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・160
10　財務・・・175
11　管理運営・・・186
12　研究活動の状況・・・208
13　正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況・・・・・・・・・・・・・220

・教育研究スタッフ一覧・・227

（資料）
・科学研究費補助金採択一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・387
・外部資金受入れ一覧・・・391
　（共同研究・受託研究・奨学寄附金）
・出前授業・公開講座実施一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・407
・公開授業実施一覧・・419

１．本校の現況と目的

１．１現況

（１）学校名

福井工業高等専門学校

（２）所在地

福井県鯖江市下司町

（３）学科等の構成

学　科：機械工学科，電気電子工学科，
電子情報工学科，物質工学科，
環境都市工学科

専攻科：生産システム工学専攻，
環境システム工学専攻

（４）学生数及び教員数（平成１８年３月１日現在）

学生数　　単位：名

準学士課程	1年	2年	3年	4年	5年	計
機械工学科	40	40	40	41	35	196
電気電子工学科	40					40
電気工学科		40	42	39	39	160
電子情報工学科	40	40	42	40	37	199
物質工学科	39	42	40	39	37	197
環境都市工学科	40	40	40	40	36	196
計	199	202	204	199	184	988

専攻科課程	1年	2年	計
生産システム工学専攻	13	17	30
環境システム工学専攻	13	11	24
計	26	28	54

教員数（長期海外渡航者を除く）　　単位：名

区　分	教授	助教授	講師	助手	計
一般科目	9	12	4	0	25
機械工学科	5	3	1	2	11
電気電子工学科	5	4	0	1	10
電子情報工学科	4	4	1	2	11
物質工学科	5	3	2	2	12
環境都市工学科	5	2	1	1	9
計	33	28	9	8	78

１．２　特徴

本校は，実践的開発型の技術者の養成を目的に昭和４０年４月に設置された。これまでに５，５０３名の本科卒業生及び１５８名の専攻科修了生を送り出している。現在，「機械工学科」，「電気電子工学科」，「電子情報工学科」，「物質工学科」，「環境都市工学科」の５学科において，実践性と創造性を併せ持つ高度技術者を養成すべく，５年一貫教育を行っている。また，平成１０年４月には専攻科を設置し，「生産システム工学専攻」，「環境システム工学専攻」において，さらに進んだ教育も行っている。

教育の特徴としては，豊かな創造力とデザインマインドを持つ技術者を育成するため，「ものづくり教育」を進め，ＮＨＫアイデア対決ロボットコンテストでも毎年のように上位に入賞し，平成５年度，平成９年度の２度にわたって最高の賞であるロボコン大賞を獲得している。

本校を目指す中学生に対しては，アドミッションポリシーを示すと共に，平成１７年度には，入学時に学科を決められない中学生のために，２年進級時に転科可能な「工学基礎コース」を全国で初めて設置した。

また，本校は地元に立脚した学校及び地元に開かれた学校を目指し，産官学共同研究を進めている。福井県における産官学共同研究ネットワークの中心の一つである「地域連携テクノセンター」では，地元に密着した共同研究を進めている。福井県の伝統産業である和紙の生産者の組合である，福井県和紙工業協同組合と地元町の依頼により「伝統産業支援室」を設置し，和紙に関する共同研究を行っている。

さらに，本校の立地する鯖江市は世界最大の眼鏡枠生産地でもあり，福井県眼鏡工業組合とも新しい産官学共同研究事業を開始し，眼鏡枠材料に関する共同研究を「地場産業支援室」の設置により行っている。また，平成１７年５月には，これら地域社会との連携をさらに深めるため，近隣２市１町と本校は包括的な連携である「地域連携協定」を結び，さらなる共同研究・出前授業・リカレント教育に取り組むこととした。これらの研究により，科学研究費補助金の採択件数・金額は全国高専中飛び抜けた存在となっている。

国際連携としては，海外学生派遣制度の他，平成１８年度からオーストラリアの Ballarat 大学と提携し，学生の相互互換留学制度を開始することとした。

学校運営の評価として，平成１４年度に学外の有識者による外部評価委員会（平成１６年度より評議員会）を設置し，同委員会の開催後に評価結果を公表している。

また，平成１７年５月には日本技術者教育認定機構（ＪＡＢＥＥ）の認定校となった。その後も，公開授業，学生・教員相互からの評価などにより，恒常的な教育改善に努めている。

１．３　目的

福井工業高等専門学校の使命

基本理念

・創造性豊かな人材の育成
・幅広い工学的素養，基礎能力及び応用能力の育成を目指す実践教育を行う
・高度に情報化した国際社会に対応する教育を行う
・環境を意識し，地域社会に根ざしたものづくり教育を行う
・地域と連携した産官学共同研究の推進を図る

教育方針

1. 技術者として必要かつ十分な基礎力と専門技術を修得させる
2. 個性を伸長し，独創的能力の開発に努力する
3. 教養の向上につとめ，良識ある国際人としての成長を期する
4. 健康の増進につとめ，肉体的精神的に強じんな耐久力を育成する
5. 規律ある日常生活に徹し，明朗，かっ達な資性のかん養を図る

教育目標

(A). 地球的視点の技術者倫理を意識した，ものづくり･環境づくり，システムデザイン能力の育成
(B). 幅広い工学的素養，得意とする専門技術の基礎能力および応用能力の育成
(C). 豊かな創造力とデザインマインドを持ち，常に自己を啓発し，新しい課題･分野に挑戦する能力の育成
(D). 高度に情報化した国際社会で必要なコミュニケーション基礎能力とプレゼンテーション能力の育成
(E). 体験に基づいて問題を発見し，解決策を企画・実行する実践的能力および論理的思考能力の総合的な育成

養成する人材像

地球的視点の倫理観を持ち，「ものづくり」と「環境づくり」に関する能力と，多様な「システム」を理解し創造的に「デザイン」する能力を身に付けた，国際社会で活躍する実践的技術者を育成する。

（準学士課程・専攻科課程等ごとの独自の目的）

各学科の目的

機械工学科

（１）機械技術者として必要な基礎学力の育成
（２）技術革新，高度情報化社会に対応できる能力の育成

（３）創造性，実践的能力等の育成と，社会の期待に応えるための人間の育成
電気電子工学科
（１）電気電子技術者に必要な専門的かつ総合的な基礎力の育成
（２）幅広い専門分野に適応できる応用力の育成
（３）独創力およびコミュニケーション能力の育成
電子情報工学科
（１）基礎的な学力と能力の育成
（２）変化するＩＴ社会に対応できる応用力の育成
（３）実験実習や卒業研究をとおした実践的能力や創造能力の育成
物質工学科
（１）物質工学に必要な基礎科学及び幅広い専門基礎能力の育成
（２）材料工学あるいは生物工学を得意とする専門能力の育成
（３）実践的能力及びプレゼンテーション能力の育成
環境都市工学科
（１）環境都市工学に必要な基礎的な学力と能力の育成
（２）幅広い専門分野の理論に関する応用力の育成
（３）実験実習や卒業研究をとおした実践力と創造力の育成

専攻科の目的
生産システム工学専攻
　本専攻は，高等専門学校等で習得した基礎学力の基盤の上に，機械・設計関連，システム制御関連，電子・物性関連および情報・通信関連分野の知識を広く教授し，これらを有機的に統合した生産システムの設計並びに開発研究等を行うことのできる創造力を持った実践的技術者の育成を図ります。
環境システム工学専攻
　本専攻は，高等専門学校等で習得した基礎学力の基盤の上に，構造・材料関連，生物・化学関連，環境・分析関連および防災・都市システム関連分野の知識を広く教授し，これらを有機的に統合した環境システムの設計並びに開発研究等を行うことのできる創造力を持った実践的技術者の育成を図ります。

１．４　本校の今後の教育の展望

（１）学科構成

本校の学科構成は設立当初の機械工学科，電気工学科，工業化学科の当時ほとんどの国立高専に設置された３学科で教育が始まった。さらに，本校の所在地が全国有数の土木県であること，石川高専に建築工学科が設立されていたことなどにより，土木工学科が設置された。そして，社会の情報化に対応して電子情報工学科が増設された。その後，社会情勢の変化により，土木工学科を環境都市工学科，工業化学科を２コース制の物質工学科と改組し，電気工学科を電気電子工学科と名称変更してきた。また，平成 10 年度には大学課程の専攻科を設置し，生産システム工学専攻と環境システム工学専攻の２専攻による教育を行っている。しかし，一部学科では入学志願者の減少も見られ，社会が求める教育を早急に見極め，今後，学科の改組，統合も必要であろう。

（２）教育改善の実施

本校の活動で最も重要なものは教育であり，これまで本校教職員は教育に最大限の努力をしてきた。本校の科学研究補助金採択額，採択率は近年，全国高専中ずば抜けたものであるが，この科学研究も教育により学生に還元することを主旨としてきた。平成１４年より全校の学生を対象に全ての科目について授業アンケートを実施し，その結果を公表してきた。また，平成１６年度より公開授業により教員相互による評価を行っている。学外の教育専門家を講師として招き多数の教育改善に関する FD（教職員の教育技術向上，意識向上）を開催している。このような試みにより，授業及び学校に対する学生の満足度も向上していることがアンケートなどで確かめられた。今後もこのような試みを引き続き実施し，さらなる教育改善に努めたい。

（３）創造性教育の実施

この１年間で漸くわが国経済界にも明るさが漂うになったが，アジア諸国の技術力の向上，IT 技術や自動車関連技術の欧米諸国との熾烈な競争において，社会は創造的で開発型の技術者の要請を高専に期待している。また，団塊世代の大量定年によって実践的技術者の育成が社会問題となっている。

高専は高度成長期における技術者の育成機関として設立されたこともあり，もともと，実践的技術者の育成機関であり，実験・実習の授業が多く現在の社会要請に合った高等教育機関と言える。本校ではこのような高専制度の利点を活かした実践的教育を行っているが，平成１７年度より「工学基礎コース」の設置にあわせて１年生に３単位の「ものづくり科学」を導入した。この科目は各学科が示した複数の実験テーマを学生がある程度自由に選択して学ぶ PBL(Problem(Plan) Based Learning)授業であり，低学年からものづくりの基礎を築き，専門科目へのスムーズな移行を目的としている。今後もこのようなカリキュラムを全校的に導入し，学生が自律して学ぶ創造教育カリキュラムを増やしたい。

さらに，３学年では機械工学科の創造工学演習のように，ロボットコンテストを授業に取り入れ創造性教育を進めている。また，本科の卒業研究，専攻科の特別研究は科目自体が創造性教育であり，特に，問題提起能力，自律解決能力，発表能力の育成に力を入れている。

（４）教育的研究

本校の研究活動の目的は大きく二つからなる。一つは，本校の基本理念を達成するための教育的研究と各教員の教育者･研究者としての資質を向上するための研究である。二つ目は学生の創造性を育むような研究，学生の基礎力・応用力を涵養するのに役立つ研究，情報化社会・国際社会に対応した人材育成に関係した研究，学生のものづくり，環境作り能力の向上に関係した教育的な研究活動を目的としている。

また，学生が企業にインターンシップ，学外研修に出かけ，地元企業の理解を深めるとともに，教員と一緒に行う共同研究の参加を促している。このような学生参加の共同研究により，地域産業を担う人材の育成も図っている。

本校が立地する，越前市（旧武生市及び今立町），鯖江市は，和紙工業，漆器工業，打ち刃物工業，窯業などの伝統産業や，眼鏡枠工業，織物工業などの地場産業が盛んである。平成１７年５月に，この２市１町と本校は，共同研究の実施などの支援を約束する「地域連携協定」を締結した。今後，このような伝統産業，地場産業企業，組合，自治体と幅広い共同研究などを実施していく予定である。さらに，伝統産業・地場産業との共同研究に学生を参加させ，研究方法を教育すると共に，研究の面白さ・楽しみを学生に与えたい。

（５）地域への支援

本校は，地域社会や地域住民を対象に，公開講座，出前授業，リカレント教育など幅広い活動を行っている。これらは，本校基本理念に掲げている「環境を意識し，地域社会に根ざしたものづくり教育を行う」を目指しているものである。出前授業は毎年５０件以上行っており，福井県内の高等教育機関としては最も多数の出前授業を行っている。本校の出前授業は，高学年の学生及び専攻科生を帯同し，学生が小学生・中学生の前で実験・説明を行っている。これは，学生が教えることによって，自らも学び取ることを目的としている。

また，本校では，児童・生徒，学生の理科離れを防ぐために，近隣する越前市の新しい地場産業である強力磁石を製造する企業に協力していただき，マグネットを用いたアイデアコンテストを平成７年度より実施しており，その応募件数は，全国の小・中学生，高校生，大学生を合わせると７００件を超えている。

同様に，本校が位置する鯖江市は全国の眼鏡枠の９０％を生産する世界的な眼鏡枠生産地である。平成１６年１月に福井県眼鏡枠協会より，眼鏡に関する様々な共同研

究の依頼があり，本校では，その共同研究の一環として，「めがねワク waku コンテスト」を実施し，全国の生徒・学生より８００件を超えるアイデアが寄せられた。これらは上記のマグネットコンテストと同様に本校の学生を中心とした，本校教育目標である「デザインマインド」教育の一環であると共に，青少年の理科離れを防ぐことを目的としている。さらに，地域の産業を全国に情報発信し，地域の活性化を図ることも目的の一つとしている。

この他にも，「地域連携協定」により，本校が近隣市町の住民に，公開講座，出前授業，リカレント教育を実施する。地域では，高齢化社会を迎え様々な学習ニーズが高まっているため，本校では公開講座や講演会の開催，生涯スポーツ施設の提供などで応えたい。また，出前授業によって小学生・中学生・地域住民に科学の面白さを伝えたい。このように，協定締結により，地域における様々な学習の機会を整備充実させるとともに，豊かで住みやすい「まちづくり」を支援することも目的としている。

また，昨年の「福井豪雨」には本校の学生・教職員の多数がボランティアとして活動した。これは地域への支援を目的としているが，学生への人間性の涵養をも大きな目的としている。今後も地域のボランティア社会の構築のために，ボランティア活動を継続して行く。

（6）現代的教育ニーズ取組支援プログラムへの参加

本校は平成１７年度文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代 GP）の地域活性化への貢献（地元密着型）部門に「越の国ひとづくりまちづくりコミュニティ」プログラムが採択された。これはこれまで本校が地元地域支援として進めてきた共同研究，インターンシップ，出前授業，公開講座などの教育・研究コンテンツを一つにまとめたものである。現在の本校の教育研究活動の大きな柱として，全力で３年間の計画を実行に移している。今後はこれからの本校の教育・研究の課題を設定し，それを今後の現代 GP，あるいは今後高専にも申請が可能となると思われる特色 GP のテーマとして設定し採択に向けて十分な準備を行いたい。

（7）国際交流

本校の基本理念である「高度に情報化した国際社会に対応する教育を行う」に由るまでもなく，国際化グローバル化が著しい今日，国際社会に軸をおいた基本的な人格の育成は最も重要で緊急の教育課題である。

本校では，平成１８年４月より海外派遣・交換留学制度が実施されるが，これまでも多数の学生を海外に派遣してきた。外国でのインターンシップも行っている。今後は平成１８年度より始まるオーストラリアの Ballarat 大学との交換留学を中心に学生の国際性の涵養に努めたい。さらに同大学，あるいは外国の他大学との交流を進め，国際的な技術者育成プログラムに取り組みたい。

(8) 各種評価の認定

本校の本科高学年と専攻科課程である「環境生産システム工学プログラム」は平成１７年に JABEE(Japan Accreditation Boad for Engineering Education)の認定を受けた。今後もこの JABEE を尺度とした育改善を行っていく。また，平成１７年度に大学評価・学位授与機構による機関別認証評価を受審した，結果は平成１８年３月に公表される。今後も外部評価のための教育・研究の改善でなく，学生・社会のためのたゆまぬ教育改善・学校改善に努めたい。

(9)学生指導

高専の教育システムで最も重要なものは担任制度と考えられる。本科１年から５年生までの担任制度はきめ細やかで充実した高専独自の教育を可能としてきた。学生の自立を促すことも必要であるが，低学年における学習生活の支援から高学年の就職・進学支援までこれからの担任制度を続けていきたい。

また，青年期にあたる学生の人格形成に欠かせないのが課外活動である。課外活動は学生の将来の技術者としての健康と他者とのコミュニケーション能力育成にも大きく寄与する。今後も学習と並ぶ，学生への重要な支援として，クラブ活動指導を行って行きたい。

(10) 未来教育型空間の創出

高専制度発足以来 40 数年を経て，全国の国立高専では校舎改修が進み，未着工校は残り 10 校程度となっている。本校では未だ改修が行われていないが，これを好機ととらえ,校舎改修により本校理念に沿った教育が可能な未来志向の空間を実現したい。特に，入学後に希望学科に転科可能な「工学基礎コース」を平成１７年度より導入し，好評であるが，この「工学基礎コース」設置により人数が多くなるクラスルームもあり,様々な人数と学科目的に対応したクラスルームへと改善を図りたい。また，各学科に創造教育が可能なスペースを設置し，機械工学科の校内ロボコン，環境都市工学科のブリッジコンテスト,電子情報工学科のプログラムコンテストなどの教育に対応したい。さらに，全実験室を共用し，実験実習スペースを能率的に使用する。PBL 授業に対応した実験室を設置する。卒業研究アトリエを設置して学生と教員が自由にディスカッションしながら，学生が研究を進める空間を設置する。バリアフリー化と耐震に適応した施設とする。さらに，このような施設設置を可能とするため，全教員室を学科ごとに幾つかの大部屋として使用したい。

校舎改修によるこのような未来型教育空間を早期に実現して本校が理想とする教育を始めたい。

（11）国立高等専門学校の法人化と高専制度

平成１６年４月に全国の国立高専が一つの独立行政法人となった。これは昭和３８年に高専制度が発足以来最大の変革であった。今まで各国立高専が自校の教育のみを考えてきたが，全国の高専の一つとしての対応を考えねばならなくなった。学校の制度，たとえば学科構成なども自校のみでなく，全国あるいは地域の高専との連携が必要となった。全国国立高専の予算総額は巨大国立大学に匹敵する。今後はそのメリットを大いに活かしていくことが求められる。社会では未だ知られていないが，各高専に入学するということは，その大きな高専制度の中に入ったことであり，全国の高専が協力してそれぞれの学生の教育にあたることは大きな意味があると思われる。

高専制度発足後の入学者の学力レベルは当時の進学校の最上位と同等の高いものであった。その後，高学歴を求める社会風潮の中で，高専のイメージは専修学校，工業高校グループの上位と認識されるようになった。「専科大学」構想も時折議論されるものの淡い期待で終わり，現在に至るまで，専攻科設置，JABEE 認定，大学同等単位換算カリキュラム導入と大学化への模索を続けている。しかし，２年後といわれる大学全入時代において，高専制度のいっそうの特色化と魅力ある学校つくりは誠に急務である。

その方策として現在考えられているのが，各高専の独自性である。今後，本校も大いに独自性を探り，社会が要請する技術者の育成を行いたい。また，本校のこのような取り組みを中学校をはじめとする社会にアピールしていきたい。

さらに重要なのは，上記の独立法人全体としての取り組みであろう。たとえば，各高専での単位互換，各高専独自の学科の設置，建設系から建築系への学校を超えての転科などが考えられる。

２　教育組織（実施体制）

（１）観点ごとの分析

観点２－１－①：　学科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

昭和４０年度に本校は「機械工学科，電気工学科，工業化学科」の３つの学科で発足した。これは，工学の基礎となる機械・電気・化学となる学科が構成されたものであるが，工業化学については福井県が繊維，及び染色関係の企業が多いことにより設置されたものである。

また，昭和４５年度には「土木工学科」が設置されたが，これは，福井県が大手の土木業者を多く出している土木県であると共に，当時の土木技術者不足によるものである。さらに，昭和６３年度に情報社会の到来を受けて，ハードとソフト両面の情報処理技術者を育成する「電子情報工学科」が設置された。

その後，平成５年度に土木工学科を時代の要請に沿うべく「環境都市工学科」として改組した。また，平成７年度に工業化学科を「物質工学科」として改組し，バイオコースと新素材コースの二つのコース制とした。さらに，平成１７年度には，電気工学科を「電気電子工学科」とした。これは電気工学科卒業者にも，近年の進展する電子技術を基礎より教育する必要があるため，学科の改組を行ったものである。

したがって，現在の学科構成は「機械工学科，電気電子工学科，電子情報工学科，物質工学科，環境都市工学科」の５学科による構成となっている。これは，本校の基本理念のうち，４番目に掲げる環境を意識し，地域社会に根ざしたものづくり教育を行うための学科構成となっている。

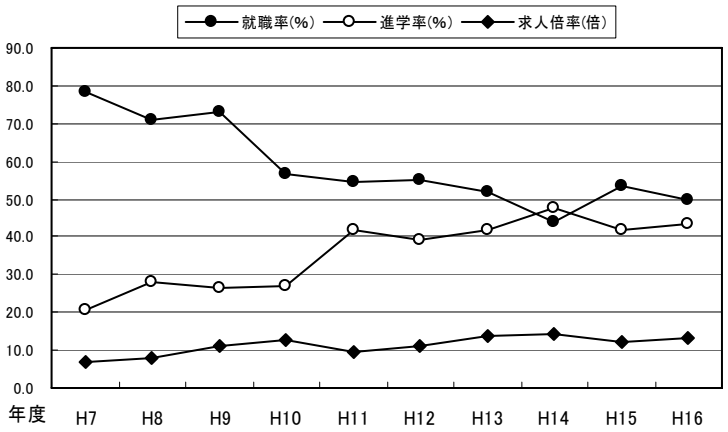
すなわち，福井県の主幹産業である，繊維工業，化学工業，眼鏡枠工業，電子電気工業，環境土木産業に基づいたものとなっている。福井県の産業には，繊維工業，眼鏡枠工業などデザイン技術が重要なものが多い。

したがって，本校の教育目標では，ものづくり・環境づくり，システムデザイン能力の育成を掲げ，５つの学科で共通にこれらのことを学ぶシステムとなっている。さらに，一般科目では専門の基礎科目，文科系科目を履修し，専門課程での学習に十分に教育効果をあげることができるようになっている。

また，最近１０年間の各学科の求人倍率は，各学科とも１０．０倍を超えて，各学科は社会から受け入れられていることを示している。

（資料２－１－①－１）

「最近１０年間の各学科の求人倍率」



（出典　学生課）

（分析結果と根拠理由）

本校の教育理念，学習・教育目標に沿った学科構成となっている。また，地域社会の産業が繊維工業，眼鏡枠工業などであることを考慮した学科構成ともなっている。したがって，卒業生の就職における求人率も高いものとなっている。

観点２－１－②：　専攻科を設置している場合には，専攻科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

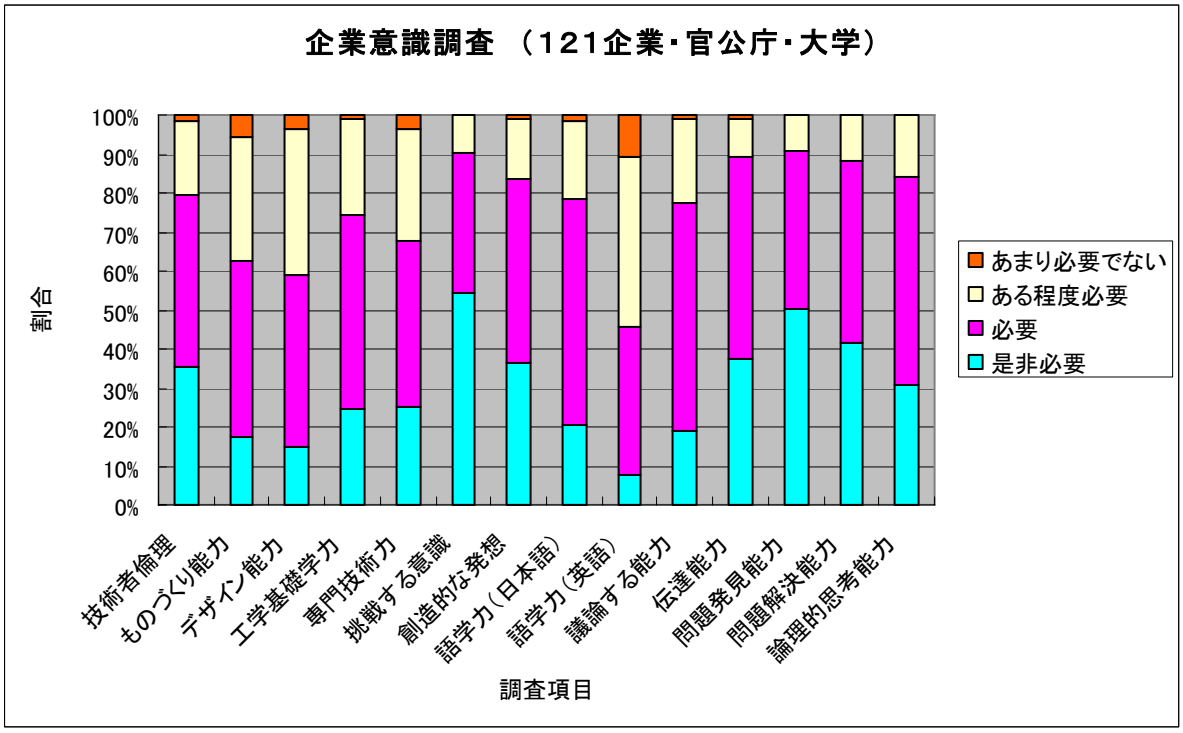
専攻科の「生産システム工学専攻」は，本科の機械工学科・電気電子工学科・電子情報工学科出身の学生が進学し，「環境システム工学専攻」は，本科の物質工学科・環境都市工学科出身の学生が進学するが，その教員は全員が本科と兼任で教育にあたっている。担当科目については，専攻科委員会で専門分野周辺の科目を担当するように計画・実施されている。このような教育により，教育の目的を達成できる構成となっている。

（分析結果と根拠理由）

本科の学科構成を融合・複合させた二つの専攻となっており，本校の学習・教育目標をそのまま学習できるような構成となっている。平成１６年度に専攻科の学習・教育目標について，福井県の企業，大学に対しアンケートを実施した結果を（資料２－１－②－１）に示すが，概ね，評価された内容となっている。

（資料２－１－②－１）

「企業における本校教育目標アンケート」



（出典　教員会議資料）

観点２－１－③：　全学的なセンター等を設置している場合には，それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校における全学的なセンターとして，「図書館」，「総合情報処理センター」，「地域連携テクノセンター」，「実習工場」を設置している。これらのすべての施設にはLANが張り巡らされているとともに教育・研究のための様々な設備備品が導入されている。平成１６年度には，自己点検及び外部評価によって施設の現況と問題点が分析されている。施設の保守・管理にあたっては定期点検が毎年度実施されており，さらに平成１６，１７年度に実施された労働安全衛生診断の際に指摘された項目について改善が行われている。

図書館は，学生の自学自習の場であるほか，近年，資格試験取得を目指す学生が多く学習していることがアンケートなどにより判明した。

総合情報処理センターは，平成１７年度に情報機器が一新され，情報処理教育のほか，後述のように学生の放課後の自習場所ともなっている。

地域連携テクノセンターでは，産官学共同研究が行われていると共に，卒業研究，特別研究のための設備も充実している。平成１６年度には「伝統産業支援室」，平成１７年度には「地場産業支援室」が完成し，地域との共同研究を進めるとともに，インターンシップの事前，事後学習にも使用されている。

実習工場では，ほとんどの学科の機械実習を行うとともに，教育研究支援を行うために技術職員で組織化された，教育研究支援センターの設備の一環として教育研究にあたっている。

（分析結果とその根拠理由）

「図書館」，「総合情報処理センター」，「実習工場」を完備し，自助努力で総合情報処理センター以外の情報処理施設を設置している。また，本校の特徴とも言える，地域社会との産官学共同センターとして「地域連携テクノセンター」を設置し，さらに，同センター内には，地域との共同研究のために「伝統産業支援室」，「地場産業支援室」を設置して，積極的に共同研究や学生の卒業研究・特別研究に使用されている。

観点２－２－①：　教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制及び教育課程を有効に展開するための検討・運営体制が整備され，教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動を行っているか。

（観点に係る状況）

全ての重要な企画において校長がリーダーシップを取り，それを３主事，専攻科長からなる副校長がバックアップする体制が整っている。具体的には，教育課程全体を企画調整するために，校長，副校長，部長，課長からなる，「校務打ち合わせ会議」を毎月１回開催

している。さらに，校長，副校長，部長，課長，各学科・教室主任，センター長，図書館長からなる「協議会」を置き，毎月１回の審議を行っている。その結果を全教員からなる，「教員会議」で審議・報告を行っている。さらに，長期を見据えた企画・計画は将来構想検討委員会で行っている。これを，教務委員会，入試委員会，補導委員会などの各種委員会で実行している。さらに，その点検を，自己点検・評価委員会や外部評価である評議員会で行っている。これらは，Plan（計画）→Do（実施及び運用）→Check（点検・検証）→Action（見直し，改善）という４段階の役割を果たしている。

（分析結果とその根拠理由）

上記 PDCA が機能し，そのスパイラルアップに努めている。

観点２－２－②：　一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が，機能的に行われているか。

（観点に係る状況）

平成１５年１２月に教員間教育ネットワーク会議が発足し，平成１６年４月より発展的に解消され，教員間ネットワーク委員会として活動を開始している。この教員間教育ネットワーク委員会は，各学科及び一般科目の教員によって構成され，学校教育に関する諸問題について議論を行っている。特に，専門科目と一般科目の関連科目の担当者間では，授業の内容・順序・進度などの調整の必要が生じる場合もあり，話し合いの場が持たれている。例えば，「一般化学」と専門科目の物質工学科における連携について，「一般物理」と専門科目である「工学基礎物理」の連携について議論を行っている。また，「工学基礎物理」担当の応用物理所属専門教員は「一般物理」も担当し，人事間の連携も進めている。その他，専攻科生のＴＯＥＩＣ点数取得に関し，専攻科関連教員と一般科目英語科教員の教育ネットワーク会議なども開催されている。

（分析結果とその根拠理由）

一般科目と専門科目との連携は教育ネットワーク委員会，教員会議などによって，連携が機能的に行われていると言える。

観点２－２－③：　教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

（観点に係る状況）

教育支援体制として，本校は学生課・庶務課を中心とした事務方の全面的な支援体制が整っている。

学生課教務係は，学生の成績及び進学などの教務関係・入試関係を担当している。学生課学生係は，厚生補導関係・就職関係を担当している。また，学生課寮務係は，寮務全般に関して様々な支援を行っている。これらの事務は十分に教員を支援している。なお寮務

に関しては，教育寮であるため教員による宿日直が行われ，寮生の生活指導や学習相談などを行っている。

平成１６年度からは，新たな教育支援組織として，教育研究支援センターと進路指導室が新設された。進路指導室では講師招聘に係わる事務処理のほかに，進路情報管理システムへのデータ入力や，インターンシップを含む校外実習の依頼書や礼状の送付，就職・進学関連資料の整理など多様な方面から支援を行っている。

また，本校には共同利用施設として，図書館，総合情報処理センター，地域連携テクノセンター及び実習工場がある。図書館は，学生課図書係が支援を行っており，総合情報処理センター及び地域連携テクノセンターは庶務課の専門職員が支援している。実習工場は，教育研究支援センターから４名の技術職員が派遣されて活動している。さらに，教育研究支援センターは各学科へ２名の技術職員を派遣し，実験を中心とした体験型学習の指導にあたっている。

（分析結果とその根拠理由）

教員の教育活動を教育研究支援センターの技術職員が支援し，さまざまな教員の学生学習・生活支援を事務が果たしている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

本校の教育研究支援センターによる教育支援は組織的であり，非常に機能的であると言える。NHKアイデア対決ロボットコンテストにおける大賞（最高賞）２度の受賞も，本校の「ものづくり教育」とこのシステムによるところが大きい。

（改善を要する点）

専攻科と本科の指導体制の整備などが挙げられる。

（３）基準２の自己評価の概要

当初の学科の構成は，設立時に地元社会の要請，近隣大学・高等専門学校の学科構成を考慮して決めたものである。その後，学校の目的を確実に実行できる学校全体の組織構成を考え，さらに，社会変遷による地元社会・産業界の要請を考慮して現在の学科構成となっている。専攻科の学科構成も，学校の目的を達成と，地元社会の要請を考慮して決めたものである。

学校の目的を達成するために，さらに教育サービスを重点化させて，図書館，総合情報処理センター，地域連携テクノセンターなどの全学的なセンターを充実させている。特に地域連携テクノセンターは，福井県の産学共同体制の重要なネットワークの一つとなっている。

教育活動を展開する上で，重要な企画において校長がリーダーシップを取り，それを３主事，専攻科長からなる副校長がバックアップする体制が整っている。さらに，校長，副校長，部長，課長，各学科・教室主任，センター長，図書館長からなる「協議会」を置き，審議を行っている。その結果を全教員からなる，「教員会議」で審議・報告を行っている。各学科・教室での連絡体制，一般科目と専門科目との連携は教員間ネットワーク委員会などの様々な制度によって十分な連絡を取り合っている。また，教育研究支援センターを設置して，技術職員が教育を支援する体制を作っているほか，事務による教育に対する支援体制も整っている。

３　教員及び教育支援者

（１）観点ごとの分析

観点３－１－①：　教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

本校の一般科目担当教員は常勤２５人，非常勤２４人，計４９人で構成される。これは高等専門学校設置基準第６条の要件を満たすものである。また，本校の教育目標を達成するために必要な科目が配置され，それぞれに質の高い教員が配置されている。本校独自の工学基礎コース，１年次の混合学級及び２年次以降の学科の要請に対応するよう教員配置が考慮されている。これらの内容は学校要覧において公表されている。

（資料３－１－①）

「一般科目担当教員の配置」

一般科目担当教員の配置状況

自然系

科目名	常勤	非常勤
数学	坪川武弘	梅木冨士夫
	長水壽寛	国村正子
	宮田一郎	
	中谷実伸	
	柳原祐治	
	井之上和代	
応用数学	朝倉相一	
工学基礎物理，	太田泰雄	上田正紘
	北浦守	千葉明朗
物理	岡本拓夫	鈴木茂雄
化学	山本裕之	福岡俊孝
生物		中野勇
保健体育	島田茂	乾博美
	小林秀紹	内藤嘉昭
	山田孝禎	高野昭三
		三上肇
人数計	14	11

人文系

科目名	常勤	非常勤
国語	前田安信	木村幹夫
	大久保弦	
	中村吉秀	
中国語		林文嫻
法学		峯金弥士郎
倫理社会	森芳周	
政治経済	廣重準四郎	
歴史	荻野繁春	松田友幸
地理		駒野與説
		門井直哉
政治・経済		金森洋司
音楽		石井美鶴
美術		岩本宇司
ドイツ語		田中まり
英語	小寺光雄	中島孝
	吉田三郎	澤田昌紀
	森貞	上野敬子
	原口治	
	瀬川直美	
人数計	11	13

（出典　学校要覧データ）

（分析結果とその根拠理由）

教育課程の編成に照らして一般科目の教員は適切に配置されている。高等専門学校設置基

準はもとより本校の目的を達成すべく，高等専門学校の工学の専門性と全人教育が効果的に機能する状況にある十分な質の教員が配置されている。

観点３－１－②：　教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

高等専門学校設置基準第６条及び本校の教育目標に則り，機械，電気電子，電子情報，物質工学及び環境都市の各学科は（資料３－１－②）に示す開講科目に対し，適切な人数の専任及び非常勤の教員を配置している。また，ＪＡＢＥＥ認証に伴う技術者の養成を鑑み，企業経験者の配置等を意識している。

（分析結果とその根拠理由）

教育課程の編成に照らして学科の教員は適切に配置されている。教育課程は時代の要請に応じて適宜見直され，適切なカリキュラムの構成がなされている。これに対する人員配置も，高等専門学校設置基準はもとより本校の目的を達成すべく，そのカリキュラムの内容を専門とする教員が適切に配置されている。

観点３－１－③：　専攻科を設置している場合には，教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

本校専攻科は，生産システム工学専攻及び環境システム工学専攻より構成され，学習・教育目標を掲げている。この目標を達成するために高等専門学校設置基準第６条に則り，教員配置がなされている。また，ＪＡＢＥＥ認証の本校教育プログラムの水準を満たすために選考基準に則り，厳格かつ適切な配置がなされている。

（分析結果とその根拠理由）

教育課程の編成はもとより，学位授与及びＪＡＢＥＥ認定の水準を維持すべく，設定目標に即した当該科目を担当する教員配置が適切に配置されている。

（資料３－１－②）

学科ごとの専門科目担当教員の配置状況

機械工学科

科目名	常勤
材料科学	安丸尚樹
材料学Ⅰ	
材料学Ⅱ	
機械製図Ⅱ	
自動制御	井上清一
システム工学	
ロボット工学	
創造工学演習	
機械設計製図Ⅲ	岡田将人
メカトロニクス	加藤寛敬
機械工作法Ⅰ	
機械工作法Ⅱ	
機械工作実習Ⅱ	
電子応用	吉崎保夫
機構学	
機械設計法	
創造工学演習	
材料力学Ⅰ	阪口健一
材料力学Ⅱ	
材料力学Ⅲ	村中貴幸
機械設計製図Ⅰ	
機械設計製図Ⅱ	
知能機械演習	
科学基礎	
機械工学実験Ⅱ	田中嘉津彦
振動工学	
生産技術演習	
工業力学	
センサ工学	
工学演習	
機械工学実験Ⅰ	
流体機械	藤田克志
流れ学Ⅰ	
流れ学Ⅱ	
伝熱工学	芳賀正和
機械計算力学	
熱力学	
Ｃ言語基礎	鈴木秀和
Ｃ言語応用	
科目名	**非常勤**
電気工学	松木純也
電子工学	松田政信
生産技術演習	伊坂篤美
	埴將
	大西武夫
熱機関	田中貞行
機械設計製図Ⅲ	

電気電子工学科

科目名	常勤
情報処理Ⅰ	米田知晃
情報処理Ⅱ	
電子工学Ⅱ	
電子創造工学	
機械工学概論Ⅰ	田中嘉津彦
機械工学概論	
情報通信工学Ⅰ	大久保茂
電気回路演習	
計測工学Ⅰ	前多信博
計測工学Ⅱ	
電気回路Ⅲ	川本昂
電力システムⅠ	
電気回路Ⅳ	
電子応用工学	
電子材料	
電気回路Ⅰ	新谷邦弘
電気回路Ⅱ	
電気機器	
電気電子工学実験Ⅰ	山本幸男
電気材料	
電気磁気学Ⅱ	佐藤匡
電気磁気学Ⅲ	
制御工学	
電気電子設計	
ディジタル技術	荒川正和
電気電子工学実験Ⅲ	
電子工学Ⅰ	
情報処理ｼｽﾃﾑ論Ⅰ	原田望
情報処理ｼｽﾃﾑ論Ⅱ	
電子回路Ⅰ	
工業英語	
電気電子工学実験Ⅳ	
電気電子工学実験Ⅱ	丸山晃生
科目名	**非常勤**
電気応用工学	清水正之
電気法規	
情報通信工学Ⅱ	梅田博之
ｴﾈﾙｷﾞｰ伝送ｼｽﾃﾑⅡ	田渕博
	宮川博晃
ﾊﾟﾜｰｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽ	杉本英彦
電子回路Ⅱ	松田政信
機械工学概論Ⅱ	田中貞行

電子情報工学科

科目名	常勤
ｵﾍﾟﾚｰﾃｨﾝｸﾞｼｽﾃﾑ	蘆田昇
ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ基礎Ⅱ	
情報理論Ⅰ	野村保之
電子情報工学実験Ⅱ	
計算機ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ	
情報理論Ⅱ	
電気磁気学Ⅱ	藤原正敏
論理回路	
知識情報処理Ⅰ	
知識情報処理Ⅱ	
電子回路Ⅰ	前川公男
電子回路Ⅱ	
卒業研究	
通信システム	
通信ネットワーク	
数値解析	石川和彦
ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ応用	斉藤徹
情報構造論	
電子情報工学実験Ⅳ	
計算機構成論Ⅰ	青山義弘
計算機構成論Ⅱ	
電子情報工学実験Ⅴ	
電気磁気学Ⅰ	高久有一
電子情報工学実験Ⅲ	
システム設計	下條雅史
情報数学Ⅰ	
情報数学Ⅱ	
電気回路Ⅰ	井上昭浩
電気回路Ⅱ	
電子工学	
電子物性	
Ｃ言語応用	西仁司
科目名	**非常勤**
制御工学	森幹男
ｼｽﾃﾑ工学	小倉久和
ﾃﾞｨｼﾞﾀﾙ信号処理	谷口秀次
電気回路Ⅲ	福間慎治
ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ	樋口健
計算機ｱｰｷﾃｸﾁｬ	幡生安紀

物質工学科

科目名	常勤
機能材料化学	加藤敏
材料工学	
材料工学実験	
設計製図	
反応工学	
化学工学Ⅰ	
化学工学Ⅱ	
物質工学実験Ⅲ	
環境科学	吉村忠與志
計測制御	
卒業研究	
情報化学	
物理化学Ⅱ	
生物機能化学	吉村芳武
量子化学	
基礎材料化学	
無機化学Ⅱ	
無機材料化学	
環境微生物学	高山勝己
生物工学実験	
応用微生物学Ⅰ	
物理化学Ⅰ	
放射線概論	小泉貞之
機器分析	
物質工学実験Ⅰ	
分析化学Ⅰ	
分析化学Ⅱ	
生命科学	松井栄樹
工業英語	
生物化学Ⅰ	
合成化学	松井修一
有機化学Ⅱ	
有機材料化学	
生理学	上島晃智
生物化学Ⅱ	
微生物学	
遺伝子工学	川村敏之
分子生物学	
無機化学Ⅰ	大嶋俊一
電気化学	津田良弘
品質管理	
物質工学実験Ⅱ	
有機化学Ⅰ	
情報ﾈｯﾄﾜｰｸ	平井惠子
ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ基礎	
情報処理演習	
科目名	**非常勤**
基礎工学概論	倉矢憲芳
	仁木秀明
生物反応工学	末　信一朗
	寺田　聡
化学工学Ⅰ	佐藤信孝

環境都市工学科

科目名	常勤
ｺﾝｸﾘｰﾄ構造学Ⅱ	阿部孝弘
都市工学設計製図Ⅲ	
ｺﾝｸﾘｰﾄ構造学Ⅰ	
コンピュータプログラミング	
都市工学設計製図Ⅰ	
環境保全工学	奥村充司
環境衛生工学	
水理学Ⅱ	
舗装工学	山田幹雄
建設材料学	
測量学Ⅱ	
構造力学Ⅰ	前島正彦
構造力学Ⅱ	
応用力学	
空間情報工学	辻子裕二
地盤工学Ⅰ	
地盤工学Ⅱ	
都市工学実験実習Ⅲ	
都市工学設計製図Ⅱ	辻野和彦
コンピュータ図学	
海岸環境工学	田安正茂
数値解析	
都市工学実験実習Ⅱ	
環境都市工学演習	武井幸久
卒業研究	
地域都市計画	
環境都市計画論	
計画数理学	
都市交通工学	
河川環境工学	廣部英一
水理学Ⅰ	
都市工学実験実習Ⅳ	
科目名	**非常勤**
応用測量学	井上一壽
地震工学	小嶋啓介
橋工学	佐々木孝
地盤防災工学	西野良生
施工管理学	

「学科ごとの専門科目担当教員の配置状況」

（出典　学校要覧を改変）

観点３－１－④：　学校の目的に応じて，教員組織の活動をより活発化するための適切な措置（例えば，均衡ある年齢構成への配慮，教育経歴や実務経験への配慮等が考えられる。）が講じられているか。

（観点に係る状況）

教育活動を適切に行うために，組織を構成する人員の特徴は考慮されるべきである。本校においても高等専門学校設置基準に則り措置を講じている。年齢構成比率のパイチャート及び教員年齢構成は（資料３－１－④－１）の一覧表からわかるように３０，４０，５０歳代の比率がほぼ等分され，５歳区分の教員人数においても３０歳以降１０名前後で安定している。教員採用には年齢の均衡を図るための条件を提示している。

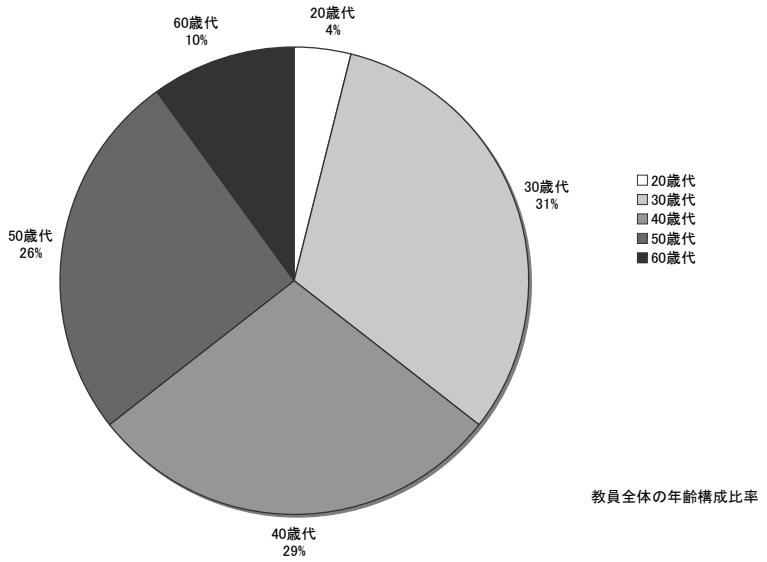
また，教員組織がより効果的に成立するよう，ＦＤ活動や以下の資料に示す優秀教員評価制度がある。これらの現状は，本校ウェブページ及び教員総覧（冊子）にまとめられている。

（分析結果とその根拠理由）

年齢構成は各学科等において若干の差異があるものの，各年代にわたってバランスのある構成になっている。学位取得状況，海外渡航状況及び文部科学省の各種研究員派遣状況の各数値に，これまで教育・研究活動の活性化に取り組んできた実績が反映されている。

（資料３－１－④－１）

「教員年齢構成の一覧」



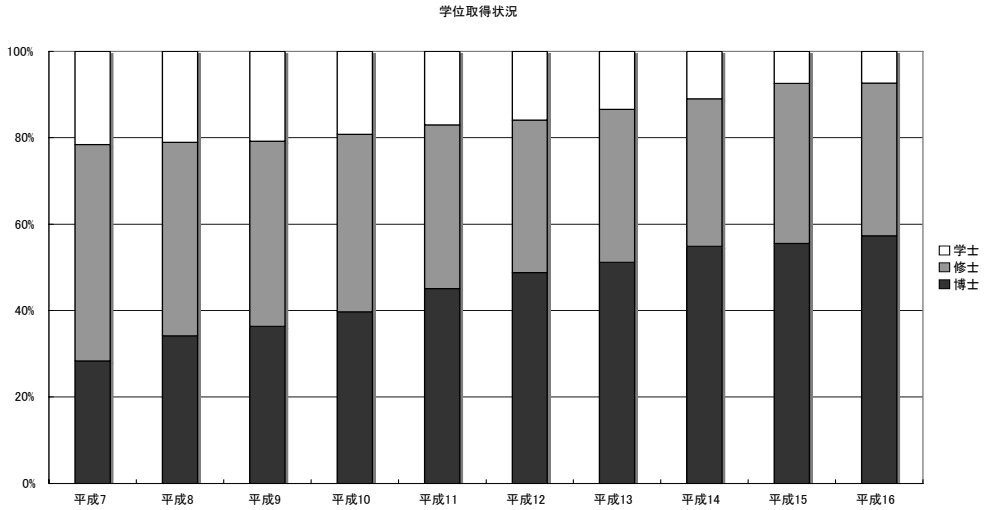
	年代								合計
職階	25	30	35	40	45	50	55	60	
教授	0	0	0	0	5	9	11	7	32
助教授	0	1	11	10	9	1	0	0	32
講師	0	6	2	0	0	0	0	0	8
助手	3	5	1	0	0	0	0	0	9
合計	3	12	14	10	14	10	11	8	81

注）数字は人数

（出典　教員総覧より作図及び作表）

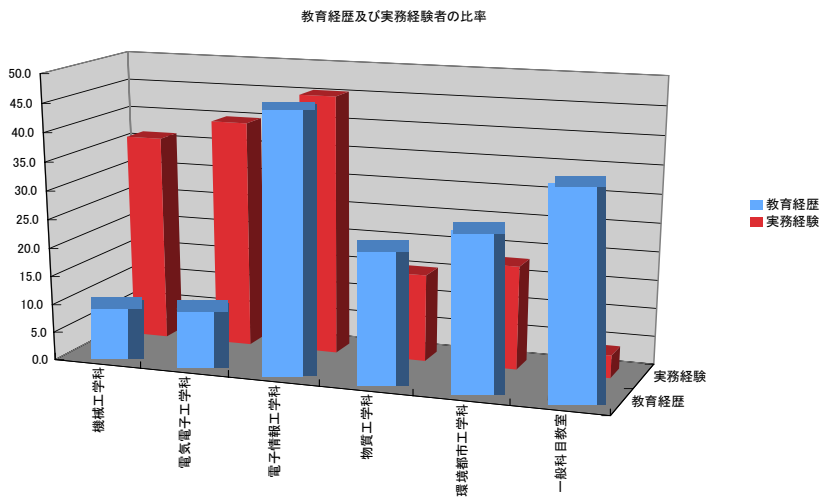
（資料３－１－④－２）

「学位取得状況」



（出典　教員総覧）

（資料３－１－④－３）
「教育経歴，実務経験を持つ者の任用状況」



（出典　教員総覧より作図）

観点３－２－①：　教員の採用や昇格等に関する規定などが明確かつ適切に定められ，適切に運用がなされているか。

（観点に係る状況）

本校専任教員の任用等（採用・昇任）にあたっては，基本的に教育公務員特例法第１３条第２項，教育公務員特例法施行令第３条及び人事に関する権限の委任等に関する規程第４条第１項の規定に基づき行っている。本校専任教員の任用等（採用・昇任）に関しては，福井工業高等専門学校教員選考規則を制定し，当該規程により実施・運用している。また中途退職や定年退職における教員の欠員補充で，認可を受けた教員採用計画以外の教員の採用についても，同規程により実施・運用している。

その選考手続き及び選考基準の概要は，教員採用・昇任手続きに記されている。本校では任用等の審査に関し特に審査基準は制定していないが，任用教員の審査については現行の規程において，「研究業績及び教育業績，教授能力の基準としては高等専門学校設置基準に規定する教員の資格に準拠し，優れた人格及び見識を有し，かつ本学の建学の理念に深い理解を有する者の内から選考する」と規定されていることを鑑み，教授能力の評価を複数の選考員（推薦委員会委員）によって慎重に議論し，手続きを行っている。

（資料３－２－①－１）

「福井工業高等専門学校規則集　第４章人事　第１編　規則・内規」

○福井工業高等専門学校教員選考規則（平成 13 年 12 月 20 日　規則第 12 号）

（趣旨）

第１条　この規則は，教育公務員特例法（昭和 24 年法律第 1 号第 13 条第 2 項，教育公務員特例法施行令（昭和 24 年政令第 6 号）第 3 条及び人事に関する権限の委任等に関する規程（平成 13 文部科学省訓令第 3 号）第 4 条第 1 項の規程に基づき，福井工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教授，助教授，講師及び助手（以下「教員」という。）の採用及び昇任に係る選考手続きに関し必要な事項を定めるものとする。

（選考基準）

第２条　教員の選考基準は，高等専門学校設置基準（昭 36 年文部省令第 23 号）及び国立高等専門学校教員専攻方針（昭和 37 年 3 月 30 日文部大臣裁定）の定めるところによる。

（専攻の発議）

第３条　校長は，教員を採用し，又は昇任させようとするときは，必要に応じ当該教員が所属することとなる学科又は一般科目教室（以下「学科等」という。）の主任の意見を聴取の上，その都度，次条に規定する推薦委員会を設置し，候補者の推薦を求めるものとする。

２　前項の場合において，校長は，原則として公募を行い，これに応募した者の中から候補者の推薦を求めるものとする。

（推薦委員会）

第４条　推薦委員会は，当該学科等の教授３名及びその他の学科等の教授２名の計５名の委員をもって構成する。

２　推薦委員会の委員長及び委員は，校長が指名する。

（候補者の推薦）

第５条　推薦委員会は，第２条に規定する選考基準に基づき審査の上，複数の候補者について推薦順位を付し，候補者に係る次の資料を添えて校長に推薦するものとする。

(1) 履歴書

(2) 教育研究上の業績

(3) 人格及び識見に関する意見

２　候補者が１名であるときは，推薦委員会は，その理由書を添付するものとする。

（候補者の決定）

第６条　校長は，推薦委員会から推薦された候補者の適否を決定し，その結果を推薦委員会に通知するものとする。

２　校長は，必要に応じ校外の学識経験者の意見を聴取するものとする。

（非常勤講師の任用）

第７条　非常勤講師を任用する場合は，第３条から第６条までの規定にかかわらず，当該学科等から推薦された候補者について，別に定めるところにより校長が適否を決定する。

附則

この規則は，平成 13 年 12 月 20 日から施行する。

（出典　福井工業高等専門学校規則集）

（資料３－２－①－２）

「教員採用・昇任手続き一覧」

手　続　き　事　項	関　係　条　文
任用等を希望する該当学科主任から校長に任用等の申し出	規則第３条
校長から推薦委員会設置の協議	規則第７条第１項
推薦委員会の委員選出（当該学科教授３名その他の学科等の教授２名を選出）	規則第４条
推薦委員会による任用等の審議及び候補者の推薦	規程第５条
校長は任用候補者を決定	規則第６条

（出典　福井工業高等専門学校規則集より作表）

（資料３－２－①－３）

「教員採用・昇任実績」

		平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
採用	教授			1	1	
	助教授					
	講師	2	1			
	助手			3	5	1
昇格	教授	1		4	6	4
	助教授	1	5	5	2	3
	講師		1	1	4	

注）数次は人数

（出典　庶務課議事録より作表）

（分析結果とその根拠理由）

教員の退職に伴う新規教員の採用等については，前述の規則・審査基準が適切に定められ，推薦委員会を中心に適切に運用されてきた。これまで任用手続きには特に問題もなく，スムーズに教員の任用がなされている。

観点３－２－②：　教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され，実際に評価が行われているか。

（観点に係る状況）

本校では学校内部の自己点検・評価委員会規則に則り，教育活動の評価及び評価結果を改善策に結びつけるシステムがある。

教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するために，本校では２つの体制を軸に整備している。一つは学生による教育（授業）評価，もう一つは教員本人による教育（授業）自己評価である。前者は教育活動，特に授業の改善は早くから個々の教員レベルで実施されてきたが，平成１４年度から全ての授業を対象にアンケートを実施し，その結果を各教員に提示し，コメントを求め，今後の課題を記述した報告書を作成し，公表している。後者は内容を各教員に記入，提示させ，得点化，校内ランキングを作成して公表し，フィードバックしている。

授業評価アンケートの結果の冊子及び教員の教育活動自己評価の結果をもとに，経年的な推移から教育レベルの向上を図っている。主な企画として，公開授業を実施し，同僚教員を中心とした専門家による評価を受け，質の向上を図っている。システムに参加する教員は，専門及び教科教育法の立場から多面的な評価ができるよう配置され，教員のＦＤ活動としても重要である。半期に７名の教員が公開授業を実施し，それぞれ５名の教員が評価及び討論をする。その結果は報告書の形で評価教員及び委員会へ提出し，最終的に次期授業アンケー

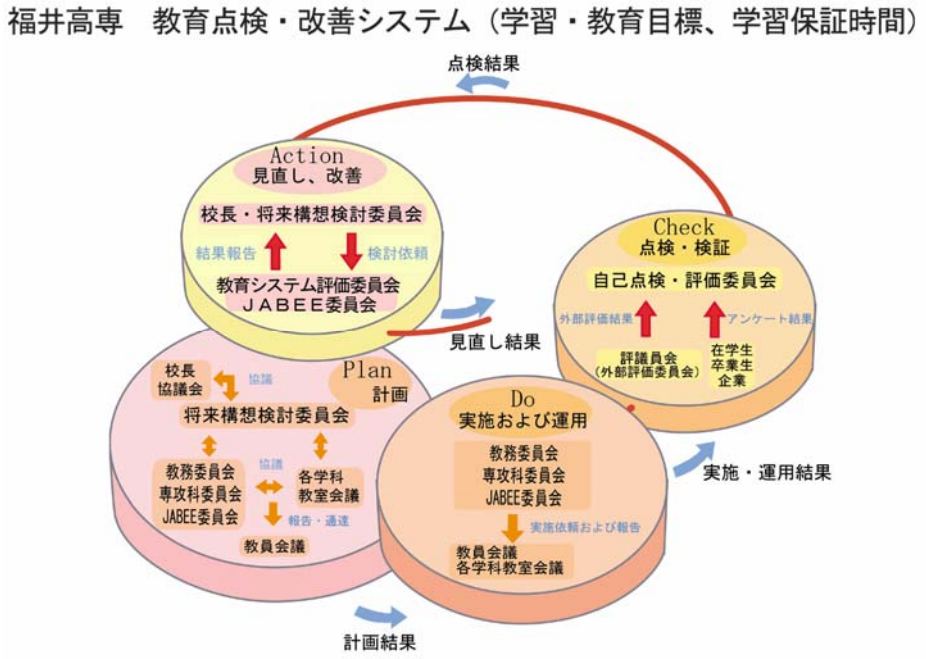
トの結果において改善の程度を検討する。このシステムにおいて１年間にほぼ全ての教員が参加する。以上の教育改善委員会を中心としたシステムの在り方，さらに全校的な観点から教育システム評価委員会においても検討される。

（分析結果とその根拠理由）

本校における教員の教育活動の定期的な評価は，その体制が整備され，詳細な評価がなされている。ただし，教員の教育活動の評価は様々な観点から行われるべきであり，その内容も今後常に改善されていく必要がある。

（資料３－２－②－１）

「自己点検・評価委員会等の構成図」



（出典　本校ホームページ）

（資料３－２－②－２）

「教員の教育活動評価シート」

2. 教員の教育活動評価

第1部　教員の自己採点

自己評価項目についての留意事項

(1) 多くの項目は 1 年間の平均値を書いてください(D. 経歴関係を除く)。
(2) 完全にあてはまらないような設問、回答に対しては適宜判断して答えてください。
(3) 小数点が出るような場合、四捨五入してください。

評価項目等(最大 172 点)				配点
A	授業等の担当			52 点
1	授業について			6 点
	(1)	週当たりの授業単位時間数はどれだけですか？（**最近 5 年間の平均をとる。**1 単位時間:約 90 分。実験、実習等を含む。専攻科の授業を含む。卒業研究は含まない）		
		1)	7 単位時間以上	3 点
		2)	6 単位時間	1 点
		3)	6 単位以下	0 点
	(2)	正規の授業のほかに補習授業を行っていますか？(不定期に実施しているものを含む)		
		1)	進学・就職希望者、資格試験受験者および達成度の低い学生に実施している	3 点
		2)	進学・就職希望者および資格試験受験者について実施している	2 点
		3)	達成度の低い学生についてのみ実施している	2 点
		4)	正規の授業で十分理解されていると自信をもっているので、補習授業は行っていない	1 点
		5)	補習授業をまったく考えていない	0 点
2	授業内容・方法			11 点
	(1)	シラバスを有効に利用していますか？		
		1)	シラバスの内容を学生によく説明し、講義や成績判定に利用している	3 点
		2)	シラバスを配布し、時々進度などをチェックしている	2 点
		3)	シラバスはまだ配布していない	0 点
	(2)	教科書および参考書は使用していますか？		
		1)	自著の教科書・参考書および自分で開発した最新の教材を使用している	3 点
		2)	標準的な教科書あるいは参考書と自分で開発した教材を使用している	2 点
		3)	自分で作った教材を用いるので、教科書・参考書は使用していない	2 点
		4)	標準的な教科書あるいは参考書を使用している	1 点
	(3)	教育方法の工夫		
		1)	グループ学習、ディスカッションなど新しい教育方法を実践している	3 点
		2)	一方的な授業ではなく、双方向型の授業になるように工夫している	2 点
		3)	通常の講義形式で授業を行っている	1 点
	(4)	学生による評価の取り入れ		
		1)	授業の中で学生が学習到達度を自己点検できるような工夫をしている	2 点
		2)	学生による授業評価などを取り入れ、学生の要望にも対応できる授業を行っている	1 点
3	公開授業の実施			3 点
		1)	今年度、公開授業を既に 1 回以上実施した	3 点
		2)	現在、公開授業を計画・準備中であり、今年度、実施する	2 点
		3)	公開授業を実施する計画はない	0 点
4	成績評価			9 点

1

（出典　教育改善委員会資料）

観点３－３－①：　学校において編成された教育課程を展開するに必要な事務職員，技術職員等の教育支援者が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

教育課程を適切に展開するために，本校は事務職員及び技術職員が配置されている。技術職員は教育研究支援センターの規則に則り，機能的なシステム及び配置がなされている。

（資料３－３－①－１）

「事務組織図」

事務職員

所属1	所属2	職名	氏名
事務部	事務部長		糸崎　喜一
庶務課	庶務課長		加藤　和人
	専門職員（企画調査担当）		柴田　裕司
		事務補佐員	林　綾子
	専門職員（事務情報化担当）		西野　正敏
		専門職員付情報処理主任	田中　好美
	庶務係	庶務係長	寺川　秀樹
		庶務主任	高橋　利枝
	人事係	人事係長	石山　隆三
		人事主任	三好　敦子
		事務補佐員	奥村　ふじみ
	事務情報化推進室	室長（併）	西野　正敏
		室員（併）	田中　好美
会計課	会計課長		西川　岩雄
	総務係	総務係長	塚崎　勇夫
		予算主任	入澤　啓文
		共済主任	中出　智美
	用度係	用度係長	岡部　歌子
		用度主任	山岸　春喜
		契約主任	朝倉　奈苗
		事務補佐員	山崎　真澄
	出納係	出納係長	手塚　哲夫
		経理主任	上田　紀章
		一般職員	立花　健二
	施設係	施設係長	吉田　清隆
		技術職員	佐野　豪亮
学生課	学生課長		長谷川　篤志
	専門員（学務担当）		吉田　文男
	教務係	教務係長	長谷川　雅則
		入学試験主任	小林　利津子
		一般職員	岩田　憲保
	学生係	学生係長	松井　正隆
		学生主任	田中　敏子
		一般職員	酒井　友幸
		看護師	大西　淑子
		事務補佐員	竹内　佐斗子
	寮務係	寮務係長	塚崎　卓美
		事務補佐員	土川　光枝
	図書係	図書係長	山本　益示
		図書系職員	三上　惠子
		事務補佐員	青山　千鶴子
		事務補佐員	栗田　まり
	教育後援会		山田　陽子

技術職員

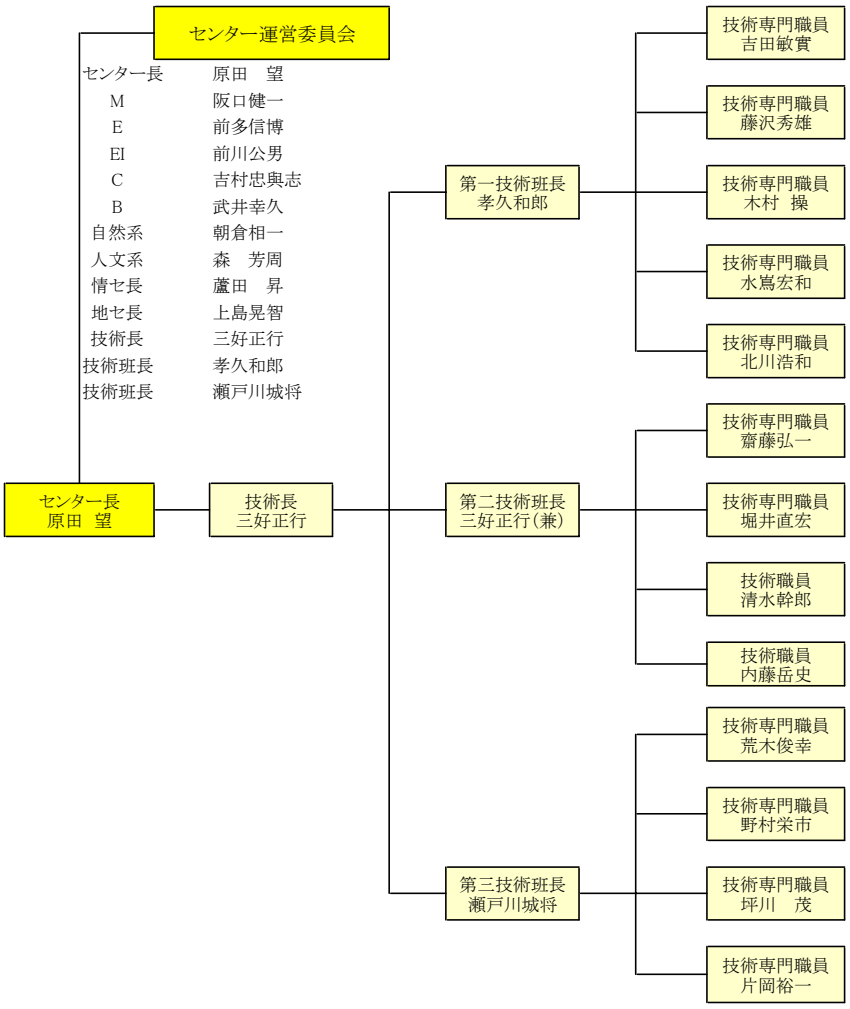
所属	職名		氏名
	技術長	技術専門職員	三好　正行
第一技術班	班長	技術専門職員	孝久　和郎
		技術専門職員	吉田　敏實
		技術専門職員	藤沢　秀雄
		技術専門職員	木村　操
		技術専門職員	水嶌　宏和
		技術専門職員	北川　浩和
第二技術班	班長	技術専門職員	三好　正行
		技術専門職員	齋藤　弘一
		技術専門職員	堀井　直宏
		技術職員	清水　幹郎
		技術職員	内藤　岳史
第三技術班	班長	技術専門職員	瀬戸川　城将
		技術専門職員	荒木　俊幸
		技術専門職員	野村　栄市
		技術専門職員	坪川　茂
		技術専門職員	片岡　裕一

（出典　庶務課）

（資料３－３－①－２）

「教育支援センター構成図」

福井工業高等専門学校教育研究支援センター組織図（平成17年度）



（出典　ウェブページ）

（分析結果とその根拠理由）

効率的な人員配置により，少ない人数ながらもレベルの高い事務が執り行われている。また，教育活動についても，事務職員及び技術職員との連携がシステムレベル，ヒューマンリレイションレベルにおいて効果的に機能している。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

本校の教員及び教育支援者に関する取り組みは，各種委員会によって様々な角度から検討されている。学生アンケート等の見直し等，教育活動の現体制を通して明らかにされた種々の改善点は教育改善・点検システムに則り適宜当該委員会にて検討され，見直されている。

（改善を要する点）

様々な取り組みからわかるように改善に対する意欲は高い一方，システムとしては完成ではなく，改善の余地が散見される。個人の裁量に委ねられていた部分を見直し，より良い教員及び教育支援者の設置が継続的に実施される環境の整備が必要である。

（３）基準３の自己評価の概要

本校の目的を達成するために，各教員の専門性を活かして一般科目教員・専門科目教員の各授業の担当者を決めている。また，その授業内容と研究内容・業績の確認を行っている。専攻科を担当する教員も専攻科委員会が専門分野周辺の教員を選んで決めている。学校の目的を達成するために，企業経験者の採用，技術士の採用を心がけている。また，教員活動をより活発化させるため，適正な年齢構成を各学科・教室で講じている。

教員の採用及び昇格に際しては，規則で明文化し，公募するなど適切な運営が行われている。さらに，本校の教員及び教育支援者に関する取り組みは，高等専門学校設置基準等の法令に照らして，適切に行われている。また，本校の目標に合致した取り組みとして，教員及び教育支援者の配置，教育活動評価システムの整備が行われている。

現状の自己評価は適切であると判断される一方，体制としては社会の要請等を踏まえて常に改善しなければならない。

４　学生の受入

（１）観点ごとの分析

観点４－１－①：　教育の目的に沿って，求める学生像や入学者選抜（例えば，準学士課程入学者選抜，編入学生選抜，留学生選抜，専攻科入学者選抜等が考えられる。）の基本方針などが記載されたアドミッション・ポリシーが明確に定められ，学校の教職員に周知されているか。また，将来の学生を含め社会に公表されているか。

（観点に係る状況）

学生の受入機会は，準学士課程入学者選抜，編入学生選抜及び専攻科入学者選抜である。

平成１８年度準学士課程入学者選抜に向けて，平成１７年６月の教員会議において，アドミッション・ポリシーを改訂し，カレッジガイド，学校要覧，学生便覧，ウェブページに掲載するとともに，本校構成員と中学校への周知を行っている。

アドミッション・ポリシーは，学校としてのものと，各学科のものとがある。学校のアドミッション・ポリシーは教育方針，基本理念及び教育目標に対応し定められている。また，各学科のアドミッション・ポリシーは，各学科の目的に合わせて定められている。

（資料４－１－①－１）

「アドミッションポリシーの改訂」

６月定例教員会議議事要旨

日　時　　平成１７年６月１６日（木）１５時～１５時５０分
場　所　　合併教室
出席者　　校長，議長：森，構成員５８名　　計６１名
列席者　　事務部長，庶務課長，会計課長，学生課長，学生課専門員，庶務係長，
　　教務係長，庶務主任

議　事
Ⅰ報告事項
１．校長報告
1)独立行政法人国立高等専門学校機構校長・事務部長会議報告
校長から、資料１に基づき報告があった。
２．教務主事報告
1)入学試験委員会報告
①アドミッションポリシーについて
教務主事から、資料２に基づき、アドミッションポリシーの改訂について、報告があった。
②学校説明会について
教務主事から、学校説明会を６月２３日（木）１３：３０～、大講義室において実施する旨の案内があった。

（出典　教員会議議事録）

（資料４－１－①－２）

「準学士課程アドミッションポリシー（カレッジガイド）」

本校は、入学者として次のような人を広く求めます。

Fukui National College of Technology seeks the students with the following attributes.

全学科としてのアドミッションポリシー

（1）ものづくり，環境づくりに興味がある人
（2）基礎学力が備わっている人
（3）新しい目標にいつもチャレンジする人
（4）国際社会で活躍したいと思っている人
（5）自分で課題を考え，解決する能力を身に付けたい人

■各学科のアドミッションポリシー

機械工学科

（1）自動車，飛行機，ロボットなどの機械システムに興味がある人
（2）自然現象の仕組みを応用したものづくりに興味がある人
（3）文化や歴史を考えたものづくりに興味がある人

電気電子工学科

（1）ロボット，システム，コンピュータなどを動かすための電子制御や、プログラミング技術を学びたい人
（2）情報家電や光通信などに使用する電子回路や、情報通信技術を学びたい人
（3）電気自動車や太陽光発電などに使われる、環境にやさしいクリーンエネルギーや、新素材技術を学びたい人

電子情報工学科

（1）コンピュータの仕組みやプログラミングに興味がある人
（2）ネットワークを活用したり、知能ロボットを動かすプログラムを作りたい人
（3）未来のIT機器の開発をやってみたい人

物質工学科

（1）化学と生物の世界へ第一歩を踏み出したい人
（2）地球に優しいものづくりをしたい人
（3）バイオの技術で社会に貢献したい人

環境都市工学科

（1）自然と共生し、持続可能で安全・快適な施設・都市・環境づくりに関心がある人
（2）道路や河川など社会資本の計画・設計・建設・維持管理システムに興味がある人
（3）まちづくり，防災，環境の監視や保全の方法について実践的に学ぶことを望む人

2

（出典　カレッジガイド２００６　２頁）

カレッジガイドと学校要覧は，各中学校へ郵送のほかに，本校で開催する学校説明会，入学試験委員会委員が行う中学校訪問と入試説明会，及び，オープンカレッジにおいて，中学生，保護者，中学校教諭に対して配付すると同時に口頭での説明も行っている。

（資料４－１－①－３）
「学校説明会日程と参加者数」

学校説明会日程

1. 期　　日　平成１７年６月２３日（木）

2. 日　　程

13：30～13：40	受　　付	
13：40～13：50	校長挨拶	大講義室
13：50～14：30	授業見学	各教室、実験室、実習工場
14：30～15：30	学校説明 各学科紹介 質疑応答	大講義室
15：30	閉　　会	

平成17年度　学校説明会出席者名簿

番号	中学校名	出席者名 教諭	出席者名 生徒	見学コース
1	明倫中学校			
2	進明中学校			
3	成和中学校			
38	松陵中学校			
39	粟野中学校			
40	美浜中学校	---	（保護者3名）	
41	社中学校			

※出席者　93名（教諭40名、生徒36名、保護者17名）

（出典　学生課）

（資料４－１－①－４）

「中学校訪問」

中学校訪問（校長）日程

5月19日（水）	9:00	9:20-9:45	10:05-10:20	10:35-10:50	12:00	
（校長）	学校 ⇒	丸岡中 ⇒	金津中 ⇒	春江中 ⇒	学校	

高速道利用　鯖江ＩＣ⇒丸岡ＩＣ

5月23日（月）	9:00	9:20-9:35	10:00-10:15	10:30-10:45	11:00-11:15	11:30-11:45	
（校長）	学校 ⇒	足羽中 ⇒	明倫中 ⇒	成和中 ⇒	大東中 ⇒	進明中 ⇒	昼食 ⇒
	13:10-13:25	13:50-14:05	14:15-14:30	15:00			
	明道中 ⇒	藤島中 ⇒	光陽中 ⇒	学校			

5月24日（火）	9:00	9:10-9:25	9:35-9:50	10:05-10:20	10:30-10:45	11:00-11:15	
（校長）	学校 ⇒	鯖江中 ⇒	中央中 ⇒	東陽中 ⇒	南越中 ⇒	万葉中 ⇒	学校（昼食） ⇒
	13:20-13:35	13:45-14:00	14:10-14:25	14:40			
	武生第二中 ⇒	武生第一中 ⇒	武生第三中 ⇒	学校			

随行者：校長ー,学生課長（運転ー学生課専門員）

中学校訪問（副校長）日程

5月18日（水）	9:00	9:45-10:00	10:15-10:30	10:45-11:00	11:15-11:30	11:45-12:00	
（副校長）	学校 ⇒	灯明寺中 ⇒	森田中 ⇒	坂井中 ⇒	芦原中 ⇒	三国中 ⇒	昼食 ⇒
	13:00-13:15	13:40-13:55	14:15-14:30	15:00-15:15	15:45-16:00	17:00	
	棗中 ⇒	国見中 ⇒	越廼中 ⇒	越前中 ⇒	河野中 ⇒	学校	

5月20日（金）	9:00	9:20-9:35	10:00-10:10	10:25-10:40	10:55-11:10	11:30-11:45	
（副校長）	学校 ⇒	清水中 ⇒	宮崎中 ⇒	織田中 ⇒	糸生中 ⇒	朝日中 ⇒	昼食(学校) ⇒
	13:00-13:45	14:20-14:35	15:00				
	武生第五中 ⇒	武生第六中 ⇒	学校				

5月27日（金）	9:00	10:00-10:15	10:40-10:55	11:10-11:25	11:35-11:50		
（副校長）	学校 ⇒	福大附属中 ⇒	社中 ⇒	至民中 ⇒	川西中 ⇒	昼食 ⇒	
	13:15-13:30	14:00					
	足羽第一中 ⇒	学校					

6月1日（水）	9:00	10:00-10:15	10:40-10:55	11:10-11:25	11:35-11:50			
（副校長）	学校 ⇒	開成中 ⇒	上庄中 ⇒	鳥徳中 ⇒	陽明中 ⇒	昼食 ⇒		
	13:15-13:30	13:45-14:00	14:10-14:25	14:40-14:55	15:10-15:25	15:35-15:50	16:40	
	勝山南部中 →	勝山中部中 ⇒	勝山北部中 ⇒	上志比中 ⇒	永平寺中 ⇒	松岡中 ⇒	学校	

6月15日（水）	8:45	9:40-10:55	10:30-10:45	11:00-11:10	11:40-12:00		
（副校長）	学校 ⇒	池田中 ⇒	南条中 ⇒	今庄中 ⇒	松陵中 ⇒	昼食 ⇒	
	13:10-13:25	13:35-13:50	14:00-14:15	16:10			
	領比中 ⇒	角鹿中 ⇒	高野中 ⇒	学校			

高速道利用　今庄ＩＣ⇒敦賀ＩＣ，　敦賀ＩＣ⇒武生ＩＣ

随行者：副校長ー学生課専門員（運転）

中学校訪問（滋賀県）行程表

地区	訪問日（曜日）	行　程　等	担当教員
湖西・大津方面	6月29日（水）	8:30 学　校 → 武生ＩＣ → 木之本ＩＣ → 9:35～ 9:50 西浅井中【2-1】（西浅井町）→ 10:15～10:30 マキノ中【2-1】（マキノ町）→ 10:40～10:55 今津中【1-0】（今津町）→ 11:10～11:25 湖西（新旭町） → 11:40～11:55 安曇川（安曇川町）→（昼 食）→ 13:15～13:30 志賀中【2-1】（志賀町）→ 13:50～14:05 伊香立中（大津市）→ 真野ＩＣ → 坂本北IC→ 14:35～14:50 日吉中【1-0】（大津市） → 皇子山ＩＣ→ 15:10～15:25 滋賀大付属中（大津市）→ 15:35～15:50 北大路中（大津市）→大津ＩＣ→ 武生ＩＣ → 18:00 学　校　〔１０校〕	小林教員
草津大津方面	6月22日（水）	8:30 学　校 → 武生ＩＣ → 竜王ＩＣ → 10:50～11:05 甲南中【1-0】（甲南町）→ 11:20～11:35 甲西中（甲西町）→（昼 食）→ 13:00～13:15 甲西北中【3-2】（甲西町）→ 13:30～13:45 石部中（石部町） → 14:05～14:20 草津中【1-1】（草津市）→ 14:40～14:55 高穂中（草津市）→ 15:10～15:25 瀬田北（大津市）→ 15:40～15:55 青山中（大津市）→ 16:10～16:25 田上中（大津市）→ 瀬田南ＩＣ → 武生ＩＣ→ 18:30 学　校　〔９校〕	津田教員
彦根方面	7月　5日（火）	8:30 学　校 → 武生ＩＣ → 彦根ＩＣ → 10:00～10:15 鳥居本中【2-1】（彦根市）→ 10:25～10:40 彦根東中【1-1】（彦根市）→ 10:50～11:05 彦根西中【1-0】（彦根市）→ 11:20～11:35 彦根中央中（彦根市） →（昼食）→ 13:00～13:15 彦根南中【3-2】（彦根市）→ 13:25～13:40 稲枝中（彦根市）→ 14:00～14:15 能登川中【1-0】（能登川町）→ 14:30～14:45 安土中（安土町）→ 15:00～15:15 船岡中（八日市市） → 15:35～15:50 聖徳中【1-1】（聖徳町）→ 八日市ＩＣ → 武生ＩＣ → 17:20 学　校　〔10校〕	山本教員
近江八幡守山方面	6月27日（月）	8:30 学　校 → 武生ＩＣ →八日市ＩＣ → 10:30～10:45 八幡実中（近江八幡市）→ 10:55～11:10 八幡中（近江八幡市）→ 11:25～11:40 八幡西中（近江八幡市）→（昼食）→ 13:00～13:15 篠王中（篠王町） → 13:30～13:45 野洲中（野洲町）→ 13:55～14:10 野洲北中（野洲町）→ 14:20～14:35 中主中（中主町）→ 14:45～15:00 明富中【1-1】（守山市）→ 15:10～15:25 守山北中（守山市）→ 15:35～15:50 守山中（守山市） → 栗東ＩＣ → 武生ＩＣ → 18:00 学　校　〔10校〕	野村教員
長浜・湖北方面	6月28日（火）	8:30 学　校 → 武生ＩＣ → 木之本ＩＣ → 9:40～9:55 虎姫中【1-1】（余呉町）→ 10:10～10:25 木之本中【2-2】（木之本町）→ 10:35～10:50 高月中【1-0】（高月町）→ 11:00～11:15 湖北中（湖北町） → 11:25～11:40 びわ中（びわ町）→（昼 食）→ 13:00～13:15 虎姫中【1-1】（虎姫町）→ 13:30～13:45 浅井中【2-2】（浅井町）→ 14:00～14:15 長浜北中（長浜市）→ 14:20～14:35 長浜西中【1-0】（長浜市） → 14:45～15:00 長浜南中（長浜市）→ 15:20～15:35 長浜東中【1-0】（長浜市）→ 15:50～16:05 伊吹山中【1-0】（伊吹町）→ 長浜ＩＣ → 武生ＩＣ → 17:25 学　校　〔12校〕	藤田教員
湖東方面	6月21日（火）	8:30 学　校 → 武生ＩＣ → 米原ＩＣ → 9:50～10:05 河南中【1-1】（米原町）→ 10:15～10:30 米原中（米原町）→ 10:55～11:10 多賀中（多賀町）→ 11:30～11:45 甲良中（甲良町）→（昼食） → 13:00～13:15 秦荘中（秦荘町）→ 13:45～14:00 愛知中【1-1】（愛知川町）→ 14:20～14:35 永源寺中（永源寺町）→ 15:00～15:15 日野中（日野町）→ 15:40～16:00 玉園町（八日市市）→ 八日市ＩＣ → 武生ＩＣ→ 17:30 学　校　〔9校〕	辻野教員

※【　】は当該中学校の平成１６年度【出願者数－合格者数】，□ は現在、在学生のいる中学校，▒ は過去３年間に出願者のあった中学校をそれぞれ示す。

（出典　学生課）

（資料４－１－①－５）

「福井高専オープンカレッジ」

（出典　オープンカレッジパンフレット表紙）

（資料４－１－①－６）

「カレッジガイド等配付数」

H16年度実績

配付先	カレッジガイド作成数4000部 郵送	カレッジガイド作成数4000部 オープンカレッジ参加者配付	資料1参考 学校要覧	募集要項(本科)作成数2200部 郵送	募集要項(本科)作成数2200部 説明会等	資料3参考，その他受験希望者数分中学校に配付 本科募集ポスター(280部)	工学基礎コースリーフレット1000部	オープンカレッジポスター260枚	資料2参考 募集要項(編入生)作成部数500部	通常的に文科省他に配付，受験希望者(主に本校本科生)に配付 募集要項(専攻科)作成部数240部	中学校訪問等 学校紹介CD 200枚	電気工学科学科変更リーフレット(1000部)
鯖城中学校	3			2		1	2	1				1
福立中学校	3			2		1	2	1				1
片山津中学校	3			2		1	2	1				1
東和中学校	3			2		1	2	1				1
山代中学校	3			2		1	2	1				1
山中中学校	3			2		1	2	1				1
敦賀中学校	3			2		1	2	1				1
マキノ中学校	6	7		2		1	2	1				1
今津中学校	8	2		2		1	2	1				1
朽木中学校	4			2		1	2	1				1
安曇川中学校	9			2		1	2	1				1
高島中学校	6			2		1	2	1				1
湖西中学校	8			2		1	2	1				1
滋賀大学附属中	6			2		1	2	1				1
比叡山中学校	6			2		1	2	1				1
近江兄弟社中学	6			2		1	2	1				1
光泉中学校	5			2		1	2	1				1
京都洛東中学校		2				1	2	1				1
計	1411	666		434		231	436	218	0	0	0	218

（出典　学生課）

本校教職員に対しては，教員会議，教務委員会，各学科教室会議などにおけるアドミッション・ポリシーについての検討や，カレッジガイド，学校要覧，学生便覧の配付とウェブページによって周知されている。

編入学生選抜では，準学士課程入学者選抜のアドミッション・ポリシーを適用し，編入学生募集要項及びウェブページに掲載している。また，募集要項は教員会議で検討された後，本校教員に配付されている。

（資料４－１－①－７）
「編入学生選抜アドミッション・ポリシー」

2　入学者受入方針

本校は入学者として次のような人を広く求めます。

学校としてのアドミッションポリシー

(1) ものづくり、環境づくりに興味がある人
(2) 基礎学力が備わっている人
(3) 新しい目標にいつもチャレンジする人
(4) 国際社会で活躍したいと思っている人
(5) 自分で課題を考え、解決する能力を身に付けたい人

各学科のアドミッションポリシー

機械工学科

(1) 自動車、飛行機、ロボットなどの機械システムに興味のある人
(2) 自然現象の仕組みを応用したものづくりに興味がある人
(3) 文化や歴史を考えたものづくりに興味がある人

電気電子工学科（電気工学科）

(1) ロボット、システム、コンピュータなどを動かすための電子制御やプログラミング技術を学びたい人
(2) 情報家電や光通信などに使用する電子回路や情報通信技術を学びたい人
(3) 電気自動車や太陽光発電などに使われる環境にやさしいクリーンエネルギーや新素材技術を学びたい人

電子情報工学科

(1) コンピュータの仕組みやプログラミングに興味がある人
(2) ネットワークを活用したり、知能ロボットを動かすプログラムを作りたい人
(3) 未来のＩＴ機器の開発をやってみたい人

物質工学科

(1) 化学と生物の世界へ第一歩を踏み出したい人
(2) 地球に優しいものづくりをしたい人
(3) バイオの技術で社会に貢献したい人

環境都市工学科

(1) 自然と共生し、持続可能で安全・快適な施設・都市・環境づくりに関心がある人
(2) 道路や河川など社会資本の計画・設計・建設・維持管理システムに興味がある人
(3) まちづくり、防災、環境の監視や保全の方法について実践的に学ぶことを望む人

（出典　平成１８年度編入学生募集要項１頁）

（資料４－１－①－８）
「編入学生募集要項配付実績」

様　式	送　付　先	発信者	送付部数	備　考
別紙１	各高等学校長	校　長		高校
	高等学校		各２部	福井　39校
	県内工業系高等学校		各５部	(工業系２校)
別紙２	文部科学省高等教育局	〃	１部	滋賀　57校
	専門教育課長			石川　64校
別紙３	各国立高等専門学校長	〃	各１部	大阪　１校
別紙４	教育委員会	〃	各１部	
	福井・滋賀・石川県			
別紙５	国立高等専門学校機構本部	学生課長	１部	
	学務課長			
別紙６	報道機関各社	〃	１５部	
	記者クラブ		(13)	
	福井新聞鯖江支社		(1)	
	丹南ケーブルテレビ		(1)	

（出典　学生課）

専攻科入学者選抜のアドミッション・ポリシーは，学生便覧に掲載されている。また，同じものが選抜方針という名称で専攻科学生募集要項とウェブページに記載されている。専攻別の教育目標は専攻科ガイド，及び学校要覧に掲載されている。専攻科ガイドと学校要覧は，本校の学生と保護者，企業に配付されている。また，学生便覧，専攻科ガイド，学校要覧，募集要項は本校教員にも配付され，学内関係者に対しても周知が図られている。

（資料４－１－①－９）
「専攻科選抜方針」

Ⅱ　選抜方針

専攻科では，ものづくりの資質ならびに高等教育レベルの十分な素養をそなえている者，及び，社会人として活躍している技術者で高等専門学校卒業程度の学力を有する者の中から，公正かつ適正な方法で選抜する。

（出典　平成１８年度専攻科学生募集要項１頁）

（資料４－１－①－１０）
「専攻科専攻別学習内容と育成する人材（専攻科ガイド）」

生産システム工学専攻

21世紀に羽ばたく技術者には、技術の高度化と複雑化に対応できる総合化の能力と先端技術開発のための創造性が求められます。この中には、各種のシステム全体を統括するソフトウェアの設計・開発というような分野も含まれています。つまり、機械の分野、電子・電気の分野、あるいは情報の分野といったような縦割りの領域に留まって、技術の改善を目指していては、問題を解決することは困難になります。

本専攻は、本科５年の教育課程で修得した基礎学力を基盤として、機械設計、システム設計、システム制御、電子・物性及び情報・通信の分野の知識を広く教授します。その中では、具体的問題に取り組み、総合化の能力と創造性を育て、先進的な生産システムをはじめ、様々なシステムの開発研究を行うことができる、柔軟な思考力を兼ね備えた、実践的技術者の育成を目指します。

人間機械システム実験室

区分	授業科目	単位数
必		

環境システム工学専攻

現在の社会は、環境を保全する意識が高まり、環境にやさしい製品や再資源化を前提とした製品の製造プロセスの開発等が求められています。こうした社会のニーズは今後もさらに高まっていくと考えられます。一方、地球環境や地域の環境を保全しつつ、自然災害に強い、より安全で快適な都市づくりの必要性も、非常に大きくなっています。

本専攻は、本科５年の教育課程で修得した基礎学力を基盤として、生物化学、構造や材料、環境分析、水環境学や環境土木及び都市や防災システム分野の知識を広く教授します。具体的には、機能性新素材や医薬品の開発研究、並びに都市環境を改善するための知識と技術を修得した技術者の育成を目指します。

（出典　専攻科ガイド３頁）

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程は，本校全体と各学科それぞれの教育の目的に沿ったアドミッション・ポリシーが明確に定められ，カレッジガイド，学校要覧及びウェブページに掲載すると同時に，各種説明会において直接説明し広く周知されている。本校の構成員に対しては，カレッジガイド，学校要覧，学生便覧の配付及び教員会議等で周知されている。編入学のアドミッション・ポリシーは，準学士課程と同じものを適用し，募集要項の配付とウェブページに掲載していることで学内外共に周知されている。専攻科生選抜のアドミッション・ポリシー（選抜方針）は，学生便覧，募集要項及びウェブページに掲載されている。また，教育目標が専攻科ガイドと学校要覧に掲載されるなど，周知が図られている。

観点４－２－①：　アドミッション・ポリシーに沿って適切な学生の受入方法が採用されており，実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

準学士課程入学者選抜は，推薦による選抜・学力検査による選抜があり，入学者選抜実施要綱に基づいて実施している。

（資料４－２－①－１）

「準学士課程入学者選抜方法」

平成17年度学生募集要項

Ⅰ　募集人員，出願資格及び入学者の選抜

1　募　集　人　員

各学科の募集人員は，次のとおりとします。

学　　科	募集人員	学力による募集人員	推薦による募集人員
機械工学科	40名	各学科とも，募集人員の70%程度（内，８名程度は工学基礎コース）	各学科とも，募集人員の30%程度
電気工学科	40名		
電子情報工学科	40名		
物質工学科	40名		
環境都市工学科	40名		
計	200名		

※工学基礎コースは各学科８名を定員とし、２年進級時に本人の志望と成績により転科可能となるコースである。

2　出　願　資　格

出願資格は，次のいずれかに該当する者とします。

(1)　中学校もしくは，これに準ずる学校を卒業した者又は平成17年３月に卒業見込みの者

(2)　中等教育学校の前期課程を修了した者又は平成17年３月に修了見込みの者

(3)　中学校卒業と同等以上の学力があると認められた者（学校教育法施行規則第63条に該当する者）

3　入学者の選抜

入学者の選抜は，**推薦によるもの**と，**学力検査によるもの**と二つの方法で行います。

（出典　平成１７年度学生募集要項１頁）

推薦選抜には推薦要件アとイがある。アの要件では，推薦書，調査書，健康診断，作文及び面接の結果を総合して判定する。イの要件では，これに科学の分野における優秀な成果の口頭発表に対する評価が加わる。作文及び面接内容は学科毎に選抜方針に沿った課題を指定している。作文，面接の評定は選抜方針に沿って行い，各学科で評定結果について検討した後，入学試験委員会を経て教員会議において合否を判定する。

（資料４－２－①－２）

「準学士課程入学者選抜方法」

Ⅱ　推薦による入学者の選抜

１　推　薦　要　件

平成17年３月に中学校を卒業見込みの者又は中等教育学校の前期課程を修了見込みの者（以後「卒業（修了）」という。）で，次の要件を備え，学校長が推薦するものとします。

(1)　本校への入学意志が強固であること。

(2)　志望学科に対して，適性，興味及び関心があること。

(3)　人物が優れ，調査書の各記録が優良であること。

(4)　次のア又はイに該当すること。

ア　９教科（英語以外の選択科目を除く。）の学習の記録の評定の合計が，次のいずれかの基準を満たしていること。ただし，卒業（修了）見込者の第３学年は12月末日現在とする。

(ｱ)　第１学年から第３学年までが５段階評定の場合，105以上

(ｲ)　第１学年及び第２学年が５段階評定，第３学年が10段階評定の場合，140以上

イ　科学の分野に強い関心を有し，次のいずれかに該当すること。

(ｱ)　国，地方公共団体又は民間の団体が主催する科学の分野に関するコンテスト等において優れた成果を収めた者

(ｲ)　校内の活動において，科学の分野に関し特に優秀な成果を収めたと認められる者

３　選　抜　方　法

(1)　推薦要件の(4)のアによる選抜は，推薦書，調査書，健康診断，作文及び面接の結果を総合して判定します。

(2)　推薦要件の(4)のイによる選抜は，推薦書，調査書，健康診断，作文，面接及び口頭発表の結果を総合して判定します。

注：「口頭発表」では，科学の分野に関して収めた成果についての発表と質疑を行う。（発表は１０分以内。）
発表機材として本校において，ＯＨＰを準備します。

(3)　選抜の期日及び場所

期　　日	平成17年１月25日(火)
場　　所	福井工業高等専門学校　鯖江市下司町（「Ⅶ学力検査場案内図」参照）

(4)　作文・面接及び口頭発表

ア　実施時間

作　　文	面　接（口頭発表）
9：00～9：50	10：00～

イ　作文は課題により，面接は個人面接により実施します。

(5)　健康診断

調査書の「健康の状況」欄の健康状況について審査し，特に必要と認める者については，精密検査を行います。精密検査の必要な者には，面接終了時に通知します。

なお，精密検査の結果，修学に耐えられないと認められた者は，入学を許可しないことがあります。

（出典　平成１７年度学生募集要項２頁）

（資料４－２－①－３）

「推薦選抜作文課題」

様式第５号

平成十五年度福井工業高等専門学校推薦入学者選抜作文課題

志望学科	課題名
機械工学科	私がつくりたい夢のロボット
電気工学科	エレクトロニクス技術と私の夢
電子情報工学科	私の夢と希望、そしてそれを実現するために まず私のすべきこと
物質工学科	二十一世紀における化学の役割
環境都市工学科	都市基盤の整備において 土木技術者が果たす役割について

（注意）志望学科の課題を作文用紙の課題欄に記入すること。

様式第５号

平成十六年度福井工業高等専門学校推薦入学者選抜作文課題

志望学科	課題名
機械工学科	“福井高専機械工学科で何を学びたいか”
電気工学科	中学時代に最も力を入れて取り組んだこと、（勉強、クラブ活動、趣味などから）
電子情報工学科	「マナーについてどう考えますか」
物質工学科	二十一世紀における化学の役割と可能性
環境都市工学科	高専に入ったらしたい事

（注意）志望学科の課題を作文用紙の課題欄に記入すること。

様式第５号

平成十七年度福井工業高等専門学校推薦入学者選抜者作文課題

志望学科	課題名
機械工学科	ボランティアについて
電気工学科	電気工学科で 取り組みたいこと
電子情報工学科	インターネット社会の将来 あるべき姿
物質工学科	福井高専物質工学科に 入学して学びたいこと
環境都市工学科	まちづくりにおける防災と共生

（注意）志望学科の課題を作文用紙の課題欄に記入すること。

（出典　学生課）

学力検査による選抜では，学力検査，調査書，健康診断の結果を総合して判定する。学力検査では，国立高等専門学校入学者選抜学力検査問題を使用している。アドミッション・ポリシーにおける，基礎学力が備わっている人，国際社会で活躍したいと思っている人，自分で課題を考え，解決する能力を身に付けたい人，という項目に対応して，５科目において偏りなくバランスの良い成績の学生を受け入れている。

（資料４－２－①－４）

「学力検査選抜方法」

２　選　抜　方　法

(1)　学力検査による選抜は，学力検査，調査書及び健康診断の結果を総合して判定します。

(2)　学力検査の期日及び場所

期　日	平成17年２月20日(日)	
場　所	本校検査場	福井工業高等専門学校　（ 鯖江市下司町 ）
	滋賀県検査場	滋賀大学経済学部　（ 彦根市馬場１丁目１－１ ）

(3)　学力検査の検査科目及び検査時間

理　科	英　語	数　学	国　語	社　会
9：30～10：20	10：40～11：30	11：50～12：40	13：30～14：20	14：40～15：30

(4)　健康診断

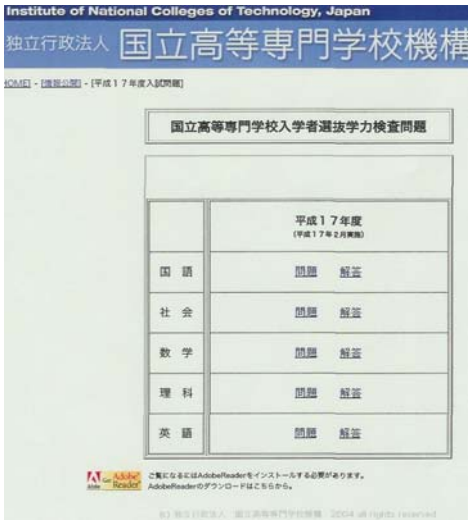
調査書の「健康の状況」欄の健康状況又は健康診断書について審査し，特に必要と認める者については，精密検査を行います。精密検査の必要な者には，学力検査終了後通知します。

なお，精密検査の結果，修学に耐えられないと認められた者は，入学を許可しないことがあります。

（出典　平成１７年度学生募集要項７頁）

（資料４－２－①－５）

「入学者選抜学力検査問題」



（出典　ウェブページ）

編入学生選抜は，学科毎の学力検査（作文含む）・調査書・推薦書・面接及び健康診断書の内容の総合判定で，編入学生選抜実施要綱に従って行われる。面接の内容及び評定はアドミッション・ポリシーに沿って行い，各学科で評定結果について検討した後，入学試験委員会を経て教員会議において合否を判定する。

（資料４－２－①－６）

「編入学生出願資格，選抜方法等」

3　出願資格

高等学校を卒業した者又は平成17年３月卒業見込みの者で，高等学校長が推薦する者とします。ただし、出願できる学科と高等学校における所属科との関係は、次のとおりです。

学　　科	高等学校における所属科
機械工学科	機械工学に関する科
電気工学科	所属科を問わない。
電子情報工学科	所属科を問わない。
物質工学科	所属科を問わない。
環境都市工学科	「測量学」を必修科目として持つ科

5　選抜方法等

(1) 選抜方法

編入学生の選抜は、学力検査（作文を含む。）、調査書、健康診断及び面接の結果を総合して判定します。

(2) 学力検査等の期日及び場所

期　日	平成16年８月24日（火）
場　所	福井工業高等専門学校　鯖江市下司町 （入学案内の12「学校案内図及び利用交通」参照）

(3) 学力検査等の時間

専門科目	数　学	英　語	作　文	面　接
9:00～10:40	10:50～12:10	13:00～13:50	14:00～14:40	15:10～

(4) 健康診断

調査書の「健康の状況」欄の健康状況又は健康診断書について審査し、特に必要と認める者には、精密検査を行います。精密検査の必要な者には、別途通知します。

なお、精密検査の結果、修学に耐えられないと認められた者は、入学を許可しないことがあります。

7　学力検査科目の出題科目等

学力検査科目等		出題科目	出題範囲
数　学		数学Ⅰ 数学Ａ 数学Ⅱ	電子計算機を除く範囲
英　語		英語Ⅰ	全範囲
作　文			課題を与える。
専門科目	機械工学科	機械設計	機械にはたらく力と運動、機械の仕事と動力、材料の強さ、ねじ、軸とその部品、歯車
		機械工作	機械材料、鋳造、塑性加工、溶接、切削加工、研削加工
		機械製図	製図の基礎、製作図
	電気工学科	電気基礎 電子基礎	直流回路、電気と磁気、静電気、電磁誘導、交流回路（三相交流を除く。）、電子回路
		物　理	電気・電子に関すること。
		出題範囲の中から選択解答する。	
	電子情報工学科	情報技術基礎	ハードウェア、ソフトウェア、プログラミング
		物　理	電気・電子の基礎
		出題範囲の中から選択解答する。	
	物質工学科	工業化学 化学ＩＢ	全範囲
		出題範囲の中から選択解答する。	
	環境都市工学科	測　量	距離測量、トランシット測量、トラバース測量、平板測量、水準測量、測量の誤差、面積及び土積の計算、路線測量
		土木設計Ⅰ	力のつりあい、断面の性質、静定ばり（たわみを除く。）
		水　理	静水圧、流れの基礎方程式、管水路の流れ、開水路の流れ
		土　質	土の基本的な性質、土中の水の流れと毛管現象、地中の応力、土の圧密、土の締固め

（備考）検査科目で、電卓が必要な場合は貸与します。

（出典　平成１８年度編入学生募集要項１頁）

専攻科入学者選抜は，推薦による選抜・学力による選抜・社会人特別選抜の三種がある。推薦による選抜は年一回行われ，推薦書・調査書・面接（専門科目に関する口頭試問を含む）及び健康診断書の内容の総合判定により行う。学力による選抜は年に二回（前・後期）行われる。国際的コミュニケーション能力と工学的素養を確認するための英語と数学の筆記試験と面接（専門科目に関する内容の口頭試問を含む）及び調査書ならびに健康診断書の内容の総合判定により行う。社会人選抜は年一回行われる。社会人技術者の再教育を目的とし，所属長の推薦書，出身学校長の調査書及び面接の内容の総合判定により行う。総合判定は福井工業高等専門学校専攻科入学者選抜実施要領に従って行われる。面接の内容及び評定は選抜方針に沿って行い，各専攻で評定結果について検討した後，専攻科委員会を経て教員会議において合否を判定する。

（資料４－２－①－７）
「専攻科生選抜方法」

Ⅲ　選抜方法

入学者の選抜は，**推薦による選抜，学力検査による選抜（前期・後期）及び社会人特別選抜**とし，次のとおり行います。

選抜区分		試験期日	選抜人数
推薦による選抜		平成１７年　６月　５日(日)	各専攻とも定員の半数程度
学力検査による選抜	前期	平成１７年　７月１６日(土)	各専攻とも定員の半数程度
	後期	平成１７年１２月１０日(土)	
社会人特別選抜		平成１７年１２月１０日(土)	若干名

（出典　平成１８年度専攻科学生募集要項１頁）

（資料４－２－①－８）
「出願資格と選抜方法（推薦選抜）」

Ⅳ　推薦による選抜

１．出願資格

次の各号に該当する者とします。

(1) 平成１８年３月に高等専門学校卒業見込みの者で，出身学校長が人物，健康ともに優れていると認め推薦する者

(2) 学年末の学業成績が在籍したクラスの上位１／２以内である者(第３学年と第４学年の平均順位または第４学年の順位が、上位１／２以内である者)

３．選抜の方法

入学者の選抜は，在籍学校長から提出された**推薦書及び調査書，面接（専門科目に関する口頭試問を含む。）**並びに**健康診断書**の内容の総合判定により行います。

(1) 検査期日　**平成１７年６月５日（日）**
当日は，午前９時１５分までに集合してください。

(2) 検査内容　**面接**

(3) 検査会場　福井工業高等専門学校

（出典　平成１８年度専攻科学生募集要項１頁）

（資料４－２－①－９）

「出願資格と選抜方法（学力選抜）」

Ⅴ　学力検査による選抜【前期】

１．出願資格

次の各号のいずれかに該当する者とします。

(1) 高等専門学校を卒業した者又は平成１８年３月卒業見込みの者
(2) 短期大学を卒業した者又は平成１８年３月卒業見込みの者
(3) 専修学校の専門課程を修了した者又は平成１８年３月修了見込みの者のうち学校教育法第８２条の１０の規定により大学に編入学することができる者
(4) 外国において，学校教育における１４年の課程を修了した者
(5) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における１４年の課程を修了した者又は平成１８年３月修了見込みの者

３．選抜の方法

入学者の選抜は，**学力検査（数学，英語），面接（専門科目に関する口頭試問を含む。）**及び**調査書**並びに**健康診断書**の内容の総合判定により行います。

(1) 検査期日等

期　　日	科目等	時　　間
平成１７年７月１６日（土）	数　学	９：４５～１０：４５
	英　語	１１：００～１２：００
	面　接	１３：００～

当日は，午前９時１５分までに，集合してください。

(2) 学力検査科目及び出題範囲

科　目	出　　題　　範　　囲
数　学	線形代数，微分積分（１変数及び２変数，微分方程式を含む。）
英　語	一般英語

(3) 検査会場　福井工業高等専門学校

Ⅵ　学力検査による選抜【後期】

１．出願資格

次の各号のいずれかに該当する者とします。

(1) 高等専門学校を卒業した者又は平成１８年３月卒業見込みの者
(2) 短期大学を卒業した者又は平成１８年３月卒業見込みの者
(3) 専修学校の専門課程を修了した者又は平成１８年３月修了見込みの者のうち学校教育法第８２条の１０の規定により大学に編入学することができる者
(4) 外国において，学校教育における１４年の課程を修了した者
(5) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における１４年の課程を修了した者又は平成１８年３月修了見込みの者

３．選抜の方法

入学者の選抜は，**学力検査（数学，英語），面接（専門科目に関する口頭試問を含む。）**及び**調査書**並びに**健康診断書**の内容の総合判定により行います。

(1) 検査期日等

期　　日	科目等	時　　間
平成１７年１２月１０日（土）	数　学	９：４５～１０：４５
	英　語	１１：００～１２：００
	面　接	１３：００～

当日は，午前９時１５分までに，集合してください。

(2) 学力検査科目及び出題範囲

科　目	出　　題　　範　　囲
数　学	線形代数，微分積分（１変数及び２変数，微分方程式を含む。）
英　語	一般英語

(3) 検査会場　福井工業高等専門学校

（出典　平成１８年度専攻科学生募集要項４頁）

（資料４－２－①－１０）
「出願資格と選抜方法（社会人特別選抜）」

Ⅶ　社会人特別選抜

１．出願資格

次の各号のいずれかに該当し，所属する企業等の長が勤務成績，人物及び健康とも優れていると認め推薦する者とします。

(1) 高等専門学校を卒業した者
(2) 短期大学を卒業した者
(3) 専修学校の専門課程を修了した者のうち学校教育法第８２条の１０の規定により大学に編入学することができる者
(4) 外国において，学校教育における１４年の課程を修了した者
(5) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における１４年の課程を修了した者又は平成１８年３月修了見込みの者

３．選抜の方法

入学者の選抜は，提出された**推薦書及び調査書，面接（専門科目に関する口頭試問を含む。）**並びに**健康診断書**の内容の総合判定により行います。

(1) 検査期日　**平成１７年１２月１０日（土）**
当日は，午前９時１５分までに，集合してください。
(2) 検査内容　**面接**

（出典　平成１８年度専攻科学生募集要項８頁）

（資料４－２－①－１１）
「専攻科生選抜実施要領」

福井工業高等専門学校専攻科入学者選抜実施要領

制定　平成１０年４月　１日
改正　平成１７年５月１２日

（趣旨）
第１　「この要領は、福井工業高等専門学校専攻科の入学者選抜（以下「試験」という。）の実施に関し必要な事項を定めるものとする。

（出典　専攻科入学者選抜実施要領１頁）

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程入学者選抜は，推薦と学力検査による選抜が実施されている。推薦選抜は，学科毎にアドミッション・ポリシーに沿った内容の作文と面接が実施されている。また，科学の分野における優秀な成果の口頭発表を評価に加える出願要件を設けており，多様な方法で選抜が実施されている。学力検査はアドミッション・ポリシーに沿って５科目で偏りのない成績の学生を受け入れている。編入学生選抜では,学科毎にアドミッション･ポリシーに沿った内容の学力検査と面接が実施されている。専攻科生入学者選抜は，推薦と学力検査及び社会人選抜とがあり，それぞれアドミッション・ポリシーに沿った内容の面接，学力検査が実施されている。

観点４－２－②：　アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証しており，その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

（観点に係る状況）

学生募集，入学者選抜の実施，入学者選抜の合格候補の選考に関する事項を審議する入学試験委員会が置かれ，教務主事，教務主事補，学科（教室）主任，事務部長によって組織されている。

また，教務委員会において，入学後の学生に対して一斉テストを実施して基礎学力の検証を行い，入試委員会と連係して入学者選抜の改善を検討している。

準学士課程入学者選抜における推薦選抜，及び編入学生選抜では，選抜方針に沿った作文課題を各学科から出題している。面接内容は，各学科で選抜方針に沿った内容になるよう面接担当者が事前に協議した上で，面接に当っている。

専攻科生選抜においては，専攻科委員会が入学者選抜等に関することについて検討している。専攻科委員会では，受験希望者に対して適切な情報を開示するため，選抜方法を明記した平成１８年度募集要項についての検討を行い，改訂している。

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程及び編入学生選抜では，学生募集と入学者選抜については入学試験委員会が，入学後の学生については教務委員会が検討している。両委員会が連携して,入学者選抜の改善を検討している。また，専攻科生選抜では，専攻科委員会が選抜方法の改善を検討している。

観点４－３－①：　実入学者数が，入学定員を大幅に超える，又は大幅に下回る状況になっていないか。また，その場合には，これを改善するための取組が行われるなど，入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

（観点に係る状況）　準学士課程入学者選抜における定員は，各学科４０名である。推薦選抜ではその３０％程度とし，学力選抜を含めて定員を満たすよう合格判定を行っている。ただし，学力選抜のうち各学科８名以内を工学基礎コースとしている。本校の合格辞退者は極めて少ないため，定員の４０名を合格とし，辞退者がある場合には追加合格により定員を満たすようにしている。　入学試験委員会では，中学生の減少を受け，定員の確保のための受験者数増加の方策を検討している。平成１６年度推薦選抜において，各中学校から各学科へ１名のみという枠を撤廃し，推薦選抜の受験がしやすくなるよう配慮した。また，学力選抜においては，２年進級時に転科が可能な工学基礎コースを設置し，中学時点での学科選択という高専希望者にとっての敷居を低くし，受験者増への取組みを行った。

（資料４－３－①－１）

「工学基礎コース」

（出典　学生課）

編入学生選抜における定員は，各学科若干名である。受入予定のクラスの人数が教育に支障をきたさないよう合格者数を検討し，合否判定を行っている。

（資料４－３－①－２）
「編入学選抜定員」

1　募集学科、募集人員及び編入学年

募集学科	募集人員	編入学年
機械工学科 電気工学科 電子情報工学科 物質工学科 環境都市工学科	各学科とも 若干名	第４学年

（出典　平成１７年度編入学生募集要項１頁）

（資料４－３－①－３）
「編入学選抜実入学者数」

表　編入学入学者数

入学年度	入学者数				
	機械	電気	電子情報	物質	環境都市
平成15年度	1	2	0	1	3
平成16年度	0	1	0	1	3
平成17年度	1	2	0	0	2

専攻科生選抜における実入学者数は定員２０名に対して３０名程度入学している。専攻科では，定員２５名の講義室１，定員４０名の講義室２，定員１６名のゼミ室３，及び，１０名程度収容できるゼミ室１とゼミ室２を利用して講義を行っている。学年別や専攻別の講義は講義室を使い，少人数で行う演習などではゼミ室を利用している。工学実験では専攻科生を少人数のグループに分けて，複数の教員がそれぞれの実験室等を利用して実施している。また，特別研究では，指導教員１名に対して，専攻科生１，２名程度であり，それぞれの設備において定員を超過している影響は無いものと考えられる。

（分析結果とその根拠理由）

（資料４－３－①－４）
「専攻科生選抜定員」

Ⅰ　募集人員
生産システム工学専攻　１２名
環境システム工学専攻　　８名

（出典　平成 18 年度専攻科学生募集要項１頁）

準学士課程の実入学者数は定員どおりで適正になっている。また，受検者数増に向けた取組みがなされている。編入学生選抜では，入学後のクラスの人数が教育に支障のない事を検討しながら合否判定を行っており適正である。専攻科生選抜では，実入学者数は定員を超過しているが，教育に支障のない講義室，実験室等の設備が備わっており，適正であると考えられる。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

準学士課程において，学校説明会，オープンカレッジ，中学校訪問及び入試説明会などを積極的に実施し，学生の受け入れ方針の周知をはかり，本校の教育目的に共感する優秀な学生の確保に努めている。

準学士課程における推薦選抜で，科学の分野における優秀な成果の口頭発表を評価に加える出願要件を設けており，多様な学生を受け入れている。

（改善を要する点）

特になし。

（３）基準４の自己評価の概要

学生の受入について，準学士課程，編入学ともに平成１８年度入学者選抜に対してアドミッション・ポリシーを改訂し，学校全体のものと各学科のものを定めた。アドミッション・ポリシーは，カレッジガイド，学校要覧，学生便覧及びウェブページに掲載され，中学生向けの学校説明会等の機会でもカレッジガイドを配付しながら直接説明を行うなど，将来の学生，社会及び本校構成員に対しての周知を積極的に行っている。専攻科課程でも，アドミッション・ポリシーを定め，募集要項，学生便覧及びウェブページに掲載している。また，教育目標が学生便覧，専攻科ガイド及び学校要覧に掲載され，本校の学生・保護者ならびに企業等に配付するなど，本校専攻科の教育目標に共感する学生の募集に努めている。

準学士課程及び編入学は入学試験委員会で，専攻科課程は専攻科委員会で，それぞれのアドミッション・ポリシーに沿った適切な入学者選抜を実施している。準学士課程の推薦による選抜では，科学の分野における優秀な成果についての口頭発表を評価に加える出願要件を設けており，多様な学生を受け入れている。また，実際に入学した学生の基礎学力について一斉テストを実施し検証している。

準学士課程の実入学者数は定員どおりとなっている。編入学の実入学者数は，教育に支障のない人数で適切になっている。専攻科課程の実入学者数は定員を超過しているが，施設・設備及び教育・研究指導において支障のない程度になっている。

5　教育内容及び方法

（1）観点ごとの分析

＜準学士課程＞

観点５－１－①：　教育の目的に照らして，授業科目が学年ごとに適切に配置（例えば，一般科目及び専門科目のバランス，必修科目，選択科目等の配当等が考えられる。）され，教育課程の体系性が確保されているか。また，授業の内容が，全体として教育課程の編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

（観点に係る状況）

本校の基本理念・教育方針・教育目標，専門学科毎の目的に基づいて各学科の教育課程が体系的に編成されている。

（分析結果とその根拠理由）

低学年の一般科目での履修内容を基礎とし，学年進行に伴って専門学科毎に特色ある専門教育課程を体系的に編成している。教育目標と各教科目の関連が明確にされていることから，授業内容が教育課程編成の趣旨に沿っており，教育目的を達成するために適切なものになっている。

観点５－１－②：　学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば，他学科の授業科目の履修，他高等教育機関との単位互換，インターンシップによる単位認定，補充教育の実施，専攻科教育との連携等が考えられる。）に配慮しているか。

（観点に係る状況）

他学科の授業科目の履修については，電気電子工学科（旧・電気工学科）と電子情報工学科第５学年の一部の専門科目において，時間割編成を配慮することにより可能となっている。インターンシップによる単位認定については，現在のところ外単位での認定（２単位）となっている。第４学年に受入を行う編入学生に対しては，各学科において必要な補充内容を判断した上で，補充教育が行われている。

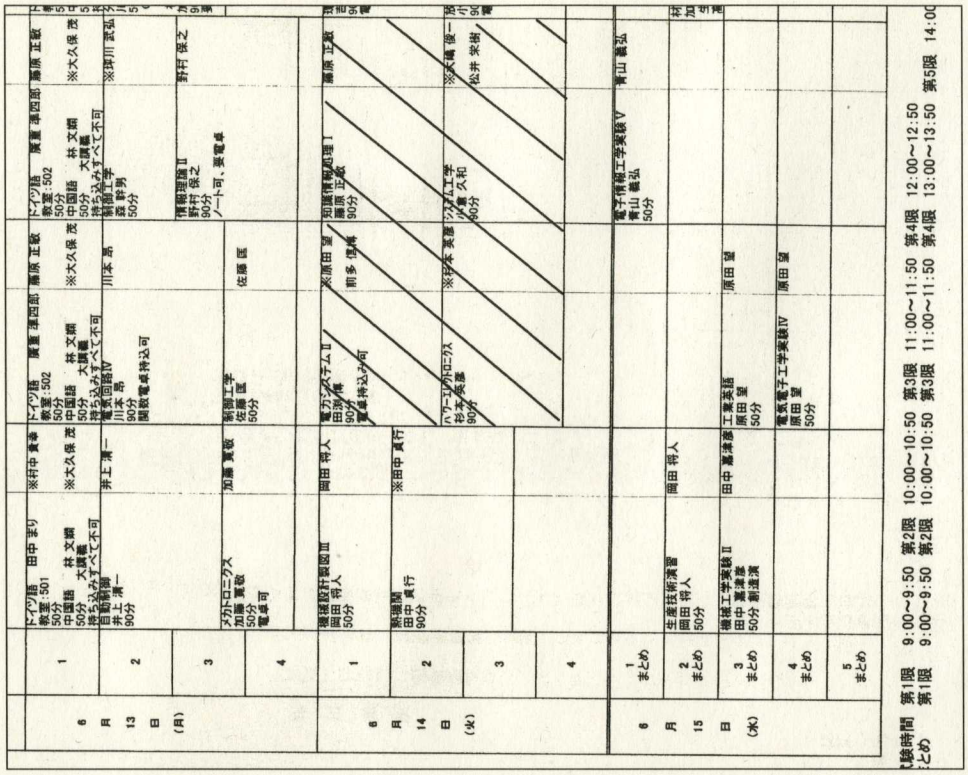
その他，学生の多様なニーズに応える制度として，海外インターンシップ制度，単位習得認定制度がある。

（分析結果とその根拠理由）

学生，社会からの多様なニーズに対し，相応の対応がなされていると考えられる。特に，科学技術の発展，社会の要請，学生のニーズを絶えず教育課程に反映させている。

（資料５－１－②－１）

「平成１７年度　５学年　前期中間試験時間割（網掛け部分の科目が電気工学科と電子情報工学科で相互選択可）」



		機械工学科5年 科目/担当教員/試験時間/その他	監督	電気工学科5年 科目/担当教員/試験時間/その他	監督	電子情報工学科5年 科目/担当教員/試験時間/その他	監督
6月8日(水)	1	法学 峯金 弥士郎 50分	※宮脇 崚	法学 峯金 弥士郎 50分	※吉村 芳武	法学 峯金 弥士郎 50分	※渥田 昇
	2	建築工学 田中 嘉津彦 90分	田中 嘉津彦 / 村中 貴幸	電気法規 清水 正之 50分	※清水 正之	情報倫理学 下條 雅史 50分	下條 雅史
	3			機械工学実験Ⅱ 田中 貞行 90分	※田中 貞行	電子物理 井上 昭浩 50分 電卓不可	井上 昭浩
	4						
6月9日(木)	1	国語講読 / 前田 安信 教室:502 哲学 / 森 芳周 教室:501 ノートプリント持込可 経済学 / 渡辺 哲四郎 教室:合体 数学科目 / 井川 宏弘 教室:503 英語講読 / 森 貞 教室:大講義室	前田 安信 / 森 芳周 / 渡辺 哲四郎 / 宮脇 崚 / 井川 宏弘	国語講読 / 前田 安信 教室:502 哲学 / 森 芳周 教室:501 ノートプリント持込可 経済学 / 渡辺 哲四郎 教室:合体 数学科目 / 井川 宏弘 教室:503 英語講読 / 森 貞 教室:大講義室	前田 安信 / 森 芳周 / 渡辺 哲四郎 / 宮脇 崚 / 井川 宏弘	国語講読 / 前田 安信 教室:502 哲学 / 森 芳周 教室:501 ノートプリント持込可 経済学 / 渡辺 哲四郎 教室:合体 数学科目 / 井川 宏弘 教室:503 英語講読 / 森 貞 教室:大講義室	前田 安信 / 森 芳周 / 渡辺 哲四郎 / 宮脇 崚 / 井川 宏弘
	2	システム工学 鈴木 秀和 50分	鈴木 秀和	電気応用 森 貞 50分	山本 幸男	建築システム 森 貞 / 大講義室 前川 公男 50分	前川 公男
	3	電子応用 森 貞 / 吉崎 保夫 50分 グラフ電卓不可	吉崎 保夫	計算機アーキテクチャ 梅宮 安紀 90分	※梅宮 安紀	計算機アーキテクチャ 梅宮 安紀 90分	※梅宮 安紀
	4						
6月10日(金)	1	英語Ⅴ 森 貞 (小寺 吉田 原口) 50分	●安丸 尚樹	英語Ⅴ 森 貞 (小寺 吉田 原口) 50分	●宮田 一郎	英語Ⅴ 森 貞 (小寺 吉田 原口) 50分	●青山 義弘
	2	材料力学Ⅲ 村中 貴幸 90分 電卓持込可	村中 貴幸	計測工学Ⅱ 前多 信博 50分 グラフ電卓可	前多 信博	アナログ信号処理 谷口 秀次 90分 電卓のみ持込可	※宮久 一郎 西 / 一司
	3						

（出典　学生課教務係）

（資料５－１－②－２）

「夏季校外実習（インターンシップ）報告会資料集 内容例（氏名欄は消去済）」

平成１６年　夏季実習報告会資料

2004.9.24

電気工学科　４年		番号		名前	
実習先	企業名	関西電力（株） 原子力保修訓練センター		従業員数	１２名
	所在地	〒919-2203 福井県大飯郡高浜町水明２		通勤手段	センター 宿泊棟 宿泊
	部署			期間	８月２日～ ８月６日
実習テーマ	・原子力発電の仕組み ・発電所の設備と安全性、放射線について				

実習概要

原子力保修訓練センターとは、関西電力の原子力発電所に配属された技術系社員に対して保修技術を向上させるための訓練を行う施設である。夏期実習では、下記のようなインターンシップ用の研修を行わせていただいた。

８/２（月）
- オリエンテーション
- 原子力発電の現状と原子核反応、発電所の設備についての講義
- 原子力保修訓練センター見学

８/３（火）
- 原子力発電所の電気系統についての講義
- 電気及び制御関係実習

８/４（水）
- 発電導入聴講（関電新入社員の方と一緒に講義を受ける）
  （１）　原子力発電の安全性
  （２）　原子燃料サイクル

８/５（木）
- 体感研修装置実習
- 放射線の話

８/６（金）
- 大飯発電所見学
- 研修まとめ（原子力発電の安全性についてのレポート）
- 懇談会

技術改善提案

美浜原発３号機の事故では、死傷者はすべて下請け会社の社員であった。原子力保修訓練センターでは、関電社員に対しては綿密な訓練計画を立てているが、下請け会社に対しては、訓練用設備を提供する程度であるそうである。そのため、定期点検の際には関電社員がすべての点検箇所に立ち会うとともに、下請け会社に対しても、技術向上のためのさらなる支援を行うべきであると考える。

実習の感想

この実習では、原子力発電の安全性について、特に多くのことを学んだ。し残念なことに、この実習が終わってから３日後に、美浜３号機で二次系の放射線漏洩事故が起きられて、疑問を感じた。原子力＝放射線という先入観にとらわれず、細かな疑問点も見逃さないよう心がけていきたい。

（出典　学生課教務係）

（資料５－１－②－３）

「校外実習評価報告書 例（氏名欄は消去済）」

別紙様式第4号

平成16年度校外実習評価報告書

平成16年度10月4日

福井工業高等専門学校長　殿

学科　電気工学科

学科主任氏名　新谷紀弘

校外実習について、下記のとうり評価しましたので報告します。

記

No	学生氏名	実習先	評価	No	学生氏名	実習先	評価
1		信越化学工業(株)武生工場	合格	21		松浦機械製作所 テクニカルサポートセンタ	合格
2		三菱電機ビルテクノサービス	合格	22		大同工業	合格
3		長岡技大	合格	23		銀鏡福井(株)	合格
4		ソニー根上	合格	24		オリオン電機	合格
5		江守商事	合格	25		NHK福井放送局	合格
6		リコー福井	合格	26		山田技研	合格
7		富士電機システムズ 教育センタ	合格	27		ニチコン福井	合格
8		福井テレビジョン放送(株)	合格	28		エッチアンドエフ(株)	合格
9		テクニカフクイ	合格	29		(株)福井村田製作所 武生工場	合格
10		倉茂電工	合格	30		三菱電線 武生工場	合格
11		合資会社 エムディエンス	合格	31		豊橋技大	合格
12		関西電力 原子力保修訓練センタ	合格	32		サンエ電機	合格
13		北陸電力 福井支店技術部	合格	33		エフエムひこねコミュニティ(株)	合格
14		豊橋技大	合格	34		日本原子力発電(株)敦賀発電所	合格
15		リコーテクノシステムズ 人材開発センタ	合格	35		(株)フクタカ 三宮工場	合格
16		福井エフエム放送	合格	36		中部電力	合格
17		倉茂電工	合格	37		ソニーイーエムシーエス(株)幸田テック	合格
18		大東電材(株) 彦根工場	合格	38		レンゴー(株)金津事業所	合格
19		ホリカワ	合格	39		豊橋技大	合格
20		日本通信特機	合格				

（出典　学生課教務係）

（資料５－１－②－４）
「単位習得認定制度の学生向け説明文」

英語検定の資格をとろう

今や英語力は学校の授業だけのものというものではありません。多くの企業においても英語力が問われ、昇進や昇給に関係したり、海外派遣の条件として要求されています。

英語検定の中には、実用英語技能検定（実用英検）や工業英語能力検定(工業英検)というものがあり、卒業までにはこのような検定試験に合格しておくことが望まれます。

また、本校における優遇措置として、上記の検定に合格すると本校の英語科の科目として単位が認定されるという特典もあります。

英語検定の合格による単位認定について

英語検定の合格により認定される単位数は次の表のとおりです。ただし、一度単位の修得を認定された後、さらに上位の審査基準に合格した場合は、当該上位単位数と既に認められた単位数との差が修得単位として認定されます。

（1）実用英検

審査基準	準２級	２級	準１級	１級
認定単位数	1	2	4	6

（注）準２級に関しては、第１学年から第３学年までの間に合格した場合のみ認定。

（2）工業英検

審査基準	４級	３級	２級	１級
認定単位数	1	2	4	6

（注）４級に関しては、第１学年から第３学年までの間に合格した場合のみ認定。

認定された単位の科目名は、それぞれ「実用英語技能検定＊級」、「工業英語能力検定＊級」として認定され、授業科目の評価は「優」となります。

認定された単位は、実用英検については一般科目の選択科目として、工業英検については専門科目の選択科目として取り扱い、卒業要件の単位数には含められません。

単位の認定を希望する場合は、合格した年度の末日までに、**「技能審査単位修得申請書」**に**「合格を証する書類」（写）**を添えて、学生課教務係に提出します。

認定単位の振替について

認定された単位のうち１単位を第５学年の選択必修科目「英語特講」の単位に充当（単位振替）することができ、この科目の履修は免除されます。ただし、工業英検にあっては、審査基準の４級を除きます（平成１１年度入学生から適用）。また、単位振替を希望する単位は、第４学年までに認定されなければなりません。

単位振替を希望する場合は、第５学年に進級する時に、**「技能審査合格修得認定単位振替申請書」**を添えて、学生課教務係に提出します。

（出典　学生課教務係）

（資料５－１－②－５）

「在学生の海外留学・海外派遣の状況」

5　在学生の海外留学と研修の状況

（1）海外留学

在学生の海外留学については，過去 10 年間で 10 名の学生が留学をしており，近年の留学状況は，資料 7-5-1 のとおりである。特に，平成 13 年度は 4 名の学生が留学をしている。その内 4 年生が 2 名加わっていることに特徴がある。

また，これらの学生は 1 年間の休学手続きをして留学をしているので，帰国後は 1 年下のクラスで学ぶことになり，卒業が 1 年遅れることとなっている。留学先の学校で修得した単位も制度上認められるようになっているが，すべての学生は単位認定は求めずに，本校カリキュラムの修得に全力をあげている．

資料 7-5-1　学生の海外留学状況

年度	学　科	学年	渡　航　先	留学期間
12	環境都市工学科	4	オーストラリア	12. 5. 1～13. 2.28
13	環境都市工学科	4	ニュージーランド	13. 4. 1～14. 3.31
	機械工学科	3	エクアドル	13. 9. 7～14. 7.11
	物質工学科	3	オランダ	13. 9. 1～14. 8.31
	機械工学科	4	オーストラリア	13. 9. 1～14. 8.31

（2）職員・学生海外派遣

本校の国際交流事業の推進を図るため，平成 8 年度から，職員及び学生の海外派遣制度を設けた。平成 8 年度から平成 13 年度の 6 年間で，13 名の学生が海外へ派遣された。過去 3 年間の派遣状況は，資料 7-5-2 のとおりである。

派遣学生の選抜は，渡航希望学生からの提出書類と面接によって行われる。選考は，提出された渡航計画の緻密さと信頼性，学業成績，課外活動状況，学校やクラスへの貢献度を基準に行われる。学生の派遣においては，必ず 1 名の教官が引率することになっており，希望学生は自らが教官に引率を依頼し，承諾を得なければならない。

帰国後は，報告会での体験発表が義務付けられている。報告会に参加した教官からは，派遣学生の著しい成長が報告されており，この派遣制度の成果は顕著であることが分かる。

資料 7-5-2　職員及び学生の海外派遣状況

年度	所属等	氏名	渡航目的	渡航先	派遣期間
11	一般科目教室 教　授	朝倉相一	カリフォルニア大学，日産LA工場，グリフィス天文台，パームスプリング風力発電所を視察する。	米　国	11.9.30 ～11.10.9
	機械工学科3年 同 電気工学科3年	林　巧 高橋里恵 伊東貴一			

平成１６年度海外派遣一覧

区分	所属	職名	氏名	渡航国名	渡航期間（日数）	渡航目的
引率教官	環境都市工学科	助教授	辻子裕二	中華人民共和国	平成16年4月29日～平成16年5月9日（11日間）	内蒙古文物考古研究所，中国歴史博物館遥感与航空撮影考古中心および上海田中地質詰商有限公司（STG）と田中地質コンサルタント（日本）ならびに本校とで実施しているプロジェクト（宇宙考古探査）に参画し，国際的な協働ストラテジーについて学ぶ。また，上海で建設コンサルタントを経営する張氏（総経理＝社長，プロジェクトメンバー）から直接アドバイスを受け，外国（中国）における経営方法，日本との違いについて理解する。
学　生	環境システム工学専攻	1年	吉田達哉			

（出典　学生課教務係）

（資料５－１－②－６）

「技能審査合格単位習得認定申請書　申請例（申請書式と認定証）」

JSTC

Certificate

文部科学省認定

工業英検3級
認定証

CERTIFICATE No. 62441

MR. SHINICHI YAMAZAKI
070-3-044

貴殿は、社団法人日本工業英語協会が主催した
English Technical Writing の
試験に顕著な成績を修められました
ここに、認定証を授与いたします

This is to certify that the person named above has successfully passed the English Technical Writing Test conducted by the Japan Society for Technical Communication and authorized by the Japan Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology.

February 25, 2003

社団法人日本工業英語協会　会長
大島榮次
EIJI OHSHIMA
President
Japan Society for Technical Communication

工業英検推進委員長
ラリー D. ブルーハード
Larry D. BROUHARD
Chairman, Testing Committee
Japan Society for Technical Communication

工業英検推進副委員長
中村皓一
KOICHI NAKAMURA
Vice-Chairman, Testing Committee
Japan Society for Technical Communication

教務主事	学生課長	専門員	教務係長	主任	起案者	学科主任	学級担任

技能審査合格単位修得認定申請書

平成 16 年 2 月 5 日

福井工業高等専門学校長　殿

学科　電子情報工学科
学年　4　年
氏名　山崎 真一

私は、技能審査に下記のとおり合格しましたので、合格書（写）を添えて単位の修得の認定を申請します。

記

技能審査の名称	工業英語能力検定
審査基準（級）	3　級
合格年月日	2003 年 2 月 25 日

（注）(1) 技能審査とは、実用英語技能検定及び工業英語能力検定とする。
(2) 技能審査の合格による認定する修得単位数は、次のとおりとする。

区分	実用英語技能検定				工業英語能力検定			
審査基準(級)	準2級	2級	準1級	1級	4級	3級	2級	1級
単位数	1	2	4	6	1	2	4	6

（備考）　実用英語技能検定の準２級及び工業英語能力検定の４級については、第１学年から３学年までの合格の者に限る。

（出典　学生課教務係）

観点５－２－①：　教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態のバランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば，教材の工夫，少人数授業，対話・討論型授業，フィールド型授業，情報機器の活用，基礎学力不足の学生に対する配慮等が考えられる。）

（観点に係る状況）

各学科における教育目的の細目，各教科目の授業目標に応じ，授業形態を変えて行われている。通常の授業の他に，授業の内容によって複数教員・技術職員によるサポート，または少人数のグループに分けた上で指導を行う少人数教育体制等を敷いている。また，新たな学習指導法の工夫として，各学科，教科目の特性に合わせたいくつかの取り組みがなされている。

また，講義と実験・実習の比率は，（資料５－２－①－１－１）のように，低学年から高学年になるにつれて実験・実習が次第に増加し，専門的な知識を実験・実習で履修する。

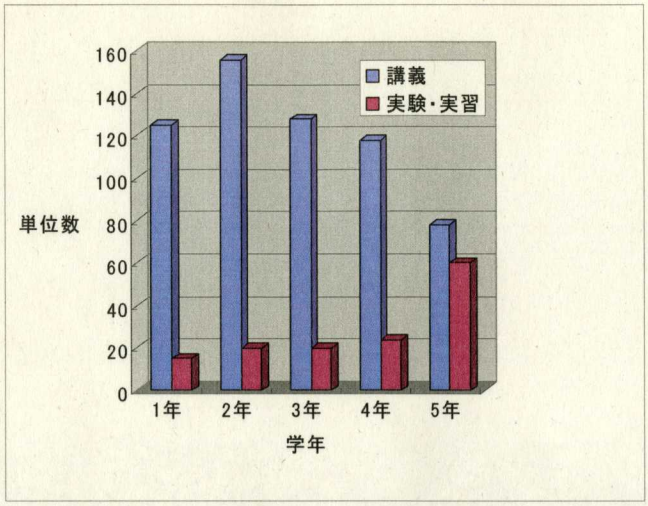
職業上の能力を育成する科目としては，低学年から高学年になるにしたがって，授業数を増加させる楔形教育となっている。本校は，基本理念に「創造性豊かな人材の育成」を掲げており，創造力を育成する授業を行っている。これらの授業の単位数は高学年になるにしたがって増加する。また，本校は基本理念に「国際性に対応した教育を行う」こともあげており，英語，ドイツ語，中国語の所定の単位を５年間で取得する。さらに，授業アンケートや公開授業を行い，教材を工夫する際の基礎資料としている。基礎学力不足の学生に対しては，各学期末の「特別指導期間」，及び学年末の「特別学習期間」を設け，成績の向上を図っている。

（分析結果とその根拠理由）

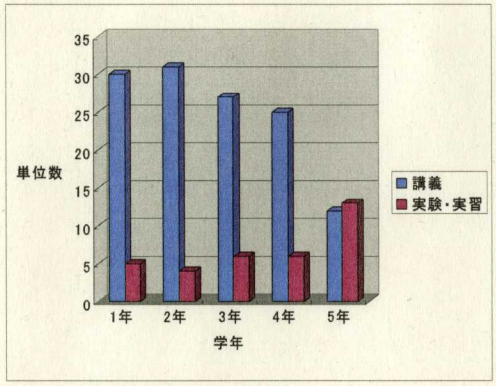
まず，カリキュラムが教育の目的に合わせ体系的に編成されており，授業科目毎にその目的にふさわしい授業形態が選択されている。

（資料５－２－①－１－１）

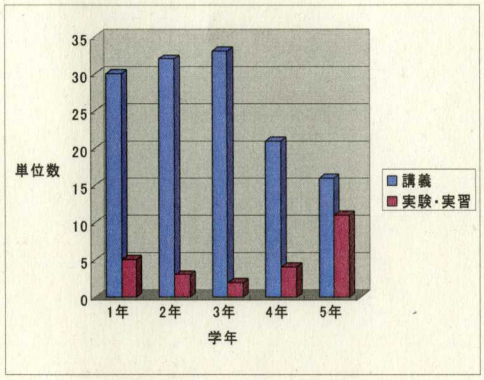
「専門科目の授業形態の割合を示すグラフ」



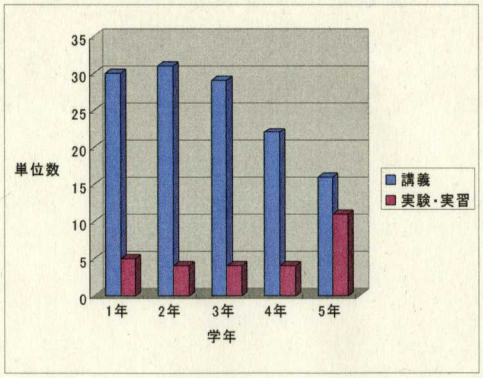
全体



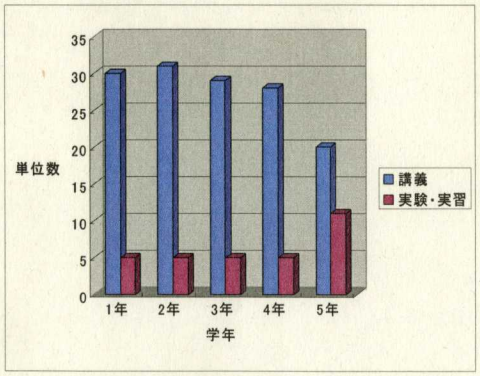
機械工学科



電気電子工学科



電子情報工学科

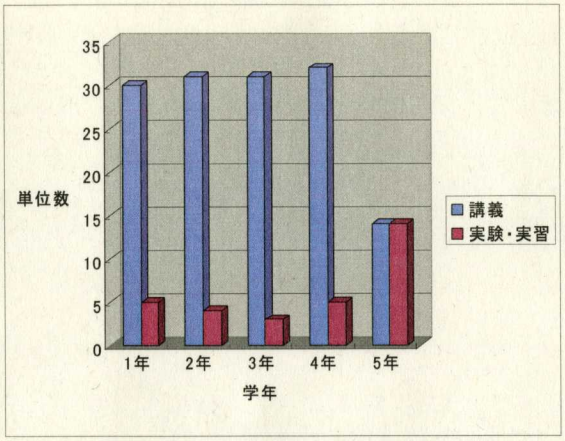


物質工学科

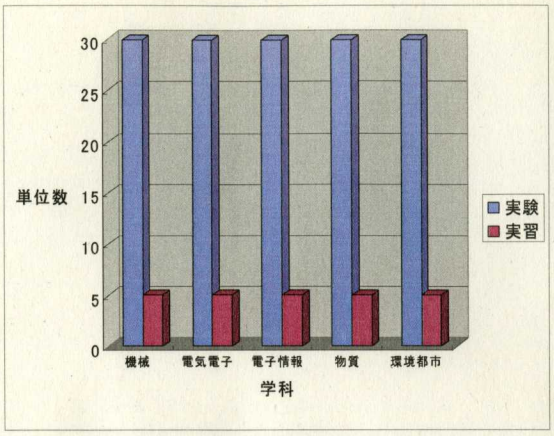
（出典　学生便覧データより）

（資料５－２－①－１－２）

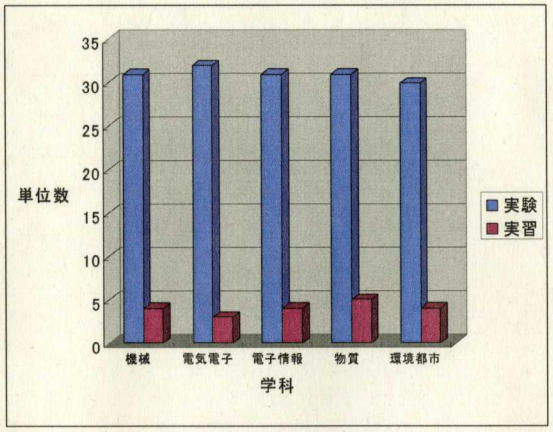
「専門科目の授業形態の割合を示すグラフ」



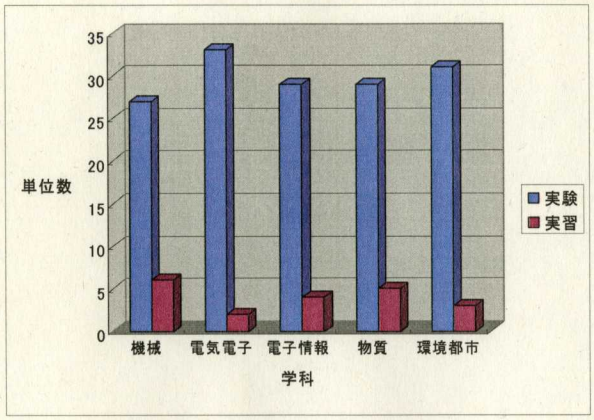
環境都市工学科



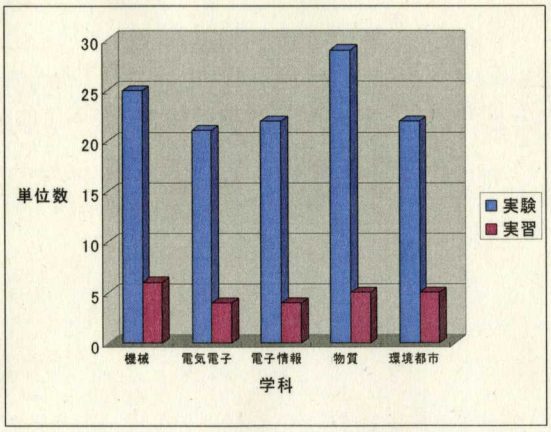
１年生



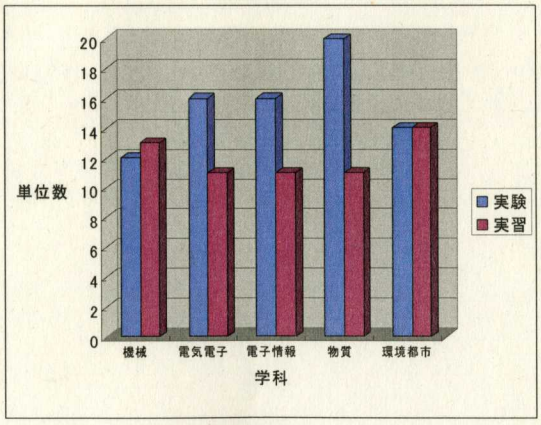
２年生



３年生



４年生

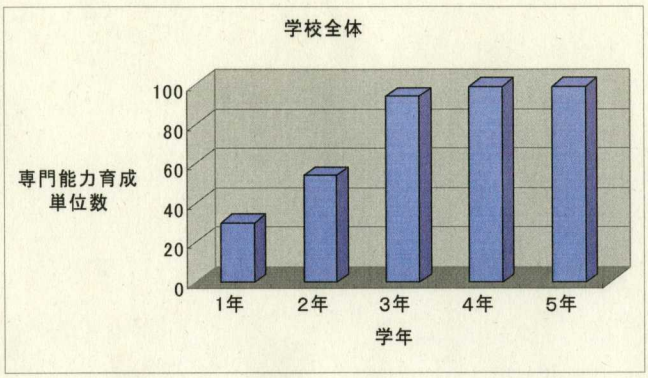


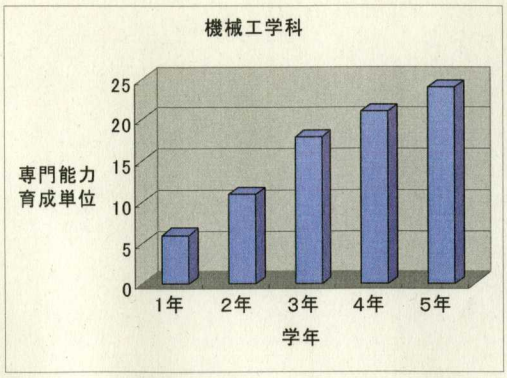
５年制

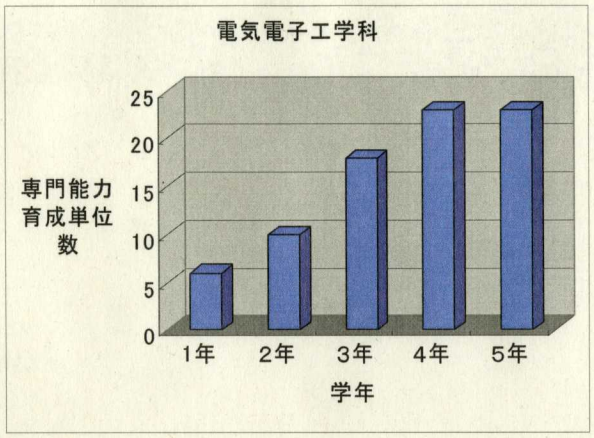
（出典　学生便覧データより）

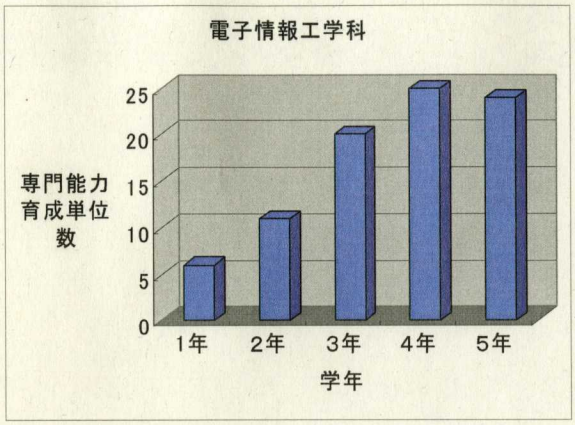
（資料５－２－①－２）

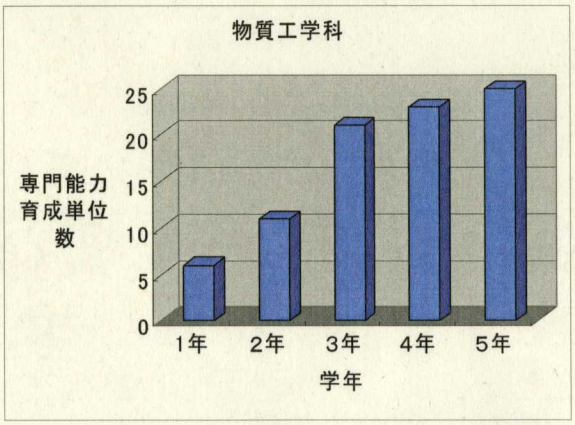
「専門的な能力を育成する単位数」

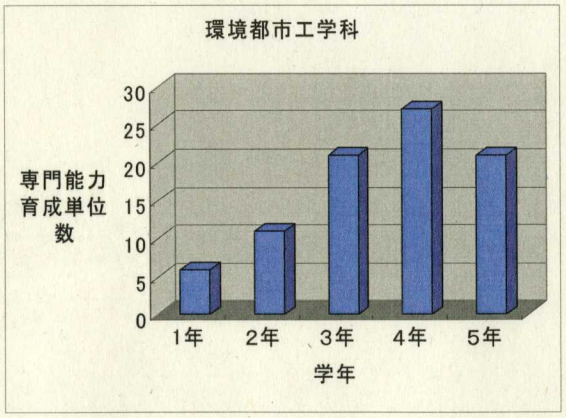












（出典　学生便覧データより）

（資料５－２－①－３）

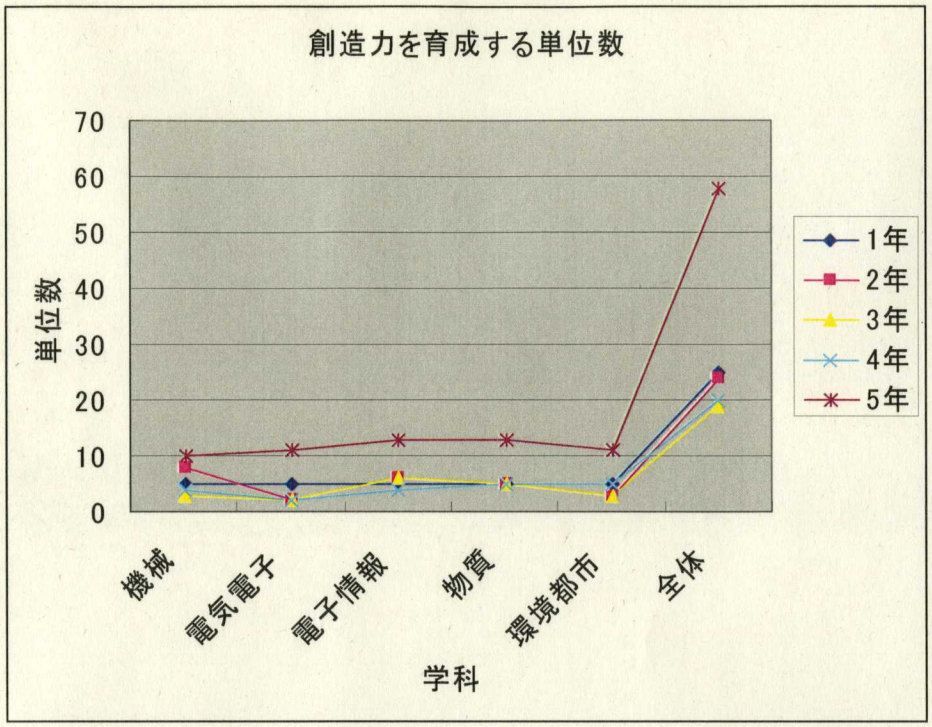
「創造性豊かな人材を育成する単位数」

	1年	2年	3年	4年	5年
機械工学科	ものづくり科学(3) コンピューター科学入門(2)	機械製図(4) 機械工作実習(4)	創造工学演習(3)	知能機械演習(2)，センサ工学(1)，機械設計法(2)	システム工学(1)，卒業研究(9)
電気電子工学科	ものづくり科学(3) コンピューター科学入門(2)	電気電子工学実験 I(2)	電子創造工学(2)	電気電子工学実験 III(2)	電気電子工学実験 IV(2)，卒業研究(9)
電子情報工学科	ものづくり科学(3) コンピューター科学入門(2)	電子情報工学実験 I(4) プログラミング基礎(2)	電子情報工学実験 II(4)，プログラミング応用(2)	電子情報工学実験 III(4)	電子情報工学実験 IV(4)，卒業研究(9)
物質工学科	ものづくり科学(3) コンピューター科学入門(2)	物質工学実験 I(5)	物質工学実験 II(5)	物質工学実験 III(5)	卒業研究(8)，生物工学実験(3)，材料工学実験(3)
環境都市工学科	ものづくり科学(3) コンピューター科学入門(2)	都市工学実験実習 I, II(3)	都市工学実験実習 III(3)	都市工学実験実習 IV(3) 都市工学設計製図 I(2)	都市工学設計製図 II(2) 卒業研究(9)

（出典　シラバスデータより）

（資料５－２－①－４）

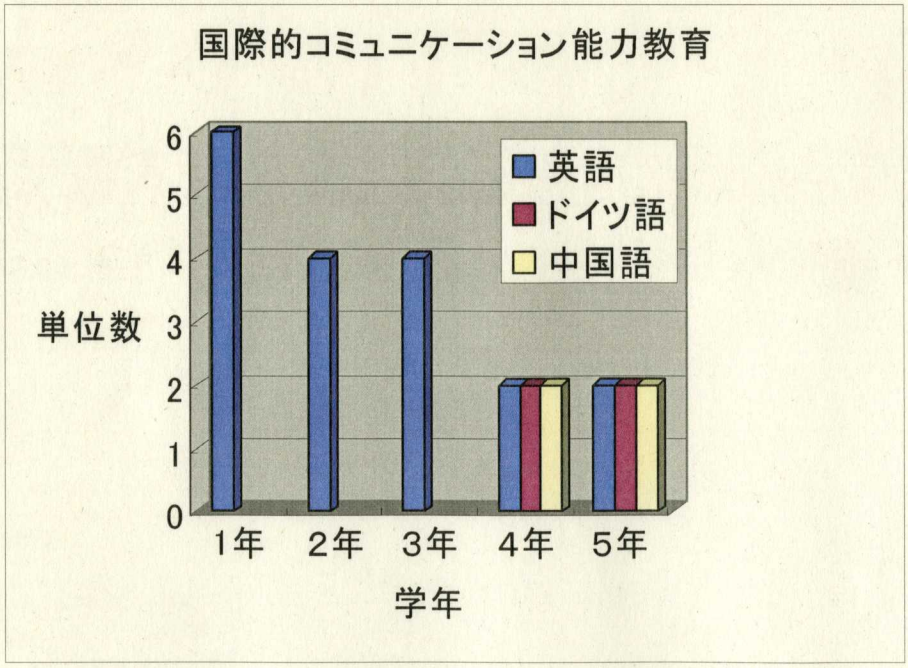
「創造性を育成する単位数」



（出典　学生便覧データより）

（資料５－２－①－５）

「国際社会に対応する教育を行う単位数」



（出典　学生便覧データより）

（資料５－２－①－６）
「授業アンケート回答用紙（平成１６年３月実施）」

授業に関するアンケート（学年末試験終了後）

講義名：
学籍番号：
本　科：ＭＥ EI ＣＢ 学年：１　２　３　４　５
専攻科：ＰＳ　ＥＳ　　学年：１　２

この調査は，学生の皆さんが授業についてどのように考えているかを調査することにより，授業を改善しておくことを目的としたものです。
以下の設問について，該当するところに○印をつけてください。

		強くそう思う	ややそう思う	あまり思わない	全く思わない
●この授業に対するあなたの取り組みについて					
1.	私はこの授業の達成（到達）目標を理解していた				
2.	私はこの授業の予習，復習を十分に行った				
3.	私はこの授業に積極的に取り組んだ				
●講義，実験・実習別の評価					
講義（製図を含む）の場合（実験・実習の場合は記入不要）					
4.	黒板，OHP などは見やすかった				
5.	演習問題や課題の量，内容は適切だった				
6.	教官の説明は良く聞き取れた				
7.	試験の内容，レベル（難易度）は適切である				
実験・実習の場合（講義の場合は記入不要）					
8.	実験の内容，レベル（難易度）は適切である				
9.	指導書は役に立った				
10.	安全性は確保されていた				
●講義，実験・実習共通の評価					
11.	内容に関心，興味をもった				
12.	内容は理解できた				
13.	内容はシラバスと一致していた				
14.	教官の準備は良くなされていた				
15.	教官は学生の理解度を把握していた				
16.	教官は授業に熱心であると思った				
17.	この授業には総合的に満足である				
18.	この授業の目標を達成した				

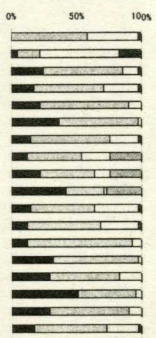
（出典　教育改善委員会）

（資料５－２－①－７）
「授業アンケート結果・分析例（平成１６年度）」

学科：電気工学科
学年：4年
科目：工学基礎物理Ⅱ　　（必修　2 単位）

番号	設問	平均	4	3	2	1	0
q1	私はこの授業の達成（到達）目標を理解していた	2.6	0	24	16	1	0
q2	私はこの授業の予習，復習を十分に行った	2.1	2	7	25	7	0
q3	私はこの授業に積極的に取り組んだ	3.1	10	25	5	1	0
q4	黒板，OHPなどは見やすかった	2.9	7	22	11	1	0
q5	演習問題や課題の量，内容は適切だった	3.1	9	28	4	0	0
q6	教官の説明は良く聞き取れた	3.3	15	25	1	0	0
q7	試験の内容，レベル（難易度）は適切である	2.9	6	25	9	1	0
q8	実験の内容，レベル（難易度）は適切である	2.9	5	17	9	0	10
q9	指導書は役に立った	3.1	9	17	5	0	10
q10	安全性は確保されていた	3.5	17	12	1	0	11
q11	内容に関心，興味をもった	2.8	6	20	14	1	0
q12	内容は理解できた	2.8	5	23	12	1	0
q13	内容はシラバスと一致していた	3.0	5	33	3	0	0
q14	教官の準備は良くなされていた	3.3	13	27	1	0	0
q15	教官は学生の理解度を把握していた	3.1	12	22	7	0	0
q16	教官は授業に熱心であると思った	3.5	21	18	2	0	0
q17	この授業には総合的に満足である	3.2	12	25	4	0	0
q18	この授業の目標を達成した	2.9	7	23	10	1	0

4：強くそう思う　3：ややそう思う　2：あまり思わない　1：全く思わない　0：無回答



【担当教官による分析、今後の課題】

q1 の平均を見る限り，到達目標が上手く伝わっていないように感じます．q18 の平均から分かるように，授業の目標達成度が低いのもそのためと思います．今後は，学生に対して，その目標を明確にすること，目標を達成するための手順を示すこと，を意識して行います。そうすることで，学生がより積極的に授業に取り組めるよう配慮して q3 の平均をより高めたいと思います．また，演習課題を宿題とすることで学生自身が復習できるようにし，q2 の平均を高めたいと思います．

講義に対する満足度(q17)の割には，興味・関心(q11)や理解(q12)の平均点が低いように感じます．学生に興味を持ってもらえるような取り組みに欠けているために，十分な内容の理解が得られなかったのではないかと思います．アニメーションの導入による説明など，視覚的な効果が必要と思います．これについては，できる限り対応したいと思います．

q4 において番書きの内容が見にくいと指摘されています．今後注意したいと思います．q7 と q8 の平均点を見ると，試験のレベルが少々高いのかもしれません．q15 の平均点を考慮すると，応用力の育成の部分で，もう少し工夫する必要があるかと思います．学生の満足度(q17)から総合的に判断して，姿勢や方針，進め方が間違っていないと思われます．これらについてもより高い平均点を目指したいと思います．

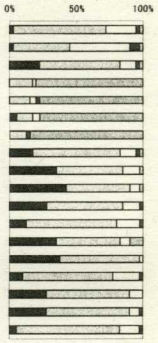
（出典　学生・教員授業達成度調査報告書　平成１６年３月）

（資料５－２－①－８）
「授業アンケート結果・分析例（実験・実習系科目）」

学科：電子情報工学科
学年：4年
科目：電子情報工学実験Ⅳ　　（必修　4単位）

番号	設問	平均	4	3	2	1	0
q1	私はこの授業の達成（到達）目標を理解していた	2.7	1	28	9	1	1
q2	私はこの授業の予習，復習を十分に行った	2.4	1	17	18	3	1
q3	私はこの授業に積極的に取り組んだ	3.1	9	24	5	1	1
q4	黒板，OHPなどは見やすかった	2.9	0	7	1	0	32
q5	演習問題や課題の量，内容は適切だった	2.6	0	6	2	1	31
q6	教官の説明は良く聞き取れた	3.0	2	5	2	0	31
q7	試験の内容，レベル（難易度）は適切である	2.7	0	5	0	1	34
q8	実験の内容，レベル（難易度）は適切である	3.0	7	26	5	1	1
q9	指導書は役に立った	3.2	14	20	5	0	1
q10	安全性は確保されていた	3.4	17	19	3	0	1
q11	内容に関心，興味をもった	3.1	11	23	5	1	0
q12	内容は理解できた	2.9	5	27	7	1	0
q13	内容はシラバスと一致していた	3.3	14	19	3	0	4
q14	教官の準備は良くなされていた	3.4	15	24	1	0	0
q15	教官は学生の理解度を把握していた	2.9	4	27	8	1	0
q16	教官は授業に熱心であると思った	3.2	11	25	4	0	0
q17	この授業には総合的に満足である	3.2	11	25	3	1	0
q18	この授業の目標を達成した	2.9	2	31	6	1	0

4：強くそう思う　3：ややそう思う　2：あまり思わない　1：全く思わない　0：無回答



【担当教官による分析、今後の課題】

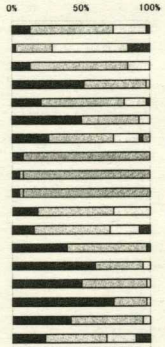
前期６テーマで、６人の指導者が、２週１テーマのローテーションで１班７−８人の構成で実験を行い、実験報告書は、全員１通×６テーマ提出ということになっている。テキスト＋指導者の説明で、実験が行われており、実験中の質疑応答もあるので、かなり個人の能力に合ったペースで展開される科目と思う。
しかし、「やらされているという」意識で、受け身の学生には、重荷のようで、実験報告書が期限内に提出できない学生が、数人いた。自由度もあるのに、興味が全くない学生がいるのは、今後の反省材料である。報告書に書くべき、考察事項などが適切かどうか、再検討の必要がある。

（資料５－２－①－９）
「授業アンケート結果・分析例（解析Ⅰ）」

学科：環境都市工学科
学年：2年
科目：解析Ⅰ　　（必修　4単位）

番号	設問	平均	4	3	2	1	0
q1	私はこの授業の達成（到達）目標を理解していた	2.8	5	23	9	1	0
q2	私はこの授業の予習，復習を十分に行った	2.2	1	10	21	6	0
q3	私はこの授業に積極的に取り組んだ	3.0	5	27	6	0	0
q4	黒板，OHPなどは見やすかった	3.5	20	17	1	0	0
q5	演習問題や課題の量，内容は適切だった	3.0	8	23	6	1	0
q6	教官の説明は良く聞き取れた	3.4	19	16	3	0	0
q7	試験の内容，レベル（難易度）は適切である	3.0	10	18	7	1	2
q8	実験の内容，レベル（難易度）は適切である	4.0	3	0	0	0	35
q9	指導書は役に立った	3.7	2	1	0	0	35
q10	安全性は確保されていた	3.7	2	1	0	0	35
q11	内容に関心，興味をもった	2.9	7	21	10	0	0
q12	内容は理解できた	2.8	6	21	8	3	0
q13	内容はシラバスと一致していた	3.3	15	22	0	1	0
q14	教官の準備は良くなされていた	3.6	23	13	2	0	0
q15	教官は学生の理解度を把握していた	3.5	19	18	1	0	0
q16	教官は授業に熱心であると思った	3.7	28	9	1	0	0
q17	この授業には総合的に満足である	3.4	16	20	2	0	0
q18	この授業の目標を達成した	2.8	9	17	8	4	0

4：強くそう思う　3：ややそう思う　2：あまり思わない　1：全く思わない　0：無回答



【担当教官による分析、今後の課題】

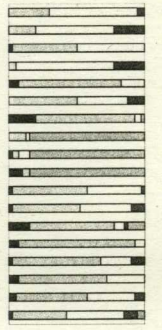
関数の極限から微分に関する分野が範囲であったが学生はよく努力していると思われる．学習意欲の向上に期待すると同時に今後も丁寧な授業に心がけたい．前期同様授業理解のための宿題・課題などを適宜課していきたい．

（資料５－２－①－１０）

「授業アンケート結果・分析例（電子回路Ⅱ）」

学科：電子情報工学科
学年：4年
科目：電子回路Ⅱ　（必修　2単位）

番号	設問	平均	4	3	2	1	0
q1	私はこの授業の達成（到達）目標を理解していた	2.3	0	12	26	2	0
q2	私はこの授業の予習、復習を十分に行った	2.0	0	8	23	9	0
q3	私はこの授業に積極的に取り組んだ	2.5	1	19	20	0	0
q4	黒板、OHPなどは見やすかった	1.8	0	2	29	9	0
q5	演習問題や課題の量、内容は適切だった	2.9	3	30	7	0	0
q6	教官の説明は良く聞き取れた	2.4	0	20	15	5	0
q7	試験の内容、レベル（難易度）は適切である	3.2	8	29	2	0	1
q8	実験の内容、レベル（難易度）は適切である	2.8	0	5	1	0	34
q9	指導書は役に立った	2.7	1	2	3	0	34
q10	安全性は確保されていた	3.7	4	2	0	0	34
q11	内容に関心、興味をもった	2.6	1	22	16	1	0
q12	内容は理解できた	2.5	1	20	15	4	0
q13	内容はシラバスと一致していた	3.0	6	25	3	1	5
q14	教官の準備は良くなされていた	3.0	3	34	3	0	0
q15	教官は学生の理解度を把握していた	2.6	1	26	9	4	0
q16	教官は授業に熱心であると思った	2.8	3	26	11	0	0
q17	この授業には総合的に満足である	2.6	2	21	14	3	0
q18	この授業の目標を達成した	2.4	1	16	17	4	2



4:強くそう思う　3:ややそう思う　2:あまり思わない　1:全く思わない　0:無回答

【担当教官による分析、今後の課題】

講義によるとの準備に対して高い評価を得たのは、回路シミュレータ演習を取り入れたことに善に務思われる。反面、このクラスから板書が見にくいとの指摘を今回も受けたので改半数めたい。

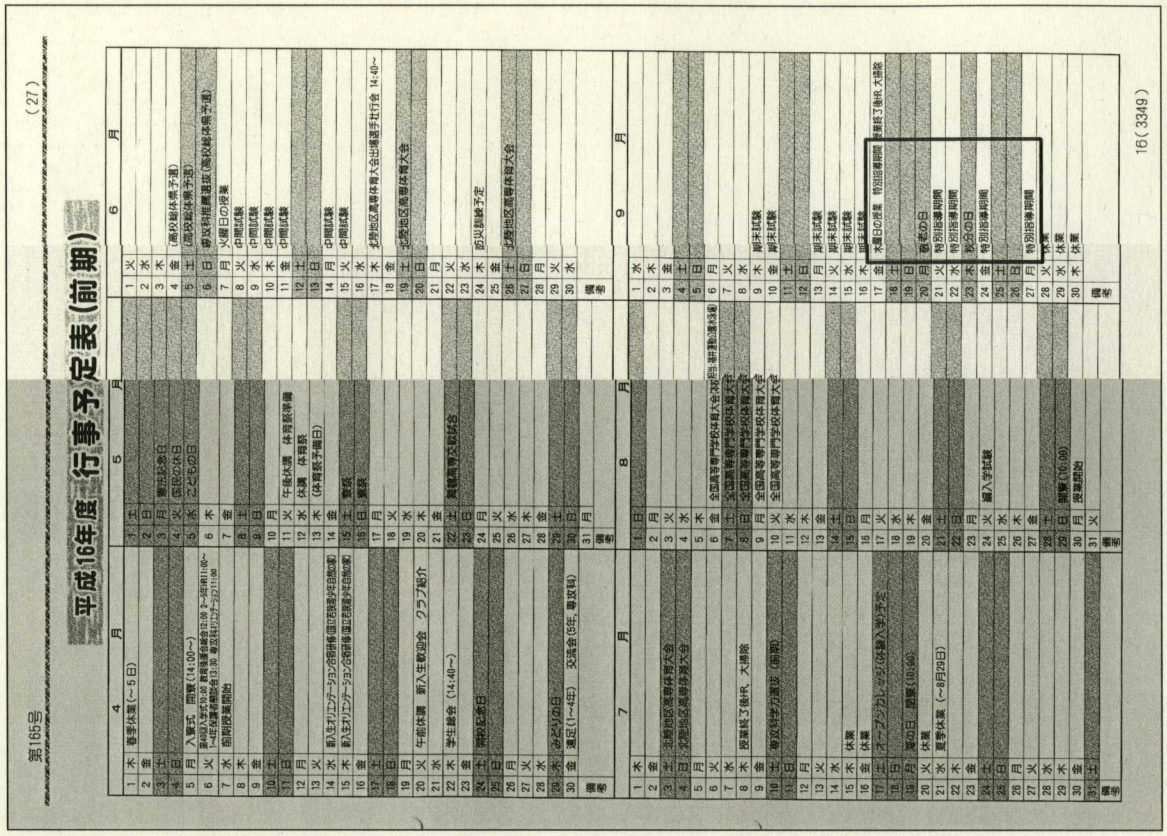
報工学の学生が、授業の内容に積極的に興味を持っていないように見えるのは、電子情シラ科のカリキュラムが学生の希望と一致していないことの表れかもしれない。

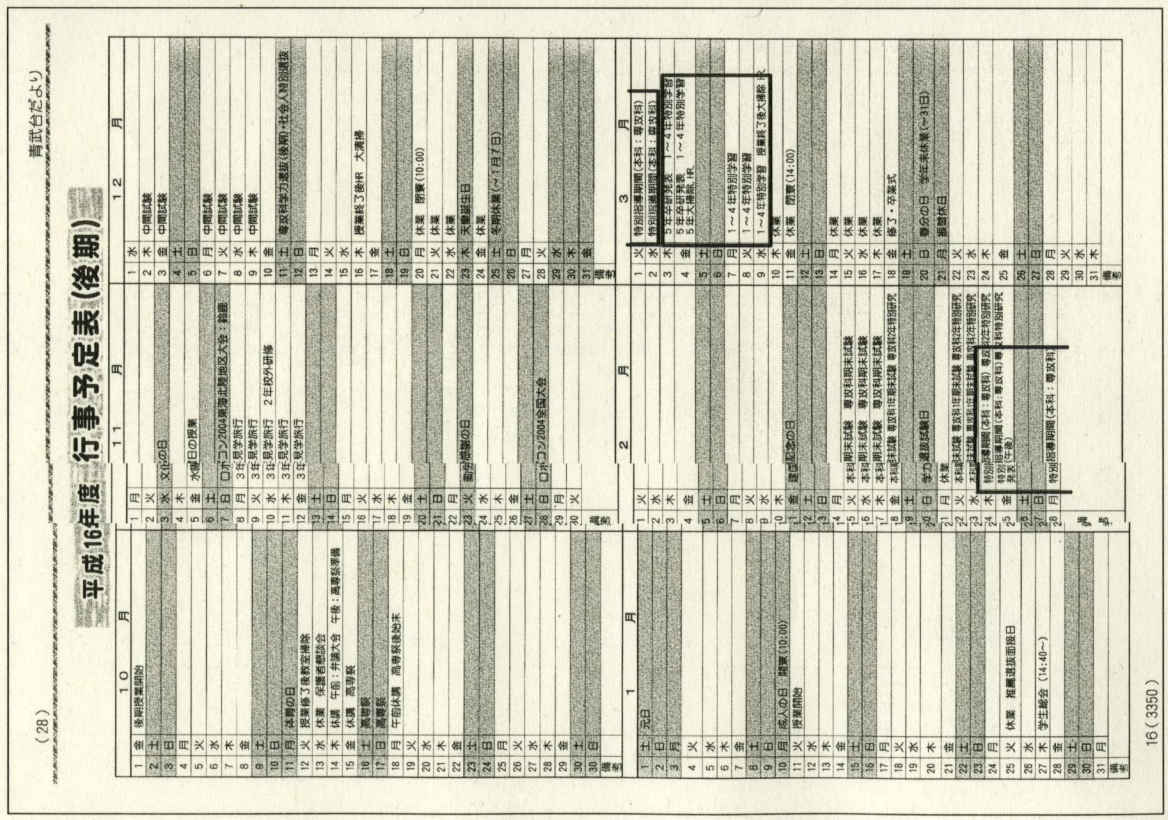
していバスとの一致や試験や課題が適度であるのに、内容が理解できない、目標を達成ないとの回答も学生の希望とカリキュラム内容の乖離があることを予測させる。

（出典　学生・教員授業達成度調査報告書　平成１６年３月）

（資料５－２－①－１１）

「特別指導，特別学習期間の日程（平成１６年度 年間行事予定表）」





（出典　青武台だより（学校便り）No. 165）

観点５－２－②：　教育課程の編成の趣旨に沿って，適切なシラバスが作成され，活用されているか。

（観点に係る状況）

平成７年度よりシラバスを作成し，活用している。また，それ以降，記載項目に関する改訂を重ねるとともに，現在に至っている。また，ウェブページにシラバスを公開している。本校シラバスの特徴は，本校学習・教育目標とその授業との関係が定量的に説明つきで付いていることである。また，自習が必要な場合はその説明を行っている。

（分析結果とその根拠理由）

シラバスに学習・教育目標を記入する欄を設けている。記載項目についても精査・改訂を重ね，シラバスがより有効に活用されるよう努めている。

（資料５－２－②－１）

「シラバスの記入例（平成１５年度）」

工学基礎物理Ⅱ（Fundamental physics for engineering 2）21405

（必修）　電気工学科4年生　2単位　通年　北浦守　太田義輝

授業目標

工学の基礎となる物理現象の本質を，数学の知識を用いて理解できるように努める。また，得られた解が意味する関連事象を簡単な図を用いて説明し，工学との接点がわかるように努める。

授業方法

基本的には，教科書の内容に沿って行う。内容をより充実させるために，適宜プリント(自作)を用いる。後期後半は工学の基礎となるテーマに関する実験を行う。

評価方法：定期試験の総合平均を60%とし，演習課題を20%とし，講義中での様子を20%とし評価する。なお，前期後半には工学基礎物理実験を行い，その実験レポートの評価を前期期末試験の成績とする。

教科書：小出昭一郎：「物理学」(三訂版)，裳華房

参考書：

週	授業項目	授業内容
第1週	ガイダンス	講義の内容他
第2週	振動と波動	単振動の解
第3週		波の式(進行波の式)
第4週		横波の波動方程式
第5週		波の重ね合わせ(定在波の発生)
第6週		固定端を持つ弦に生ずる定在波の解析
第7週		自由端を持つ弦に生ずる定在波の解析
第8週		一般解の速さ(位相速度と群速度)
第9週		第2-8週までの内容の総合演習
第10週	工学基礎物理実験	偏光を用いた屈折率の測定
第11週		サーミスタの熱特性の測定
第12週		フォトダイオードを用いた光の測定
第13週		ボルタの電池
第14週		磁性材料の電磁
第15週		磁気記録の測定
第16週	振動と波動Ⅱ	連成振動の解
第17週		連成振動の性質
第18週		減衰振動
第19週		連続系と無限自由度
第20週		強制振動
第21週		第10-13週までの内容の総合演習
第22週	光学の基礎	光の特徴と利用性，新技術の紹介
第23週	幾何光学	フェルマーの原理と反射・屈折の法則
第24週		全反射と光ファイバーの原理
第25週		レンズの写像公式とレンズの問題点
第26週	波動光学	二つの三角関数の和積変換による光の干渉の理解
第27週		ヤングの干渉実験と光のコヒーレンス
第28週		薄膜による干渉と材料設計のなぞ
第29週		スリットによる回折と回折の条件
第30週		第22-29週までの内容の総合演習

到達目標：

物理現象をモデル化し，そのモデルに基づいた方程式が立てられること，その方程式の解を条件に応じて正確に求められること，その解を使って，定性的あるいは定量的に現象を説明できること。

関連科目：　既に学んでいる科目：物理など

今後，学ぶ科目：　工学に関連した科目すべて

オフィスアワー：在室時ならいつでも可

（出典　平成１５年度シラバス）

（資料５－２－②－２）

「シラバスの記入例（平成１６年度）」

科目名：工学基礎物理Ⅱ　科目cd：21405［Fundamental Physics for Engineering 2］

必修　4年 電気工学科　開講期：通年　2単位　その他　担当教員：北浦 守　、太田 泰雄

【授業目標】工学の基礎となる物理現象の本質を、数学の知識を用いて説明できるように努める。また、得られた解が意味する関連事象を簡単な図を用いて説明し、工学との接点がわかるように努める。

【授業の概要と方法】基本的には、教科書の内容に沿って行う。内容をより充実させるために、通宜プリント(自作)を用いる。後期後半は工学の基礎になるテーマに関する実験を行う。

週	授業項目	授業内容
第1週	授業概要、振動	シラバスの説明、単振動の解
第2週		速度振動の解
第3週		速度振動の特徴
第4週		減衰振動の解
第5週		減衰振動の特徴、減衰振動と電気回路
第6週		減衰振動と境界減衰
第7週		強制振動
第8週	中間試験	
第9週	工学基礎物理実験	試験の返却と解説、プリズム分光器による原子スペクトルの測定
第10週		偏光を利用した屈折率の測定
第11週		重力加速度の測定
第12週		サーミスタの熱特性の測定
第13週		電子の比電荷の測定
第14週		磁気記録と磁性材料の観察と測定
第15週	授業アンケート	実験内容の解説、授業アンケート
第16週	波動	波の表し方、進波の波動方程式
第17週		縦波の波動方程式、波動方程式の解
第18週		固定端と自由端における波の反射
第19週		定在波、固定端を持つ弦に生ずる定在波の特徴
第20週		自由端を持つ弦に生ずる定在波の特徴、位相速度と群速度
第21週		ドップラー効果
第22週		光のドップラー効果
第23週	中間試験	
第24週	量子論	試験の返却と解説、古典論的考えと量子論的考えの違い(具体題材について)
第25週		光の粒子性(光電効果)
第26週		エネルギーバンドと仕事関数、光電子の運動エネルギー、光電効果を利用した材料分析
第27週		X線の発生、X線スペクトル、光の粒子性Ⅱ(コンプトン散乱)
第28週		電子の波動性(ドブロイ波)、電子顕微鏡の分解能
第29週		原子模型、水素原子のエネルギー準位、量子条件と電子軌道
第30週	試験返却、授業アンケート	試験の返却と解説、授業アンケート

【教科書】浜島 朗「初等物理学」裳華房【参考書等】田中勉「力学への道」学術図書出版、和田純夫「振動・波動のきほどころ」岩波書店、朝永振一郎「量子力学Ⅰ」みすず書房

【福井高専学習・教育目標】A8(0.2)B1(0.1)B2(0.4)C1(0.2)E6(0.07)

【到達目標】物理現象をモデル化し、そのモデルに基づいた方程式が立てられること。その方程式の解を条件に応じて正確に求められること。その解を使って、定性的あるいは定量的に現象を説明できること。

【評価方法】定期試験の総合平均を80%とし、演習課題を20%として評価する。なお、前期後半には工学基礎物理実験を行い、その実験レポートの評点を前期末試験の成績とする。講義中の説明を妨害する行為は厳しく減点する。【評価基準】学年成績60点以上

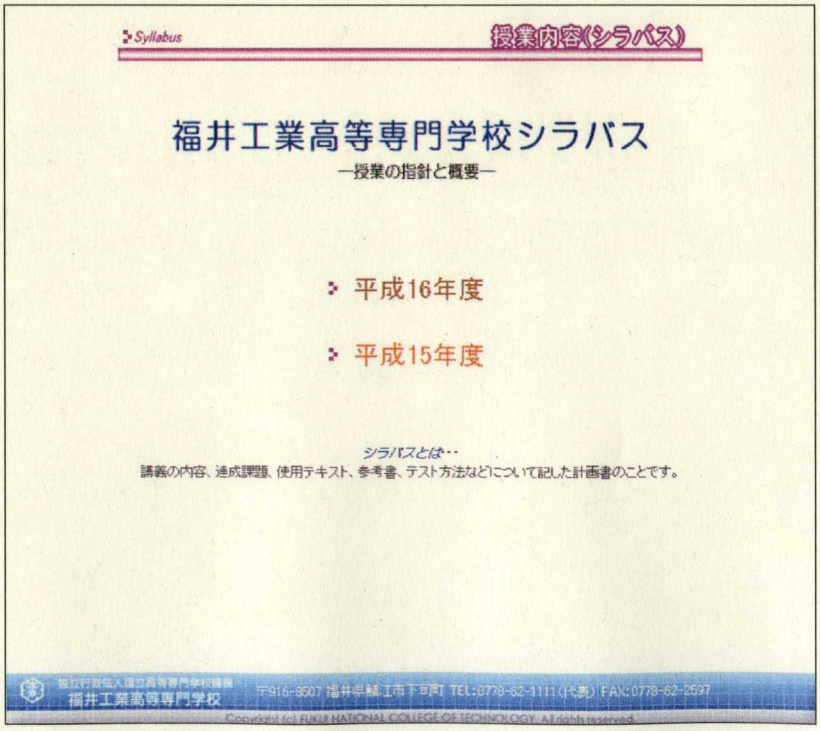
【関連科目】電磁界解析(専攻科1年)、応用物理学(専攻科2年)

【オフィスアワー】各学科教室のホームページおよび掲示板に掲載

（出典　平成１６年度シラバス）

（資料５－２－②－３）

「ウェブによるシラバスの公開」



（出典　ウェブページ）

観点５－２－③：　創造性を育む教育方法（ＰＢＬなど）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

（観点に係る状況）

１年生で「ものづくり科学」３単位を全員が受講する。この授業では，学生が自分で研究を計画，遂行，プレゼンテーションを行う。また，２年次以降でもＰＢＬ授業を行っている。

また，本科４年次の学生を対象にインターンシップ（夏季校外実習）が行われる。９月には学科ごとに「校外実習報告会」が開催され，実習に参加した学生全員の報告を評価して，外単位で単位を与えている。

（分析結果とその根拠理由）

学生の創造性を育む教育方法（ＰＢＬなど）や，インターンシップの活用によって，学生の自発的な学習活動を支援し，教育効果を上げる体制が整備されている。

（資料５－２－③－１）

「創造性を育む教育方法の工夫例（ライントレース・マシンの製作）」

福井工業高等専門学校　電気工学科
電気電子情報工学実験 III

ライントレース・マシンの製作

1. 実験の目的

本実験の目的は、光センサを用いた電子回路を利用することによって、ラインに沿って移動することの出来るマシンを製作することです。この実験において、ライントレース・マシンの製作において生じる様々な問題点や改良点を今まで講義や実験で学習したことを利用や自分達で調べた知識の適用によって克服して下さい。

4. ライントレース・マシンとは？

ライントレース・マシンは、白い紙に黒線または黒い床に白テープといったコントラストのはっきりした線に沿って進む機械です[1-2]。工場や倉庫の荷物運搬などに利用されています。また、最近では、大学生のロボコン[3]やロボサッカー[4]などでも同様の技術が良く用いられています。

ライントレースの原理は、光を床に照射し、床から反射する光を検知することによって、黒の線上にマシンが存在するかどうかの判断を行い、この判断から線に沿ってマシンが進むようにモータの制御を行います。センサが一つの場合にライントレース・マシンの動きとセンサの判断を以下の図に示します。

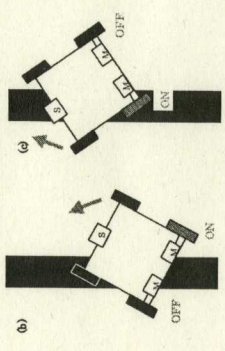


図1、ライントレース・マシンの動作原理の概略図

初期状態 (a) で左タイヤのみが動くことによって時計回りにマシンが動く。状態 (b) に示されるように黒いラインから外れた瞬間に稼動するモータが切り換り、右側のモータが動く。状態 (c) に示されるように、黒いライン上にセンサが反応すると稼動するモータが切り換ります。このような動きを繰り返しながら、マシンはジグザグに蛇行しながらラインに沿って進みます。

5. 実験

本実験では、まず上述のライントレース・マシンの作製を行います。その後、そのマシンをベースにして各班で改良を行い、各マシンの発表会と競技会を行います。その後に、自分たちが作製したマシンの製作方法、改良点と問題点についてレポートを提出します。

ライントレース・マシンの製作には、マシンの土台の作製とユニバーサル基板上への回路の作製があります。

（出典　電気電子情報工学実験Ⅲ 指導書）

観点５－３－①：　成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され，学生に周知されているか。また，これらの規定に従って，成績評価，単位認定，進級認定，卒業認定が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

認定に関する規定が策定され，それが明記されている学生便覧を，入学時に全学生に配付している。これを，多様な機会を通じて学生に周知している。さらに，「教務に関する申合事項集」に記載し，必要に応じて学生に説明を行っている。成績評価は，シラバスに記載している［評価方法］に沿って行われている。年度末（３月）に開催される教員会議において審議の上，進級・卒業の認定が行われる。

（分析結果とその根拠理由）

進級・卒業規定が策定されており，きめ細かく指導・周知を行うことのできる体制が整っている。成績評価については，シラバスに評価基準が明記されており，成績評価・認定が適切に実施されている。

（資料５－３－①－１）

「進級および卒業の認定に関する事項」

第7　進級及び卒業の認定に関する事項

1　福井工業高等専門学校成績考査・成績評価並びに進級及び卒業の認定に関する規則（昭和41年規則第4号。この事項において「規則」という。）第10条及び第12条第2項の規定の解釈について　（平成8．9．19）

第10条　成績評定が不可の科目及び欠課時数が年間授業総時数（※1）の3分の1を超える科目は，不合格とする。

2　特別活動の欠課時数が年間総時数（※2）の3分の1を超える場合は，不合格とする。

（1）　※1の解釈

「年間授業総時数」とは，各科目の実際に実施した授業時数ではなく，30週（前期15週，後期15週）授業を行ったものとして算出した時数とする。

（2）　※2の解釈

上記（1）の解釈を準用する。　（平成8．9．19）

《参考》

第12条　略

2　次の各号の一に該当する者は，原則として進級及び卒業を認めない。

（1）福井工業高等専門学校学則別表第1及び第2並びに福井工業高等専門学校学則の一部を改正する学則附則第2項の取扱規則第2条に規定する学年別履修単位数に満たない者

（2）福井工業高等専門学校学則別表第3に規定する特別活動が不合格である者

2　規則の運用について

進級に関し，規則第12条第2項の規定にかかわらず次のとおり取扱うものとする。　（平成14．10．24）

（1）　進級の認定基準

ア　規則第12条第2項第1号に定める学年別修得単位数に満たない者のうち

(ア)　不合格科目が3科目以上ある者は，原級留置とする。

(イ)　不合格科目が2科目以内の者で，それらの点数が全て50点以上の場合は審議の上仮進級とする。

(ウ)　不合格科目が2科目以内の者で，その中に49点以下の科目がある者については，審議の上仮進級又は，原級留置のいずれかとする。

《運用説明》

(1)ア(ウ)に該当する場合は，教官会議で審議をして仮進級か原級留置かを決定する。教官会議に先立って教務委員会において原案が作成される。49点以下の成績を提出した担当教官は教務委員会において学生への成績評価と指導状況等の説明が求められる。

（出典　教務に関する申合事項集）

（資料５－３－①－２）

「進級認定資料（学籍番号，Ｎｏ氏名欄は消去）」

学科名	学籍番号	学年	NO	氏名	前学年 学科名			現学年 必修科目												特別活動	認定
					不合格科目	評点	単位	不合格科目	評点	単位	不合格科目	評点	単位	不合格科目	評点	単位	不合格科目	評点	単位		
機械工学科		3						材料力学Ⅰ	50	2										合格	仮進級
機械工学科		3						国語	55	2										合格	仮進級
機械工学科		3						国語	47	2	材料力学Ⅰ	50	2	流れ学Ⅰ	25	1				合格	原級留置
機械工学科		3						材料力学Ⅰ	58	2										合格	仮進級
電気工学科		3						計測工学Ⅰ	55	2										合格	仮進級
電気工学科		3						計測工学Ⅰ	56	2										合格	仮進級
電気工学科		3			物理	50	3	解析Ⅱ	55	3	計測工学Ⅰ	58	2	電子工学Ⅰ	54	2	電気電子情報工学実験Ⅲ	45	4	合格	原級留置
電気工学科		3			物理	50	3	計測工学Ⅰ	50	2										合格	仮進級
電子情報工学科		3						ｵﾍﾟﾚｰﾃｨﾝｸﾞｼｽﾃﾑ	54	2										合格	仮進級
電子情報工学科		3						電気磁気学Ⅰ	54	2										合格	仮進級
電子情報工学科		3						工学基礎物理Ⅰ	52	2	電気磁気学Ⅰ	50	2	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ応用	52	2	計算機構成論Ⅰ	53	2	合格	原級留置
								ｵﾍﾟﾚｰﾃｨﾝｸﾞｼｽﾃﾑ	50	2											
電子情報工学科		3						工学基礎物理Ⅰ	55	2	電気磁気学Ⅰ	50	2							合格	仮進級
電子情報工学科		3						工学基礎物理Ⅰ	57	2	電気磁気学Ⅰ	53	2							合格	仮進級
電子情報工学科		3						電気磁気学Ⅰ	56	2										合格	仮進級
電子情報工学科		3						電気磁気学Ⅰ	55	2										合格	仮進級
電子情報工学科		3						工学基礎物理Ⅰ	54	2	ｵﾍﾟﾚｰﾃｨﾝｸﾞｼｽﾃﾑ	57	2							合格	仮進級
電子情報工学科		3						工学基礎物理Ⅰ	55	2										合格	仮進級
物質工学科		3						分析化学Ⅱ	50	2										合格	仮進級
物質工学科		3						国語	超	2	政治経済	15	2	解析Ⅱ	超	3	保健体育	超	2	不合格	原級留置
								英語Ⅲ	超	4	数理統計学	超	2	分析化学Ⅱ	3	2	無機化学Ⅱ	超	2		
								有機化学Ⅱ	超	2	物理化学Ⅰ	5	2	化学工学Ⅰ	超	2	生物化学Ⅰ	超	2		
								物質工学実験Ⅱ	超	5											
物質工学科		3			有機化学Ⅰ	50	2	解析Ⅱ	12	3	分析化学Ⅱ	19	2	無機化学Ⅱ	50	2	物質工学実験Ⅱ	29	5	合格	原級留置
物質工学科		3						分析化学Ⅱ	51	2	有機化学Ⅱ	58	2							合格	仮進級
物質工学科		3						化学工学Ⅰ	50	2										合格	仮進級
環境都市工学科		3			物理	52	3	政治経済	35	2	解析Ⅱ	25	3	英語Ⅲ	26	4	数理統計学	超	2	合格	原級留置
								工学基礎物理	22	3	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ図学	超	2	構造力学Ⅰ	3	4	水理学Ⅰ	29	3		
								地盤工学Ⅰ	超	2	環境都市計画論	25	2	都市工学実験実習Ⅲ	40	3					
環境都市工学科		3						環境都市計画論	55	2										合格	仮進級

3/4

（出典　学生課教務係）

（資料５－３－①－４）

「卒業認定資料（学籍番号，Ｎｏ．，氏名欄は消去済み）」

学科名〔電気工学科〕

学籍番号	NO	氏名	第1学年～第4学年 必須科目修得単位	第1学年～第4学年 選択科目修得単位	第5学年 必須科目修得単位	第5学年 選択科目修得単位	修得単位合計	認定
			137		24	9	170	
			137		24	9	170	
			137		24	8	169	
		*	35		24	8	67	
			137		24	9	170	
			137		24	8	169	
			137		24	8	169	
			137		24	7	168	
			137		24	7	168	
			137		24	8	169	
			137		24	9	170	
			137		24	7	168	
			137		24	9	170	
			137		24	8	169	
			137		24	9	170	
			137		24	8	169	
			137		24	9	170	
			137		24	8	169	
			137		24	8	169	
			137		24	7	168	
			137		24	8	169	
			137		24	10	171	
			137		24	8	169	
			137		24	9	170	
			137		24	7	168	
			137		24	8	169	
			137		24	7	168	
			137		24	8	169	
			137		24	10	171	
			137		24	8	169	
			137		24	9	170	
			137		24	8	169	
			137		24	7	168	
			137		24	7	168	
		*	35		24	7	66	
			137		24	8	169	
			137		24	7	168	
			137		24	7	168	
			137		24	10	171	
			137		24	10	171	

注：氏名欄の＊印は編入学生を、◇印は外国人留学生を示す。

（出典　学生課教務係）

観点５－４－①：　教育課程の編成において，特別活動の実施など人間の素養の涵養がなされるよう配慮されているか。

（観点に係る状況）

１年～３年までは，週１回（50分）の特別活動の時間があり，学生と教員の膝を交えての懇談やアドバイス，あるいは文化講演やスポーツなどを実施している。また，各学年での行事として，１年生の１泊２日のオリエンテーション，１～４年生の遠足，２年生の校外研修，３年生の工場見学旅行等が行われ，人間としての素養の涵養がなされるように配慮されている。

（分析結果とその根拠理由）

学年毎に，適切な時期に適切な行事をバランスよく配置し，学生が年間を通じて学校生活を快適に，しかし緊張感を持って過ごせるように考慮されている。各種のＦＤ活動により教員の資質向上を図り，特別活動のより有効な活用を図っている。

（資料５－４－①－１）

「特別活動計画表（平成１６年度後期）」

平成１６年度後期特別活動計画表

月日＼学級	1M	1E	1EI	1C	1B	2M	2E	2EI	2C	2B	3M	3E	3EI	3C	3B	備考
	中村	柳原	荻野	井之上	壬生	長永	瀬川	森	前田	北浦	村中	荒川	斉藤	加藤敏	阿部	
10月6日	高専祭準備	役員・係選出	保護者懇談会について	高専祭について	後期の心構え	後期役員高専祭	後期役員・係決め	高専祭の話	高専祭準備	高専祭の分担	役員選出	先輩講座・役員選出	後期役員の決定	役員選出	見学旅行について	
10月13日	休　業（保護者懇談会）															
10月20日	高専祭まとめ	(スポーツ)	特別講演会	連絡・掃除	席替え・etc	後期に向けて	国際交流会	ビデオ鑑賞(1)	前期成績について(個人指導)	高専祭の報告	見学旅行準備	見学旅行について(1)	自主研修旅行予定決め	見学旅行について	神戸市に関する学習	2E：大講義室
10月27日	特別講演（性教育）：大講義室					五年生の話	(スポーツ)	ビデオ鑑賞(2)	前期成績について(個人指導)	JABEEについて	見学旅行準備	見学旅行について(2)	旅行のしおり作り	コース分けについて	神戸市に関する学習	1年生特別講演会：大講義室
11月3日	祝　日（文化の日）															
11月5日	外回り掃除	ビデオ鑑賞	担任の話	連絡・掃除	個人面談	発表④	校外研修について	校外研修について	校外研修について	担任の話	担任の話	見学旅行について(3)	見学旅行の注意	見学旅行について	旅行のしおりについて	
11月10日	ビデオ鑑賞	よのなか学習1	(スポーツ)	学科主任の話	個人面談	校外研修					見学旅行					1M：合併教室
11月17日	担任の話	スポーツ	個人面談	(スポーツ)	個人面談	専攻科生の話	校外研修を終えて	室内ゲーム	校内美化活動	校外研修の作文	特別講演（交通講話）：視聴覚ホール					3年生特別講演会：視聴覚ホール
11月24日	特許に関する講演会	学科講演会	個人面談	専攻科主任の話	(スポーツ)	読書と発表⑤	うで相撲大会	図書館利用	留学生との交流会	自分の将来	専攻科長の話	M科と合同講演会	見学旅行の感想文	見学旅行の反省	質問をしよう	3E：大講義室
12月1日	担任の話	試験の注意	試験について	中間テストについて	試験準備	中間試験に向けて	中間試験に向けて	中間テストにむけて	中間試験準備	テストの対策	進路アンケート	試験対策，諸注意	試験前の注意	中間試験に向けて	中間試験に向けて	
12月8日	中　間　試　験															
12月15日	席替え	冬休みの注意	冬休みについて	冬休みについて	試験の反省，etc	特別講演（喫煙）：大講義室					(スポーツ)	試験を終えて，冬休み注意	進路アンケート・指導	進路について	2004年を振り返る	2年生特別講演会：大講義室
1月12日	担任の話	新年を迎えて	今年の目標	連絡・掃除	冬休みを振り返って	ビデオ鑑賞	指相撲大会	新年の抱負を言い合う会	進路について	今年の抱負	先輩講座	(スポーツ)	個人面談	コース分けについて	新年を迎えての決意	2M：合併教室
1月19日	かるた大会(2Mと合同)	よのなか学習2	担任の話	読書	担任の話etc	1Mと合同新春かるた	ビデオ鑑賞	ビデオ鑑賞(3)	文集作り	資格試験について	進路について	担任の話	個人面談	専攻科長の話	専攻科長の話	1M，2M：心托館 3C，3B：視聴覚ホール
1月26日	担任の話	適職発見ゲーム	担任の話	ビデオ鑑賞	席替え・etc	読書と発表⑥	ビデオ鑑賞	ビデオ鑑賞(4)	文集作り	個人面談	自動車通学について	専攻科長の話	専攻科説明会	(スポーツ)	進路の話	3E，3EI：視聴覚ホール
2月2日	ビデオ鑑賞	よのなか学習3	担任の話	ビデオ鑑賞	生活調査	読書と発表⑦	講話会	節分まがいの行事	文集作り	個人面談2	担任の話	ビデオ鑑賞	OBの話	進路について	(スポーツ)	1M：合併教室 3E：視聴覚ホール
2月9日	担任の話	試験の注意	試験について	期末テストについて	試験準備	期末試験に向けて	期末試験に向けて	(スポーツ)	期末試験準備	(スポーツ)	試験対策	試験対策，諸注意	試験前の注意	期末試験にむけて	期末試験に向けて	
2月16日	期　末　試　験															
2月23日	期　末　試　験															
3月2日	学年のまとめ	一年間の反省	二年生へ	一年のまとめ	試験の反省	二年を終えて	一年間を振り返って	一年間を振り返って	(スポーツ)	最後の担任の話	新学年へ向けて	四年生へ向けて	進路指導	春休みに向けて	1年を振り返って	
3月9日	特　別　学　習															

1. 合併教室，大講義室を使用する際は，鍵（合併教室入り口，大講義室教卓下）を進路指導室まで取りに来てください。
2. スポーツ用具（バドミントン，ソフトバレー，バスケットボール，ソフトボール，サッカー，バレーボール，ハンドボール）は教務係にありますので申し出てください。

（出典　学生課教務係）

（資料５－４－①－２）

「年間行事予定表（平成１６年度）」

12	月	
13	火	
14	水	新入生オリエンテーション合宿研修(国立若狭湾少年自然の家)
15	木	新入生オリエンテーション合宿研修(国立若狭湾少年自然の家)
16	金	
17	土	
18	日	
19	月	
20	火	午前休講　新入生歓迎会　クラブ紹介
21	水	
22	木	学生総会（14:40～）
23	金	
24	土	開校記念日
25	日	
26	月	
27	火	
28	水	
29	木	みどりの日
30	金	遠足(1～4年)　交流会(5年, 専攻科)
[illegible]		

6	土	
7	日	ロボコン2004東海北陸地区大会：鈴鹿
8	月	３年見学旅行
9	火	３年見学旅行
10	水	３年見学旅行　２年校外研修
11	木	３年見学旅行
12	金	３年見学旅行
13	土	
14	日	

（出典　青武台だより（学校便り）No. 165）

（資料５－４－①－３）

「新入生オリエンテーション合宿研修のしおり」

平成１５年度

新入生オリエンテーション合宿研修

期日　平成１５年４月１０日（木）～１１日（金）

場所　国立若狭湾少年自然の家

福井工業高等専門学校

（出典　学生課学生係）

（資料５－４－①－４）
「新入生オリエンテーション合宿研修要項（しおりより抜粋）」

平成１５年度　新入生オリエンテーション合宿研修

1．目　的　新入生に高専における学習と生活を紹介し、新しい環境への適応をはかるとともに、緑と海に囲まれた自然の中で集団生活を経験し、学生間相互、教職員との親睦を深めることを目的とする。

2．期　日　平成１５年４月１０日（木）・４月１１日（金）　１泊２日

3．場　所　国立若狭湾少年自然の家　福井県小浜市田烏区大浜
（Tel　０７７０－５４－３１００）

4．対　象　学　生　１年生　２００名　内訳　機械工学科　４０名（内女子　０名）
電気工学科　４０名（内女子　１名）
電子情報工学科　４０名（内女子１１名）
物質工学科　４０名（内女子１４名）
環境都市工学科　４１名（内女子　８名）

5．引率者　教職員　校長　教務主事　学生主事　学生相談室長　電気工学科主任
電子情報工学科主任　物質工学科主任　環境都市工学科主任
環境都市工学科教官　学生主事補（６名）　学級担任（５名）
学生課長　学生係長　学生係員　看護師
計２４名

6．日　程　別紙１のとおり

7．輸　送　借り上げバス（５台）　官用車（２台）

8．係分担　(1) 総務係、記録係、体育係　・・・・・・各科１名
(2) 室　長、食事係、清掃係　・・・・・・各室１名
(3) 生活係　・・・・・・各室２名
(4) つどい係　・・・・・・５学科で６名

詳細は別紙２のとおり

9．服　装　制服、運動靴

10．携行品　(1) 学生便覧、シラバス、筆記用具（ノート、鉛筆、消しゴム等）
(2) 運動靴（内ばき用）
(3) 体操服
(4) 着替え用下着類、寝間着等
(5) 洗面用具（タオル・石けん等）
(6) 「健康保険証」の写
(7) 水筒（500mlペットボトルでも可）

11．名　札　期間中各自の胸に名札を付ける
機械工学科（M）：桃、電気工学科（E）：青、電子情報工学科（EI）：緑、
物質工学科（C）：白、環境都市工学科（B）：黄、教職員：白

12．部屋割　別紙３のとおり

13．経　費　学生負担額　M,EI科　1,４００円　E,C,B科　1，７００円
（後日、学級担任を通じて集金）

（出典　学生課学生係）

（資料５－４－①－５）
「新入生オリエンテーション合宿研修日程表（「しおり」より抜粋）」

別紙１

平成１５年度新入生オリエンテーション合宿研修日程表

［４月１０日（木）］

時刻	事　項	内　容	備　考
8:15	学校玄関前集合 出欠調査	学科別に乗車 バス（５台）	学級担任
8:30	本校出発		
	バス乗車中	担任紹介、合宿の説明、担当係 部屋割り、ﾍﾞｯﾄﾞﾒｰｷﾝｸﾞ説明 他	
10:45	自然の家到着		
11:00	始まりの式（玄関前）	1. 校長挨拶 2. 自然の家入所説明 3. 学生代表挨拶	進行：戸島教官 自然の家職員 EI科１名
11:30	各宿泊室へ移動	荷物の整理、シーツ・ゴミ袋受取 ベッドメーキング	指導：岡田・荒川・高久教官 生活係（リネン室）
12:30	昼食	部屋単位	指導：高久・杉森教官 食事係
13:10 14:00	写真撮影（学科別） 校長の講話 教務主事の話 学生相談室長の話 （プレイホール）		進行：戸島教官
14:50 16:00	各学科の学習紹介 （M科：研修室１） （E科：ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ室） （EI科：研修室２） （C科：研修室３） （B科：ﾌﾟﾚｲﾎｰﾙ） ホームルーム	学科別（各学科で構成） （学生便覧、シラバス持参） 学科別（各担任で構成） 授業、学生生活など	学生主事 電気工学科主任 電子情報工学科主任 物質工学科主任 環境都市工学科主任 学生主事補 学級担任
17:15	夕食	部屋単位	食事係
18:00	入浴（希望者）		
19:30	ホームルーム 午後の続き	学科別（各担任で構成） レクレーションなど	学級担任 学生主事補
20:30	校歌練習 （プレイホール）		指導：荒川教官
21:30 22:00	就寝準備 消灯・就寝	人員点呼、健康確認等	学級担任

（出典　学生課学生係）

（資料５－４－①－６）
「遠足・交流会の実施通知」

平成１６年 4月 26日

クラス担任・同補佐　各位

教 務 主 事

平成１６年度遠足・交流会の実施について（通知）

このことについて、下記のとおり実施しますので遺漏のないようにお願いします。
また、学生への周知につきましてもよろしくお願いします。

記

1．実施期日　　４月３０日（金）（雨天決行）
計画どおりの実施が困難と思われる場合は、行程を適宜変更して事故のないように充分配慮いただきますようお願いします。

2．行 程 等　　クラス別行程、引率及び付添教官は、別紙「平成１６年度遠足・交流会行程表」のとおり。

3．出欠について　出席簿へ欠席者の記入をしてください。

4．そ の 他　　① 合流場所・時間等について、各クラス充分打ち合わせてください。
② 救急鞄を必要とする場合は、４月２８日（水）にお渡ししますので教務係に、前もってお知らせください。
③ 解散後直ちに学生課教務係（Tel ０７７８－６２－１１１８）へ連絡してください。

（出典　学生課学生係）

（資料５－４－①－７）
「遠足・交流会行程表（平成１６年度）」

平成１６年度遠足・交流会行程表

クラス	行き先	行程	引率教官 付添教官	集合場所 集合時間
1M	金沢市中央公園	JR 福井駅→→JR 金沢駅‥‥石川県立歴史博物館 8:30　9:51　10:30/11:50 金沢市中央公園 ‥‥ JR 金沢駅→→JR 福井駅 12:10/14:10　15:22　16:40（解散）	中村吉秀 阪口健一	JR 福井駅 西口改札前 ８：１５
1E	福井県立美術館 福井県立歴史博物館	JR 福井駅‥‥‥ 福井県立歴史博物館 ‥‥ 10:00　11:00/13:00 福井県立美術館‥‥JR 福井駅（解散） 13:20/14:30　15:30	柳原祐治 大久保茂	JR 福井駅 １０：００
1EI	一乗谷朝倉氏遺跡 一乗滝	JR 福井駅 →→→ JR 一乗谷駅‥‥朝倉氏遺跡（遺 9:02　9:20 遺内各地・復元式家屋敷）‥‥ 一乗滝 ‥‥ 朝倉氏 遺跡資料館‥‥ JR 一乗谷駅→→→JR 福井駅 15:41　15:58（解散）	荻野繁春 高久有一 前川公男 蘆田昇	JR 福井駅 ８：４５
1C	福井県立美術館 福井県立歴史博物館	JR 福井駅‥‥‥ 福井県立歴史博物館 ‥‥ 10:00　11:00/13:00 福井県立美術館‥‥JR 福井駅（解散） 13:20/14:30　15:30	井之上和代 松井修一 平井惠子	JR 福井駅 １０：００
1B	福井総合植物園 プラントピア	福武線神明駅‥‥‥福井総合植物園ﾌﾟﾗﾝﾄﾋﾟｱ （10:00 集合）　（11:30 着）（14:00 出発） ‥‥‥‥‥福武線神明駅 （15:30 着・解散）	壬生正博 田安正茂	福武線神明駅 １０：００
2M	金沢	JR 鯖江駅→→→JR 福井駅→→→JR 金沢駅‥‥ 8:13　8:30　9:51 ‥‥金沢蓄音器館‥‥香林坊‥‥JR 金沢駅→→→ 15:00 集合 15:22 JR 福井駅→→→JR 鯖江駅 17:01	長水壽寛 芳賀正和	JR 鯖江駅 ８：００
2E	一乗滝	JR 福井駅 →→→ JR 一乗谷駅‥‥ 一乗滝 ‥‥ 9:02　9:20　10:30/14:30 ‥‥ JR 一乗谷駅→→→JR 福井駅 15:41　15:58	瀬川直美 米田知晃	JR 福井駅 ８：４０
2EI	金沢市中央公園	JR 福井駅→→JR 金沢駅‥‥金沢市中央公園 9:15　10:41　11:10/14:30 （兼六園，金沢城址公園他）‥‥JR 金沢駅→→→ 15:06 JR 福井駅 16:31（解散）	森貞 野村保之	JR 福井駅 ８：５０
2C	一乗滝	JR 福井駅 →→→ JR 一乗谷駅‥‥ 一乗滝 ‥‥ 9:02　9:20　10:30/14:30 ‥‥ JR 一乗谷駅→→→JR 福井駅 15:41　15:58	前田安信 松井栄樹 山本裕之	JR 福井駅 ８：４０
2B	南条町ﾚｲﾝﾎﾞｰﾊﾟｰｸ	JR 南条駅‥‥レインボーパーク南条‥‥JR 南条駅 10:43　11:00/14:00　14:26 解散 （ﾚｸﾘｰｼｮﾝ＋ﾊﾞｰﾍﾞｷｭｰ）	北浦守 辻子裕二 西野良生 吉田雅穂	JR 南条駅 １０：４３

ＪＲ →→→　　私鉄 ＊＊＊　　バス ——　　自転車 ☆☆☆　　徒歩 ・・・
船 ////////
注）行程中出発地は、鯖江市です。

（出典　学生課教務係）

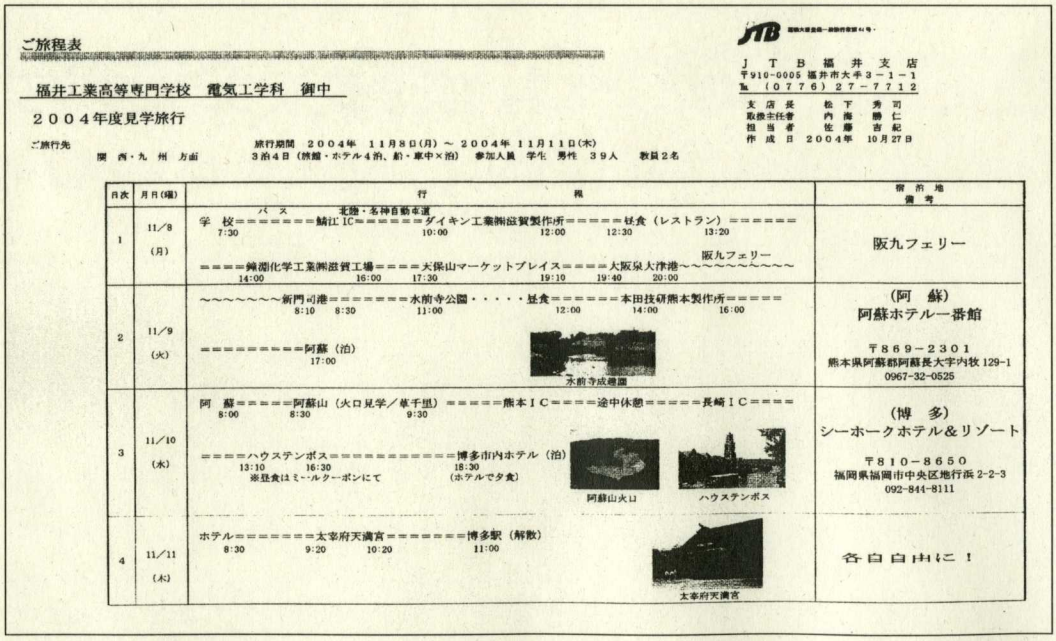
（資料５－４－①－８）

「工場見学旅行のしおり」

（出典　学生課教務係）

（資料５－４－①－９）

「工場見学旅行旅程表（しおりより抜粋）」



ご旅程表

福井工業高等専門学校　電気工学科　御中

２００４年度見学旅行

ご旅行先　関西・九州方面

旅行期間　２００４年　１１月８日(月)～２００４年　１１月１１日(木)
３泊４日（旅館・ホテル４泊、船・車中×泊）　参加人員　学生　男性　３９人　教員２名

JTB
JTB福井支店
〒910-0005 福井市大手３－１－１
℡（０７７６）２７－７７１２
支店長　松下秀司
取扱主任者　内海勝仁
担当者　佐藤吉紀
作成日　２００４年　１０月２７日

日次	月日(曜)	行程	宿泊地 備考
1	11／8 (月)	学校＝＝＝＝＝＝バス＝＝＝＝＝＝鯖江IC＝＝＝＝＝＝北陸・名神自動車道＝＝＝＝＝＝ダイキン工業㈱滋賀製作所＝＝＝＝＝＝昼食（レストラン）＝＝＝＝＝＝ 7:30 10:00 12:00 12:30 13:20 ＝＝＝＝錦湖化学工業㈱滋賀工場＝＝＝＝大保山マーケットプレイス＝＝＝＝大阪泉大津港～～～～～～～～～～ 14:00 16:00 17:30 19:10 19:40 20:00 阪九フェリー	阪九フェリー
2	11／9 (火)	～～～～～～～新門司港＝＝＝＝＝＝＝水前寺公園・・・・・昼食＝＝＝＝＝＝本田技研熊本製作所＝＝＝＝＝ 8:10 8:30 11:00 12:00 14:00 16:00 ＝＝＝＝＝＝＝＝＝阿蘇（泊） 17:00 水前寺成趣園	（阿　蘇） 阿蘇ホテル一番館 〒８６９－２３０１ 熊本県阿蘇郡阿蘇長大字内牧 129-1 0967-32-0525
3	11／10 (水)	阿　蘇＝＝＝＝＝阿蘇山（火口見学／草千里）＝＝＝＝＝熊本ＩＣ＝＝＝＝途中休憩＝＝＝＝＝長崎ＩＣ＝＝＝＝ 8:00 8:30 9:30 ＝＝＝＝ハウステンボス＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝博多市内ホテル（泊） 13:10 16:30 18:30 ※昼食はミールクーポンにて　（ホテルで夕食） 阿蘇山火口　 ハウステンボス	（博　多） シーホークホテル＆リゾート 〒８１０－８６５０ 福岡県福岡市中央区地行浜 2-2-3 092-844-8111
4	11／11 (木)	ホテル＝＝＝＝＝＝太宰府天満宮＝＝＝＝＝＝博多駅（解散） 8:30 9:20 10:20 11:00 太宰府天満宮	各自自由に！

（出典　学生課教務係）

（資料５－４－①－１０）
「工場見学旅行に関する記事」

工場見学旅行

工場見学旅行を終えて

物質工学科３年　林　　達　也

３年の11月に工場見学旅行がありました。ここでは，工場見学について書きます。

最初に僕たちが行ったのは，京都ヤクルト工場でした。ここでは，ヤクルトの原料の製造をしており，その過程を見学しました。そこで一番印象に残っているのがヤクルトの空容器でした。消費者から回収した空容器をネットで束ねて廃液の浄化に利用している事でした。物は見方でいろいろな物に化けるんだと思いました。

京都サントリー工場では，ビールの製造過程を見学しました。ここでも，様々な工夫が見られました。例えば，天井を斜めにして露がポタポタと落ちないようにしていました。工場を建てる前に，こうした構想がされていたのはすごいと思いました。

工場見学を終えて，自分達の勉強していることが，どういった場合で活躍するのかが見えてきました。自分達が何になりたいのかよく考えて構想していくための良い材料になったと思います。

見学旅行

環境都市工学科３年　松　田　つかさ

「見学旅行また行きたいねー。」私が１・２年の頃先輩からよくそういった会話を耳にしていた。現地解散の旅行なんて，最初はありえないと思っていたが，高専で生活していくに従って，そういう旅行があってもおかしくはないと感じていた。なぜなら年齢は同じだとしても高専生は普通の高校生より自立していると言えるからである。それは学校の雰囲気から感じていることだが，こういった旅行が出来たことを本当にうれしく感じている。（今まで見たこともない風景が見たい。）そう思っていた私は京都にも寄ることにした。本当に“感動”という言葉しか出てこないくらい，趣と壮大さが感じられる場所だった。

６日間の旅行は，本当に長くて初めは早く帰りたいと思うくらいだったけど，旅行が終わるに従って，「早かったねー。」という言葉が自然に出ていた。ただ“旅行”というだけじゃなく，私は，本当に今までにない経験をすることが出来，自分にも自信をつけることができた。こういった形の旅行をこれから旅行する後輩も続けていけるよう，高専生という誇りを保っていきたいと思う。

（出典　青武台だより（学校便り）No. 165）

（資料５－４－①－１１）

「ＦＤ活動一覧（平成１６年度）」

平成１６年度 ＦＤ活動計画一覧表

【全教職員または広範囲の教職員を対象とするもの】

名　　称	実施日	担当部署等	備　　考
非常勤講師の先生方との懇談会	４月１３日	教務主事（学生課）	
学生指導担当職員研修会（Ⅰ）	７月２２日	学生主事・寮務主事（学生課）	メンタルヘルス・生活指導関連、学生相談室関連、学生寮関連
学生指導担当職員研修会（Ⅱ）	７月２８日	学生主事（学生課）	課外活動の安全管理関連
「技術士制度について」の講演会	６月２４日	ＪＡＢＥＥ委員会（庶務課）	
ＪＡＢＥＥ自己点検書説明会	１０月２１日	〃	
ＪＡＢＥＥ特別講演会	１０月５日	〃	
職員のためのセクシュアル・ハラスメント防止に関する講演会	１２月９日	庶 務 課	
労働安全衛生に関する講演会	１１月１８日	〃	演題 「労働安全衛生の確保について」 講師 (社)日本労働安全衛生ｺﾝｻﾙﾀﾝﾄ会 福井支部　小林 眞次
校長裁量経費にかかる報告会（前年度分）	９月１６日	会 計 課	
教員の授業達成度評価	１０月，３月	教育改善委員会（学生課）	
公開授業	１０月６日	〃	10/6「自動制御」　井上 清一 機械工学科５年クラス
	１０月６日		10/6「電子回路Ⅱ」　前川 公男 電子情報工学科５年クラス
	１０月１２日		10/12「構造力学Ⅰ」　前島 正彦 環境都市工学科３年クラス
	１０月２５日		10/25「生物化学Ⅰ」　杉森 大助 物質工学科３年クラス
	１０月２６日		10/26「ｺﾝｸﾘｰﾄ構造学」阿部 孝弘 環境都市工学科４年クラス
	１１月１５日		11/15「情報処理ｼｽﾃﾑ論Ⅰ」原田 望 電気工学科３年クラス
	１２月１７日		12/17「電気回路Ⅰ」　新谷 邦弘 電気工学科２年クラス
	１月２１日		1/21「基礎解析」　坪川 武弘 電子情報工学科１年クラス
	１月２７日		1/27「国語」　中村吉秀 機械工学科３年クラス
ＪＯＩＮＴ　ＦＯＲＵＭ	６月１１日	先進技術教育研究センター	機械学会北陸信越支部共催（鯖江シティーホテル）
第14回福井高専共同研究発表会	１２月３日	〃	（福井商工会議所）

2

科学研究費補助金制度説明会	１０月８日	庶 務 課	説明者：専門職員（企画調査担当）
特許講習会	９月３０日	庶 務 課	講師：先進技術教育研究センター長、教育研究支援センター長
北信越工学教育協会 第３回ＦＤ講演会 （福井大学工学部ＦＤ委員会）	平成１７年１月２１日	庶 務 課	高知工科大学理事・工学部長 坂本　明雄 「高知工科大学における教員評価システム」

（出典　平成１６年度　ＦＤ活動資料集）

（資料５－４－①－１２）

「ＦＤ活動一覧（平成１６年度）」

名　　称	実施予定時期	担当部署等	備　　考
部活動支援トレーニング講習会	５月２７日	保健体育科	
理数系教員のための リフレッシュセミナー	３月２６日	数学科	（東京理科大学）
「日本数学教育学会」年会	８月４日～５日	〃	日本数学教育学会 会場：鹿児島大学 高専・大学部会
Ｔ３Japan 年会	８月１０日～１１日	〃	筑波大学附属駒場高校
北陸地区Ｔ３	６月２０日 その他２回	〃	福井高専数学科
北陸四県数学教育研究会	１０月２９日	〃	高専・大学部会（小浜市）
グラフ電卓研究会 （教材研究、教科教育法）	６月１９日	〃	（福井高専数学科）
ＳＰＰ サイエンス・パートナーシップ・ プログラム	８月２３日～２４日 ８月２５日～２６日 １０月７日～８日 １０月１５日 １１月　８日 １１月２６日 １２月４日	〃	8/23~8/24（講師参加） 東京女子大学理学部 教員研修（東京近隣高校教員） 8/25~8/26（講師参加） 愛知教育大学附属高等学校 特別授業（生徒対象）、教員研修 10/7~10/8（講師参加） 松山市済美平成中等学校 特別授業（生徒対象）、教員研修 10/15（講師参加） 水戸市水戸第三高等学校 特別授業（生徒対象）、教員研修 11/8　11/26（講師参加） 福山市盈新高等学校 特別授業（生徒対象）、教員研修 12/4 福井高専主催 数学科教員研修 （県内中・高教員）
英語教育懇話会	毎月	英語科	（福井大学）
日本物理学会（物理教育）	９月１２日～１５日	応用物理科	（青森大学）
〃	３月１４日～１７日	〃	（東京理科大学）
丹南地区高校高専教育相談連絡協議会	６月２４日 １０月２９日 １月２８日	学生相談室	世話校：鯖江高校
メンタルヘルス研究協議会	９月１５日～１６日	〃	世話校：東京工業大学
丹南地区中学高校高専教育相談連絡協議会	１１月２６日	〃	

（出典　平成１６年度　ＦＤ活動資料集）

（資料５－４－①－１３）
「学生指導関連　ＦＤ活動の記録」

平成16年度学生指導担当職員研究会・ボランティア活動報告書

Ⅰ　平成16年度学生指導担当職員研究会報告

Ⅰ－（ⅰ）安全管理関連

日　　時：平成16年7月22日（木）9：30～10：30
会　　場：福井工業高等専門学校　大講義室
内　　容：課外活動の安全管理に関する講演と意見交換
「クラブ活動における安全管理を中心とした指導について」
講師：体育主任　島田　　茂
参加人数：60名（教員54名、職員6名）

Ⅰ－（ⅱ）メンタルヘルス関連

日　　時：平成16年7月28日（水）9：30～11：40
会　　場：福井工業高等専門学校　大講義室
内　　容：学生相談室主体の講演・アンケート結果報告と意見交換
①学生相談室長の話
「教員中心の……」から「学生中心の……」へ
講師：学生相談室長　井上　清一
②メンタルヘルス関連講演
「学生の心理的問題に対する指導援助の方法」
講師：心理士　寺井　堅祐（本校カウンセラー）
③学生主事の話
「学生の生活実態とボランティアに対する意識調査報告」
講師：学生主事　安丸　尚樹
参加人数：70名（教員62名、職員8名）

Ⅰ　平成16年度学生指導担当職員研究会報告

Ⅰ－（ⅱ）メンタルヘルス関連

(1) 概要

近年、心の悩みを持つ青少年の増加が社会的に問題となっています。本校では、ファカルティ・ディベロップメントの一環として、毎年夏にメンタルヘルス関連の研究会を学生指導担当職員対象に実施して参りました。本年は下記のように学生相談室を中心とした研究会を企画いたしました。当日は、相談室長の話のあと、本校カウンセラー寺井氏による相談実例やストレスなどに関する学生のアンケート結果を含めた講演、意見交換などを行い、メンタルヘルスの諸問題について考えたほか、互いの意思疎通を深めることができました。また、12年ぶりに実施した学生の生活実態調査の報告を行い、本校学生の休日の過ごし方やインターネットの利用状況などの問題点を再確認いたしました。最後に緊急に発生した福井豪雨ボランティアの活動状況と協力依頼がなされました。

(2) 日　　時

平成16年7月28日（水）9：30～11：40

(3) 会　　場

福井工業高等専門学校　大講義室

(4) 日　　程

①学生相談室長の話　　9：30～10：00
「教員中心の……」から「学生中心の……」へ
講師：学生相談室長　井上　清一
②メンタルヘルス関連講演　　10：05～11：25
「学生の心理的問題に対する指導援助の方法」
講師：心理士　寺井　堅祐（本校カウンセラー）
③学生主事の話　　11：25～11：40
「学生の生活実態とボランティアに対する意識調査報告」
講師：学生主事　安丸　尚樹

(5) 参加人数

70名（教員62名、職員8名）

（出典　平成１６年度 学生指導担当職員研究会・ボランティア報告書）

観点５－４－②：　教育の目的に照らして，生活指導面や課外活動等において，人間の素養の涵養が図られるよう配慮されているか。

（観点に係る状況）

生活指導面における学生への支援体制については，担任制度，学生相談室制度，寮生会制度，留学生支援制度がある。また，本校における正課外教育活動として，学生会活動がある。学生会として，学生会活動や部活動（部・同好会）が行われる。具体的な正課外活動としては，体育祭（５月），弁論大会，高専祭（１０月）等が挙げられる。クラブ活動では，体育部門及び文化部門からなるさまざまな活動が行われている。ロボットコンテスト，プログラミングコンテスト等の活動も盛んに行われている。

（分析結果とその根拠理由）

学級担任，学生相談室制度によって，きめ細かな教育指導，学習支援が行われている。留学生支援制度については，指導教員及びチューターを配属し，きめ細かい対応を行っている。以上のような体制により，人間としての素養の涵養が図られるように配慮した指導を行っている。

（資料５－４－②－１）

「学生相談室の教室掲示用文書」

平成 16 年 4 月 21 日

学生相談室の利用について

学生相談室長　井上清一

学校生活で困っていることはありませんか

相談室には、下記の時間帯に相談員がいます。カウンセラーの先生は水曜日に来校してもらっています。また、会って話すのはちょっと、と言う人は電話やメールで相談する方法もあります。相談員は皆さんが生き生きとした学生生活を送るためのサポーターになりたいと思っていますので、気軽に利用してください。

相談の内容については秘密を守ります。また、あなたにとって不利益になるような扱いは決してしません。安心して相談室を訪ねてください。

［相談室の場所］

学生相談室は福利施設（食堂・保健室のある建物）の２階にあり、コーヒー・お茶も用意してあります。また、心の健康に関する本や漫画も貸し出します。

［相談員と担当日時］

学生相談室直通電話 0778−62−8213　E-mail sodan@fukui-nct.ac.jp

曜日	時間帯	担当	所属	電話番号（研究室）	E-mail
月	12:15〜13:00	井上 清一	機械工学科	0778-62-8247	inoue@fukui-nct.ac.jp
	16:15〜17:15	井上 清一	機械工学科	0778-62-8247	
火	12:15〜13:00	常光 幸美	物質工学科	0778-62-8287	jyoko@fukui-nct.ac.jp
	16:15〜17:15	常光 幸美	物質工学科	0778-62-8287	
水	12:15〜13:00	戸島 貴代志	一般科目・人文系	0778-62-8293	toshima@fukui-nct.ac.jp
	14:00〜18:00	寺井 堅祐	カウンセラー	090-2091-0607	terai@fukui-nct.ac.jp
木	12:15〜13:00	井上 清一	機械工学科	0778-62-8247	
	14:30〜16:00	平井 惠子	物質工学科	0778-62-8225	hirai@fukui-nct.ac.jp
金	12:15〜13:00	平井 惠子	物質工学科	0778-62-8225	
	16:15〜17:15	戸島 貴代志	一般科目・人文系	0778-62-8293	

＊　保健室には看護師さんがおります。相談員不在の時や、健康問題については保健室を訪ねてください。
＊　寺井堅祐先生は専門のカウンセラーで、来校日は水曜日（月２回）です。
＊　相談していないときは、自由に入室してもかまいません。
＊　また、随時研究室にて相談に応じます。

（出典　学生相談室）

（資料５－４－②－２）

「留学生名簿」

平成１６年度　留学生名簿

学籍番号	受入年度	学科・学年	氏　名	生年月日	性	区分	留学期間	国籍	指導教官	チューター	連絡先	寮室
36561	14	電子情報工学科５年	ｲｸﾌｳﾝ ｻﾄﾘｱ ﾑﾃﾞｨﾙ IKHWAN,SATRIA MUDIR	1983. 2.23	男	国費留学生	H14.4〜H17.3	ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ	藤原 正敏		090-9389-4105	106
37661	15	環境都市工学科４年	ﾀﾞﾝ ｻﾞﾝ ﾎｱﾝ DANG GIANG HOANG	1982.8.3	男	国費留学生	H15.4〜H18.3	ベトナム	田安 正茂	石川 嘉一	080-5050-7567	103
37662	15	環境都市工学科４年	ﾓﾊﾏﾄﾞ ｼｬｲﾘﾙ ﾋﾞﾝ ｱﾌﾞﾄﾞｩﾙ ﾏﾚｸ MOHD SYAIRIR BIN ABD.MALEK	1983.10.21	男	マレーシア政府派遣留学生	H15.4〜H18.3	マレーシア	廣部 英一	川口 直哉	090-8266-3919	105
38561	16	電子情報工学科３年	ｵｵﾏﾘ ﾐﾗ ｱﾔｺ OMARI MILLA AYAKO	1984.5.7	男	国費留学生	H16.4〜H19.3	ケニア	斉藤 徹	山崎 友貴	090-6124-9781	104

（出典　学生課教務係）

（資料５－４－②－３）

「体育系部活動の活動状況資料（第３９回 北陸地区高専体育大会成績一覧）」

第39回北陸地区高専体育大会成績

◎女子バレーボール　優勝　（東海北陸地区代表決定戦）
- 最優秀選手　C5 田嶋マキ
- 優秀選手　EI2 塩谷 遥

◎卓球団体　優勝　（全国高専体育大会出場）
（男子個人）
- ダブルス　3位　B3 鎌谷道人　M2 西本諭史

◎水泳総合成績　優勝
（男子）

50m自由形	優勝	M2	今井雅彦	00:27.33	
〃	3位	B5	笹島康宏	00:30.43	
100m自由形	優勝	M2	今井雅彦	00:58.75	（全国高専体育大会出場）
〃	2位	C1	清水泰光	01:02.80	（全国高専体育大会出場）
200m自由形	優勝	C1	清水泰光	02:22.84	（全国高専体育大会出場）
400m自由形	2位	EI3	平尾拓也	05:48.17	（全国高専体育大会出場）
800m自由形	優勝	E3	山崎弘道	13:23.41	（全国高専体育大会出場）
〃	3位	M3	乾 隆一	16:15.31	
100m平泳	優勝	M3	堀 朋貴	01:23.67	（全国高専体育大会出場）
200m平泳	優勝	M3	堀 朋貴	03:07.05	（全国高専体育大会出場）
〃	2位	E4	小南佑樹	03:12.89	
100mﾊﾞﾀﾌﾗｲ	3位	EI3	平尾拓也	01:11.83	
100m背泳	2位	E4	小南佑樹	01:18.29	（全国高専体育大会出場）
200m背泳	優勝	M5	油谷篤志	02:44.64	（全国高専体育大会出場）
〃	2位	B2	室井和也	03:40.58	
200m個人ﾒﾄﾞﾚｰ	2位	E3	山崎弘道	03:04.24	（全国高専体育大会出場）
400mﾘﾚｰ	優勝	EI3	平尾拓也	C1 清水泰光	（全国高専体育大会出場）
		M5	油谷篤志	M2 今井雅彦	04:07.51
400mﾒﾄﾞﾚｰﾘﾚｰ	優勝	M2	今井雅彦	E4 小南佑樹	（全国高専体育大会出場）
		M5	油谷篤志	C1 清水泰光	04:46.63

（女子）

400mﾘﾚｰ	3位	EI3	末永 円	EI3 前田 唯	
		C1	水野江里子	C1 笹島菜美子	07:21.07

◎女子ｿﾌﾄﾃﾆｽ団体（ｵｰﾌﾟﾝ競技）優勝

◎女子テニス団体（ｵｰﾌﾟﾝ競技）優勝
（女子個人）
- シングルス　優勝　B5 森 有希　（全国高専体育大会出場）
- 〃　2位　C5 高橋加奈
- ダブルス　優勝　B5 森 有希　C5 高橋加奈　（全国高専体育大会出場）

◎陸上総合成績　4位
（男子）

1500m	3位	E1	鈴木大貴	04:37.81
5000m	3位	B1	吉村 亮	18:21.48
砲丸投	3位	M3	清水祥史	12m23

◎男子バレーボール　3位
- 優秀選手　B4 小原隆紀

◎男子ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ　2位

◎女子ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ（ｵｰﾌﾟﾝ競技）3位

◎男子ｿﾌﾄﾃﾆｽ団体（ｵｰﾌﾟﾝ競技）2位

◎男子テニス団体　3位

◎野球　2位

◎サッカー　4位

◎男子バドミントン団体　4位

◎女子バドミントン団体　3位
（女子個人）
- シングルス　3位　EI1 岩見秋花
- ダブルス　2位　C1 多田育美　EI1 岩見秋花

◎男子剣道団体　2位

◎女子剣道団体（ｵｰﾌﾟﾝ競技）2位
（女子個人）
- 2位　C3 川島なお美
- 3位　EI1 石丸愛華

◎柔道団体　4位
（男子個人）
- 60Kg級　3位　B4 大坂拓也
- 73Kg級　2位　B3 西川雄太郎

◎女子柔道団体（ｵｰﾌﾟﾝ競技）2位
（女子個人）
- 52Kg超級　2位　C3 田中 歩　（全国高専大会出場）

◎ラグビー　3位

◎ハンドボール（ｵｰﾌﾟﾝ競技）3位

（出典　学生課学生係）

（資料５－４－②－４）

「部活動活動状況に関する資料（野球部，ブラスバンド部）」

福井新聞　2003年(平成15年)7月20日

全国高校野球選手権福井大会　第85回

第1日

第85回全国高校野球選手権福井大会は十九日、県営球場で開幕。初日は開会式と一回戦3試合が行われ、福井高専、美方、三国が2回戦に進んだ。第1試合は福井高専が延長の末、丸岡を8－7のサヨナラで下した。第2試合は投打に圧倒した美方が、科技を10－0の五回コールドで破った。美方の先発勝木は、五回委任ながら完全試合を達成した。第3試合は七回に4点を挙げ、逆転した三国が足羽を8－6で振り切った。開会式では、羽水の畑文隆主将が「甲子園にも負けないくらい、夢と感動を与えるショータイムにすることを誓います」と力強く選手宣誓した。また、高野連理事長の坂下直紀氏と、前美方野球部監督の時岡喜一郎氏がそれぞれ、功労者表彰と「ゴッド・オブ・ザ・コーチ」の表彰を受けた。始球式は、少年野球チーム、本田ネービーブルーズの打会一英主将（本田小6年）が務めた。第2日の二十日は、同球場で1回戦3試合が行われる。

昨日の勝敗

▼1回戦（県営）

福井高専 8－7 丸岡

美方 10－0 科技（五回）

三国 8－6 足羽

福井高専 8－7 丸岡

【丸　岡】	打	安	点
(6) 斉藤	5	0	0
(5) 中村	4	0	0
(9) 大倉	5	1	1
(7) 森信	5	0	0
(1) 田口	5	1	1
(4) 田村	4	2	2
(3) 林	3	1	1
(8) 田野	1	0	0
(2) 戸崎	0	0	0
(投) 前田	3	1	1
(捕) 小志	1	0	0
(一) 中本	0	0	0
(二) 和田	0	0	0
(三) 大森	0	0	0
(遊) 黒田	1	0	0
振	10	0	0
犠	3	0	0
失	1	1	1
残	12	4	2
併	0	0	0
四	8	0	0
死	5	0	0

【福　専】	打	安	点
(8) 桑原	5	0	0
(4) 坂本	5	0	1
(投) 藤井	5	1	1
(捕) 水谷	5	2	2
(一) 高橋	5	1	1
(二) 山田	4	1	1
(三) 田口	4	1	0
(遊) 田中	4	2	2
(左) 田口	3	0	0
(中) 田中	3	0	0
(右) 田口	3	0	0
振	7	0	0
犠	3	1	1
失	1	1	1
残	12	5	2
併	0	0	0
四	7	1	1
死	11	1	1

三国8－6足羽

【三　国】打安点

福井高専 8－7 丸岡

【福　専】

(8) 桑原　(4) 坂本　(投) 藤井　(捕) 水谷　(一) 高橋　(二) 山田　(三) 田口　(遊) 田中　(左) 田口　(中) 田中　(右) 田口

▼1回戦

丸岡 2 0 0 1 0 1 0 0 3

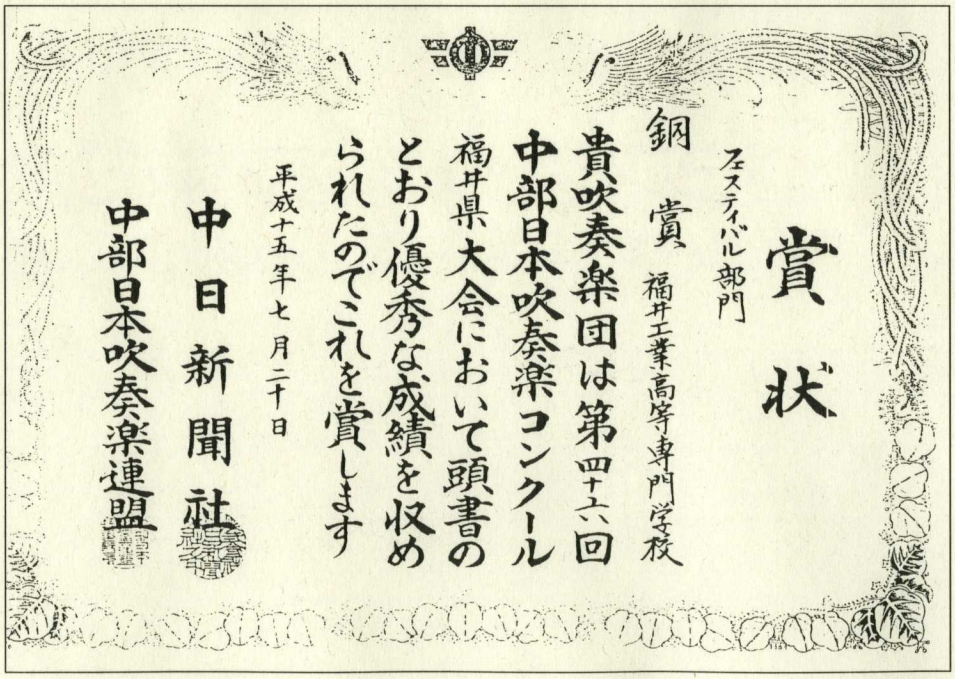
福専 0 2 0 0 1 0 3 0 1 x 8

【経過】福井高専は、一一で迎えた延長十一回、先頭の清水が中前打を放ち、すかさず盗塁。河合も中前打で続き、盗塁を決め、無死二、三塁とし、小笠原の中越え打でサヨナラ勝ちした。丸

福井高専 サヨナラ

延長 丸岡及ばず

目指せ



賞状

フェスティバル部門

銅賞　福井工業高等専門学校

貴吹奏楽団は第四十六回

中部日本吹奏楽コンクール

福井県大会において頭書の

とおり優秀な成績を収め

られたのでこれを賞します

平成十五年七月二十日

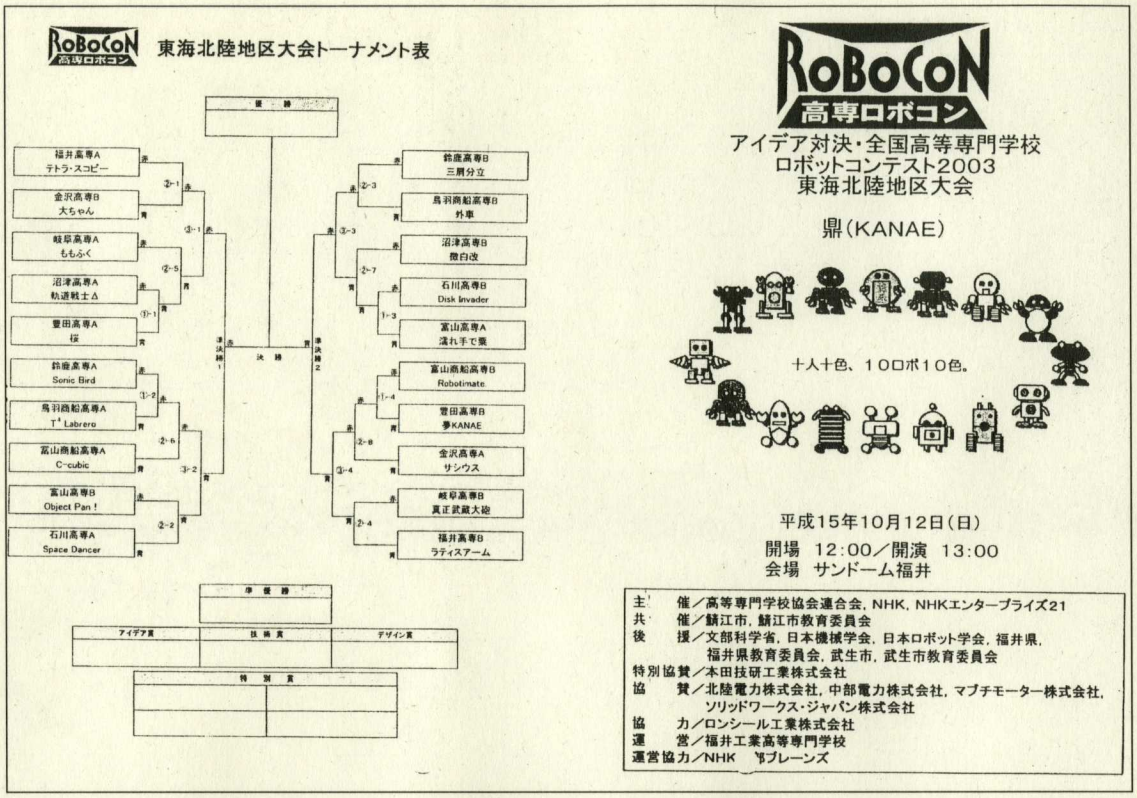
中日新聞社

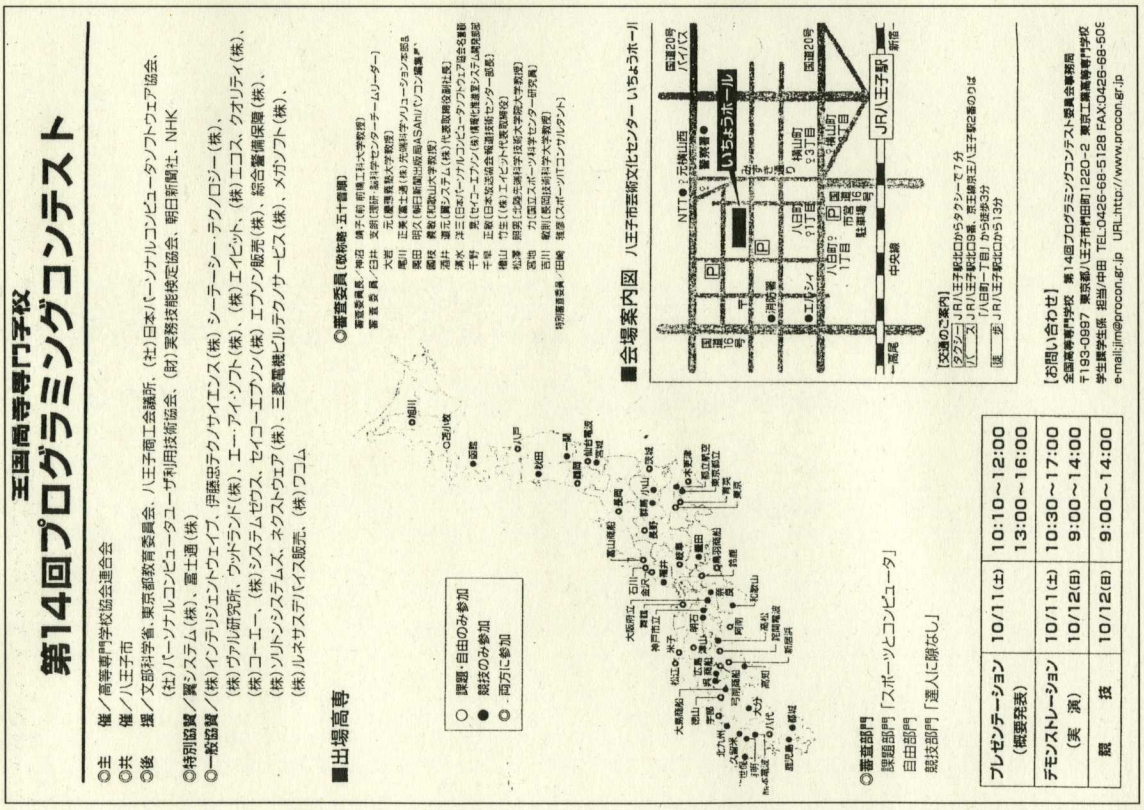
中部日本吹奏楽連盟

（出典　学生課学生係）

（資料５－４－②－５）

「学生有志の活動に関する資料（ロボットコンテスト，プログラミングコンテスト）」





（出典　学生課学生係）

６　教育の成果

（１）観点ごとの分析

観点６－１－①：　高等専門学校として，その目的に沿った形で，課程に応じて，学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力，養成する人材像等について，その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

＜準学士課程＞

（観点に係る状況）

教育上の目的を達成するために体系的なカリキュラムが編成されている。カリキュラムや卒業要件の変更等は教務委員会で審議され，教員会議で報告されている。進級については，学年毎に修得すべき単位数を修得できない場合等は原級留置（留年）となるが，教務に関する申し合せ事項による進級認定会議における審議の上仮進級が認められた場合は次年度以降の指導により合格とすることができ，卒業要件を満たしたことが卒業認定会議において承認された場合にのみ卒業が認められている。

（資料６－１－①－１）「学則（教育課程）の改正に関する教務委員会議事録（抜粋）」

議　事　録

会議の名称	教務委員会　　平成１６年度（第７回）
日　　時	平成１６年１０月１３日（水）　１６時００分～１６時３０分
出 席 者	会議構成員１５名（定員１５名）　その他の職員２名　計１７名
会　　場	会議室

議題等

１．審議事項

(1) 学則の一部改正について

委員長から資料 NO.1 に基づき説明があり、審議の結果、電気工学科選択科目「通信情報工学Ⅱ」を「情報通信工学Ⅱ」に修正して承認された。また、平成１７年度 1 年生に於いては、工学基礎コースが各学科との混合学級になるため、教科書、参考書、定期試験、シラバスを統一するよう委員長から依頼があった。

（出典　教務委員会議事録）

（資料６－１－①－２）「進級認定に関する教員会議議事要旨（抜粋）」

3月定例教員会議議事要旨

日　時　　平成１７年3月２３日（水）１３時３０分～１４時１５分

場　所　　合併教室

出席者　　議長：下條，構成員６６名（欠席１１名）計６９名

列席者　　庶務課長，学生課長，庶務係長，学生課専門員，庶務主任，教務係員

議　事

Ⅰ審議事項

１．平成１６年度進級認定について

教務主事から、資料１（当日配布）に基づき、不合格基準及び進級認定基準について説明があり、審議の結果、原案が了承された。

なお、原級留置者数及び仮進級者数は次のとおりである。

学科名	原級留置者数					仮進級者数					合計
	1年	2年	3年	4年	計	1年	2年	3年	4年	計	
機械工学科	0	1	1	4	6	1	6	3	2	12	18
電気工学科	0	0	1	1	2	3	3	3	4	13	15
電子情報工学科	0	0	1	0	1	4	8	8	9	29	30
物質工学科	0	0	2	1	3	2	2	3	3	10	12
環境都市工学科	0	0	1	3	4	4	1	1	1	7	11
合　計	0	1	6	9	16	14	20	18	19	71	87

（出典　教員会議議事要旨）

（資料６－１－①－３）「仮進級及び進級認定に関する学則の運用基準(抜粋)」

第８　仮進級者の仮進級の解除及び進級認定に関する事項

１　教務に関する申合事項「第７　進級及び卒業に関する事項」第２項（1)ア（ｱ)に定める仮進級については，次のとおり取扱うものとする。（平成 8．9.19）

（1）仮進級者の不合格科目は，適切な指導により１年未満で合格させることができる。（平成 8．9.19）

（2）（1）において，学年末成績締切日までに合格とならなかった科目は，その年度の不合格科目の一つとして算入する。（平成 8．9.19）

（3）仮進級のまま年度途中で退学願を出した者は，前年度の学年を修了したものとみなすことができる。（平成 8．9.19）

２　教務委員会で判定し，校長の決裁を経たものについては，その都度学科主任及び学級担任に通知する。（昭和55．4.17）

３　教官会議への報告は，卒業認定会議（教官会議）及び進級認定会議（教官会議）の資料をもって代える。（昭和55．4.17）

（出典　教務に関する申し合せ事項集　９頁）

（分析結果とその根拠理由）

各学科の目的に沿ったカリキュラムが編成され，進級・卒業に関し明確な基準が設けられており，適切な取り組みがなされている。

＜学士課程＞

（観点に係る状況）

各専攻の教育上の目的を達するために体系的なカリキュラムが編成されている。カリキュラムや修了要件の変更等は専攻科委員会で審議され，準学士課程同様に教員会議で報告されている。修了要件を満たしたことが修了認定会議において承認された場合にのみ修了が認められている。

（資料６－１－①－４）「専攻科修了に関する教員会議議事要旨(抜粋)」

３月臨時教員会議議事要旨

日　時　　平成１７年３月２日（水）１６時００分～１６時１５分

場　所　　合併教室

出席者　　校長，議長：森　　構成員５６名（欠席２１名）計５９名

列席者　　事務部長，庶務課長，会計課長，学生課長，学生課専門員，庶務係長，庶務主任

議　事

Ⅰ審議事項

1.平成１６年度修了認定について

専攻科長から、資料１(当日配布)に基づき、修了認定条件等および修了予定者についての説明があり、審議の結果、原案が了承された。

修了者数は次のとおりである。

生産システム工学専攻	１９名
環境システム工学専攻	１０名
合　計	１９名

（出典　教員会議議事要旨）

観点６－１－②：　各学年や卒業（修了）時などにおいて学生が身に付ける学力や資質・能力について，単位取得状況，進級の状況，卒業（修了）時の状況，資格取得の状況等から，あるいは卒業研究，卒業制作などの内容・水準から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

＜準学士課程＞

（観点に係る状況）

(1)　　科目（単位）取得率

必修科目の不合格科目数及び取得率を資料の図に示す。不合格科目数はほぼ第３学年でピークを示しているが，過去５年で比較すると減少傾向を示している。

(2)　　進級（卒業）率及び原級留置率

仮進級率，原級留置率，進級率は不合格科目の減少により，仮進級率，原級留置率共に減少傾向がみられる。

(3)　　退学率

進級及び卒業の認定に関する教務に関する申し合せ事項による原級留置や，学生からの進路変更等の希望によって年度途中や，学年末に退学する学生が現れる。退学者は（1）で述べた不合格科目数の多い第３学年でピークを示しているが，ここ数年減少傾向がみられる。なお，退学者の修了学年の認定については，進級及び卒業の認定に関する教務に関する申し合せ事項により行われている。

(4)　欠課時数

学生１人当り，１単位当たりの必修科目の欠課時数を下図に示す。欠課時数は学年進行と共に多くなっており，減少傾向はみられていない。

（資料６－１－②－１）「学年別の不合格必修科目数累計と必修科目取得率の経年変化」

学年別の不合格必修科目数累計と必修科目修得率の経年変化

年度	第１学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		全学年	
	不合格必修科目数累計	修得率	不合格必修科目数累計	修得率	不合格必修科目数累計	修得率	不合格必修科目数累計	修得率	不合格必修科目数累計	修得率	不合格必修科目数累計	修得率
平成12(2000)	15	99.5%	42	98.7%	117	96.3%	94	97.2%	31	98.3%	299	98.0%
平成13(2001)	17	99.4%	37	98.9%	116	95.5%	90	97.3%	19	98.9%	279	98.0%
平成14(2002)	15	99.5%	31	99.1%	84	97.3%	53	98.3%	15	99.9%	198	98.8%
平成15(2003)	9	99.7%	18	99.5%	68	97.4%	57	98.4%	0	100.0%	152	99.0%
平成16(2004)	17	99.5%	31	99.1%	41	98.6%	60	98.2%	0	100.0%	149	99.1%
年平均	15	99.5%	32	99.1%	85	97.0%	71	97.9%	13	99.4%	215	98.6%

（出典　学生課）

（資料６－１－②－２）「学年別の仮進級者数・原級留置者数・進級率等の経年変化」

学年別の仮進級者数・原級留置者数・進級率等の経年変化

年度	第１学年					第2学年					第3学年				
	仮進級者数	仮進級率	原級留置者数	原級留置率	進級率	仮進級者数	仮進級率	原級留置者数	原級留置率	進級率	仮進級者数	仮進級率	原級留置者数	原級留置率	進級率
平成12(2000)	11	5.3%	2	1.0%	99.0%	27	13.1%	5	2.4%	97.6%	35	16.4%	20	9.4%	90.6%
平成13(2001)	15	7.5%	0	0.0%	100.0%	21	10.1%	5	2.4%	97.6%	35	16.7%	22	10.5%	89.5%
平成14(2002)	11	5.5%	1	0.5%	99.5%	24	11.8%	2	1.0%	99.0%	26	12.3%	11	5.2%	94.8%
平成15(2003)	7	3.5%	1	0.5%	99.5%	8	4.0%	3	1.5%	98.5%	13	6.3%	12	5.9%	94.1%
平成16(2004)	14	7.0%	0	0.0%	100.0%	20	10.0%	3	1.5%	98.5%	18	9.0%	8	4.0%	96.0%
年平均	11.6	5.8%	0.8	0.4%	99.6%	20	9.8%	3.6	1.8%	98.2%	25.4	12.2%	14.6	7.0%	93.0%

年度	第4学年					第5学年					第１～４学年(合計・率は平均)				
	仮進級者数	仮進級率	原級留置者数	原級留置率	進級率	仮進級者数	仮進級率	原級留置者数	原級留置率	卒業率	仮進級者数	仮進級率	原級留置者数	原級留置率	進級率
平成12(2000)	39	19.3%	15	7.4%	92.6%	0	0.0%	1	0.5%	99.5%	112	13.5%	42	5.2%	94.8%
平成13(2001)	31	15.4%	17	8.5%	91.5%	0	0.0%	1	0.5%	99.5%	102	12.5%	44	5.5%	94.5%
平成14(2002)	23	11.9%	8	4.1%	95.9%	0	0.0%	1	0.5%	99.5%	84	10.4%	22	2.8%	97.2%
平成15(2003)	14	6.8%	11	5.3%	94.7%	0	0.0%	0	0.0%	100.0%	42	5.2%	27	3.3%	96.7%
平成16(2004)	19	9.5%	17	8.5%	91.5%	0	0.0%	0	0.0%	100.0%	71	8.9%	28	3.5%	96.5%
年平均	25.2	12.6%	13.6	6.8%	93.2%	0	0%	0.6	0.3%	100%	82.2	10.1%	32.6	4.1%	95.9%

（出典　学生課）

（資料６－１－②－３）「修了に関する規則(抜粋)」

３　原学年に留められた者の修了に関する運用について　　（昭和５５．７．１７）

（１）　原学年に留められることが決定した者が，その年度の３月３１日までに退学を願い出たときは，当該学年の修了を認めることがある。

（２）　（１）において，次の者は，当該学年の修了を認めない。

ア　第５学年である者

イ　学則別表第１及び別表第２及び取扱規則第２条に規定する必修科目及び選択必修科目並びに学年別修得単位数を満たすに必要な選択科目の学年成績のうち次の者

（平成７．３．１６）

(ｱ)　不可の科目が５科目を超える者

(ｲ)　欠課時数が年間授業総時数の３分の１を超える科目がある者

ウ　特別活動の欠課時数が，年間総時数の３分の１を超える者

（３）　（２）のイの(ｲ) 及びウに該当した者でも，やむを得ない事情がある場合は，（２）にかかわらず，教務委員会及び進級認定会議（教官会議）で審議し，当該学年の修了を認めることがある。

（出典　教務に関する申し合せ事項集　８頁）

（資料６－１－②－４）

「学年別の必修科目の学生１人当り・１単位当たりの平均欠課時数の経年変化」

学年別の必修科目の学生1人当り・1単位当たりの平均欠課時数の経年変化

年度	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	全学年
平成14 (2002)	0.42	0.82	1.07	1.18	1.8	0.96
平成15 (2003)	0.55	0.75	1.25	1.21	1.89	1.03
平成16 (2004)	0.30	0.76	0.80	1.30	2.18	0.92

1単位=90分×15回の履修

90分×1回の講義を欠席=欠課時数として2

第5学年の卒業研究は除く

（出典　学生課）

(5)　資格試験取得状況

資格試験取得状況を下図に示す。資格取得者数は年々増加している。平成１５年度には，技術士補（技術士１次試験）に環境都市工学科５年生が水道部門，電気工学科３年生が最年少で電気・電子部門，平成１６年度には環境都市工学科５年生が上下水道部門と建設部門に１名ずつ合格している。また，実用英検と工業英検は前出資料に示したように，単位の修得認定や単位振り替えを行い，取得を奨励している。

（資料６－１－②－５）　「取得した資格と取得者数の変化」

各種資格取得者数

年度	資格名	取得者数
平成12 (2000)	機械設計技術者(3級)	6名
	火薬類取扱保安責任者	1名
	電気主任技術者(3種)	1名
	デジタル工事担当者(1種)	1名
	デジタル工事担当者(3種)	1名
	デジタル技術検定(制御)	2名
	情報処理技術者(1種)	2名
	情報処理技術者(2種)	4名
	情報処理技術者(初級システムアドミニストレータ)	1名
	危険物取扱者(乙種全類)	5名
	測量士補	5名
	実用英検(準2級)	18名
	実用英検(2級)	1名
	工業英検(3級)	15名
	計	63名
平成13 (2001)	機械設計技術者(3級)	7名
	電気主任技術者(3種)	3名
	X線作業主任者	7名
	アナログデジタル工事担当者(総合種)	1名
	電気工事士(2種)	1名
	デジタル技術検定(3級)	1名
	基本情報技術者	4名
	初級システムアドミニストレータ	5名
	情報処理活用能力検定(J検)	1名
	危険物取扱者(乙種全類)	8名
	測量士	1名
	測量士補	8名
	実用英検(準2級)	8名
	実用英検(2級)	2名
	実用英検(準1級)	1名
	工業英検(3級)	21名
	計	79名
平成14 (2002)	機械設計技術者(3級)	12名
	電気主任技術者(3種)	2名
	X線作業主任者	3名
	画像情報処理(2級)	1名
	画像情報処理(3級)	1名
	CG検定(2級)	1名
	CG検定(3級)	1名
	ソフトウエア開発技術者	1名
	カラーコーディネーター検定試験(3級)	1名
	初級システムアドミニストレータ	8名
	基本情報技術者	14名
	危険物取扱者(乙種全類)	9名
	測量士	1名
	測量士補	11名
	CAD利用技術者試験(2級)	15名
	実用英検(準2級)	3名
	実用英検(1級)	1名
	工業英検(3級)	30名
	工業英検(2級)	1名
	計	116名

年度	資格名	取得者数
平成15 (2003)	初級システムアドミニストレータ	8名
	機械設計技術者(3級)	19名
	電気主任技術者(3種)	2名
	X線作業主任者	2名
	基本情報技術者	8名
	第２種放射線取扱主任者	1名
	画像情報処理(3級)	3名
	CG検定(2級)	1名
	CG検定(3級)	2名
	電気工事士(2種)	2名
	歴史能力検定(3級)	1名
	工事担当デジタル(1種)	1名
	マルチメディア検定(2級)	1名
	デジタル技術検定(2級情報部門)	1名
	MIDI検定(3級)	2名
	国内旅行業務取扱主任者	1名
	危険物取扱者(乙種全類)	9名
	CAD利用技術者試験(2級)	9名
	公害防止管理者(水質関係第一種)	1名
	技術士補(水道部門)	1名
	技術士補(電気・電子部門)	1名
	測量士補	4名
	実用英検(準2級)	16名
	実用英検(2級)	2名
	工業英検(3級)	36名
	計	134名
平成16 (2004)	機械設計技術者(3級)	30名
	CAD利用技術者試験(2級)	52名
	CAD利用技術者試験(3級)	6名
	色彩コーディネータ(2級)	1名
	色彩コーディネータ(3級)	1名
	画像処理検定(2級)	1名
	画像処理検定(3級)	1名
	CG検定(2級)	3名
	第三種電気主任技術者	3名
	ソフトウエア開発技術者	2名
	基本情報技術者	7名
	初級システムアドミニストレータ	4名
	デジタル技術検定(2級情報部門)	11名
	デジタル技術検定(2級制御部門)	6名
	デジタル技術検定(3級)	20名
	デジタル技術検定(4級)	2名
	危険物取扱者(乙種全類)	11名
	ビジネス検定(3級)	1名
	測量士	1名
	測量士補	10名
	技術士(1次)建設部門	1名
	技術士(1次)下水道部門	1名
	英語検定(準2級)	1名
	工業英検(3級)	1名
	第二種電気工事士	8名
	計	185名

(6)　各種競技大会等の受賞状況

高専体育大会，アイデア大会ロボットコンテスト，学協会による優秀学生の表彰状況等最近５年間で，高専体育大会において，テニスや卓球の全国大会優勝，アイデア大会ロボットコンテストにおいては，全国大会での特別賞受賞，また，５年生の中から，各学協会から毎年１０名ほどの学生が本校の推薦により表彰されている。

（資料６－１－②－６）　「各種大会成績一覧(平成１６年度)

各種大会等成績一覧(5/5)

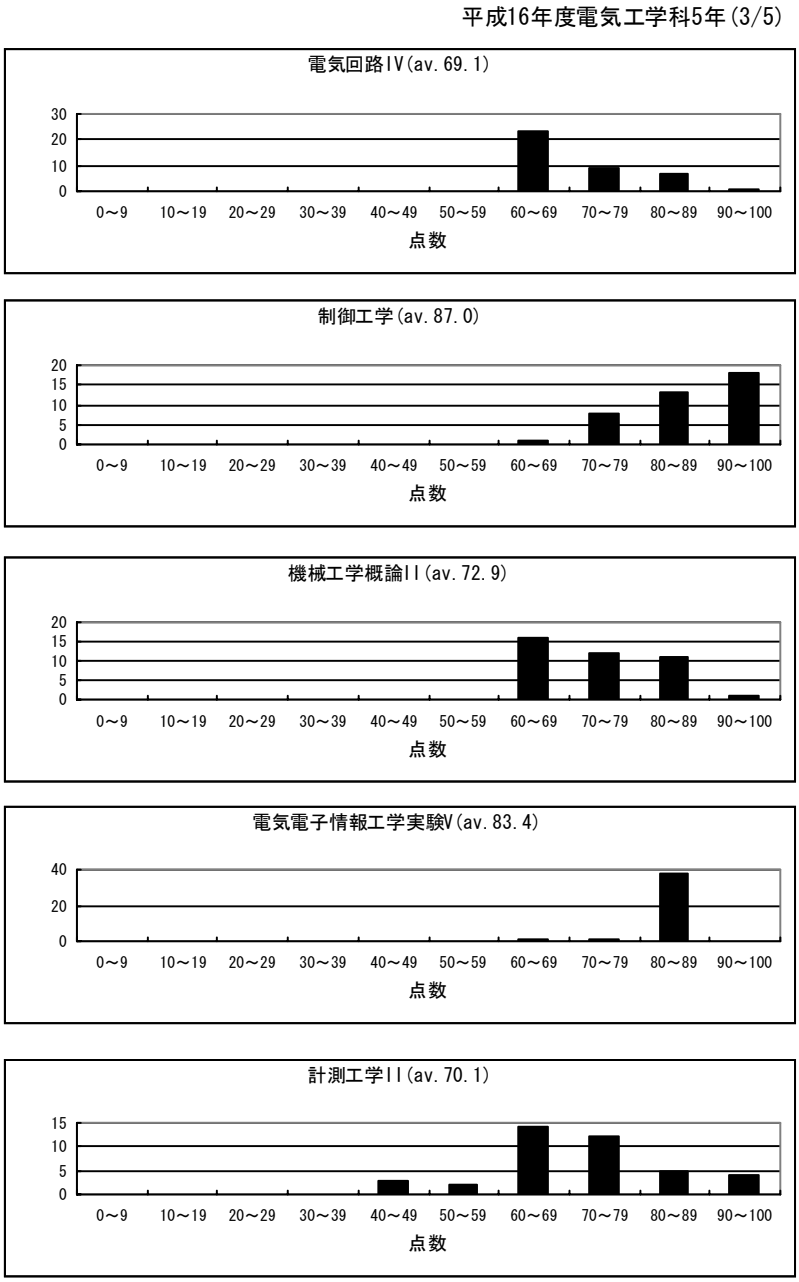
年度	大会名	成績
平成16 (2004)	福井県高等学校春季総合体育大会	柔道男子個人、81kg級5位、90kg級5位
		柔道女子個人、63kg級3位
		水泳男子(50m自由型)5位、(100m自由型)3位、(400m自由型)6位、8位、(100m背泳ぎ)8位、(200平泳ぎ)6位、(100mバタフライ)5位、(200m個人メドレー)4位、(400mフリーリレー)5位、(400メドレーリレー)5位、(800mフリーリレー)4位
		水泳女子(400mフリーリレー)4位
	第39回北陸地区高等専門学校体育大会	女子バレーボール優勝、最優秀選手、優秀選手
		卓球団体優勝、男子ダブルス3位
		水泳総合優勝、男子(50m自由型)優勝、3位、(100m自由型)優勝、2位、(200m自由型)優勝、(400m自由型)2位、(800m自由型)優勝、3位、(100m平泳ぎ)優勝、(200m平泳ぎ)優勝、2位、(100mバタフライ)3位、(100m背泳ぎ)優勝、2位、(200m個人メドレー)2位、(400mリレー)優勝、(400メドレーリレー)優勝
		水泳女子(400mリレー)3位
		女子ソフトテニス団体優勝
		女子テニス団体優勝、シングルス優勝、2位、ダブルス優勝
		陸上総合４位、男子(1500m)3位、(5000m)3位、砲丸投3位
		男子バレーボール3位、優秀選手
		男子バスケットボール2位
		女子バスケットボール3位
		男子ソフトテニス団体3位
		男子テニス団体3位
		野球2位
		サッカー4位
		男子バトミントン団体４位
		女子バトミントン団体3位、シングルス3位、ダブルス2位
		男子剣道団体2位
		女子剣道団体2位、女子個人2位、3位
		柔道男子団体4位、個人60kg級3位、73kg級2位
		女子柔道団体2位、個人52kg超級2位
		ラグビー3位
		ハンドボール3位
	第39回全国高等専門学校体育大会	女子テニスシングルス優勝、ダブルス優勝
		水泳男子(400mメドレーリレー)9位、(100m自由型)2位
	アイデア対決ロボットコンテスト2004	東海北陸地区大会準優勝、全国大会2回戦
	優秀学生賞	日本機械学会畠山賞
		電気学会北陸支部優秀学生賞
		電子情報通信学会北陸支部優秀学生賞(2名)
		日本電気技術者協会北陸支部優良卒業生
		情報処理学会北陸支部優秀学生賞
		映像情報メディア学会北陸支部優秀学生賞
		日本化学会北陸支部優秀学生将(2名)
		全国高専土木工学会近藤賞
		福井高専土木工学科環境都市工学科同窓会翔土会賞
	OPEN-R TECHNO FORUM 2004 IN PJAPAN	エンターテイメント競技(2位)
	第10回マグネットコンテスト	準アイデア賞(1名)、佳作(1名)、奨励賞(1名)、努力賞(1名)
	第１回さばえめがねワクwakuコンテスト	奨励賞(5名)
	ふくいソフトウエアコンペティション2004	福井県ソフトウエア奨励賞

（出典　学生課）

（７）成績評価の分布

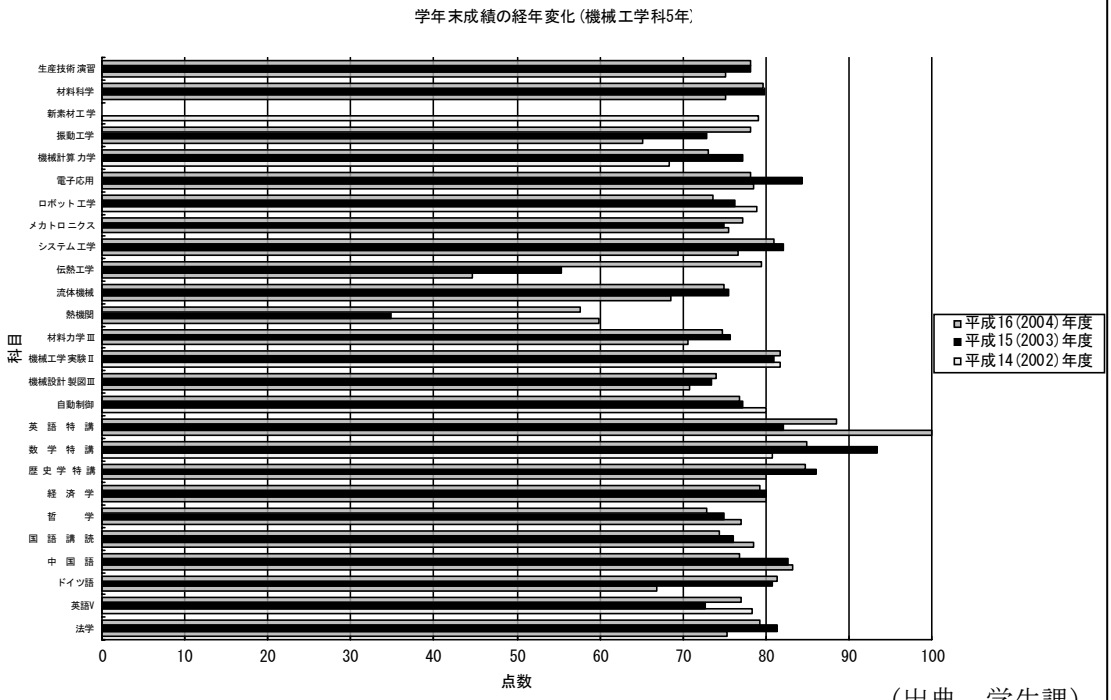
例として，平成１６年度電気工学科５年生の，学年末成績の５科目の１０点刻みの分布表及び，機械工学科５年生の最近３年間の学年末成績の平均点を示す。成績は絶対評価であるために，左右対象の分布はしていないが，平均点は一部の選択科目を除き，ほとんどの科目が７０点ー８０点の間に保持されている。従って，全科目を平均した学科・学年ごとの学年末平均点は約７５ー８０点の間で保持されている。

（資料６－１－②－７）　「学年末成績の分布の例」



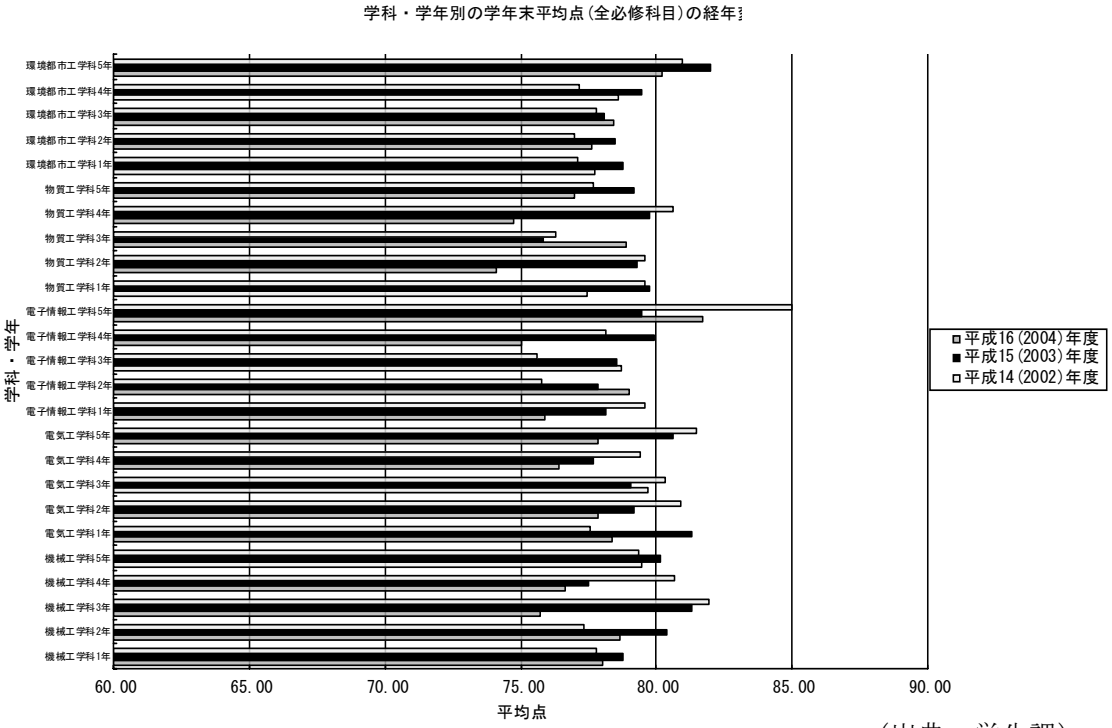
（出典　学生課）

（資料６－１－②－８）　「機械工学科の科目ごとの学年末成績の経年変化」



（出典　学生課）

（資料６－１－②－９）　「学科・学年ごとの学年末成績の経年変化」



（出典　学生課）

（8）卒業研究

卒業研究の教員１名あたりの指導学生数は２～６名と少人数であり，５学年の４月に研究室への配属が行われ，１０月頃の中間発表会や２月の卒業研究論文製作を経て，３月の卒業研究発表会で総括している。卒業研究の口頭発表の評価シートにより厳正に行われている。卒業研究論文のテーマ一覧を（資料６－１－②－１１）に示す。

（資料６－１－②－１０）「卒業研究発表会要旨集の表紙の例と評価シート」

平成１６年度

物質工学科卒業研究報告会

主催　独立行政法人
国立　福井工業高等専門学校
物質工学科

日　時　：３月３日（月）　９：００～１６：３０
３月４日（火）　９：００～１２：１５

場　所　：大講義室

発表形式：口頭発表
発表時間：１０分　討論　５分（１人）
１５分　　５分（２人）

平成　年　月　日

卒業研究発表会評価シート

テーマ名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　学生氏名＿＿＿＿＿＿＿＿

① 聴衆を意識しながら，口頭発表が論理的に展開されているかどうか
(よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい)
(1)発表タイトルと発表者名が明確に示され，発表するのにふさわしい服装であるか
(2)聴衆の方向を向いて発表し，話している内容とスライドの内容が一致しているか
(3)スライド１枚１枚を丁寧に説明し，またスライドにある文言は復誦しているか
(4)発表の最初の部分で内容の概略を説明しており，その順序のとおりと発表されているか
(5)最初に結論（問題提起と解決策の概略）があり，その結論に到達するように発表されているか

② 研究目的に対する研究手法を計画するにあたり，適切な実験・解析方法が選択できているか
(よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい)
(1)研究目的を理解しているか
(2)複数の実験・解析方法から選択しているか
(3)選択した実験・解析方法の長所を理解しているか
(4)選択した実験・解析方法の短所を理解しているか
(5)選択した実験・解析方法が適切であるか

③ 研究テーマに沿った実験・解析結果の評価の妥当性，および研究テーマに関する工学的現象の成り立ち・仕組み等が説明できているか
(よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい)
(1)求めることが出来た結果の評価を行っている口頭発表であるか
(2)求めることが出来た結果の評価の妥当性について検討している口頭発表であるか
(3)研究テーマに関連する工学的現象の成り立ち・仕組み等に言及している口頭発表であるか
(4)求められたデータの評価結果から，研究テーマに関連する工学的現象の成り立ちがわかりやすく説明されている口頭発表であるか
(5)求められたデータの評価結果から，研究テーマに関連する工学的現象の仕組みがわかりやすく説明されている口頭発表であるか

④ 聴衆の質疑に対して適切に応答出来ているか
(よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい)
(1)発表時間を遵守したか
(2)座長の進行に則って質疑応答したか
(3)質問を真摯に聞き，その内容を把握に努めたか
(4)質問内容に応じた返答を行ったか
(5)応答の内容は簡潔で要点を明確にしていたか

審査員署名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（出典　物質工学科）

（資料６－１－②－１１）「卒業研究テーマ一覧(例)」

物質工学科(平成16年度本科卒業研究)

学生氏名	研　究　課　題	指導教官
小阪　知柄	和紙褐色化に関する研究	上島　晃智
齊藤　杏奈	有機溶媒中での生化学変換	
橋詰久美子	害虫忌避コーテイング剤の繊維への利用	
飛田　喬也	有用微生物群を用いた河川の浄化	
安達健太郎	トロロアオイ保存剤の有効な処理法の研究	小泉　貞之
大堂　充	トロロアオイに保存剤の劣化緩和、並びに有効な処理法の研究	
山崎　彰子	生態試料中の微量コバルトの簡易測定とその応用	
内山　優佳	位置特異的N-エチルプロトポリフィリンの多段階合成	松井修一
藤沢　潤一	キラルアミドのリチオ化を利用する光学活性なα－メチレン－γ－ブチロラクタン誘導体の合成	
渡辺　充	合成化学的手法を用いるヘム異常代謝反応経路の解明－アポミオグロビンの不正認識についての検討	
江端　博之	廃セルロース・スラッジを利用した浄化石の開発	吉村　忠與志
坂下　裕一	生ゴミからの塩分抽出に関する研究	
坂下　佳隆	インターネットによるにおい発信システムの構築	
真柄　順治	廃セルロースからのグルコースを経由したアルコールの生成	
馬田　理加 八木　祐介	[Cr(L-leu)2(L- or D-met)]の合成と光学分割	吉村　芳武 片岡　裕一
酒井　邦晃 堀江　寛紀	新規ウエットプロセスによる CoNiFe/p-Si(100)系軟磁性膜の開発	常光　幸美
中村明日香	ナノめっき炭素繊維強化アルミニウム複合材料の開発	
前田　望	新規キャパシタ用ナノめっき賦活炭素複合材料の開発	
井藤　有美	Pseudomonas ｓｐ．KS３．２由来新規ポスポリパーゼCに関する研究	杉森　大助
坂口　徹	低温性油脂分解微生物の探索	
牧田　美佐	新規ポスポリパーゼA1の探索及び精製条件の検討	
田中　良典 宮川　聖	Flebobacterium 由来有機リン加水分解酵素を細胞表層に発現した酵母の創製	高山　勝己
本田　康輔	各種バイオマス資源の有効利用に関する研究～セルロースの糖化とコネリ型菌による有機酸生成～	
田嶋　マキ 吉川　翔	Tripyrrene/a.c-Biladiene 経路を用いたND-アルキルメゾポリフィリンの多段合成	津田　良弘
藤本　一念	シクロヘキセンの電解エポキシ化	
神佐　澄人	アニオン・ノニオン混合界面活性剤における界面化学的性質	加藤　敏 野村　栄市
高橋　加奈	無電解めっき法による傾斜機能希土類系水素吸蔵合金の作成	
野村　浩平	乳化重合における軟水溶性モノマーの移動現象	
山室　幸司	半回分乳化重合法による高分子乳化剤の合成	
久保　慎弥	メゾ位に硫黄原子を有するカリックスピロールの合成	松井　栄樹
櫻田　康浩	安定なポリフィリノーゲンを経由するポリフィリンの合成	
西村　幸子	機能性フタロシアニン色素を用いる蛍光プローブの開発	
山本志津子	ポルフィリン－フタロシアニン複合系色素の開発	

（出典　学生課）

（分析結果とその根拠理由）

科目取得率の向上傾向，原級留置率や退学率の低下傾向，資格取得者の増加，卒業研究の水準などから判断し，教育の実績や効果が上がっていといえる。

＜学士課程＞

（観点にかかる状況）

(1) 専攻科修了要件

専攻科の修了要件は平成１７年度修了生からは，本校が定める「環境生産システム工学」教育プログラムの修了要件を満たすことが義務づけられており，この修了要件には学士（工学）の取得が義務づけられている。従って，専攻科修了生の学士号取得率は，平成１７年度修了生からは１００％となる。

（資料６－１－②－１２）「専攻科修了生の学士号取得率」

専攻科修了生の学士号取得率

修了年度	専攻	系	修了生数	学士号取得者数	取得率	
平成12 (2000)	生産システム工学	機械系	6	6	100.0%	
		電気系	3	3	100.0%	
		電子情報系	1	1	100.0%	
	環境システム工学	物質系	6	6	100.0%	
		環境系	9	9	100.0%	
	計		25	25	100.0%	
平成13 (2001)	生産システム工学	機械系	7	6	85.7%	*1
		電気系	5	5	100.0%	
		電子情報系	3	3	100.0%	
	環境システム工学	物質系	0	0	ー	
		環境系	7	4	57.1%	*2
	計		22	18	81.8%	
平成14 (2002)	生産システム工学	機械系	7	7	100.0%	
		電気系	4	4	100.0%	
		電子情報系	3	2	66.7%	*2
	環境システム工学	物質系	5	5	100.0%	
		環境系	5	5	100.0%	
	計		24	23	95.8%	
平成15 (2003)	生産システム工学	機械系	4	4	100.0%	
		電気系	7	6	85.7%	*1
		電子情報系	8	8	100.0%	
	環境システム工学	物質系	4	4	100.0%	
		環境系	9	9	100.0%	
	計		32	31	96.9%	
平成16 (2004)	生産システム工学	機械系	9	9	100.0%	
		電気系	6	6	100.0%	
		電子情報系	4	4	100.0%	
	環境システム工学	物質系	6	6	100.0%	
		環境系	4	4	100.0%	
	計		29	29	100.0%	
総計(平均)			132	126	95.5%	

*1：計2名は修了後取得
*2：計4名は未取得で修了

（出典　学生課）

（２）　専攻科修了生が社会から要請される水準の考慮方法

平成１５年度の技術士一次試験問題に対する専攻科修了時点での解答能力の調査がなされ，専攻科修了生は技術士一次試験をほぼクリアできると判断されている。さらに，技術者教育プログラムとしての認定は，デザイン能力，コミュニケーション能力もまた社会から要求されている水準以上であることを示している。

（資料６－１－②－１３）　「専攻科修了生技術士レベルチェック」

本校専攻科修了生の技術士レベル調査報告書

H16.7.8

物質工学科　小泉貞之

平成15年度技術士一次試験をもとに本校の講義レベルと専攻科修了時における学生の実力調査を行った結果をまとめます。

技術士一次試験の問題は、「基礎科目」、「共通科目」、「適性科目」、「専門科目」に分かれています。本校の専攻科を修了しますと現時点でも「共通科目」は免除されます。また、「専門科目」について以前(平成16年3月)調査しましたところ、本科の5年生でも7割以上の得点が予想されました。この調査以前に技術士の一次試験を受験した学生に聞きますと、一次試験に対しては「基礎科目」と「適性科目」がキーポイントと教えてくれました。従って、本校教員の講義レベルと専攻科修了学生の実力レベルを調べるために、平成15年度技術者一次試験の「基礎科目」と「適性科目」を全教員に配布し、講義レベルと学生の実力レベルについてについて調査しました。

一次試験の合格基準は、「適性科目」は15問必須で5割以上、「基礎科目」と「専門科目」がそれぞれ最低4割以上、この2科目の平均5割以上となっています。すなわち、1割は、「専門科目」で「基礎科目」をカバーできるということです。また、「基礎科目」は30問程度出題され、各群(設計計画・情報論理・解析・材料バイオ・技術関連の5群)から各3問選択(合計15問)となっています。従って、合格するには、「適性科目」が8問以上、「基礎科目」が6問以上(「専門科目」で残りをカバーすると考えて)ということになります。

各科のデータの求め方を説明します。

平成15年度技術者一次試験(「基礎科目」及び「適性科目」)の各問に対し、各教員が担当している講義(実験・演習を含む)において、専攻科修了時点で、学生の8割以上が正解を得ることができるものをAと記録していただきました。これを2ポイントとしました。5割以上の正解を得ることができるものをBとして、これを1ポイントとしました。Cについては、0.3ポイントとしました。

各問に対し、合計4ポイント以上あれば、実力レベル欄に◎と記載しました。すなわち、2つの講義等で8割以上の解答が予測できると言うことは、正解が得られる可能性が１００％と考えたわけです。同様に2ポイント以上であれば、実力レベル欄に○と記載しました。1ポイント以上を△で記載しました。1ポイント以下は×としました。

全問対象の得点予想の欄は、◎は完全に解答でき、○は５０％解答でき、△は２５％解答できるものとして計算しました。各群3問選択した場合の得点予想の欄には、解答できる問題を選択したと仮定して計算しました。

講義レベルについても、同様に行いましたが、予想得点の項には考慮しませんでした。

上のデータをまとめた物が、技術士試験のレベルチェック一覧表です。

各科とも「適性科目」（５０％以上であること）については、完全にクリアできると思います。「基礎科目」（４０％以上であること。但し、専門科目との合計は５０％以上）については、該当科目に選択科目が含まれていることから、明確には断言できませんがほぼクリアできると考えられます。下の表は、各問題の数をまとめたものですが、同様のことが言えます。

技術士一次試験のレベルチェック一覧（平成１５年度）

			M科	E科	E I科	Cb科	Cm科	B科
基礎科目	一群	設計計画	33%	42%	83%	33%	33%	100%
	二群	情報論理	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	三群	解析	75%	83%	83%	100%	100%	83%
	四群	材料バイオ	67%	83%	83%	100%	100%	67%
	五群	技術関連	50%	67%	67%	83%	83%	100%
	平均		73%	83%	83%	83%	83%	90%
適性科目			62%	63%	90%	63%	63%	92%

技術士一次試験の解答能力（平成１５年度）

		M科	E科	E I科	Cb科	Cm科	B科
基礎科目	100%解答できる問題数	6問	9問	10問	11問	11問	12問
	50%解答できる問題数	7問	4問	5問	3問	3問	3問
	25%解答できる問題数	1問	1問	0問	0問	0問	0問
	解答できない問題数	1問	1問	0問	1問	1問	0問
適性科目	100%解答できる問題数	4問	5問	12問	4問	4問	11問
	50%解答できる問題数	10問	8問	3問	10問	10問	3問
	25%解答できる問題数	1問	2問	0問	1問	1問	1問
	解答できない問題数	0問	0問	0問	0問	0問	0問

（出典　JABEE自己点検報告書　資料編３－２－１２頁）

（３） 専攻科の修了率と退学率

（資料６－１－②－１４）に専攻科の修了率と退学率を示す。進路変更等により平均１４％程度の学生が退学している。専攻科の修了要件に学士（工学）やTOEIC４００点相当の取得が義務づけられたことから，平成１７年度以降の修了生の退学率（未修了率）の増加がやや懸念される。

（資料６－１－②－１４） 「専攻科生の修了率と退学率」

専攻科の各年度入学生の修了率と退学率

入学年度	専攻	系	入学者数	修了者数	退学者数	修了率	退学率
平成12 (2000)	生産システム工学	機械系	7	7		100.0%	0.0%
		電気系	5	5		100.0%	0.0%
		電子情報系	3	3		100.0%	0.0%
	環境システム工学	物質系	2	0	2	0.0%	100.0%
		環境都市系	9	7	2	77.8%	22.2%
	計		26	22	4	84.6%	15.4%
平成13 (2001)	生産システム工学	機械系	7	7		100.0%	0.0%
		電気系	4	3	1	75.0%	25.0%
		電子情報系	3	3		100.0%	0.0%
	環境システム工学	物質系	5	5		100.0%	0.0%
		環境都市系	9	5	4	55.6%	44.4%
	計		28	23	5	82.1%	17.9%
平成14 (2002)	生産システム工学	機械系	4	4		100.0%	0.0%
		電気系	8	7	1	87.5%	12.5%
		電子情報系	8	8		100.0%	0.0%
	環境システム工学	物質系	6	4	2	66.7%	33.3%
		環境都市系	10	9	1	90.0%	10.0%
	計		36	32	4	88.9%	11.1%
平成15 (2003)	生産システム工学	機械系	9	9		100.0%	0.0%
		電気系	8	6	1	75.0%	12.5%
		電子情報系	6	4	2	66.7%	33.3%
	環境システム工学	物質系	7	6	1	85.7%	14.3%
		環境都市系	4	4		100.0%	0.0%
	計		34	29	4	85.3%	11.8%
平成16 (2004)	生産システム工学	機械系	6			0.0%	0.0%
		電気系	4			0.0%	0.0%
		電子情報系	7		1	0.0%	14.3%
	環境システム工学	物質系	3			0.0%	0.0%
		環境都市系	9		1	0.0%	11.1%
	計		29	0	2	0.0%	6.9%
平成12-15年度専攻科入学生累計(率は平均)			124	106	17	85.2%	14.0%

平成15年度入学生(生産システム工学専攻・電気系)が1名休学中のため入学者数と(修了者数+退学者数)は一致しない

修了率=(修了者数/入学者数)×100

退学率=(退学者数/入学者数)×100

（出典　学生課）

（４） 学外研究発表

本校の「環境生産システム工学」教育プログラムの修了要件には，特別研究による成果を外部へ発表することが義務付けられている。

（資料６－１－②－１５） 「専攻科修了生の学外研究発表」

平成16(2004)年度専攻科修了生の学外発表一覧

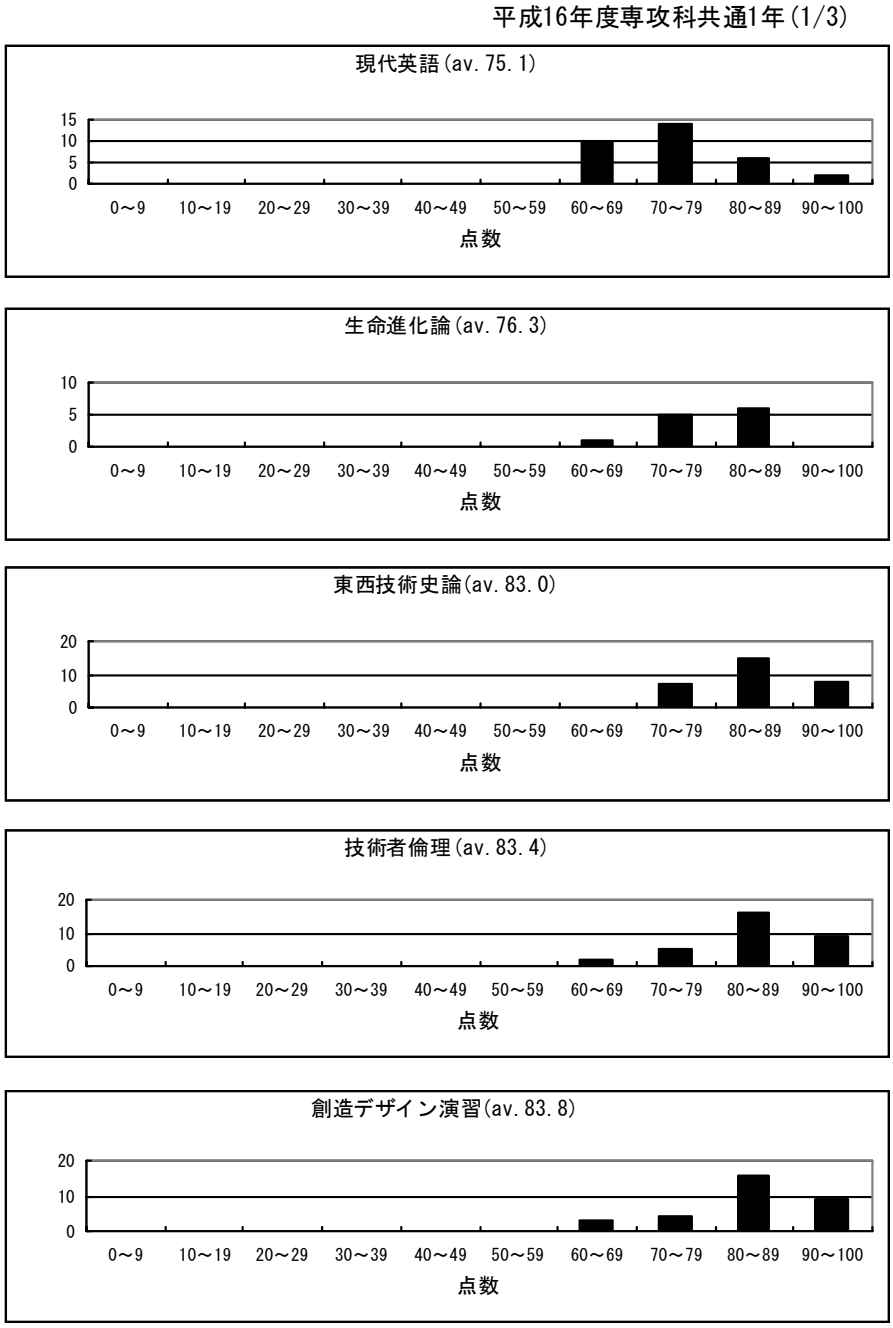
専攻	氏　名	発表題目	発表機関	発表年月日	発表場所	左記以外の各学協会での学外発表件数
生産システム工学	天谷　徹	ステッピングモータ駆動システムの低振動を目的とした速度曲線の研究	福井高専（技術シーズ発表会）	平成16年8月25日～26日	鯖江ギャラリー新	1
〃	蟻塚　悠記	工業材料のe-learning教材の開発	〃	〃	〃	
〃	大村　規之	オーロラ発生時のＣＮＡと電離層活動の関連性	〃	〃	〃	
〃	小笠原　貴行	Ｃｕ－Ｓｎ－黒鉛系複合焼結材料の材料特性に及ぼす黒鉛粒径の影響	〃	〃	〃	1
〃	兼田　知明	携帯電話を持って街に出かけよう！　M-EVENT.NETのご紹介	〃	〃	〃	1
〃	金田　直人	斜板式ピストンポンプ・モータにおけるスリッパ軸受の運動特性	〃	〃	〃	1
〃	黒木　修二	クライアント作成補助システムの開発－RoboCupシミュレーションリーグ－	〃	〃	〃	
〃	桑原　真二	牧羊犬ロボットシミュレータの開発	〃	〃	〃	
〃	清水　大輔	電源電圧波形が変圧器騒音に与える影響	〃	〃	〃	2
〃	高橋　恵一郎	回転運動を伴って往復運動するピストンとシリンダ間の潤滑解析	〃	〃	〃	
〃	出口　光晴	化学結合から見たランガサイト及び置換型化合物の圧電性能	〃	〃	〃	1
〃	苗田　祐一	自然対流の可視化とシミュレーション	〃	〃	〃	
〃	永田　章子	ビデオカメラを用いた３Ｄ動作計測システムの制作	〃	〃	〃	
〃	馬場　孝彰	凍結昇華法による高分子溶液の円管内流れの微視的構造	〃	〃	〃	1
〃	松村　浩司	硬質薄膜のフェムト秒レーザー加工に関する研究	〃	〃	〃	
〃	松本　茜	極細放電管の水銀輸送現象	〃	〃	〃	
〃	森　健太	直列制御型定電圧回路の高効率動作	〃	〃	〃	1
〃	山崎　裕也	三相巻鉄心型変圧器の交流磁気特性	〃	〃	〃	2
〃	吉岡　謙治	量子計算機シミュレータの開発－グローバーのアルゴリズム－	〃	〃	〃	1
環境システム工学	浅井　美由紀	めっきプロセスによる金属ナノ構造材料の創製	〃	〃	〃	1
〃	笈田　智弘	生体試料中のクロムの簡易測定とその応用	〃	〃	〃	2
〃	淡海　陽子	(R)-2-フェニルプロピオン酸メチルに対して高い立体選択性を有する糸状菌由来エステル加水分解酵素の精製	〃	〃	〃	1
〃	大川　拓哉	生命回網と目標生態性の評価について	〃	〃	〃	3
〃	大嶋　利治	スチレンの乳化重合反応における連鎖移動剤の拡散挙動	〃	〃	〃	1
〃	葛葉　俊文	二酸化チタン担持シリカゲルを用いた脱臭装置の開発	〃	〃	〃	
〃	酒井　隆晃	斜面の時系列ハザードマッピングに関する一提案－樹木根系の斜面安定性への影響－	〃	〃	〃	1
〃	塚谷　智章	牡蠣殻を混入した酸性発生土の支持力特性	〃	〃	〃	1
〃	中浦　真澄	繊維材料における微生物親和性の試験法の確立	〃	〃	〃	1
〃	中村　宏美	南海トラフ地震を対象とした非被災府県による被災地への支援体制の構築に関する研究	〃	〃	〃	3

（出典　学生課）

(5)　成績評価の分布

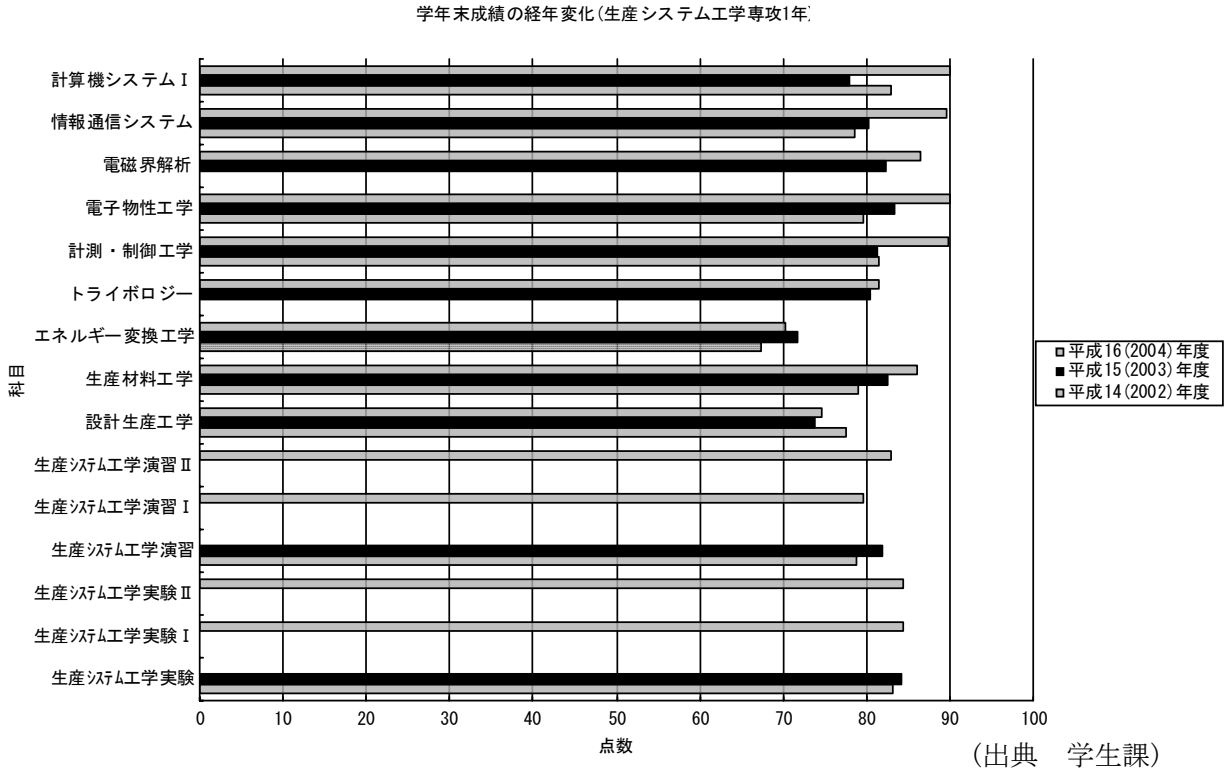
例として，平成１６年度専攻科１年生の学年末成績の５科目の１０点刻みの分布表及び，専攻科生産システム工学１年生の最近３年間の学年末成績の平均点を（資料６－１－②－１７）に示す。成績は絶対評価であるために，左右対象の分布はしていないが，ほとんどの科目が７０点ー９０点の間に保持されている。

（資料６－１－②－１６）　「専攻科成績評価の分布の例」



（出典　学生課）

（資料６－１－②－１７）　「専攻科の学年末成績の経年変化の例」



（出典　学生課）

(6)　インターンシップ

平成１７年度から専攻科の修了要件となったインターンシップは，報告会での審査により合否判定されている。

(7)　特別研究

特別研究の教員 1 名あたりの指導学生数は１ー３名と少人数である。専攻科２年次の４月に専攻科特別研究中間審査会が行われ，専攻科２年次の２月の研究発表会と２月発行の論文集で特別研究を総括している。特別研究は現在、評価シートによる厳正な評価が行われている。

（資料６－１－②－１８）　「平成１６年度専攻科特別研究中間発表会のチェックシート」

平成 16 年度
度福井工業高等専門学校
専攻科(環境システム工学)
物質工学系　特別研究中間報告会

プログラム

はじめに　　専攻科長　吉村　忠与志

発表順

めっきプロセスによる金属ナノ構造材料の創製	浅井　美由紀
血清中のクロムの簡易測定とその応用	笈田　智弘
高立体選択的加水分解能を有する新規脂質分解酵素の探索	淡海　陽子
乳化重合における連鎖移動剤の物質移動現象	大嶋　利治
二酸化チタン担持シリカゲルを用いた脱臭装置の開発	葛葉　俊文
繊維材料における生物親和性の試験法の確立　－炭素繊維－	中浦　真澄

総評　　物質工学科主任　松井　修一

会場　　専攻科棟　講義室Ⅰ(3F)
日時　　平成 16 年 4 月 23 日　14:30～
発表時間　15 分
討論時間　5 分
(1 鈴:発表終了 1 分前、　2 鈴:発表終了、　3 鈴:討論終了)
発表形態　パワーポイント（各自で準備すること）

審査項目

報告会における発表および質疑応答状況（口頭発表を通して報告内容を的確にプレゼンテーションできるか）について、次の各項目で評価する。評価は各項目とも 5 段階で行なう。専攻科 1 年生に対しては、⑥の項目についてのみ評価を行なう。

① 予稿集（適切に書かれているか）
② 発表の論理的展開（聴衆の反応を確かめながら、口頭発表を論理的に展開することができたか）
③ 発表時間の適正（伝えたい内容を精選し、決められた発表時間を守ることができたか）
④ 発表態度（堂々として相手を分からせようとしているか）
⑤ 質疑応答 1（聴衆の質疑に対して適切に応答できたか）
⑥ 質疑応答 2（発表者の主張に対して真摯な態度で疑問点を質問できたか）

平成 16 年　4 月　23　日

福井工業高等専門学校　　専攻科(環境システム工学)

物質工学系　特別研究中間報告会　審査評価シート　(1/4)

[redacted]

学生氏名 [redacted]

報告会における発表および質疑応答状況(口頭発表を通して報告内容を的確にプレゼンテーションできるか)

① 予稿集(適切に書かれているか)　(よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい)
② 発表の論理的展開（聴衆の反応を確かめながら、口頭発表を論理的に展開することができたか)　(よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい)
③ 発表時間の適正（伝えたい内容を精選し、決められた発表時間を守ることができたか)　(よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい)
④ 発表態度(堂々として相手を分からせようとしているか)　(よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい)
⑤ 質疑応答 1(聴衆の質疑に対して適切に応答できたか)　(よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい)
⑥ 質疑応答 2(発表者の主張に対して真摯な態度で疑問点を質問できたか)　(よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい)

コメント

[redacted]

学生氏名 [redacted]

① 予稿集(適切に書かれているか)　(よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい)
② 発表の論理的展開（聴衆の反応を確かめながら、口頭発表を論理的に展開することができたか)　(よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい)
③ 発表時間の適正（伝えたい内容を精選し、決められた発表時間を守ることができたか)　(よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい)
④ 発表態度(堂々として相手を分からせようとしているか)　(よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい)
⑤ 質疑応答 1(聴衆の質疑に対して適切に応答できたか)　(よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい)
⑥ 質疑応答 2(発表者の主張に対して真摯な態度で疑問点を質問できたか)　(よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい)

コメント

審査員署名　松井修一

（出典　専攻科委員会）

（資料６－１－②－１９）「平成１７年度専攻科特別研究中間発表会の案内」

平成１７年度
専攻科特別研究中間発表会

平成１７年４月２０日（水）

生産システム工学専攻

（機械系）

時間：16：00～17：35
会場：専攻科棟 3F　講義室 1

Ｎｏ	特　別　研　究　題　目	学生氏名	指導教員
(1)	公共交通機関と携帯自転車の組み合わせによる移動システムの研究	泉　芳範	井上　清一
(2)	分子動力学法による亀裂生成に関する微視的解析	小泉　貴嗣	芳賀　正和
(3)	PIC を用いたライントレースロボットの制御	佐々木　渉	吉嶋　保幸
(4)	生体親和性材料アパタイトの作製と物性評価	中本　純平	北浦　守
(5)	円管急縮小部を通る高分子溶液の流れ	藤田　祐介	藤田　克志
(6)	硬質薄膜のフェムト秒レーザープロセシング	山口　光弘	安丸　尚樹

（電気系）

時間：15：45～16：45
会場：専攻科棟 3F　ゼミ 3

Ｎｏ	特　別　研　究　題　目	学生氏名	指導教員
(1)	$SrAl_2O_4$:Eu, Dy 蛍光体における光電流の温度依存性	上柳　雄治	北浦　守
(2)	磁束波形が鉄心の磁歪及び騒音に与える影響	小池　啓利	新谷邦弘
(3)	レーザー光を用いた液面反射による傾斜度検出	田中　正一	原田　望
(4)	多層カーボンナノチューブの電導特性	山本　真章	川本　景

（電子情報系）

時間：15：40～
会場：電子情報工学科棟 3F　講義室 503

Ｎｏ	特　別　研　究　題　目	学生氏名	指導教員
(1)	コース管理システムの導入と改善	東　裕貴	瀧田　昇
(2)	歩行者誘導装置のための汎用 USB デバイスの開発	島田悠一	斉藤　徹
(3)	中世陶磁器の Web データベースシステムの構築	西端祐貴	藤原正敏
(4)	画像処理を用いた眼鏡の試着システム	野尻益未	斉藤　徹
(5)	ベンチのシミュレーションにおける誤差	細井貴文	下條雅史
(6)	CML を用いた沸騰モデルのシミュレーション	吉田　勝俊	高久有一

環境システム工学専攻

（物質系）

時間：15：50～16：50
会場：専攻科棟 3F　講義室 2

Ｎｏ	特　別　研　究　題　目	学生氏名	指導教員
(1)	有機リン農薬を細胞表層で分解・検知する新規バイオセンサーの構築	北口哲也	高山勝己
(2)	電気分解法と微生物分解法を用いた有色染料廃液の分解	高橋尚也	高山勝己
(3)	シクロヘキセンの電解エポキシ化	坪川　麗	津田良弘

（環境都市系）

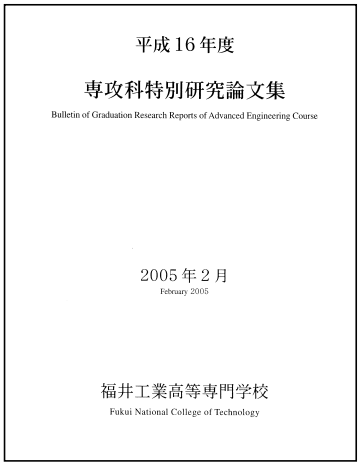
時間：15：40～17：15
会場：環境都市工学科棟 3F　演習室

Ｎｏ	特　別　研　究　題　目	学生氏名	指導教員
(1)	地形測量システムによる三次元都市空間モデルの構築	岡島裕樹	辻野和彦
(2)	平成 16 年度福井豪雨災害の洪水流解析について	岡田和之	広部英一
(3)	武生市におけるホタルの生息調査及びその評価	加藤大介	奥村充司
(4)	直行矩形格子を用いた流体中を移動する物体の数値計算法	菊　雅美	田安正茂
(5)	破壊力学への個別要素法の適用	高橋圭太	阿部孝弘
(6)	交流圏の構築	西坂友大	武井幸久
(7)	城壁の劣化監視の可能性について	吉田達哉	辻子裕二

（出典　専攻科委員会）

（資料６－１－②－２０）

「平成１６年度専攻特別研究論文集の表紙」


平成16年度

専攻科特別研究論文集

Bulletin of Graduation Research Reports of Advanced Engineering Course

2005年2月

February 2005

福井工業高等専門学校

Fukui National College of Technology

（出典　平成１６年度専攻特別研究論文集）

（資料６－１－②－２１）　「専攻科特別研究のテーマ一覧(平成１６年度)」

専攻科特別研究(平成16年度)

生産システム工学専攻

学生氏名	特別研究テーマ	指導教員
天谷　　徹	低振動化を目的としたステッピングモータの速度曲線の研究	吉崎　保夫
蟻塚　悠記	工業材料のe-learning機能付加デジタル図鑑の開発	安丸　尚樹
大村　規之	オーロラ発生時のCNAと電離層活動の関連性	前川　公男
小笠原貴行	Cu-Sn-黒鉛焼結材料の機械的性質と摩擦摩耗特性に及ぼす黒鉛サイズと添加量の影響	加藤　寛敬
兼田　知明	携帯電話を用いた社会学習支援のためのWebアプリケーションの構築	大久保　茂
金田　直人	斜板式ピストンポンプ・モータにおけるスリッパ軸受の運動特性	田中嘉津彦
黒木　修二	RoboCupシミュレーションリーグにおけるクライアント作成補助システムの開発	青山　義弘
桑原　真二	牧羊犬ロボットシミュレータの開発	青山　義弘
清水　大輔	電圧波形が変圧器鉄心の磁歪および騒音に与える影響	新谷　邦弘
出口　光晴	量子材料設計による材料の機能性の予見～化学結合から見たランガイトと置換型化合物の圧電性能～	北浦　　守
高橋惠一郎	回転運動を伴って往復運動するピストンとシリンダ間摺動部の潤滑解析	田中嘉津彦
苗田　祐一	非圧縮性流体内に発生する自然対流の可視化と数値解析	芳賀　正和
永田　章子	ディジタルビデオカメラを用いた3D動作計測システム	井上　清一
馬場　孝彰	凍結昇華法による円管内流れの高分子溶液の微視的構造のフラクタル解析	藤田　克志
松村　浩司	硬質薄膜のフェムト秒レーザープロセシング	安丸　尚樹
松本　　茜	極細水銀放電管における水銀スペクトルの温度特性	井上　昭浩
森　　健太	直列制御型定電圧回路の高効率動作	原田　　望
山崎　裕也	三相巻鉄心変圧器における素材特性と磁気特性	新谷　邦弘
吉岡　謙治	量子計算機シミュレータの開発	下条　雅史

環境システム工学専攻

学生氏名	特別研究テーマ	指導教員
浅井美由紀	めっきプロセスによる金属ナノ構造材料の創製	常光　幸美
笈田　智弘	黒鉛炉原子吸光法による人血清中の微量クロムの簡易的定量法の確立	小泉　貞之
淡海　陽子	2-フェニルプロピオン酸メチルに対して(R)-選択的加水分解能を有する新規エステラーゼの探索と精製	杉森　大助
大川　拓哉	目標生態性の設定と小動物を指標とする生態性評価の方法	武井　幸久
大嶋　利治	スチレンの乳化重合に及ぼす連鎖移動剤の溶解度の影響	加藤　　敏
葛葉　俊文	二酸化チタン担持シリカゲルを用いた脱臭装置の開発	吉村忠與志
塚谷　智章	粉砕した牡蠣殻と安定剤とを混合した酸性土の支持力特性	山田　幹雄
酒井　隆晃	斜面の時系列ハザードマッピングに関する一考察－樹木根系の斜面安定性への影響－	辻子　祐二
中浦　真澄	繊維材料における生物親和性の試験法の確立	吉村忠與志
中村　宏美	南海トラフ地震を対象とした非被災府県による被災地への支援体制の構築に関する研究	吉田　雅穂

（出典　学生課）

（分析結果とその根拠理由）

平成１６年度修了生の中で，「環境生産システム工学」教育プログラムを修了した専攻科修了生はＪＡＢＥＥによる技術者教育プログラム修了生として認定されている。また，学

外研究発表，学士号取得率，特別研究の水準から判断して，教育の実績や効果が上がっているといえる。

観点６－１－③：　教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について，就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

＜準学士課程＞

（観点に係る状況）　　本科卒業時の就職，進学状況（例）は（資料６－１－③－１）のとおりである。

（資料６－１－③－１）「本科卒業生の進路(平成１６年度)」

進路一覧（本科）(5/5)

年度	学科／進路	機械工学科	電気工学科	電子情報工学科	物質工学科	環境都市工学科
平成16 (2004)	就職	橋本機工（株）	レンゴー(株)金津工場	㈱ディ・エヌ・ピー・メディアクリエイト	日華化学(株)	北陸エースコン（株）
		松下電工（株）	倉茂電工(株)	アイコム（株）	ヒット工業（株）	福井県職員
		西日本旅客鉄道（株）	レンゴー（株）武生工場	江守商事(株)	ハニー化成（株）	（株）辻広組
		（株）滋賀山下	(株)滋賀山下	オリオン電機（株）	日東電工（株）	（株）青武コンサルタント
		小島プレス工業（株）	(株)柿本商会	デンソーテクノ（株）	清川メッキ工業(株)	（株）豊栄建設
		花王（株）	（株）ソディックプラステック	京セラＳＬＣテクノロジー（株）	（株）豊田中央研究所	滋賀県警察官
		本田技研工業（株）	三洋化成工業(株)	法務省福井刑務所刑務官	（株）リコー福井事業所	（有）イマジン・ラボ
		（株）ＪＡＬｱﾋﾞﾃｯｸ	関西電力（株）	ソニーイーエムシーエス（株）幸田テック	ハッポー化学工業（株）	西田建設（株）
		三菱重工業（株）名古屋誘導推進ｼｽﾃﾑ製作所	中部電力（株）	（株）アルメックス	岩谷理化株式会社	（株）高野組
		（株）オナガメガネ	（株）鯖江村田製作所	東邦電気（株）	日華化学(株)	木原建設（株）
		日産テクノ（株）	（株）松浦機械製作所	ダイワボウ情報システム（株）	酒井化学工業株式会社	ＪＡ越前丹生
		東工シャッター（株）	（株）日新システムズ	（株）豊田中央研究所	（株）ヴァンドームヤマダ	厚生労働省職員
		川崎重工業（株）	(株)福井村田製作所	パイオニア（株）	大阪シーリング印刷(株)	滋賀県職員
		（株）森精機製作所	（株）リコー福井事業所	新生電子（株）		（株）北都組
		（株）エクセディ	（株）エクセディ	（株）京装コンピューター		坂川建設（株）
		（株）吉野工業所	（株）サンルックス	ソニーイーエムシーエス（株）長野テック		マルイチセーリング（株）
		(株)日産ﾃﾞｨｰｾﾞﾙ技術研究所	オリオン電機(株)	アドソル日進(株)		南越建設工業（株）
		(株)ＪＡＬ航空機整備成田	綜合警備保障(株)	株式会社テクニカフクイ		国土交通省職員〔北陸地方整備局〕
			京セラ（株）滋賀蒲生工場	森永北陸乳業（株）		（株）辻広組
			（株）フォース	ソニーイーエムシーエス(株)小見川テック		（株）ミテック
				江守商事（株）		轟産業（株）
				日本放送協会		福井県職員
				マルツ電波（株）		第一技術開発（株）
				(株)半導体エネルギー研究所		
	進学	岡山大学理学部	金沢大学工学部	金沢大学工学部	金沢大学工学部	福井大学工学部
		金沢大学工学部	金沢大学工学部	金沢大学工学部	金沢大学工学部	豊橋技術科学大学工学部
		金沢大学工学部	金沢大学工学部	九州工業大学情報工学部	岐阜大学経済学部	長岡技術科学大学工学部
		京都大学工学部	福井大学工学部	筑波大学第三学群	神戸大学農学部	長岡技術科学大学工学部
		神戸大学工学部	福井大学工学部	筑波大学第三学群	広島大学工学部	福井工業高等専門学校専攻科
		福井大学工学部	福井大学工学部	電気通信大学電気通信学部	広島大学理学部	福井工業高等専門学校専攻科
		福井大学工学部	福井大学工学部	福井大学工学部	福井大学工学部	福井工業高等専門学校専攻科
		福井大学工学部	豊橋技術科学大学工学部	三重大学工学部	北海道大学農学部	福井工業高等専門学校専攻科
		山口大学工学部	長岡技術科学大学工学部	豊橋技術科学大学工学部	滋賀県立大学工学部	福井工業高等専門学校専攻科
		豊橋技術科学大学工学部	長岡技術科学大学工学部	豊橋技術科学大学工学部	豊橋技術科学大学工学部	福井工業高等専門学校専攻科
		豊橋技術科学大学工学部	長岡技術科学大学工学部	長岡技術科学大学工学部	豊橋技術科学大学工学部	福井工業高等専門学校専攻科
		豊橋技術科学大学工学部	長岡技術科学大学工学部	富山商船高等専門学校専攻科	豊橋技術科学大学工学部	
		長岡技術科学大学工学部	関西大学総合情報学部	福井工業高等専門学校専攻科	長岡技術科学大学工学部	
		長岡技術科学大学工学部	福井工業高等専門学校専攻科	福井工業高等専門学校専攻科	長岡技術科学大学工学部	
		東京工業高等専門学校専攻科	福井工業高等専門学校専攻科	福井工業高等専門学校専攻科	長岡技術科学大学工学部	
		福井工業高等専門学校専攻科	福井工業高等専門学校専攻科	福井工業高等専門学校専攻科	福井工業高等専門学校専攻科	
		福井工業高等専門学校専攻科	福井工業高等専門学校専攻科		福井工業高等専門学校専攻科	
		福井工業高等専門学校専攻科			福井工業高等専門学校専攻科	
		福井工業高等専門学校専攻科			福井工業高等専門学校専攻科	
		福井工業高等専門学校専攻科			福井工業高等専門学校専攻科	
					福井工業高等専門学校専攻科	
	その他		福井文化服装学院	福井県鯖江土木事務所（非常勤）	ESPミュージカルアカデミー	大阪観光専門学校
			大阪大学付属歯科技工士学校	未定	長岡日赤看護専門学校	大阪観光ビジネス専門学校・福井校
			日本工学院八王子専門学校	日栄学園ﾆﾎﾝ･ｵｰﾄﾓｰﾋﾞﾙｶﾚｯｼﾞ	天谷調理師専門学校	大阪観光ビジネス専門学校・福井校

（出典　学生課）

（資料６－１－③－２）　「本科卒業生の進路の内訳」

平成12(2000)年度　本科卒業生の進路　（人）

進路／学科	就職	進学	その他	計
	()内は割合	()内は割合	()内は割合	()内は割合
機械工学科	21（57%）	15（40%）	1（3%）	37（100%）
電気工学科	21（50%）	18（43%）	3（7%）	42（100%）
電子情報工学科	27（61%）	13（30%）	4（9%）	44（100%）
物質工学科	14（42%）	18（55%）	1（3%）	33（100%）
環境都市工学科	24（60%）	13（33%）	3（7%）	40（100%）
計：()内は割合	107（55%）	77（39%）	12（6%）	196（100%）

平成13(2001)年度　本科卒業生の進路　（人）

進路／学科	就職	進学	その他	計
	()内は割合	()内は割合	()内は割合	()内は割合
機械工学科	22（61%）	14（39%）	0（0%）	36（100%）
電気工学科	23（56%）	16（39%）	2（5%）	41（100%）
電子情報工学科	16（46%）	15（43%）	4（11%）	35（100%）
物質工学科	15（45%）	17（52%）	1（3%）	33（100%）
環境都市工学科	21（50%）	17（41%）	4（9%）	42（100%）
計：()内は割合	98（55%）	79（42%）	11（6%）	187（100%）

平成14(2002)年度　本科卒業生の進路　（人）

進路／学科	就職	進学	その他	計
	()内は割合	()内は割合	()内は割合	()内は割合
機械工学科	16（44%）	18（50%）	2（6%）	36（100%）
電気工学科	14（42%）	17（52%）	2（6%）	33（100%）
電子情報工学科	13（38%）	19（56%）	2（6%）	34（100%）
物質工学科	17（44%）	20（51%）	2（5%）	39（100%）
環境都市工学科	20（51%）	13（33%）	6（16%）	39（100%）
計：()内は割合	80（44%）	87（48%）	14（8%）	181（100%）

平成15(2003)年度　本科卒業生の進路　（人）

進路／学科	就職	進学	その他	計
	()内は割合	()内は割合	()内は割合	()内は割合
機械工学科	19（50%）	19（50%）	0（0%）	38（100%）
電気工学科	27（69%）	12（31%）	0（0%）	39（100%）
電子情報工学科	18（51%）	15（43%）	2（6%）	35（100%）
物質工学科	15（48%）	16（52%）	0（0%）	31（100%）
環境都市工学科	20（47%）	15（36%）	7（17%）	42（100%）
計：()内は割合	99（53%）	77（42%）	9（5%）	185（100%）

平成16(2004)年度　本科卒業生の進路　（人）

進路／学科	就職	進学	その他	計
	()内は割合	()内は割合	()内は割合	()内は割合
機械工学科	18（47%）	20（53%）	0（0%）	38（100%）
電気工学科	20（50%）	17（43%）	3（7%）	40（100%）
電子情報工学科	24（56%）	16（37%）	3（7%）	43（100%）
物質工学科	13（35%）	21（57%）	3（8%）	37（100%）
環境都市工学科	23（62%）	11（30%）	3（8%）	37（100%）
計：()内は割合	98（50%）	85（44%）	12（6%）	195（100%）

（出典　学生課）

（資料６－１－③－３）　「本科卒業生の就職先の産業別内訳」

就職先(本科)の産業別内訳

機械工学科	卒業年度					計
	平成12 (2000)	平成13 (2001)	平成14 (2002)	平成15 (2003)	平成16 (2004)	
林業・鉱業						0
建設業						0
製造業	19	20	12	19	15	85
電気・ガス・水道		1				1
運輸・通信・報道						0
卸売・小売業						0
金融・保険業						0
サービス業、ソフトウエア、エンジニアリング、その他	1	1	4		3	9
公務員	1					1
自営業						0
計	21	22	16	19	18	96

物質工学科	卒業年度					計
	平成12 (2000)	平成13 (2001)	平成14 (2002)	平成15 (2003)	平成16 (2004)	
林業・鉱業						0
建設業		1				1
製造業	13	14	15	14	12	68
電気・ガス・水道			1			1
運輸・通信・報道						0
卸売・小売業						0
金融・保険業						0
サービス業、ソフトウエア、エンジニアリング、その他			1		1	2
公務員	1			1		2
自営業						0
計	14	15	17	15	13	74

電気工学科	卒業年度					計
	平成12 (2000)	平成13 (2001)	平成14 (2002)	平成15 (2003)	平成16 (2004)	
林業・鉱業						0
建設業	1					1
製造業	12	15	7	15	14	63
電気・ガス・水道	4	6	1	3	2	16
運輸・通信・報道	2		2	5		9
卸売・小売業						0
不動産業				1		1
金融・保険業						0
サービス業、ソフトウエア、エンジニアリング、その他	1	1	4	3	4	13
公務員		1	1			2
自営業		1				1
計	20	24	15	27	20	106

環境都市工学科	卒業年度					計
	平成12 (2000)	平成13 (2001)	平成14 (2002)	平成15 (2003)	平成16 (2004)	
林業・鉱業	1					1
建設業	8	6	4	7	10	35
製造業	3	2				5
電気・ガス・水道						0
運輸・通信・報道	2	1	4	1		8
卸売・小売業						0
金融・保険業				1		1
サービス業、ソフトウエア、エンジニアリング、その他	5	6	7	5	7	30
公務員	5	4	7	4	6	26
自営業		2		2		4
計	24	21	22	20	23	110

電子情報工学科	卒業年度					計
	平成12 (2000)	平成13 (2001)	平成14 (2002)	平成15 (2003)	平成16 (2004)	
林業・鉱業						0
建設業						0
製造業	11	7	3	9	13	43
電気・ガス・水道		1				1
運輸・通信・報道	3	1		1		5
情報通信業				5	6	11
卸売・小売業						0
金融・保険業						0
サービス業、ソフトウエア、エンジニアリング、その他	12	7	10	2	5	36
公務員	1					1
自営業						0
計	27	16	13	17	24	97

（出典　学生課）

（資料６－１－③－４）　「本科卒業生の進学先の内訳」

進学先（本科）の内訳

年度	学科	進学者総数	進学先			
			大学3年編入		高専専攻科	
			人数	率	人数	率
平成12(2000)	機械工学科	15	9	60%	6	40%
	電気工学科	18	14	78%	4	22%
	電子情報工学科	13	11	85%	2	15%
	物質工学科	18	13	72%	5	28%
	環境都市工学科	13	7	54%	6	46%
平成13(2001)	機械工学科	14	10	71%	4	29%
	電気工学科	16	9	56%	7	44%
	電子情報工学科	15	7	47%	8	53%
	物質工学科	17	11	65%	6	35%
	環境都市工学科	17	7	41%	10	59%
平成14(2002)	機械工学科	18	9	50%	9	50%
	電気工学科	17	9	53%	8	47%
	電子情報工学科	19	12	63%	7	37%
	物質工学科	20	13	65%	7	35%
	環境都市工学科	13	7	54%	6	46%
平成15(2003)	機械工学科	19	13	68%	6	32%
	電気工学科	12	8	67%	4	33%
	電子情報工学科	15	7	47%	8	53%
	物質工学科	15	12	80%	3	20%
	環境都市工学科	15	5	33%	10	67%
平成16(2004)	機械工学科	20	14	70%	6	30%
	電気工学科	17	13	76%	4	24%
	電子情報工学科	16	11	69%	5	31%
	物質工学科	21	15	71%	6	29%
	環境都市工学科	11	4	36%	7	64%
計（率は平均）		404	250	61%	154	39%

（出典　学生課）

（分析結果とその根拠理由）

卒業生の進路の割合は，就職が平均５１％，大学３年編入学や高専専攻科への進学が平均４３％，その他（専門学校や短期大学を含め）が平均６％である。その他の進路の中には進路未定者が年に数名含まれるが，就職・進学・その他（進路未定者を除く）の総計では９８％であり，進路の決定率は高い。就職先の産業別の内訳は，機械工学科・電気工学科・物質工学科では製造業が，電子情報工学科では製造業とサービス業が，環境都市工学科では建設業，サービス業，公務員が多く，学科の特徴を表しており，教育の効果や成果が上がっているといえる。進学先の内訳は，大学３年次編入学が約６０％，高専専攻科（３名を除いて本校専攻科）が約４０％であり，進学先としては本校の専攻科が一番多く，本科と専攻科の連携が図られていることを示している。

＜学士課程＞

（観点に係る状況）

専攻科修了時の就職，進学状況を下表に示す。

（資料６－１－③－５）「専攻科修了生の進路」

進路一覧（専攻科）

年度	専攻／進路	生産システム工学専攻	環境システム工学専攻
平成12（2000）	就職	㈱東芝プロセスソフトウェア	ニチレキ㈱
		鍾淵化学工業㈱	㈱ニコー光学
		㈱メイテック	ミュヤ㈱
		ソニー幸田㈱	鯖江・丹生消防組合
		㈱福井村田製作所	福井県庁
			（社）近畿建設協会
			㈱福井村田製作所
			グリーン産業㈱
			㈱クォートコーポレーション
			日本ユニカー㈱
			福井山田化学工業㈱
			グリーンシェルター㈱
	進学	福井大学大学院	金沢大学大学院
		京都工芸繊維大学大学院	金沢大学大学院
		豊橋技術科学大学大学院	福井大学大学院
		北陸先端科学技術大学院大学	
		長岡技術科学大学大学院	

年度	専攻／進路	生産システム工学専攻	環境システム工学専攻
平成13（2001）	就職	盟友技研㈱	㈱高野組
		光精工㈱	自営
		オンザエッチ	中部興行㈱
		埴エンジニアリング	
		ＪＡ越前たけふ	
		島津メクテム㈱	
		倉茂電工㈱	
		ヤマハオートセンター	
		自営	
	進学	奈良先端科学技術大学院大学	横浜国立大学大学院
		富山県立大学大学院	
		福井大学大学院	
		豊橋技術科学大学大学院	
	その他	福井工業高等専門学校研究生	福井工業高等専門学校研究生
		ディジタルハリウッド（専門学校）	福井工業高等専門学校研究生
			大阪外語専門学校

年度	専攻／進路	生産システム工学専攻	環境システム工学専攻
平成14（2002）	就職	ミツヤ(株)	自営
		オリオン電気(株)	(株)辻広組
		MDS(自営)	(株)ゲイト
		(株)エイチアンドエフ	(株)プラス設計開発
		福井めがね(株)	エス・イ・コンサル(株)
		任天堂(株)	
		福井県警(警察官)	
		東工シャッター(株)	
		(株)江守商事	
	進学	福井大学大学院工学研究科	福井大学大学院工学研究科
		北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科	福井大学大学院工学研究科
		金沢大学大学院自然科学研究科	福井大学大学院工学研究科
	その他	山脇美術専門学院	東京アカデミー札幌校
		福井工業高等専門学校研究生	福井工業高等専門学校研究生

年度	専攻／進路	生産システム工学専攻	環境システム工学専攻
平成15（2003）	就職	(株)ジークス	酒井化学工業（株）
		(株)アートテクノロジー	自営
		サンテクノ（株）	(株）銭高組
		(株)山岸	(株）ベンチャービジネス研究所
		シミズ工業（株）	フジオーネ・テクノ・ソリューションズ（株）
		(株)高木製作所	北陸エースコン工業（株）
		テクナートラボ(株)	（株）帝国コンサルタント
		(株)ハタシ	(株)キミコン
		アスタ（株）	ナチュラルコンサルタント（株）
		(株)カズマ	瓦勝
		江守商事(株)	
		(株）ネオテクノ	
		(株)フォース	
	進学	北陸先端科学技術大学院大学	奈良先端科学技術大学院大学
		北陸先端科学技術大学院大学	福井大学 大学院
		大阪大学 大学院	富山県立大学 大学院
		福井大学 大学院	
	その他	ケリーマスタースクール	
		福井工業高等専門学校研究生	

年度	専攻／進路	生産システム工学専攻	環境システム工学専攻
平成16（2005）	就職	（株）テクニカフクイ	株式会社ダイエイ
		（株）大一商会	株式会社帝国コンサルタント
		（株）フォース	塩野フィネス（株）福井事業所
		（株）ソディックプラステック	フクビ化学工業株式会社
		（株）フォース	田中建設株式会社
		浜本テクニカル（株）	株式会社道端組
		労働基準監督官	酒井化学工業株式会社
		（株）サーフボード	株式会社ホリカワ
		（株）日産ディーゼル技術研究所	株式会社創造科学研究所
		日新電機(株)	
	進学	北陸先端科学技術大学院大学	福井大学大学院
		北陸先端科学技術大学院大学	
		北陸先端科学技術大学院大学	
		金沢大学大学院	
		金沢大学大学院	
		京都工芸繊維大学大学院	
		福井大学大学院	
		福井大学大学院	
		福井大学大学院	

（出典　学生課）

（資料６－１－③－６）「専攻科修了生の就職先の産業別内訳」

就職先（専攻科）の産業別内訳

専攻科	修了年度					計
	平成12（2000）	平成13（2001）	平成14（2002）	平成15（2003）	平成16（2004）	
林業・鉱業						0
建設業	5	1	1	2	3	12
製造業	9	4	8	5	10	36
電気・ガス・水道						0
情報通信業				4		4
運輸業				2		2
卸売・小売業						0
金融・保険業						0
サービス業、ソフトウエア、エンジニアリング、その他	1	5	4	8	5	23
公務員	2		1		1	4
自営業		2				2
計	17	12	14	21	19	83

（出典　学生課）

（分析結果とその根拠理由）

修了生の進路の割合は，就職が平均６４％，大学院への進学が平均２７％，その他が平均９％である。その他の進路の中には進路未定者はおらず，進路決定率は１００％である。就職先を産業別でみると，製造業が多く，次いで，サービス業，建設業であり，各専攻の特徴を示しており，教育の効果や成果が上がっているといえる。

観点６－１－④：　学生が行う学習達成度評価等から判断して，学校の意図する教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

学生による授業評価を初めて全校挙げて実施したのは平成１３年２月であり，その後も継続的に行われており，授業アンケートに対する担当教員のコメントを載せ平成１４年度分と平成１５年度前期分については冊子としてまとめられ，この冊子を学生は各教室や図書館で閲覧することができる。

（分析結果とその根拠理由）

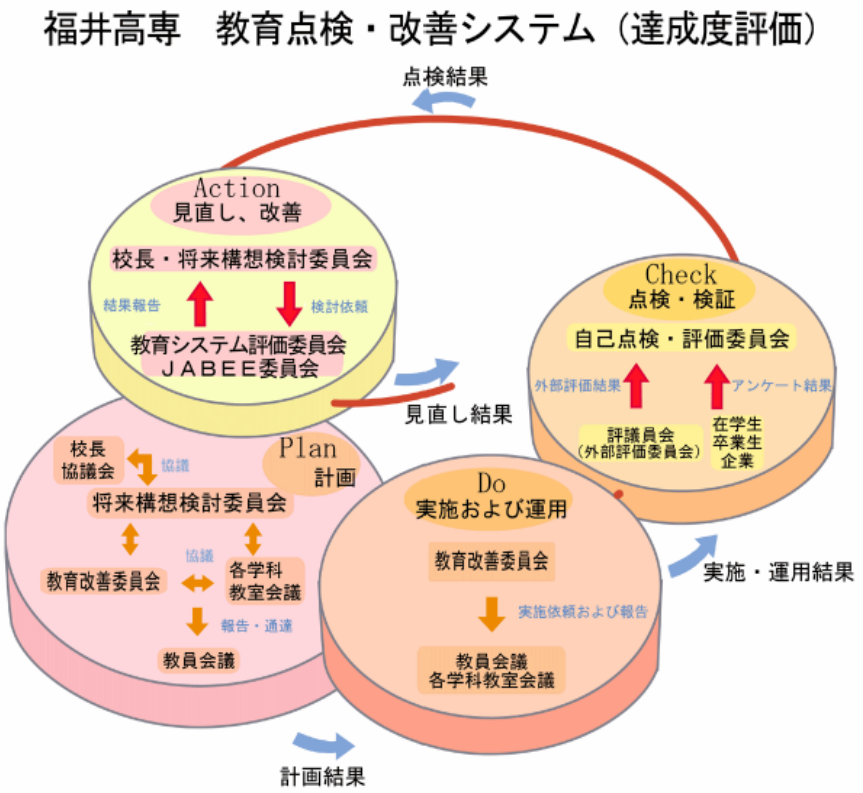
授業アンケートが継続的に行われており，そのなかに科目の目標に対する学生からの達成度評価項目がある。教員は達成度を年々向上させる改善をおこなっているが，向上しているかどうかの学校全体での評価は現在行われていない。このようなことから，教育の効果が上がっているかについては，授業アンケートからの結果からは判断できていない。

観点６－１－⑤：　卒業（修了）生や進路先などの関係者から，卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取するなどの取組を実施しているか。また，その結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

本校の教育の達成度評価に関する教育点検・改善システムは（資料６－１－⑤－１）～（資料６－１－⑤－６）に示すような構成となっている。卒業（修了）生対象のアンケートが平成１５年７月及び平成１６年９月に実施されている。また。平成１７年５～６月に平成１４年度及び１５年度卒業（修了）生（約４００名に関し，約２００の企業・大学に対して）に対する教育達成度アンケートが実施された。

（資料６－１－⑤－１）　「教育点検・改善システム（達成度評価）」



（出典　ウェブページ「JABEE への取組」）

（資料６－１－⑤－２）　「福井工業高等専門学校将来構想検討委員会規則」

○福井工業高等専門学校将来構想検討委員会規則

（平成元年１月19日 規程第１号）

改正　平成３年２月21日規程第１号　平成３年10月17日規則第６号
平成10年２月17日規則第４号　平成14年10月24日規則第１号
平成16年４月８日規則第14号

（設置）

第１条　本校に、福井工業高等専門学校内部組織規則（昭和54年規則第２号）第２条の２に基づき、将来構想検討委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（目的）

第２条　委員会は、本校の将来を展望した在り方及びそれに即した施設設備の整備について調査審議する。

（組織）

第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1)　校長
(2)　主事
(3)　専攻科長
(4)　学科（教室）主任
(5)　図書館長
(6)　総合情報処理センター長
(7)　先進技術教育研究センター長
(8)　教育研究支援センター長
(9)　事務部長

（委員長）

第４条　委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。

（専門部会）

第５条　第２条の審議事項に関する専門的な事項を調査審議するため、委員会に専門部会を置くことができる。

２　専門部会は、その任務が終了したときに解散するものとする。

（既設の各委員会への諮問）

第６条　委員会は、必要に応じ、本校既設の各委員会に諮問することができる。

（庶務）

第７条　委員会の庶務は、庶務課が処理する。

附　則

この規程は、平成元年１月19日から施行する。

附　則（平成３年２月21日改正）

この規程は、平成３年４月１日から施行する。

附　則（平成３年10月17日改正）

１　この規則は、平成３年10月17日から施行し、平成３年７月25日から適用する。

２　この規則施行の際、現に設置されている小委員会は、この規則により設置された専門委員会とみなす。

附　則（平成10年２月17日改正）

この規則は、平成10年４月１日から施行する。

附　則（平成14年10月24日改正）

この規則は、平成14年10月24日から施行する。

附　則（平成16年４月８日改正）

この規則は、平成16年４月８日から施行し、平成16年４月１日から適用する。

（出典　福井工業高等専門学校　規則集　１００頁）

（資料６－１－⑤－３）　「達成度評価アンケートの依頼状とアンケートの例」

平成17年5月9日

企業・大学・専攻科　各担当者各位

福井工業高等専門学校
教育改善委員会

本科卒業生及び専攻科修了生の教育達成度に関するアンケート調査についてのお願い

拝啓　新緑の候、ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。

本校における教育・研究につきましては、平素より多大なる御理解と御協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

本校は、5年一貫の科学技術教育により、創造力と実践力を持つ技術者を育成することを目的として昭和40年(1965年)に設置された国立高等教育機関です。また、平成10年(1998年)には、さらにこのような本科5年間の教育課程の上に、より高度な専門的知識と技術を教授し、創造的な研究開発や先端技術に対応できる人材を育成する目的で2年間の課程である専攻科を設置しました。

本校の教育方針は、

1. 技術者として必要かつ十分な基礎的学力と専門技術を修得させる。
2. 個性を伸長し、独創的能力の開発に努力する。
3. 教養の向上につとめ、良識ある国際人としての成長を期する。
4. 健康の増進につとめ、肉体的精神的に強じんな耐久力を育成する。
5. 規律のある日常生活に徹し、明朗、かつ達な資性のかん養を図る。

であり、このような方針のもとに、知育・徳育・体育のバランスの取れた全人教育を目指した以下のような3つの教育目標をまず掲げています。

(1)　たくましい人間の育成
(2)　創造性豊かな人間の育成
(3)　誠実な人間の育成

さらに、新しい時代の技術者として備えなければならない知的能力の育成を目指して以下の5つの教育目標を掲げました。

(A) 地球的視点の技術者倫理を意識した，ものづくり・環境づくり，システムデザイン能力の育成
(B) 幅広い工学的素養，得意とする専門技術の基礎能力および応用能力の育成
(C) 豊かな創造力とデザインマインドを持ち，常に自己を啓発し，新しい課題・分野に挑戦する能力の育成
(D) 高度に情報化した国際社会で必要なコミュニケーション基礎能力とプレゼンテーション能力の育成
(E) 体験に基づいて問題を発見し，解決策を企画・実行する実践的能力および論理的思考能力の総合的な育成

そこで、このような教育目標を本校の教育に御協力いただいている方々による本科卒業生及び専攻科修了生の教育達成度調査から見直し、さらに社会の要請に応じた人材の育成を目指したいと存じております。御多忙中恐縮ですが、別紙の本科卒業生及び専攻科修了生(学生名及び入社・入学年度はアンケートの項目4に記載)に対する教育達成度アンケートにご記入のうえ、同封の返信用封筒により7月1日(金)までにご返送くださるようお願い申し上げます。

アンケートは本校の教育目標の見直し以外の目的には使用することはありませんので、趣旨を御理解のうえ、御協力お願い申し上げます。

敬具

企業向けアンケート(機械工学科卒業用)

人事担当者　様

1. 企業名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
2. 業種＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
3. 人事担当者連絡先
   A. お名前＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
   B. TEL：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ FAX：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
   C. E-mail＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
4. 貴社へ入社した福井高専機械工学科卒業生(貴社入社年度)は下記の学生です。達成度は入社した学生の平均値で、また問5,6については絶対評価で、問7については絶対評価あるいは相対評価でご回答ください。
   廣瀬優作(2004(平16))

5. 福井高専機械工学科卒業生の教育達成度についてお聞きします。[　]内からひとつ選んで○をご記入ください。

   A. 技術者倫理が［満足・ほぼ満足・やや不足・不足］

   B. 基礎学力が［満足・ほぼ満足・やや不足・不足］
      不足またはやや不足とお答えになった方にお聞きします。具体的にはどのような科目の分野でしょうか？
      (複数回答可)
      ［数学・物理・生物・英語・国語・人文社会系科目・その他（　　）］

   C. 専門基礎学力が［満足・ほぼ満足・やや不足・不足］
      不足またはやや不足とお答えになった方にお聞きします。具体的にはどのような科目の分野でしょうか？
      (複数回答可)
      ［材料学・機械工作法・工業力学・材料力学・流れ学・熱力学・振動工学・機械設計・自動制御・
      その他（　　）］

   D. 実験実習能力が［満足・ほぼ満足・やや不足・不足］
      不足またはやや不足とお答えになった方にお聞きします。具体的にはどのような科目の分野でしょうか？
      (複数回答可)
      ［工作実習・創造工学演習・機械設計製図・機械工学実験・電気工学実験・
      その他（　　）］

   E. 専門応用能力が［満足・ほぼ満足・やや不足・不足］
      不足またはやや不足とお答えになった方にお聞きします。具体的にはどのような科目の分野でしょうか？
      (複数回答可)
      ［材料科学・熱流関・伝熱工学・流体機械・電子応用・ロボット工学・システム工学・メカトロニクス・
      卒業研究・その他（　　）］

   F. その他、不足している能力（　　）

6. 貴社が求める社員の能力については聞きします。[　]内からひとつ選んで○をご記入ください。
   前問5のA-Eの中で、貴社が高専からの新入社員に必要とする能力は？
   A. 技術者倫理　［必要・出来れば必要・あまり必要でない・必要でない］
   B. 基礎学力　［必要・出来れば必要・あまり必要でない・必要でない］
   C. 専門基礎学力　［必要・出来れば必要・あまり必要でない・必要でない］
   D. 実験実習能力　［必要・出来れば必要・あまり必要でない・必要でない］
   E. 専門応用能力　［必要・出来れば必要・あまり必要でない・必要でない］

7. 福井高専機械工学科卒業生(貴社社員)の印象についてお聞きします。[　]内からひとつ選んで○をご記入ください。比較はほぼ同年齢の社員でお願いします。

   A. 福井高専機械系工学科卒業生(貴社社員)は絶対評価として［優秀・やや優秀・やや劣る・劣る］
      具体的に、(絶対評価として)
   ・基礎学力　［優秀・やや優秀・やや劣る・劣る］　・専門基礎学力［優秀・やや優秀・やや劣る・劣る］
   ・独創的能力　［優秀・やや優秀・やや劣る・劣る］　・協調性　［優秀・やや優秀・やや劣る・劣る］
   ・行動力　［優秀・やや優秀・やや劣る・劣る］　・表現力　［優秀・やや優秀・やや劣る・劣る］
   ・社交性　［優秀・やや優秀・やや劣る・劣る］　・素直さ　［優秀・やや優秀・やや劣る・劣る］
   ・情報処理能力［優秀・やや優秀・やや劣る・劣る］

   B. 専門学校の卒業生と比べて相対評価として［優秀・やや優秀・やや劣る・劣る・専門学校の卒業生はいない］
      専門学校の卒業生がいない場合、以下は無回答で結構です。いる場合は相対評価でご回答ください。
      具体的に、
   ・基礎学力　［優秀・やや優秀・やや劣る・劣る］　・専門基礎学力［優秀・やや優秀・やや劣る・劣る］
   ・独創的能力　［優秀・やや優秀・やや劣る・劣る］　・協調性　［優秀・やや優秀・やや劣る・劣る］
   ・行動力　［優秀・やや優秀・やや劣る・劣る］　・表現力　［優秀・やや優秀・やや劣る・劣る］
   ・社交性　［優秀・やや優秀・やや劣る・劣る］　・素直さ　［優秀・やや優秀・やや劣る・劣る］
   ・情報処理能力［優秀・やや優秀・やや劣る・劣る］

   C. 他高専の卒業生と比べて相対評価として［優秀・やや優秀・やや劣る・劣る・他高専の卒業生はいない］
      他高専の卒業生がいない場合、以下は無回答で結構です。いる場合は相対評価でご回答ください。
      具体的に、
   ・基礎学力　［優秀・やや優秀・やや劣る・劣る］　・専門基礎学力［優秀・やや優秀・やや劣る・劣る］
   ・独創的能力　［優秀・やや優秀・やや劣る・劣る］　・協調性　［優秀・やや優秀・やや劣る・劣る］
   ・行動力　［優秀・やや優秀・やや劣る・劣る］　・表現力　［優秀・やや優秀・やや劣る・劣る］
   ・社交性　［優秀・やや優秀・やや劣る・劣る］　・素直さ　［優秀・やや優秀・やや劣る・劣る］
   ・情報処理能力［優秀・やや優秀・やや劣る・劣る］

   D. 大学の学部卒業生と比べて相対評価として［優秀・やや優秀・やや劣る・劣る・大学の学部卒業生はいない］
   大学の学部卒業生がいない場合、以下は無回答で結構です。いる場合は相対評価でご回答ください。
      具体的に、
   ・基礎学力　［優秀・やや優秀・やや劣る・劣る］　・専門基礎学力［優秀・やや優秀・やや劣る・劣る］
   ・独創的能力　［優秀・やや優秀・やや劣る・劣る］　・協調性　［優秀・やや優秀・やや劣る・劣る］
   ・行動力　［優秀・やや優秀・やや劣る・劣る］　・表現力　［優秀・やや優秀・やや劣る・劣る］
   ・社交性　［優秀・やや優秀・やや劣る・劣る］　・素直さ　［優秀・やや優秀・やや劣る・劣る］
   ・情報処理能力［優秀・やや優秀・やや劣る・劣る］

8. 国際社会への対応を考えた場合、語学力が望まれます。高専卒業生(本科)の貴社新入社員に期待される語学力(英語力)についてTOEICスコアーとして、何点ぐらいが必要と考えられますか。ひとつ選んで○をご記入ください。
   1. 350点程度　2. 380点程度　3. 400点程度　4. 450点程度　5. 500点程度　6. 550点以上

9. 最後に、福井高専機械工学科への全般的な評価やその特色、そして期待についてコメントを頂きたいと存じます。以下に記して下さい。

（　　）

ご協力ありがとうございました。
アンケートに関する問合せ先
〒 916-8507
福井県鯖江市下司　福井工業高等専門学校
機械工学科　学科主任　田中嘉津彦
TEL：0778-62-8249
FAX：0778-62-3306
E-mail：katanaka@fukui-nct.ac.jp

（出典　教育改善委員会）

（資料６－１－⑤－４）「アンケート送付先-機械工学科卒業生用」

2002(2003(平15)4月入社、入学),2003(2004(平16)4月入社、入学)

No.	卒業年度	氏名	就職・進学先	住所
1	2002,M卒	[redacted]	リコーテクノシステムズ(株)中部支社	〒460-0003　愛知県名古屋市中区錦町1-3-7　ＳＫ名古屋ビル3階
2	2002,M卒	[redacted]	(株)ミツヤ	〒910-0108　福井市山室町69-1
3	2002,M卒	[redacted]	(株)アイ・エイチ・アイエアロスペースエンジニアリング	〒370-2308　群馬県富岡市藤木900番地
4	2002,M卒	[redacted]	大同工業(株)	〒922-8686　石川県加賀市熊坂町イ197番地
5	2003,M卒	[redacted]	大同工業(株)	〒922-8686　石川県加賀市熊坂町イ197番地
6	2002,M卒	[redacted]	小野谷機工(株)	〒915-0801　武生市家久町63-1
7	2002,M卒	[redacted]	高嶋技研(株)	〒919-0742　坂井郡あわら市瓜生29-2
8	2002,M卒	[redacted]	岩崎工業(株)	〒919-0614　福井県あわら市伊井60-24-1
9	2002,M卒	[redacted]	日本ガイシ(株)	〒467-8530　名古屋市瑞穂区須田町2-56
10	2002,M卒	[redacted]	日本特殊機器(株)	〒105-0012　東京都港区芝大門1-3-2
11	2002,M卒	[redacted]	(株)カワムラサイクル	〒651-2411　兵庫県神戸市西区上新地3丁目9-1
12	2002,M卒	[redacted]	(株)ダスキン福井	〒918-8026　福井市渕3-315
13	2002,M卒	[redacted]	小島プレス工業(株)	〒471-8588　愛知県豊田市下市場町3-30
14	2003,M卒	[redacted]	小島プレス工業(株)	〒471-8588　愛知県豊田市下市場町3-30
15	2002,M卒	[redacted]	(株)吉野工業所滋賀工場	〒521-1334　滋賀県蒲生郡安土町西老蘇310
16	2002,M卒	[redacted]	(株)アタゴ	〒918-8588　福井市みのり４丁目13-1
17	2003,M卒	[redacted]	大阪シーリング印刷(株)	〒543-0028　大阪市天王寺区小橋町1-25
18	2003,M卒	[redacted]	盟友技研(株)	〒910-8026　福井県福井市渕3-401
19	2003,M卒	[redacted]	日本車輌製造(株)	〒456-8691　名古屋市熱田区三本松町１－１
20	2003,M卒	[redacted]	高木製作所(株)	〒460-0024　名古屋市中区正木3-6-6
21	2003,M卒	[redacted]	ソニーイーエムシーエス(株)	〒491-0192　愛知県一宮市大字高田字池尻6
22	2003,M卒	[redacted]	花王(株)和歌山工場	〒640-8580　和歌山市湊1334
23	2003,M卒	[redacted]	竹内光学工業 (株)	〒916-0005　鯖江市杉本町35-110
24	2003,M卒	[redacted]	日清紡績(株) 名古屋工場	〒457-8505　名古屋市南区豊田5-14-25
25	2003,M卒	[redacted]	(株)フクタカ	〒911-0815　勝山市下高島11－1－2
26	2003,M卒	[redacted]	ソディックプラステック(株)	〒922-0595　石川県加賀市宮町カ１－１
27	2003,M卒	[redacted]	三菱重工業(株)横浜製作所	〒231-8715　神奈川県横浜市中区錦町１２
28	2003,M卒	[redacted]	ニチコン大野(株)	〒912-0095　福井県大野市下丁1-11-2
29	2003,M卒	[redacted]	(株)リコー 福井事業所	〒919-0547　坂井郡坂井町大味64-1
30	2003,M卒	[redacted]	パスカル(株)	〒664-8502　兵庫県伊丹市鴻池街道下10
31	2003,M卒	[redacted]	富士電機システムズ(株)	〒102-0075　東京都千代田区三番町6-17
32	2003,M卒	[redacted]	田中製作所(株)	〒916-0041　鯖江市東鯖江4-4-15
33	2003,M卒	[redacted]	日立建機(株)関西支社	〒618-8511　京都府乙訓郡大山崎町字大山崎小字岸畑２２
34	2002,M卒	[redacted]	岐阜大学工学部機械システム工学科	〒501-1193　岐阜県岐阜市柳戸1-1岐阜大学工学部
35	2002,M卒	[redacted]	山梨大学工学部機械システム工学科	〒400-8511　山梨県甲府市武田4-3-11山梨大学工学部
36	2002,M卒	[redacted]	福井大学工学部知能システム工学科	〒910-8507　福井県福井市文京3-9-1福井大学工学部
37	2003,M卒	[redacted]	福井大学工学部知能システム工学科	〒910-8507　福井県福井市文京3-9-1福井大学工学部
38	2003,M卒	[redacted]	福井大学工学部知能システム工学科	〒910-8507　福井県福井市文京3-9-1福井大学工学部
39	2003,M卒	[redacted]	福井大学工学部知能システム工学科	〒910-8507　福井県福井市文京3-9-1福井大学工学部
40	2002,M卒	[redacted]	福井大学工学部機械工学科	〒910-8507　福井県福井市文京3-9-1福井大学工学部
41	2003,M卒	[redacted]	福井大学工学部機械工学科	〒910-8507　福井県福井市文京3-9-1福井大学工学部
42	2002,M卒	[redacted]	金沢大学工学部機能機械工学科	〒920-8667　石川県金沢市小立野2-40-20金沢大学工学部
43	2003,M卒	[redacted]	金沢大学工学部機能機械工学科	〒920-8667　石川県金沢市小立野2-40-20金沢大学工学部
44	2002,M卒	[redacted]	金沢大学工学部人間・機械工学科	〒920-8667　石川県金沢市小立野2-40-20金沢大学工学部
45	2003,M卒	[redacted]	金沢大学工学部人間・機械工学科	〒920-8667　石川県金沢市小立野2-40-20金沢大学工学部
46	2003,M卒	[redacted]	三重大学工学部機械工学科	〒514-8507　三重県津市栗真町屋町1577三重大学工学部
47	2003,M卒	[redacted]	三重大学工学部機械工学科	〒514-8507　三重県津市栗真町屋町1577三重大学工学部
48	2003,M卒	[redacted]	群馬大学工学部機械システム工学科	〒376-8515　群馬県桐生市天神町1-5-1群馬大学工学部
49	2003,M卒	[redacted]	和歌山大学システム工学部光メカトロニクス学科	〒640-8510　和歌山県和歌山市栄谷930番地和歌山大学システム工学部
50	2003,M卒	[redacted]	九州工業大学情報工学部機械システム工学科	〒820-8502　福岡県飯塚市大字川津680-4九州工業大学情報工学部
51	2002,M卒	[redacted]	豊橋技術科学大学工学部機械システム工学課程	〒441-8580　愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1豊橋技術科学大学工学部
52	2003,M卒	[redacted]	豊橋技術科学大学工学部機械システム工学課程	〒441-8580　愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1豊橋技術科学大学工学部
53	2002,M卒	[redacted]	長岡技術科学大学工学部機械システム工学課程	〒940-2188　新潟県長岡市上富岡町1603-1長岡技術科学大学工学部
54	2003,M卒	[redacted]	長岡技術科学大学機械創造工学課程	〒940-2188　新潟県長岡市上富岡町1603-1長岡技術科学大学工学部
55	2002,M卒	[redacted]	福井工業高等専門学校専攻科	
56	2002,M卒	[redacted]	福井工業高等専門学校専攻科	
57	2002,M卒	[redacted]	福井工業高等専門学校専攻科	
58	2002,M卒	[redacted]	福井工業高等専門学校専攻科	
59	2002,M卒	[redacted]	福井工業高等専門学校専攻科	
60	2002,M卒	[redacted]	福井工業高等専門学校専攻科	
61	2002,M卒	[redacted]	福井工業高等専門学校専攻科	
62	2002,M卒	[redacted]	福井工業高等専門学校専攻科	
63	2002,M卒	[redacted]	福井工業高等専門学校専攻科	
64	2003,M卒	[redacted]	福井工業高等専門学校専攻科	
65	2003,M卒	[redacted]	福井工業高等専門学校専攻科	
66	2003,M卒	[redacted]	福井工業高等専門学校専攻科	
67	2003,M卒	[redacted]	福井工業高等専門学校専攻科	
68	2003,M卒	[redacted]	福井工業高等専門学校専攻科	
69	2003,M卒	[redacted]	福井工業高等専門学校専攻科	

（出典　教育改善委員会）

（分析結果とその根拠理由）

（資料６－１－⑤－５）に示す卒業（修了）生アンケートにおいて，卒業（修了）生の回答したほとんど（約９０％）が本校を卒業（修了）したことに満足しており，満足度は高く，教育の成果は上がっているといえる。さらに，（資料６－１－⑤－６）に示すような就職・進学先からのアンケートにおいて，本人の絶対評価や他高専卒業生との比較を行った結果では評価は高く，卒業（修了生）が在学中に身につけた学力や能力は本校の目的に沿ったものであり，教育の成果や効果が上がっていることを示していた。

（資料６－１－⑤－５）「平成１５，１６年度卒業生アンケート(抜粋)」

第１回卒業生対象アンケート調査結果

平成 15 年 7 月

教育改善委員会

社会人として活躍中の卒業生に対して、高専（専攻科）在学中の授業などに対するアンケート調査を行った。第１回ということもあり、平成 14 年度卒業生の中から 50 名を任意に選び平成 15 年 7 月から 8 月にかけて調査を行った。旧保護者宅への郵送による調査だったこともあり、回収率は 34%と低かった。結果が寄せられたうち、2 人が大学在学中、1 人が官公庁勤務、1 人が専門学校在学中、残り 13 名は企業勤務であった。

1　アンケート調査票

アンケート調査票は次のようである。

卒業年　平成　　年３月

卒業学科　　工学科（専攻）

1　現在の所属

（1）企業　（2）大学　（3）官公庁　（4）専門学校

（5）その他（　　）

2　現在、在籍している、企業・大学などで、高専（専攻科）で学んだことで役立っている科目（実験・実習を含む）を二つあげてください。

(1)　　(2)

(3).あまり役立っていない。　(4) その他（　　）

3　あなたは福井高専（専攻科）を卒業して良かったと思っていますか。

(1) 良かった　（できたらその理由を書いてください）

（　　）

(2) 高校へ行けばよかった（できたらその理由を書いてください）

（　　）

(3) 特に考えていない

(4) その他

（　　）

4.　福井高専では、現在５つの学科がありますが、これを統合し、一つの大学科とし、3 年次に機械系、電気系、化学系、環境系などのコースに分かれる案を議論しています。意見がお有りでしたら書いてください（特に社会人としての視点で書いてください）。

(1) 大いに議論すべき（意見がありましたら書いてください）

（2）あまり意味がなさそうだ。

5-22-(3)

平成１６年１０月２１日

平成１６年度卒業生アンケート結果

教育改善委員会

平成１６年度卒業生を対象に、高専の授業、制度などに対する意識調査を平成１６年９月から１０月にかけて行った。本科は各学科の卒業生２０名、専攻科は全員の卒業生にアンケート依頼を行った。回収数はつぎの表のようであった。

学科（専攻）	アンケート回収数
機械工学科	9
電気工学科	5
電子情報工学科	4
物質工学科	3
環境都市工学科	4
生産工学システム専攻	3
環境工学システム専攻	1
総計	29

1．アンケート文

調査に用いたアンケート文は次のようである。

第２回卒業生対象アンケート調査

卒業年　平成１６年３月

卒業学科　　工学科、　　（システム専攻）

1　現在の所属

（1）企業　（2）専攻科　（3）大学　（4）官公庁　（5）専門学校

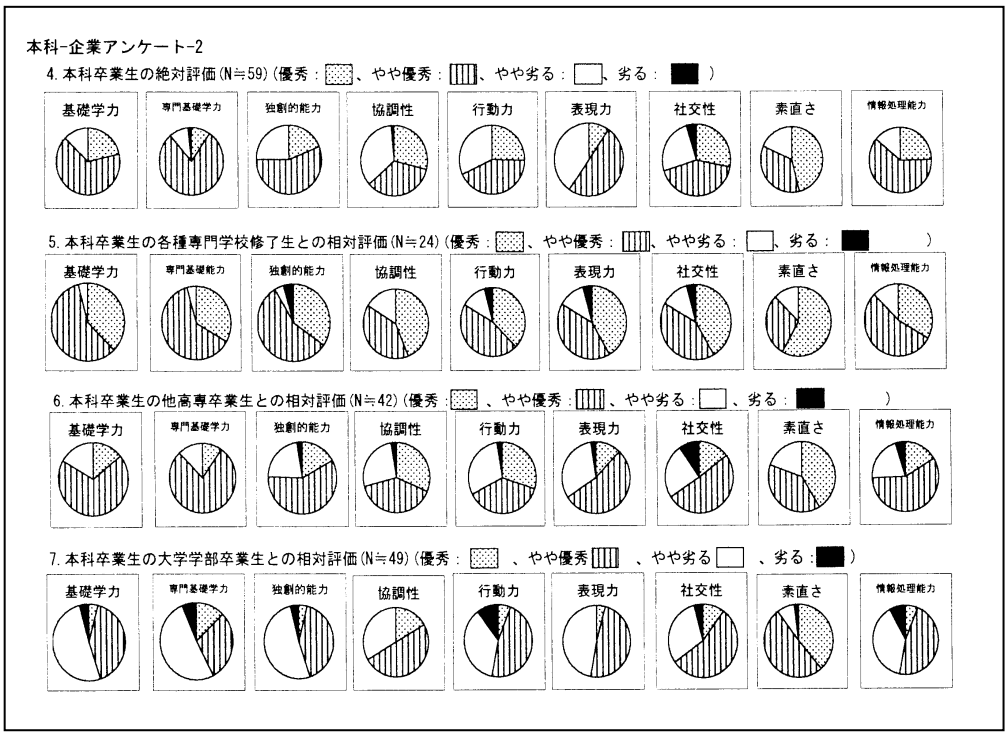
（6）その他（　　）

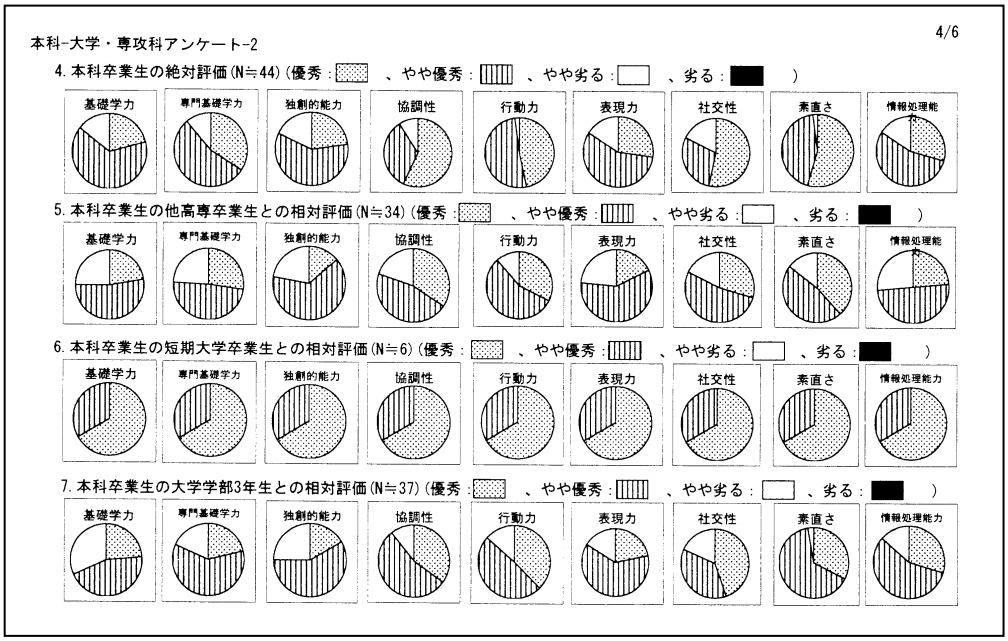
2　現在、在籍している、企業・大学などで、高専（専攻科）で学んだことで役立っている科目（実験・実習を含む）を二つあげてください。

1

（出典　教育改善委員会）

（資６－１－⑤－６）「本科卒業生の達成度評価アンケート結果」の例





（出典　教育改善委員会）

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

就職や進学を希望している学生の進路決定率は非常に高い。また，年々科目の取得率は向上し，原級留置率や退学者数は減少している。平成１７年５月に本校の「環境生産システム工学」教育プログラムがＪＡＢＥＥによる技術者教育プログラムとして認定されたことから，平成１７年度の専攻科修了生は全員ＪＡＢＥＥ認定教育プログラム修了生となる。

（改善を要する点）

授業アンケートの中の学生による達成度評価により，学生がどの程度科目の目標を達成しているは年ごとに担当教員は把握できているが，それが年々向上しているかどうかの評価が学校全体ではなされていない。就職・進学先アンケートは今回が初めてであり，今後も継続する必要がある。

（３）自己評価の概要

学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力，養成する人材像等について，その達成状況を把握・評価するために，準学士・学士課程共に各学科・専攻の教育目標が明確に定められ，その教育目標を達成するための系統的なカリキュラムが編成されている。カリキュラム中の各科目はその科目を担当できる能力があると認められた教員が授業を行い，さらに各科目のシラバスには成績評価基準が明記されており，教員はそれに従って成績評価を行っている。また，準学士課程においては，明確な進級基準，準学士・学士課程共に明確な卒業・修了基準が定められ，その基準に沿って各種委員会の活動が厳格になされている。

学生が身に付ける学力や資質・能力については，準学士課程においては，単位取得率の向上，仮進級率，原級留置率及び退学率の減少，資格試験取得者の増加，学協会による表彰，卒業研究の水準等により，学士課程においては学外研究発表，学士号取得の状況，特別研究の水準等から判断して，教育の成果や効果が上がっているといえる。また，平成１６年度に「環境生産システム工学」教育プログラムがＪＡＢＥＥの技術者教育プログラムとして認定されたことから，平成１６年度は教育プログラムを全て満たした専攻科修了生が，平成１７年度は，専攻科修了生全員がＪＡＢＥＥ認定の教育プログラム修了生となる。

卒業（修了）後の進路決定率はほぼ１００％を達成しており，また就職先を産業別で分類すると，各学科・専攻の特徴が現れており，各学科・専攻の意図している教育の成果が上がっているといえる。

平成１３年度から学生による科目の達成度評価項目を含んだ授業評価アンケートがなされている。しかし，年々この達成度が向上しているかどうかを学科ごとに集計する等の取り組みは現在まで行われていないために，教員の自主的な改善のためだけのアンケートになっておりシステムとしての改善を要する。

在学時に身につけた学力や資質・能力に関する意見を聴取するための卒業生や就職・進

学先へのアンケートを実施しており，その結果から教育の成果や効果が上がっているといえる。

7　学生支援等

（１）観点ごとの分析

観点７－１－①：　学習を進める上でのガイダンスが整備され，適切に実施されているか。また，学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

入学生に対して，１泊２日の「新入生オリエンテーション」を開催し，本校のすべてのガイダンスを行うとともに，学生相互及び教職員と学生の親睦を図っている。この中で，本校各学科の紹介と，授業内容の紹介を行っている。３年生までの低学年では毎週「特別活動」１単位があり，そこでも，担任による，その都度の学習に対するアドバイスが行われている。

また，新しい新学期のすべての授業の最初の授業において，その科目のガイダンスを実施している。これにより，学生はその科目の学習目的と学習方法，スケジュールが理解できるようになっている。これらはシラバスに明記されている。

また，各教員のオフィスアワーが各学科・教室のホームページ及び掲示板に掲載されており，それを学生が見ることにより，教員の研究室を訪ね，質問を行っている。

（資料７－１－①－１）

「各教員のオフィスアワーの例」

機械工学科Top
学　科　紹　介
科　目　紹　介
研　究　室　紹　介
スタッフ紹介
クラス紹介
福井高専Top

2005年度 前期 福井高専 機械工学科 オフィスアワー

スタッフ	場所	曜日	時間帯	担当科目(前期)
阪口 健一	機械工学科棟 2階	金	12:10-13:00	(3M) 材料力学I (3M) 機械設計製図I (4M) 材料力学II (5M) 機械工学実験II (1PS) 生産システム工学実験
井上 清一	専攻科棟 2階	月	16:15-17:15	(5M) 自動制御 (専1) 創造デザイン演習 (2PS) 人間・機械システム (専2) ものづくり情報工学
安丸 尚樹	機械工学科棟 2階	火	16:15-17:15	(2M) 機械製図II (3M) 材料学II (5M) 機械工学実験II (1PS) 生産材料工学 (1PS) 生産システム工学実験I (専2) 先端材料工学
吉崎 保夫	機械工学科棟 2階	水	16:10-17:15	(3M) 創造工学演習 (4M) 機械設計法 (4M) 機構学 (5M) 電子応用
田中 嘉津彦	機械工学科棟 3階	火	16:15-17:15	(4M) センサ工学 (4E,ED) 機械工学概論 (5M) 振動工学 (5M) 機械工学実験II (1PS) トライボロジー

（出典　ウェブページ）

（分析結果とその根拠理由）

学習ガイダンスは各授業の最初の授業で懇切丁寧に行っていることにより，学生は各授業の目的，学習法を十分理解するガイダンスが行われていると思われる。また，学生の自主的学習に対応して，オフィスアワーを設定し，多くの学生が教員に相談に訪れている。これらの成果により，最近，５ヵ年の進学者は約５割を維持し，次第に増加している。就職の求人倍率も好調である。

観点７－１－②：　自主的学習環境（例えば，自主学習スペース，図書館等が考えられる。）及び厚生施設，コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され，効果的に利用されているか。

（観点に係る状況）

学生の自主的学習環境としては，「総合情報処理センター」，「ものづくりアトリエ」，「図書館」等があげられる。

総合情報処理センターには演習室が４室あり，そのうちの３室に１クラスの学生数を超える台数のパソコンが設置されている。パソコンはすべてネットワークに接続されており，教員が教材を一斉に配布でき，学生の達成状況も把握できる学習支援システムが利用できる。

（資料７－１－②－１）

「総合情報処理センターを用いた授業」

演習室の授業利用と一般使用時間

平成17年度前期授業利用状況と一般使用

曜日	時限	第1演習室	第2演習室	第3演習室	第4演習室
月	1	3EI　電子回路Ⅰ	使用可能	4EI　電子情報工学実験Ⅳ	4B　数値解析
	2	1F2　ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ科学入門			使用可能
	3	1F1　ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ科学入門		使用可能	4B　環境都市工学実験実習Ⅳ
	4	使用可能			
曜日	時限	第1演習室	第2演習室	第3演習室	第4演習室
火	1	1F4 ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ科学入門	4M　知能機械演習	4EI　情報構造論	使用可能
	2	1F3 ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ科学入門		4EI　電子回路Ⅱ	
	3	使用可能	使用可能	3EI　電子情報工学実験Ⅲ	2B　ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ
	4				5B　空間情報工学
曜日	時限	第1演習室	第2演習室	第3演習室	第4演習室
水	1	2M　C言語基礎	2EI　電子情報工学実験Ⅱ	2EI　電子情報工学実験Ⅱ	3B　環境都市工学実験実習Ⅲ
	2	4M　機械計算力学			
	3	3C　情報処理演習	使用可能	3E　情報処理Ⅱ	5B　環境都市工学設計製図Ⅲ
	4	使用可能		使用可能	AD　総合学習
曜日	時限	第1演習室	第2演習室	第3演習室	第4演習室
木	1	1F5 ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ科学入門	5M　機械工学実験Ⅱ	2C　ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ基礎	5B　環境都市工学設計製図Ⅱ
	2	4C　情報化学		使用可能	4B　環境都市工学設計製図Ⅰ
	3	3M　国語	1ALL　ものづくり	1ALL　ものづくり	1ALL　ものづくり
	4	（会議）	（会議）	（会議）	（会議）
曜日	時限	第1演習室	第2演習室	第3演習室	第4演習室
金	1	1ALL　ものづくり	2M　機械工作実習Ⅱ	1ALL　ものづくり	1ALL　ものづくり
	2	2E　情報処理Ⅰ		4EI　システム設計	3B　コンピュータ図学

（出典　ウェブページ）

図書館は，学習に必要な専門書をはじめ，一般教養図書及び新聞・雑誌を多数備えている。平日は２０時まで，土曜日は１６時３０分まで開館している。その現状は，図書館のホームページにおいて開示されている 。

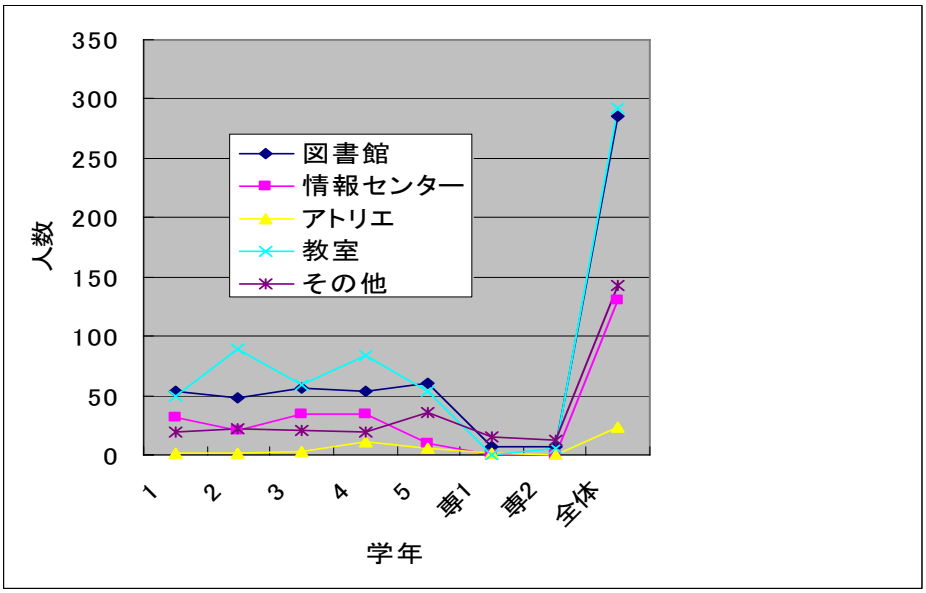
（資料７－１－②－２）は，平成１７年６月に全学生を対象に調べた，放課後の自主学習スペースである。これによれば，教室が自主学習の場所として最も多く用いられている。本校は校舎の改修が未だ成されていないが，改修後，教室の冷房設備が完備されれば，もっと多くの学生が自習に教室を用いるとの学生の意見もあった。

また，本校では，学生の学習・生活を支援する本校の施設に対する学生の満足度も定期的にアンケートによって把握し，施設整備委員会，図書委員会などの関係委員会で審議し，対策を講じている。

平成１７年６月に実施した，学生支援アンケートを（資料７－１－②－３）に示す。これによれば，低学年では，食堂・売店の充実を願う学生が多く，高学年では駐車場，卒業研究スペースの充実を望んでいる。さらに，改修により，教室の冷房設備をつけて欲しいとの希望が圧倒的に多い。

（資料７－１－②－２）

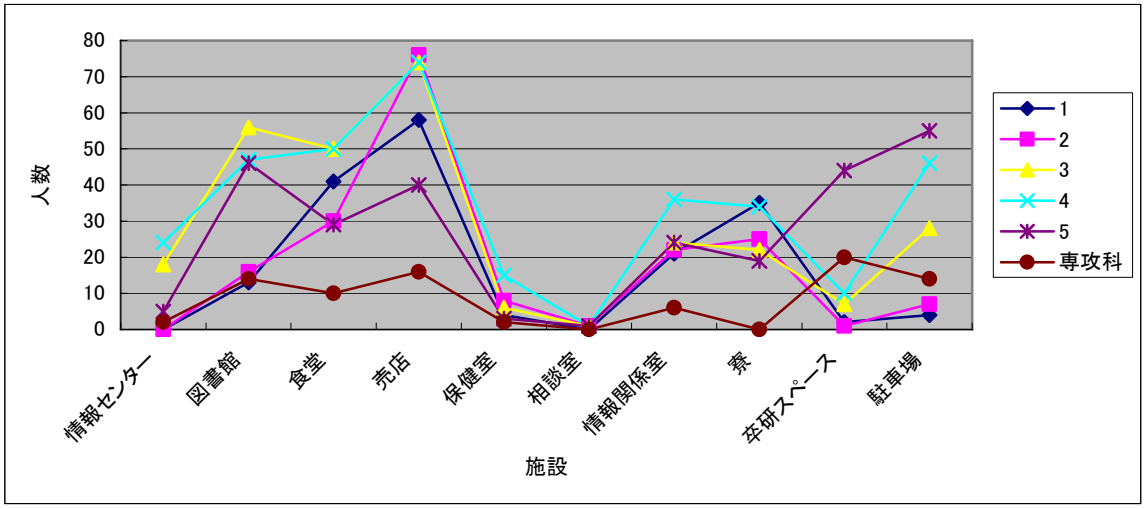
「学生の放課後の自主学習スペース」



（出典　教員会議資料）

（資料７－１－②－３）

「学生支援アンケート結果，今後充実して欲しい施設」



（出典　教員会議資料）

（分析結果とその根拠理由）

情報処理施設，図書館は毎日，多くの授業に使用されている。また，放課後の自主学習にも毎日多くの多くの学生が利用している。

学生の生活を支援する学寮，食堂，売店なども設置されている。学生の生活支援調査も毎年行っており，教室の冷房設備，食堂・売店などの充実を望む学生も多い。

観点７－１－③：　学習支援に関する学生のニーズ（例えば，資格試験や検定試験受講，外国留学等に関する学習支援等が考えられる。）が適切に把握されているか。

（観点に係る状況）

近年，いわゆる資格社会となり，学生は将来の進路を考え様々な資格の取得を考えている。そこで，本校は全学生の資格取得の希望状況をアンケート調査によりその把握に努めている。（資料７－１－③－１）は平成１７年６月に実施した，学生が現在取得している資格と今後取りたい資格の一覧である。本校では学生が取得を希望する資格取得についてできるだけの支援を行っている。

（資料７－１－③－１）

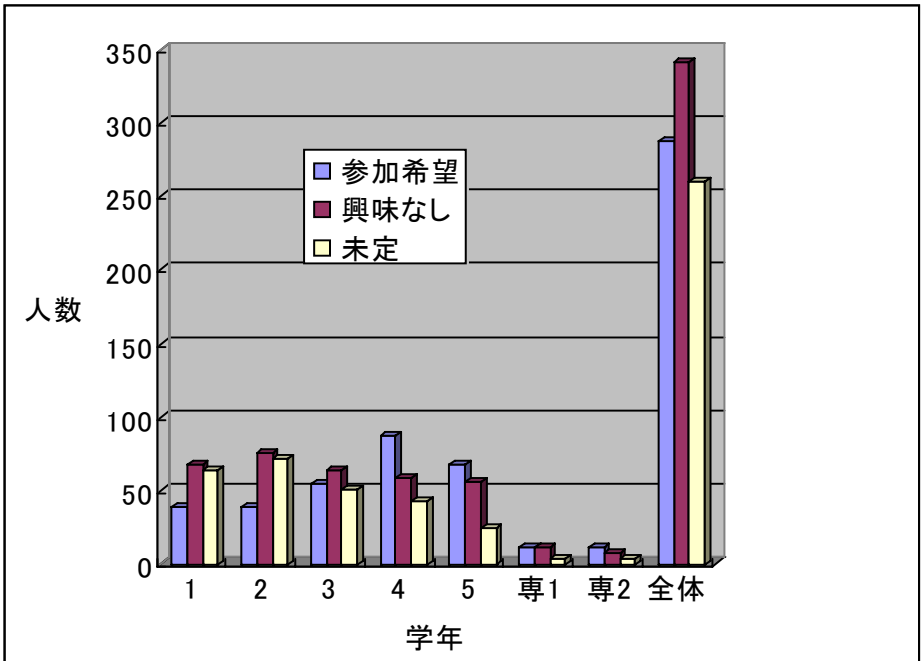
「本校学生が現在所取得している資格と今後取得を希望する資格」

学年	現在持っている資格	今後取りたい資格
1年生	英検3級 5人 英検4級 3人 漢字検定準2級3人 歴史検定4級5人 数学検定4級4人	測量士補 3人CAD2級 5人 電気工事士 X線主任技術者 パソコン検定 初級シスアド(システムアドミニストレーター)2人 TOEIC, 危険物2種4級2人 土木施工技術者 ワープロ検定
2年生	危険物乙4種 アマチュア無線技師 英検準2級 ピアノ検定, 書道3段 英検3級	インテリアコーディネーターボイラー資格 3 人 公害防止士 毒物劇物 英検 3 級 漢検工業英検 デジタル検定電気工事士 電験 3 種 実用英検 情報処理技術者 シスアド CG検定 測量士補
3年生	英検3級 珠算2級 デジタル検定4級 漢検3級, 珠算2段 工業英検3級 測量士補	情報処理技術者試験 シスアド5人CG検定4人 電気工事士2人 TOEIC 画像処理検定3人 電験3種 技術士1次 初級シスアド
4年生	英検準2級3人 第2種電気工事士3人 工業英検3級2人 危険物乙4級 CAD2級2人 危険物丙種 2 人 3 人 ビジネス能力検定3級 シスアド	電気工事士 電験 工業英検 第3種電気主任技術者 TOEIC 自動車免許 CAD2級 建築士3人 技術士 ビオトープ計画管理士2級 カラーコーディネーター 気象予報士 機械設計技術者3級 小型船舶操縦2級 放射線取り扱い 基本情報技術者 ソフトウエア開発
5年生	CAD2級5人 3級4人 英検3級2人 危険物乙4種3人 機械設計技術者試験3級 工業英検2級, 3級, 4級 情報処理二種 基本情報技術者2人 デジタル検定2級	色彩 技術士 CAD 弁理士 シスアド3人 ボイラー危険物取扱乙全種 機械設計技術者試験 パソコン検定 1 級 整備士 測量士 土木施工管理士 建築士 第1種電気工事士 工業英検 CAD利用技術検定 教員免許 TOEIC400点以上3人 500点以上2人 公務員試験 公害防止管理者 医療事務 ソフトウエア開発 アプリケーションエンジニア テクニカルエンジニアネットワーク 画像処理検定
専攻科 1年	TOEIC300-350 4人 350-450 8人 500以上1人 危険物全種 2級ボイラー CAD2級2人 英検準2級	家電エンジニア 独語検定 毒物劇物取り扱い検定 CAD利用設計技術者 電気工事士 国家公務員 火薬取り扱い
専攻科 2年	TOEIC300-350 6人 350-450 13人 450以上 3人 500以上1人 シスアド2人 X線作業主任者 基本情報技術者試験2人	TOEIC400以上5名 技術士

（出典　教員会議資料）

また，本校の留学制度として，現在，海外学生派遣制度があるが，今年度より，本校はオーストライアのBallarat大学との間で相互学生交換留学制度の締結を準備中である。この制度を用いて留学を希望の有無についてアンケート調査を行った結果が（資料７－１－③－２）である。今後，この学生の希望に応えて行きたい。

（資料７－１－③－２）
「留学を希望する学生数」



（出典　　教員会議資料）

（分析結果とその根拠理由）

学生が現在取得している資格と，今後取得したい資格の希望をアンケート調査によりその的確な把握に努めている。

観点７－１－④：　資格試験や検定試験受講，外国留学のための支援体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

英語検定関係については，実用英検と工業英検の説明を行い，希望学生の把握及びガイダンスを行い，取得の支援にあたっている。また，専攻科ではTOEIC４００点以上取得を修了用件としているので，専攻科委員が常に専攻科在校生のTOEIC点数の取得状況を把握している。

さらに，資格を取得した学生については，本校内規である「教務に関する申し合わせ事項」第２４（資料７－１－④－１）のように，単位認定が明記され，正規の単位への振替え制度が出来ている。

（資料７－１－④－１）

「技能審査の合格による単位の修得に関する事項」

第24　技能審査の合格による単位の修得認定に関する事項

（平成６年１２月１５日制定）

1　技能審査の定義

「技能審査」とは，福井工業高等専門学校学則（昭和40年規則第１号）第15条の３第１項に定める学修に基づくもので，文部省告示第85号（平成３年６月28日）第４項に規定する学修のうち，本校において次のものをいう。

ア　実用英語技能検定（以下「実用英検」という。）

イ　工業英語能力検定（以下「工業英検」という。）

2　技能審査の合格による認定単位数

(1)　技能審査に係る次の審査基準（級）に合格した者には，単位の修得を認定し，修得を認定する単位（以下「修得認定単位」という。）は，審査基準（級）に対応するそれぞれの単位数とする。

ア　実用英検の合格による認定単位数

審査基準（級）	準２級	２　級	準１級	１　級
単　位　数	1	2	4	6

イ　工業英検の合格による認定単位数

審査基準（級）	４　級	３　級	２　級	１　級
単　位　数	1	2	4	6

(2)　(1)において，実用英検にあっては審査基準（級）の準２級，工業英検にあっては審査基準（級）の４級については，第１学年から第３学年までに合格した者に限るものとする。

(3)　技能審査に合格し，単位の修得を認定されている者が当該技能審査に係る上位の審査基準（級）に合格した場合は，当該審査基準（級）に対応する単位数と既に認定されている修得単位数との差を修得単位数として認定する。

(4)　修得認定単位は，技能審査に合格した日に在籍する学年の修得単位とする。

(5)　修得認定単位は，卒業要件の修得単位数に含めないものとする。

3　修得認定単位に係る科目名

修得認定単位に係る科目名は，実用英検にあっては一般科目の「実用英語技能検定○級」と，工業英検にあっては専門科目の「工業英語能力検定○級」とする。ただし，両科目とも選択科目とする。

（出典　教務に関する申し合わせ事項）

また，学生の海外派遣については，教員帯同のもと，外国への学会発表，インターンシップを行う制度の規則を制定して実施している（資料７－１－④－２）。最近の実施例を（資料７－１－④－３）に示す。また，平成１７年度よりオーストラリア，メルボルン近郊の総合大学である，Ballarat大学と相互交換留学生制度を始めることとなっており，現在，その準備を進めている。

（資料７－１－④－２）
「学生海外派遣実施要領」

○福井工業高等専門学校職員・学生海外派遣実施要領

（平成７年11月16日制定）

改正　平成10年 6月11日　　平成16年 6月 3日

（趣旨）

第１　福井工業高等専門学校職員・学生海外派遣制度実施要項（以下「要項」という。）の実施に関し必要な事項は、この要領の定めるところによる。

（候補者調書等）

第２　要項第４に規定する海外学生引率計画書及び学生海外派遣計画書はそれぞれ別紙様式第１号及び別紙様式第２号のとおりとする。

（派遣期間）

第３　派遣期間は、海外事情視察等に要する日数に視察地への往復に要する日数を加えたものとする。

（経費）

第４　要項第６に規定する経費は次のとおりとする。ただし、派遣職員については、これによると著しく経済的負担がかかると認められる場合は前項に規定する派遣期間に応じた日当を支給することができるものとする。

(1)　派遣職員　次に定める航空賃及び宿泊料

ア　航空賃

原則として、国内の最寄りの国際空港から派遣地の最寄りの国際空港までの最も経済的な経路による下級の往復運賃

ただし、これによると派遣職員に著しく経済的負担がかかると認められる場合は国内の最寄りの国際空港から派遣地の最寄りの空港までとすることができる。

イ　宿泊料

派遣学生の引率に要する日数の宿泊料

(2)　派遣学生　　一人につき　150,000円

（報告書）

（資料７－１－④－３）

「学生海外派遣制度による最近の実施例」

年度	学科・学年	氏　名	引率教員	派遣期間	派遣機関（国名）
8	環境都市工学科３年	田中宏弥	一般科目 助教授 小寺光雄	9.3.25 ～9.4. 3	オックスフォード大学　ほか（連合王国）
	環境都市工学科３年	山下理恵			
9	電気工学科３年	松浦　徹	電気工学科 教　授 松田政信	9.7.22 ～9.7.31	スタンフォード大学　ほか （米　国）
	電気工学科３年	山内智教			
	電気工学科３年	吉村雄大			
10	電気工学科３年	勝木浩司	電気工学科 助教授 大久保　茂	10.7.18 ～10.7.27	ロンドン大学　ほか （連合王国）
	電気工学科３年	前田一平			
11	機械工学科３年	林　　巧	一般科目 教　授 朝倉相一	11.9.30 ～11.10.9	カリフォルニア大学　ほか （米　国）
	機械工学科３年	高橋里枝			
	電気工学科３年	伊藤貢一			
12	物質工学科５年	後藤亮平	一般科目 助教授 山本裕之	12.8.19 ～12.8.29	ガラパゴス諸島 （エクアドル）
13	電気工学科４年	武内良峰	一般科目 助教授 戸島貴代志	13.8.19 ～13.8.28	風の学校　ほか （デンマーク，ドイツ）
	電気工学科４年	城野啓太			
16	環境システム工学専攻５年	吉田達哉	環境都市工学科 助教授 辻子裕二	16.4.29 ～16.5. 9	中国科学院　ほか （中　国）

（出典　庶務課）

（分析結果とその根拠理由）

資格取得者に対する支援は一般科目教室，各専門学科で実施しており，入学者募集の際も，本校の魅力の一つとして紹介している。今後，海外学生交換留学制度を充実させ，多くの留学を希望する学生の期待に応えたい。

観点７－１－⑤：　特別な学習支援が必要な者（例えば，留学生，編入学生，社会人学生，障害を持つ学生等が考えられる。）がいる場合には，学習支援体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

平成１７年度の在籍留学生を（資料７－１－⑤－１）に示す。これら，海外からの留学生に対し，留学生委員会を設置し，一人一人の留学生に対し指導教員およびチューターを配属してきめ細かい対応を行っている。特にチューターは，成績優秀な寮生から留学生と同じクラスの学生が選ばれ，留学生が5年次に進級するまで日夜，学習および生活支援を行っている。その配置状況は（資料７－１－⑤－２）のようである。

また，留学生は３学年に入学するため，３学年から５学年に「外国人留学生特設科目」として，日本語と，数学，物理，各学科専門科目の基礎を開設している。

編入生に対しては，８月の合格発表後，本校の学習，生活に関する資料を送付，１０月に行われる学園祭である「高専祭」に参加を呼びかけている。さらに，３月と４月に学習，生活に関するオリエンテーリングを実施している。その後も数学などを中心に担当教員から必要に応じて個別指導を行っている。

（資料７－１－⑤－１）

「平成１７年度在籍留学生」

受入年度	学科・学年	氏　　名	国籍
15	環境都市工学科　５年	ﾀﾞﾝ　ｻﾞﾝ　ﾎｱﾝ DANG　GIANG　HOANG	ベトナム
	環境都市工学科　５年	ﾓﾊﾏﾄﾞ ｼｬｲﾘﾙ ﾋﾞﾝ ｱﾌﾞﾄﾞｩﾙ ﾏﾚｸ MOHD SYAIRIR BIN ABD.MALEK	マレーシア
16	電子情報工学科　４年	ｵﾏﾘ　ﾐﾗ　ｱﾔｰｺ OMARI　MILLA　AYAKO	ケニア
17	電子情報工学科　３年	ｴﾙﾃﾞﾈﾋﾞﾚｸﾞ　ﾑﾝｸﾊﾞﾄ ERDENEBILEG MUNKHBAT	モンゴル
	物質工学科　３年	ﾏｾﾄﾞ　ﾍﾟﾄﾞﾛ　ｲｳﾞｫ　ﾗｹﾞ　ﾃﾞ MACEDO PEDRO IVO LAGE DE	ブラジル
	物質工学科　３年	ﾓﾊﾏﾄﾞ　ｱﾘﾌ　ﾋﾞﾝ　ﾓﾊﾏﾄﾞ　ﾉﾙ MOHD ARIF BIN MOHD NOR	マレーシア
	機械工学科　３年	ﾓﾊﾏﾄﾞ　ｽﾞﾙｶﾙﾅｲﾝｻﾑ　ﾋﾞﾝ　ﾊｯｻﾝ MOHD ZULKARNAINSAM BIN HASSAN	マレーシア
18	電子情報工学科３年	アマルサナ　ダヴァスレン AMARSANAA DAVAASUREN	モンゴル

（出典　学生課）

（資料７－１－⑤－２）

「チューターの配置」

学年	留　学　生	チューター
４年	オマリ	山﨑　友貴
３年	ズル	大田　尊也
	ムンクバト	刀上　　光
	ペドロ	北野　直紀
	アリフ	葛葉　光洋

（出典　学生課）

（分析結果とその根拠理由）

留学生に対して，チューター制や，留学生特設科目により，学習支援体制が十分とられている。また，編入学生に対しても入学前の各学科の指導やオリエンテーションが十分取られている。また，入学後も担任を中心に学習に対する支援を十分行っていると言える。

観点７－１－⑥：　学生のクラブ活動や学生会等の課外活動に対する支援体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

本校学生準則第６章学生会規則の第２３条によれば，学生会は学生全員で構成し，第２８条によれば，校長への届出により，クラブ活動を行うこととなっている。学校としては学生主事を中心にサポートし，すべてのクラブ活動に指導教員を１名以上配置している。

現在クラブ活動を行っている，部・同好会を（資料７－１－⑥－１）に示す。

このようなクラブ活動の運営金は学生会活動として行われる。平成１６年度決算書を（資料７－１－⑥－２）に示す。

（資料７－１－⑥－１）

「平成１６年度　部活動決算」

クラブ名	決算額（円）	その他
硬式テニス	408,849	
サッカー	220,550	
ソフトテニス	81,880	
空手	360,000	
ブラスバンド	209,000	
バドミントン	340,000	
水泳	78,470	
卓球	317,210	
ハンドボール	67,600	
ソフトボール	71,055	
男子バスケットボール	379,500	
男子バレー	199,520	
エレクトロメーキング	63,505	
女子バスケット	126,600	
陸上	183,890	
野球	468,800	
写真	9,556	
柔道	125,000	
ラグビー	265,965	
女子バレー	36,000	
剣道	138,500	
モダンミュージック	124,950	
少林寺拳法	65,000	
合計	4,341,400	

（出典　学生会）

（資料７－１－⑥－２）

「平成１６年度学生会決算」

収入の部	学生会費(998 人)	6,986,000 円
	教育後援会費	1,000,000 円
	前年度繰越金	1,249,618 円
	計	9,235,618 円
支出の部	高専祭補助	2,000,000 円
	部活動補助	4,458,120 円
	体育委員会費	650,000 円
	文化委員会費	50,000 円
	青塔作成費	400,000 円
	厚生委員会活動	10,000 円
	費	10,000 円
	広報活動費	250,000 円
	学生会活動	1,407,498 円
	費	9,235,618 円
	繰越金	
	計	

（出典　学生会）

これらの各クラブの最近１０年の活動の実績として，体育系はサッカー部を，また，文化系は英語部を（資料７－１－⑥－３）に示す。

（資料７－１－⑥－３）

「クラブ活動実績例」

1. サッカー部

この 10 年間の主なできごとは以下の通りである。

平成 8 年　第１回学生リーグ 3 勝 1 敗で福井工大，福井大学と勝ち点で並ぶが得失点差で 3 位

平成 9 年　全国大会主管全国 1 回戦：福井高専０－１八戸高専　ＤＦ秦庸一郎が優秀選手に選ばれる

平成 10 年　北陸地区高専大会優勝

平成 13 年　北信越大会 2 位で全国大会出場　全国 1 回戦：福井高専２－３徳山高専

平成 14 年　北陸地区高専大会優勝　北信越大会 2 位で全国大会出場　全国 1 回戦：福井高専３－２鶴岡高専　全国 2 回戦：福井高専１－４鹿児島高専　FW 横江川恵太が優秀選手に選ばれる

この 10 年間で特筆すべきは，平成８年度から福井工業大学，福井大学，福井医科大学（現，福井大学医学部），福井県立大学と福井高専の 5 校による福井県学生サッカーリーグが始まったことと，平成９年度の全国大会を本校が主管したことであろう。福井県学生サッカーリーグについては，第 1 回大会で，第 1 節の福井工大には大敗を喫したが，その後 3 つの大学チームを連破し 3 勝 1 敗の成績で 3 位となった。この大会は現在も続いているが，本校サッカー部の強化のみならず，福井県の学生サッカーのレベルアップに大きく寄与するものである。

また，平成９年度の全国大会を主管するに当たっては，同年５月に奈良高専への遠征を初めて行い，全国大会への強化を行った。全国大会では 1 回戦で惜しくも敗れたが，運営とともに，決勝戦まで観戦できたことは，部員にとって貴重な体験であったと思う。このときの 1 年生が，平成 13 年には 5 年生として北信越大会で 2 位となり全国大会に出場している。続く平成 14 年には，北陸地区高専大会優勝と 2 年連続の全国大会出場を果たし，念願の全国大会初勝利を挙げている。

この間，舞鶴高専をはじめ，奈良高専，岐阜高専，豊田高専との交歓試合(遠征)を行ってきた。このような他高専との交流，県内大学との試合，また各種大会の運営などを通して，サッカーのレベルが向上するとともに，部員一人ひとりが目標を持ち，クラブ活動に取り組めるようになってきている。

2. 英語部

英語部は本校創設以来続いている部である。ここ十年間の主な活動としては，放課後に LL（語学演習室）で集って英会話練習を行ったり，洋画の視聴や英語の歌を聴いてリスニング練習を行っている。また，広く英語圏に関する本を読んで異文化理解に関する一般的な知識を広めている。オーストラリアへ留学した部員が留学の経験談をしたこともある。学生中心の活動ではあるが，外国人教師(が顧問のときには，学生と一緒に会話練習を行うこともあった。校外活動としては，富山商船高等専門学校が主催する北陸地区の英語弁論大会に参加し，平成 10 年度と 15 年度の大会で入賞した。

富山商船高等専門学校英語スピーチコンテスト受賞者

○第４回（平成 10 年 11 月 14 日（土）実施）　一般部門第 1 位　三原有真（４C 当時）

○第９回（平成 15 年 11 月 1 日（土）実施）　審査員特別賞　平泉直美(5B 当時)

（出典　福井工業高等専門学校４０年記念誌）

また，本校では，ＮＨＫアイデア対決ロボットコンテストに参加希望する学生に対して，学校全体が支援している。これまで１５年間に最高賞である，ロボコン大賞を２度受賞し全国でも屈指の強豪校となっている。これまでの戦績を（資料７－１－⑥－４）に示す。

（資料７－１－⑥－４）

「最近１５年間のアイデア対決ロボットコンテストの結果」

年度	テーマ	マシン名	地区大会成績	全国大会成績
1988	乾電池カー・スピードレース	-	-	-
1989	オクトパス・フットボール	-	-	-
1990	ニュートロン・スター	こがね虫君 アクセクドーザー号	- -	ベスト8 -
1991	ホットタワー	- -	1回戦敗退 -	-
1992	ミステリーサークル	楽多2 九頭竜	- 2回線敗退	- -
1993	ステップダンス	ルーキーデルタ ちかっぺ福井	ベスト4、優秀賞 -	ロボコン大賞 -
1994	スペースフライヤー	またまたちかっぺ福井号 ツイン-D	アイデア賞 ベスト8	アイデア倒れ賞 -
1995	ドリームタワー	ひってやべって福井号 W・S・M	優秀賞 1回戦敗退	1回戦敗退 -
1996	テクノカウボーイ	ドラゴンフライ ヘイ！カウボーイ	アイデア賞 2回戦敗退	2回戦敗退 -
1997	花開蝶来	G.G.ウォーカー 花コプター	優勝 技術賞	ロボコン大賞 -
1998	生命上陸	シーカイト 念ずれば花開く2号	アイデア賞 2回戦敗退	- -
1999	JUMP TO THE FUTURE	ドリームジャンプ 越前インパルス	省エネルギーセンター賞 2回戦敗退	- -
2000	ミレニアム・メッセージ	ディノ・クライマー SPACE-LAB	パフォーマンス賞 2回戦敗退	特別賞 -
2001	HAPPY BIETHDAY 39	タワーフォース くろばこ2001	優勝 1回戦敗退	ベスト4 -
2002	プロジェクトBOX	バランスボックス ottii	1回戦敗退 3回戦敗退	HONDA賞 -
2003	鼎(KANAE)	テトラ・スコピー ラティスアーム	優勝 準優勝	ベスト8 -
2004	マーズラッシュ	キャリーバー 10 seconds	準優勝 2回戦敗退	3回戦敗退 -

（出典　ウェブページ）

（分析結果とその根拠理由）

学生のクラブ活動や学生会の課外活動に対する支援は整備され，機能していると言える。その根拠理由としては，学生の課外活動に学校全体として取り組み，全教員のほとんどが何らかの形で学生の課外活動を支援している。

観点７－２－①：　学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され，機能しているか。

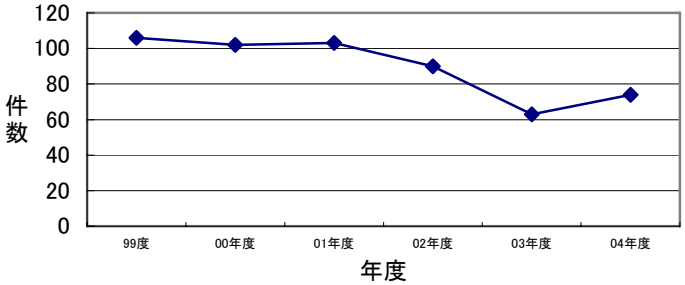
（観点に係る状況）

学生の生活，経済面での指導・相談・助言は直接には各担任が担当し，問題が生じた場

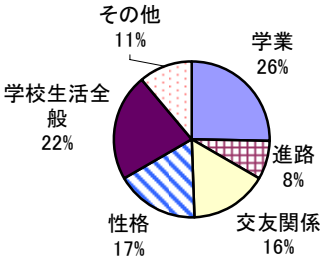
合は学生主事を中心に補導委員全体で支援を行う体制が出来ている。専攻科では，各専攻の２名の専攻科主任が学生の指導や助言にあたっている。また，近年，悩みを持つ学生が増加しているが，昭和５５年度に学生相談が開始され，昭和５６年から現在の学生相談室が開設された。相談室の組織としては，相談員４名と１名の非常勤カウンセラーとなっている。相談員は昼食時間と放課後相談室に待機し相談に応じている。また，専門カウンセラーが月２回～３回来校し，学生の悩みの相談に当たっている。保健室には専任の看護士を常駐し，日常の病気，怪我などの治療にあたっているが，相談室以外にも保健室でメンタルヘルスケアを求める学生も多い。（資料７－２－①－１）は，最近の相談室相談件数と相談内容を示している。

（資料７－２－①－１）

「学生相談室利用学生数と相談内容」



学生相談室利用者



相談内容（平成 16 年度）

（出典　学生課）

さらに，毎年，厚生補導関係教職員を中心にほぼ全員の教員が参加して，学生の悩みに関するＦＤを開催し，その報告書を刊行している。

（分析結果とその根拠理由）

学生の生活に関する指導・助言は本校が最も重点を置いているところであり，体制を作り，十分機能している。根拠と理由は前記のように担任制度があり，きめ細かい指導を行っている。休み時間，放課後にはほとんどの担任が担当のクラスへ出かけ，学生とコンタクトをとり，情報収集を行うとともに問題があれば，担当主事に連絡を行い，処理を行っている。

観点７－２－②：　特別な支援が必要な者（例えば，留学生，障害を持つ学生等が考えられる。）がいる場合には，生活面での支援が適切に行われているか。

（観点に係る状況）

現在，身体に障害を持つ学生は在籍しないが，施設整備委員会において，校内のバリアフリー化を常に検討している。

留学生については，留学生委員会を設置して，留学生の学習生活・日常生活の支援に当たっている。また，上記のようにチューター制をとり，各留学生と同じクラス寮生の学生がチューターとなり，各留学生の学習・生活両面の相談にあたっている。（資料７－２－②－１）は，留学生全員参加のツアー及び部活動の様子である。

（資料７－２－②－１）

「留学生支援」

留学生ツアー（そば道場での体験）

合気道練習のケニアからの留学生

（出典　学生課）

（分析結果とその根拠理由）

身体に障害を持つ学生は現在，在籍しないが，留学生については，学習・生活面について手厚い支援を行っている。最近の留学生はほとんどが本校卒業後，大学に進学している。

観点７－２－③：　学生寮が整備されている場合には，学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

（観点に係る状況）

自宅が遠方で通学が困難な学生のために，学生寮を設置している。入寮学生数の最近の推移と寮棟の一つを（資料７－２－③－１）に示す。

（資料７－２－③－１）

「寮生数の推移」

年 度	男　子		女　子		専 攻 科		合　計	充足率
	定　員	人　数	定　員	人　数	男 子	女 子		
平成 7	194	186	46	31			217	90.4
8	194	188	46	36			224	93.3
9	194	190	46	39			229	95.4
10	194	187	46	34	4		225	93.7
11	194	187	46	34	4	1	226	94.1
12	194	188	46	37	4		229	95.4
13	194	190	46	42	2		234	97.5
14	194	189	46	44	1		234	97.5
15	194	193	46	42			235	97.9
16	194	193	46	43			236	98.3

留学生も入寮する「南寮」

（出典　学生課）

学寮については，寮務主事が中心となり，学寮運営委員会，寮務主事団，学生課寮務係がその運営にあたっている。学寮は学校敷地内にあることから，学習，部活動に便利がよく，入寮希望者が多い。学寮運営委員会では，引き続き，居住環境の整備と学生寮運営に対する寮生・教職員の協力体制の充実を図っている。

（分析結果とその根拠理由）

根拠として，次のことがあげられる。(1) 居住環境の整備として，寮内施設の点検と整備をおこなっている。(2) 学生寮運営に対して寮生・教職員の協力体制が充実している。(3) 寮生による，寮生会を組織し，寮務担当教職員と協力体制をとって，寮生活の充実化を検討している。

観点７－２－④:　就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

専攻科設置以来，専攻科と本科の４年生で実施している校外研修と専攻科インターンシップなどの情報を調整するため，さらに学生の就職・進学を支援するため，進路指導委員会を設置している。進路指導委員会は委員長，副委員長（２名），教務主事，学生主事，専攻科長，学科・教室主任（７名），本科３学年～５学年担任（１５名），専攻科委員（７名），学生課長の計３６名から構成され，その主たる行動目標は，学生の進路に関する教員相互の情報，意見交換を密にして実効ある進路指導を展開することにある。全体会議，幹事会，指導方針検討会，などで，方針を決め，実際に学生と接する各担任との連絡も密にしている。この運営組織を（資料７－２－④－１）に示す。また，進路指導室に担当職員２名を配置し，進路指導委員会とともに学生の進路指導を支援している。

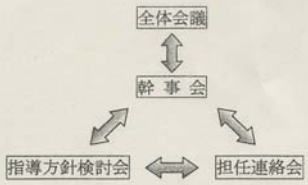
最近の就職・進学状況を（資料７－２－④－２）に示す。進路指導委員会によって，低学年からの進路指導を行うようになり，高学年に対しても担任を通して支援を行っている。

（資料７－２－④－１）

「進路指導委員会運営組織と担当業務」

平成17年度 進路指導委員会 運営組織および担当業務（案）

１．運営組織



部　　署		構　　成　　員	人数
全体会議		委員長，副委員長（２名）， 教務主事，学生主事，専攻科長， 学科主任（５名），教室主任（２名）， 本科３学年担任（５名）， 本科４学年担任（５名）， 本科５学年担任（５名）， 専攻科委員（７名）， 事務部 学生課長	36名
幹 事 会		委員長，副委員長（２名）， 本科３学年主任（辻子委員）， 本科４学年主任（村中委員）， 専攻科主任（小泉委員）， 教育システム評価委員会委員[1]（荒川委員）， 委員長補佐・企画担当（辻野委員）， 事務部 学生課長，学生係長，学生主任	11名
指導方針検討会 ［学 科］		学科主任， 本科３学年担任， 本科４学年担任， 本科５学年担任， 専攻科委員	５名[2]
担任連絡会 ［学 年］	３学年	田中嘉副委員長[3]，辻子学年主任， 担任（学年主任を除く４名），副担任[4]（５名）	最多 11名
	４学年	前川副委員長[3]， 村中学年主任，小泉専攻科主任， 担任（学年主任を除く４名），副担任[4]（５名）	最多 12名

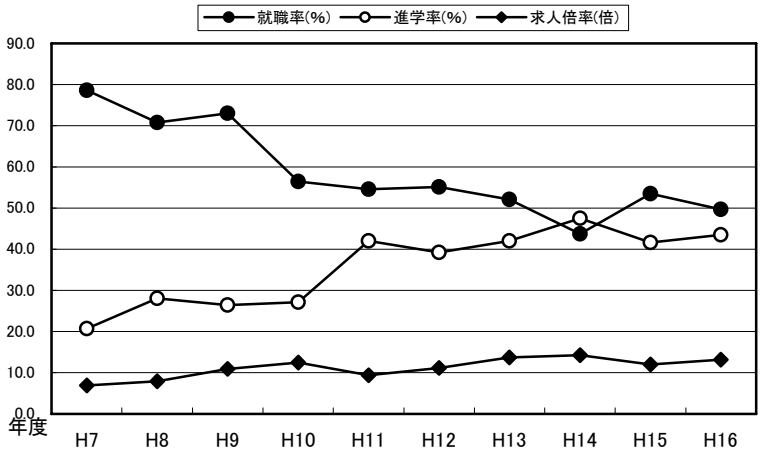
1）進路指導委員会より選出．
2）増員は学科主任の裁量に委ねる．
3）アドバイザーとして参加．
4）学年主任の依頼に応じて参加．

1

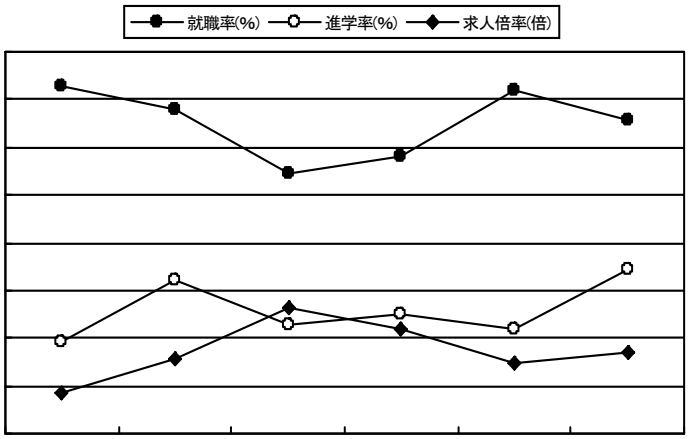
（出典　学生課）

（資料７－２－④－２）

「最近６年間の本科・専攻科の就職・進学状況」



最近６年間の本科の就職・進学状況



最近６年間の専攻科の就職・進学状況

（出典　学生課）

（分析結果とその根拠理由）

学生の進路全体に対して進路指導委員会が中心になって指導にあたっている。就職・進学だけでなく，進路指導委員会では校外実習・インターンシップも学校としての窓口とな

っており，学外者にとっても求人業務がやりやすい環境となっている。また，最近，進学する学生が増えているが，進学する学生にも進路指導室を通じて進学情報を伝えている。これらのことより，学生の進路指導が一元化され，組織で指導を行っていると言える。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

学生の学習活動，生活に対する支援は優れていると言える。また，留学生に対する支援も充実している。

（改善を要する点）

校舎の改修が遅れており，学生支援アンケートでも多くの学生が夏季のクラスの高温・高湿の環境の改善を望んでいる。現在の施設の使用管理状況の施設マネジメントを行い，これら必要な施設改修を要求中である。

（３）自己評価の概要

学生に対する学習のガイダンスは最初の授業，あるいはそれ以降に的確に行っている。また，自主学習スペースとして，図書館，総合情報処理センターを完備しているが，学生は教室でクラスメイトと語らいながらの自主学習を好んでいるようである。

近年，資格取得を多くの学生が望んでいる。英語，電気，土木，情報関係などの資格試験受験に対する支援を行っている。また，そのニーズの把握に努めている。

学生の施設に対する要望調査も行っており，現在の学生の要望は教室の冷房設備の充実と学生駐車場の整備である。これらについては，自助努力と今後の改修で改善されると考えられる。

また，留学と資格取得を望む学生が増加しているため，現在の制度の他に，交換留学制度を準備中である。資格取得を望む学生に対しては，さらに，資格取得のための支援を行う。特別な支援を必要とする学生に対しては，留学生委員会などを設置して支援にあたっているが，今後とも努力して行きたい。

学生のクラブ活動，課外活動は支援体制が充実している。学生寮が設置され，学校全体で運営にあたっている。また，学生の卒業後の進路に対する支援としては，進路指導委員会を設置して一元化して指導にあたっている。

これらにより，学生が学習しやすい環境と制度を作りたい。また，留学生，編入学生などに対しては特別な学習支援を引き続き行いたい。

８　施設・設備

（１）観点ごとの自己評価

観点８－１－①：　学校において編成された教育課程の実現にふさわしい施設・設備（校地，運動場，体育館，教室，研究室，実験・実習室，演習室，情報処理学習のための施設，語学学習のための施設，図書館等，実験・実習工場さらには職業教育のための練習船等の設備等）が整備され，有効に活用されているか。

（観点にかかる状況）

本校の施設概要は，高等専門学校設置基準において必須とする校地・校舎や施設・設備について整備・管理されている。なお，施設・設備の整備計画等については，平成１２年度に作成された「教育環境改善計画」及び「施設長期計画書」に基づいて継続的に整備されている。

本校では，大規模教室として大講義室，視聴覚ホール，合併教室があり，複数クラス同時講義や各種講演会に対応できるスクリーンが設置され空調設備も整っている。語学演習室（ＬＬ教室）は，低学年から高学年までの英語コミュニケーションの講義に利用されている。専攻科棟の講義室は，エアコン，スクリーン，プロジェクターを備えており，プレゼンテーションを課した講義を行うことにも適している。

本科学生実験及び専攻科工学実験を行うための施設は十分であり，機械実習工場は機械工学科における工作実習に主として使用されているが，教員の研究はもちろんのこと，本科卒業研究，専攻科特別研究などにも応えている。また，地域連携テクノセンターには，超高分解能電子顕微鏡システム，電解放射型走査電子顕微鏡システム等の大型機器が導入されており，卒業研究，特別研究において，教員の指導の基で学生が利用している。なお，平成１６・１７年度には，地域企業との共同研究・技術相談を積極的に実施し，産官学連携事業を展開し地域貢献を果たす目的でセンター内に伝統産業支援室及び地場産業支援室を設置している。

情報関連施設としては，総合情報処理センターにおいて１クラス（４０名）分以上の台数のパソコンを設置した演習室が２部屋あり，スクリーン及びプロジェクターが常設され小規模の発表会にも対応可能となっている。

また，コンピュータ支援システムによって学生の自学自習を効率よく進めるために「情報リテラシー室」と「ものづくりアトリエ」が設置されe-learning支援システムを使った学習環境や従来から手作業で進められてきた製図を学生がＣＡＤシステムを使ってできるようにソフトウェアも含めて整備されている。

図書館には，学習に必要な専門図書をはじめ，一般教養図書，新聞，雑誌を多数備えており学生の様々な学習内容や教養・趣味の情報収集に十分対応できるよう配慮がなされている。また，技術士資格取得や技術者倫理のコーナーを設けて学生の啓蒙を図っている。更に，映画や音楽に興味のある学生のためにＣＤ，ＬＤ，ＤＶＤなどを利用できるオーディ

オルームが設けられている。

なお，施設の利用状況や安全性など，全ての施設・設備について施設整備部会において「施設点検評価基準」を策定し，この基準に基づき施設の無駄を省き効率的に有効活用を図る目的で既存施設の点検調査（建物見直し管理表）を実施している。

今後，本校の学習教育目標における各学科の特徴を活かした「ものづくり教育」のさらなる発展および独走力と創造性を持つ技術者を育成するためには，低学年における混合教育（工学基礎コース）に対処するための教育環境改善が必要となる。よって，現行施設における教室の狭隘化解消，デザインマインドを有する技術者養成のためのデザイン工房の設置を柱とした施設整備概算要求を行っているところである。

（分析結果とその根拠理由）

本校の施設・設備については，高等専門学校設置基準において校地・校舎・運動場等の施設及び教育用器具･計測機器等の設備が全て整備されている。また，平成１４年度には，自己点検・評価報告書によって施設の現状と問題点が分析されていることから，殆どの施設・設備は有効に活用されている。

観点８－１－②：　教育内容，方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され，有効に活用されているか。

（観点にかかる状況）

本校のキャンパス情報ネットワーク（FINESS）として，校内ＬＡＮを構築し，すべての教室がインターネットに繋がる環境となっている。また，基幹であるギガビットスイッチから各学科棟スイッチまでは二重化した光ケーブルが敷設され，基幹を１Gbps×２の２Gbps，支線を１００Mbps に高速化されている。

学外ネットワークに関しては，インターネット(SINET)への対外接続を果たし，校内ネットワーク網の整備とともに順次，高速化を進め６Mbps に増強され安定的な外部接続を確保するために以下のような形態の回線接続を行っている。

①SINET 接続先ノードを福井大学として，回線速度は１０Mbps(イーサネット)に高速化，増強している。

②同時に，SINET の負荷分散及び SINET 障害時のバックアップ（非常回線）を目的にマルチホーム(１０Mbps，イーサネット)化が実現されている。

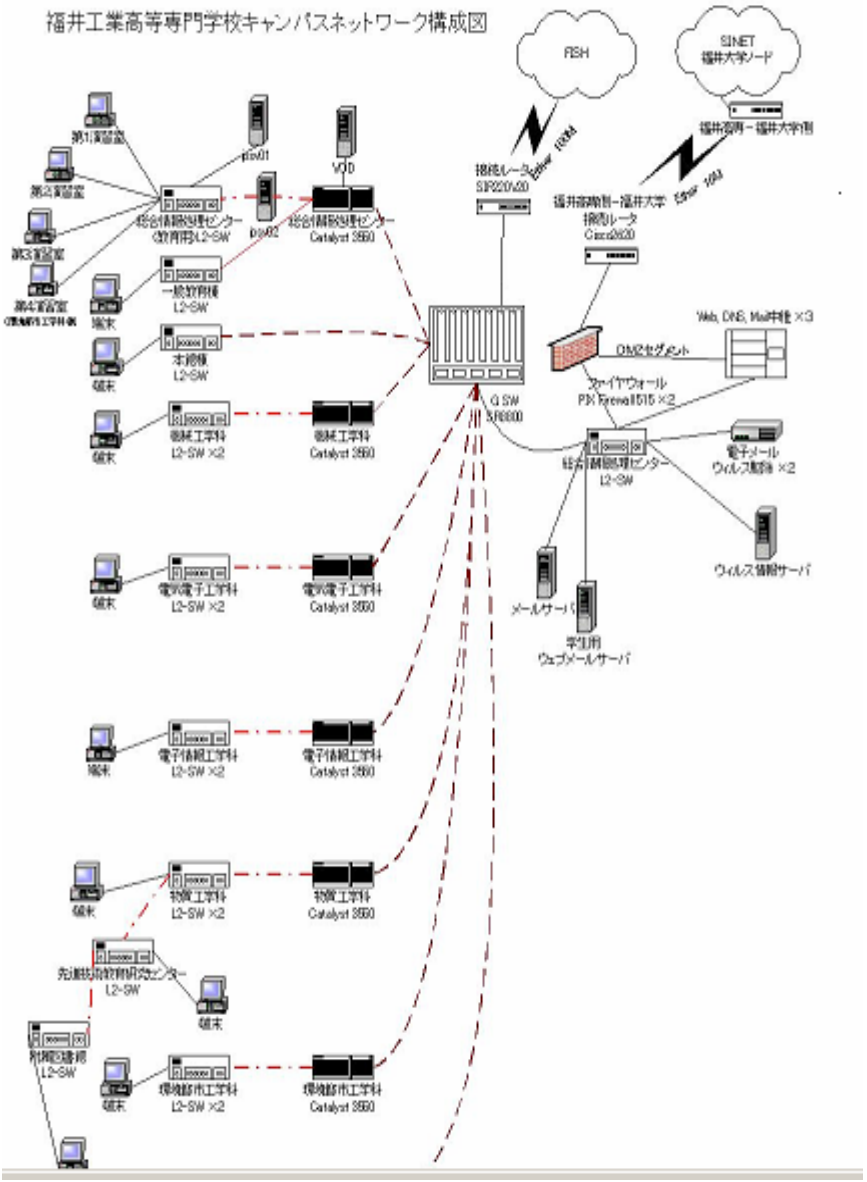
③福井大学等の県内教育機関との遠隔授業等の活用を目指すため，福井情報スーパハイウェイ(FISH)に加入し，100Mbps で接続している。

よって，総合情報処理センターでは，管理体制の基に情報処理教育の初歩から高度な専門教育まで幅広いＩＴ(情報技術)教育の中心を担っており，本センターの教育用電子計算機システム構成は，サーバ室に２台のサーバ機を配置し，クライアントパソコンとして，第１演習室に４６台，第２演習室に７台，第３演習室に５０台及び第４演習室（環境都市工学科３階ものづくりアトリエ）に４６台の WindowsXP マシンを用意して、４クラスが同時に利用可能となっている。また，ネットワーク利用心得でモラルとマナー教育を重視し情報活用における倫理観の育成を実践している。

情報セキュリティに関しては，校内ネットワークのセキュリティ確保のために情報セキュリティシステムが導入されており，ファイアウォールの強化と二重化による信頼性の向上，学内向けサーバの負荷分散システムの構築を行っている。また，コンピュータウィルス対策として，安全な電子メールの送受信を行なうために電子メールウィルス除去サーバが設置されている。端末におけるウィルス対策ソフトとして，校内に設置されたウィルス情報サーバから最新パターンファイルが自動更新されることにより，効果的なウィルス駆除ができるなど，全校的なウィルス対策が施されている。

（資料８－１－②－１）

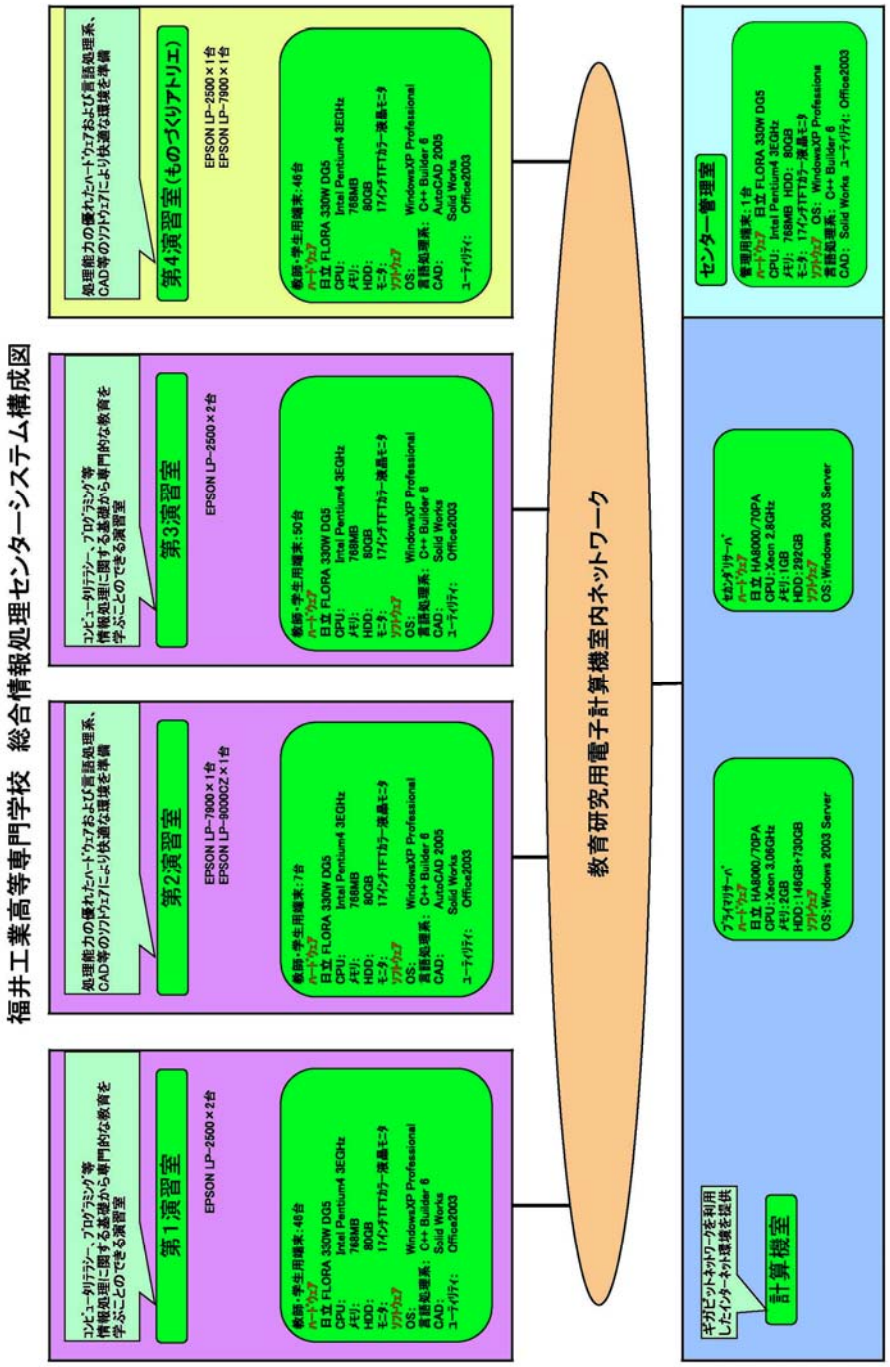
「ネットワーク構成図」



（出典　総合情報処理センター）

（資料８－１－②－２）

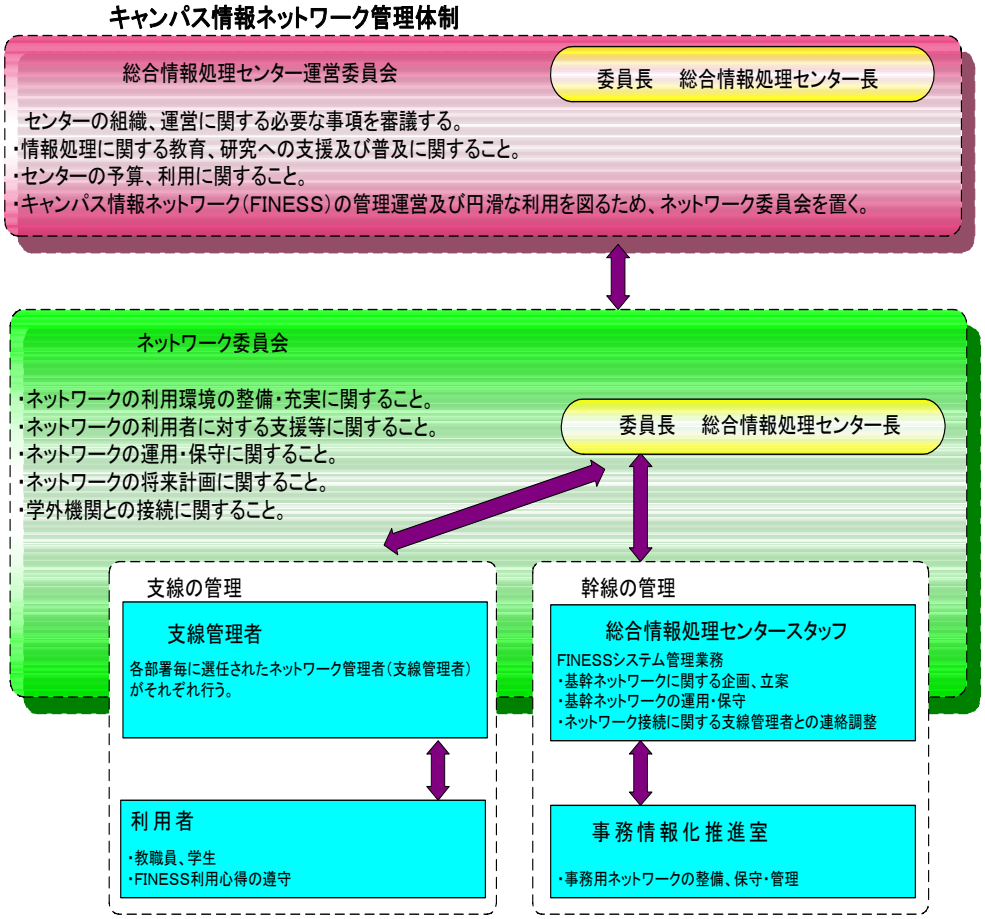
「情報処理センターシステム構成図」



（出典　総合情報処理センターＨＰ）

（資料８－１－②－３）

「キャンパス情報ネットワーク管理体制」



（出典　総合情報処理センター）

（資料８－１－②－４）

「ネットワーク管理業務」

FINESSシステム管理業務

FINESSシステム管理者の業務内容を下記のように具体的に定め、その役割の重要性、責任の重さ及ぶ業務の多様性について利用者等の理解を得ることにより、システムの円滑な運用を図る。

記

1. 新規ユーザの登録及びユーザの異動に伴うユーザ情報の更新・削除を行う。
2. 障害等に備えるため、各情報の重要性に応じ、定期的なバックアップを実施する。
3. システムがダウンした時は、速やかに復旧作業に当たる。
4. クラッシュなどシステムダウンの際、システムをリブートする。
5. ユーザの質問に適切に応答する。
6. システム利用者への教育を行う。そのための教材を作成する。
7. システムのセキュリティに注意を払い、継承された有害なセキュリティホールを

（出典　総合情報処理センター）

（資料８－１－②－５）

「ネットワーク利用心得」

FINESS利用心得

FINESSは本校に設置される各種のコンピュータが相互に通信を行うために敷設された学内共同利用のためのデータ通信路である。

FINESSの利用者等は、利用に際し、下記の事項に留意のうえ利用しなければならない。

なお、利用者等が必要な届出を怠ったとき又は禁止されている行為を行ったときはFINESSの利用を停止又は制限し、又はその行為が学則や社会規範にも反するようなものである場合は、別途、学校による処罰が課せられるほか、告訴される場合もある。

記

【届け出事項】

1. FINESSへの接続にあたっては、別に定める様式に基づき支線管理者に届け出るとともに、IPアドレス及びホスト名を当該ホストに設定すること。
2. IPアドレス及びホスト名を変更しようとする場合には、速やかに支線管理者に届け出ること。ただし、ホストに別名を付けることは差し支えない。
3. FINESSに学科内ネットワークを接続する場合又はネットワークを変更する場合は、支線管理者及びセンターと十分打ち合わせた後に、接続に使用する機器等を決定し、ネットワーク接続(又は変更)依頼書をセンター長に提出すること。
4. 通信路のケーブル等に損傷を与えるようなことが生じた場合は、速やかに支線管理

（出典　総合情報処理センター）

資料８－１－②－６）

「演習室の授業利用と一般使用時間」

演習室の授業利用と一般使用時間

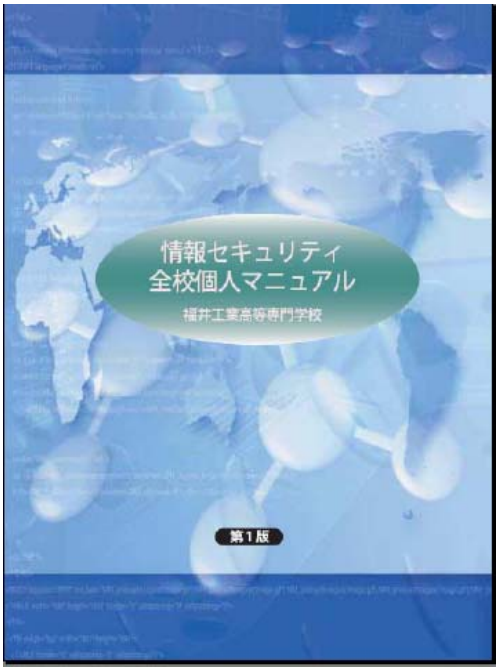
平成17年度前期授業利用状況と一般使用

曜日	時限	第1演習室	第2演習室	第3演習室	第4演習室
月	1	3Ｅ 電子回路Ⅰ	使用可能	4Ｅ 電子情報工学実験Ⅳ	4Ｂ 数値解析
	2	1F2 ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ科学入門			使用可能
	3	1F1 ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ科学入門		使用可能	4Ｂ 環境都市工学実験実習Ⅳ
	4	使用可能			
曜日	時限	第1演習室	第2演習室	第3演習室	第4演習室
火	1	1F4 ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ科学入門	4Ｍ 知能機械演習	4Ｅ 情報構造論	使用可能
	2	1F3 ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ科学入門		4Ｅ 電子回路Ⅱ	
	3	使用可能	使用可能	3Ｅ 電子情報工学実験Ⅲ	2Ｂ ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ
	4				5Ｂ 空間情報工学
曜日	時限	第1演習室	第2演習室	第3演習室	第4演習室
水	1	2Ｍ Ｃ言語基礎	2Ｅ 電子情報工学実験Ⅱ	2Ｅ 電子情報工学実験Ⅱ	3Ｂ 環境都市工学実験実習Ⅲ
	2	4Ｍ 機械計算力学			
	3	3Ｃ 情報処理演習	使用可能	3Ｅ 情報処理Ⅱ	5Ｂ 環境都市工学設計製図Ⅲ
	4	使用可能		使用可能	AD 総合学習
曜日	時限	第1演習室	第2演習室	第3演習室	第4演習室
	1	1F5 ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ科学入門	5Ｍ 機械工学実験Ⅱ	2Ｃ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ基礎	5Ｂ 環境都市工学設計製図Ⅱ

（出典　総合情報処理センターＨＰ）

（資料８－１－②－７）

「情報セキュリティマニュアル」



（出典　総合情報処理センター）

（分析結果とその根拠理由）

本校の十分なセキュリティ管理の下，インターネット及び電子メール等の利用を含め，学生のネットワーク利用環境が整備されている。特に，総合情報処理センター演習室端末を平成１７年度から５０台増強して１５０台に整備するなど，学生へのＩＴ教育支援，インターネットを利用した教育・学習環境の充実を図っている。更に，演習室端末には，有害なサイトを排除できるコンテンツフィルタを導入し教育的な配慮を行っている。電子メールに関しては，すべての本科学生及び専攻科学生にメールアカウントを交付し，利便性の高いウェブメールで運用している。このことから，クラス担任からの諸連絡が電子メールでも受信可能となっている。現状では，これらが有効活用されており，学生のニーズを十分に満たしている。

今後，校内ネットワークの老朽化による障害が予想されるため，基幹サーバ及び基幹ネットワークの更新が必要不可欠なことや外部接続の更なる高速化，増強化の実現に向けて整備していく必要がある。

観点８－２－①：　図書，学術雑誌，視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され，有効に活用されているか。

（観点にかかる状況）

本校の図書館では，閲覧室に約７０，０００冊の図書（内洋書８，０００冊），８，０００

冊の文庫・新書本と１，５００種の雑誌（内洋雑誌３００種）など学科の種類，教員数及び学生数に応じた図書，学術雑誌など教育研究上必要な資料として利用しやすく系統的に配架し，高等専門学校設置基準に基づく整備がなされている。また，学生及び教員のニーズに対応した教科書コーナー・洋書コーナーのほか，ものづくり教育やＪＡＢＥＥ関連資料も独立コーナーとして整備し，有効に活用されている。

閲覧室には，各種情報検索及びインターネットが利用できるパソコンを１４台設置し，図書館ホームページからScienceDirect・ACS等の電子ジャーナルやJDream・MathSciNet・KANON等のデータベースも自由に利用ができるように整備している。また，視聴覚資料の利用としてＡＶ機器を６台設置し，有効活用を図っている。平成１６年４月からは情報検索システム（ＯＰＡＣ）を公開し，インターネットによる学外からの資料の検索も可能にしている。

図書管理用統計に示すとおり，図書館利用促進の観点から図書館の開館時間を月曜日から金曜日までは午後８時までとし土曜日は午後４時３０分まで利用可能にして学生，教職員の教育・研究活動の利便を図っている。また，電動式集密書架の設置により図書収容能力冊数が７０,０００冊から１２０,０００冊への増加となり利用者の便が図られている。

図書館システムに関しては，蔵書検索システムが稼動しており図書館総合情報管理システム情報館５．０（ブレインテック社）が導入され，図書の貸出・返却，図書館資料の発注・受入，蔵書点検，文献複写の依頼等を行い，インターネットによる蔵書検索も可能となっている。また，図書館退館管理システムを導入しており，所属不明図書対策に効果を上げている。

各種ハンドブック及び美術関係図書等を更新するとともに閲覧室に開架書架（３，３００冊分）を増設し，新規購入図書はカバーをつけてシート表装する等して分別配架し，一層の活用を図っている。

（資料８－２－①－１）

「図書館の蔵書数」

蔵書冊数　（平成１７年３月３１日現在）

	図書（冊）	教育後援会文庫（冊）（文庫・新書本）	雑誌（種類）	視聴覚資料（点）
和漢書	６８，９５８	８，１１３	１，４６４	２，０１１
洋　書	８，４３５	１５８	３１６	３，１９３
合　計	７７，３９３	８，２７１	１，７８０	５，２０４

（出典　図書係）

（資料８－２－①－２）

「受入図書数内訳及び蔵書構成」

図書館運営委委員会資料

平成１６年度受入図書数内訳及び蔵書構成

受入図書数内訳

分類	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	技術	産業	芸術	言語	文学	
和書	32	18	24	35	235	174	7	195	26	65	811
洋書	1	0	0	0	12	1	0	1	0	0	15
合計	33	18	24	35	247	175	7	196	26	65	826

蔵書構成（平成１６年度まで）

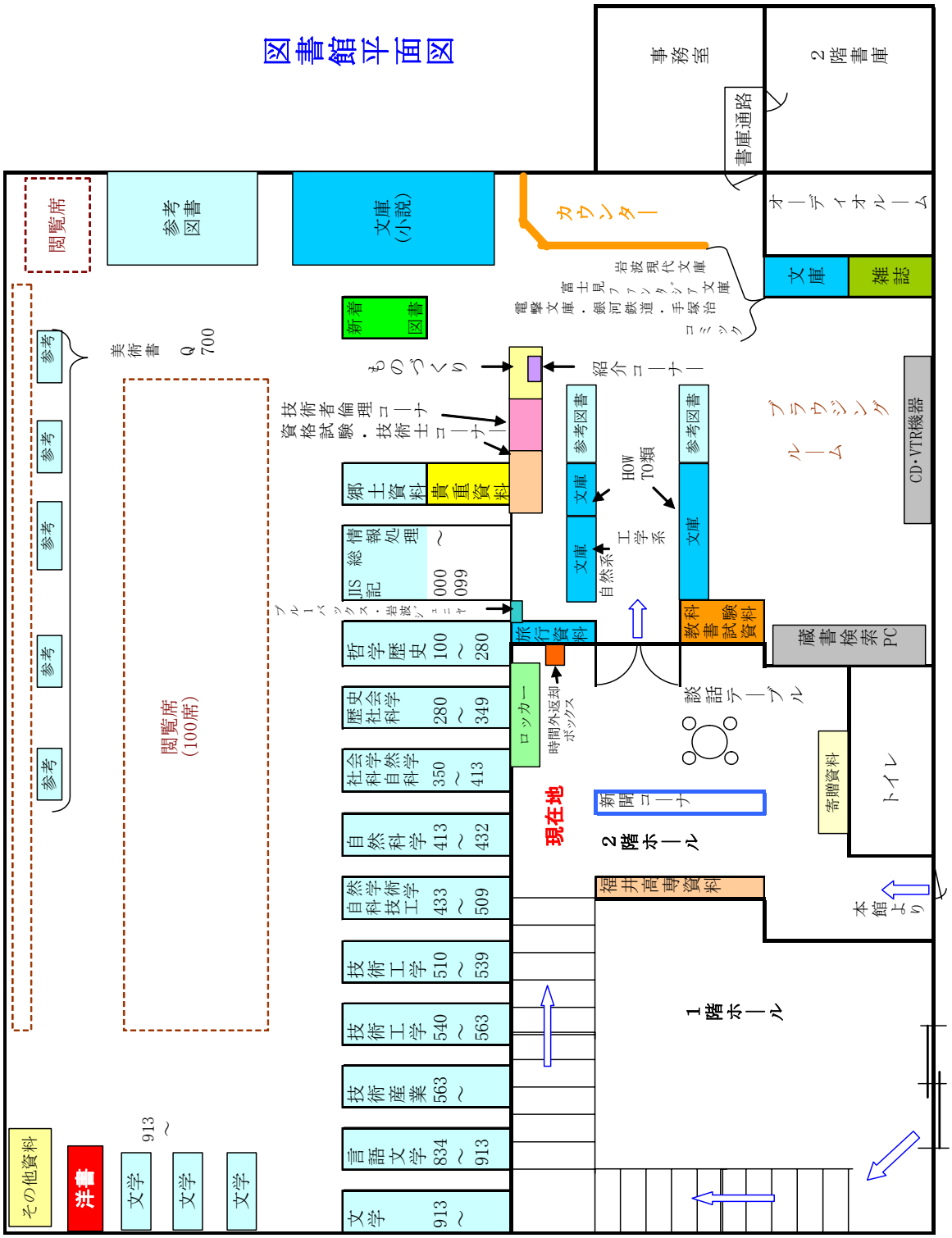
分類	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	技術	産業	芸術	言語	文学	
和書	6,623	2,725	4,902	5,105	15,111	17,547	763	2,957	3,534	9,691	68,958
洋書	460	347	190	235	3,727	1,493	9	48	1,028	898	8,435
合計	7,083	3,072	5,092	5,340	18,838	19,040	772	3,005	4,562	10,589	77,393
比率(%)	9.2	4.0	6.6	6.9	24.3	24.6	1.0	3.9	5.9	13.7	100.0

蔵書合計
85,662

（出典　図書館運営委員会資料）

（資料８－２－①－３）

「図書館平面図」



（出典　図書館）

（資料８－２－①－４）

「図書館利用統計」

平成１６年度月別利用統計

月	開館日数	入館者数	貸出冊数	貸出者数	入館者数／日	貸出冊数／日	貸出者数／日
4	23	5,290	725	431	230.0	31.5	18.7
5	23	5,725	683	348	248.9	29.7	15.1
6	26	6,728	699	344	258.8	26.9	13.2
7	15	3,424	502	247	228.3	33.5	16.5
8	22	1,906	199	98	86.6	9.0	4.5
9	24	6,762	491	249	281.8	20.5	10.4
10	21	5,975	534	306	284.5	25.4	14.6
11	23	7,239	685	386	314.7	29.8	16.8
12	21	4,997	432	243	238.0	20.6	11.6
1	20	4,899	555	296	245.0	27.8	14.8
2	23	6,688	711	377	290.8	30.9	16.4
3	23	4,380	245	126	190.4	10.7	5.5
計	264	64,013	6,461	3,451	242.5	24.5	13.1

開館時間延長分（上記の数の内数）

月	開館日数	入館者数	貸出冊数	貸出者数	入館者数／日	貸出冊数／日	貸出者数／日
4	19	887	142	73	46.7	7.5	3.8
5	23	1,158	209	104	50.3	9.1	4.5
6	25	1,334	127	68	53.4	5.1	2.7
7	15	547	66	32	36.5	4.4	2.1
8							
9	23	1,253	82	43	54.5	3.6	1.9
10	21	1,206	153	83	57.4	7.3	4.0
11	23	1,489	179	100	64.7	7.8	4.3
12	16	996	86	49	62.3	5.4	3.1
1	17	1,065	113	62	62.6	6.6	3.6
2	22	1,383	80	44	62.9	3.6	2.0
3	10	521	32	18	52.1	3.2	1.8
計	214	11,839	1,269	676	55.3	5.9	3.2

（出典　図書館運営委員会資料）

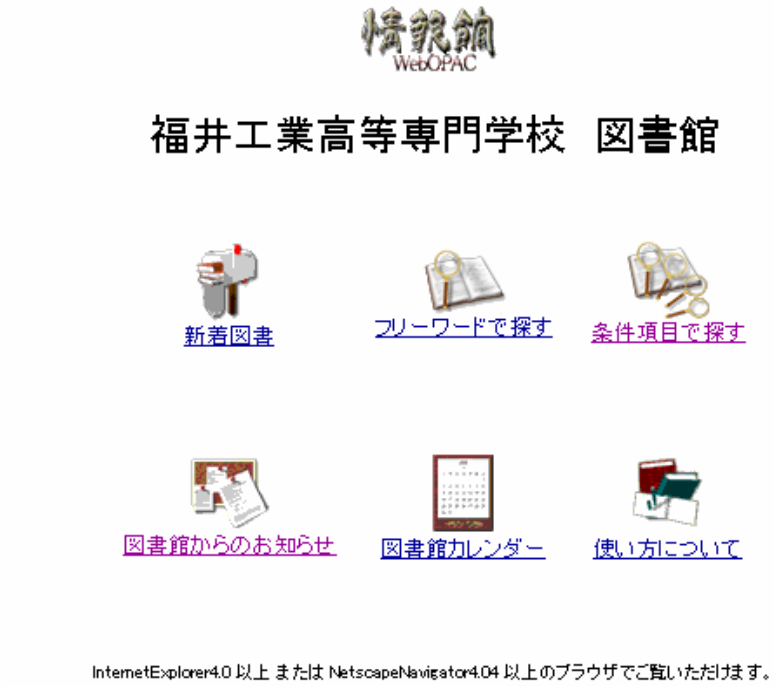
（資料８－２－①－５）

「図書館ホームページ」

（出典　図書館ＨＰ）

（資料８－２－①－６）

「情報検索システム（ＯＰＡＣ）」



（出典　図書館）

（分析結果とその根拠理由）

図書館閲覧室には約１００,０００点の資料を分別・配架し，利用者の便を図っている。図書館資料に貼付したバーコードにより，図書の貸出・返却・予約，館内利用のみ許可している視聴覚資料の閲覧・返却を迅速に処理でき，利用状況も瞬時に把握できている。また，新着資料案内・貸出資料の延滞者への督促や利用状況等の統計処理等も遅滞なく実施されている。

図書館ＨＰには，ＯＰＡＣ, ScienceDirect・ACS 等の電子ジャーナル，JDream・MathSciNet・KANON 等の情報サービスが掲載されており図書館利用者の学習・教育研究に大いに役立っている。また，教員研究室の端末から資料の発注・文献複写の依頼ができ，教員は KANON（ScienceDirect にリンクしてある）を利用することで，即座に文献が入手できるシステムとなっている。また，退館システムの導入により，所在不明図書が激減している。

今後，卒業研究やものづくり教育等で図書館を利用したグループ学習のための独立した学習室が必要である。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

本校の施設・設備は，「教育環境改善計画」及び「施設長期計画書」に基づいて継続的に整備されている。また，自己点検・評価報告書による施設の現状と問題点が分析されていることから，殆どの施設・設備は有効に活用されている。

情報ネットワークに関しても十分なセキュリティ管理の下，インターネット及び電子メール等の利用を含め，学生のネットワーク利用環境が整備されている。

図書館についても学科の種類，教員数及び学生数に応じた図書，学術雑誌など教育研究上必要な資料として利用しやすく系統的に配架し整備がされている。また，学生のニーズに対応した各種コーナーも設置され有効に活用されている。

（改善を要する点）

本校の校舎については，自己点検・評価報告書にもあるように老朽化が進んでおり教育環境改善の観点から早急な改修の必要性に迫られている。

情報ネットワークについては，ネットワークの老朽化による障害が予想されるため，基幹サーバ及び基幹ネットワークの更新が必要不可欠なことや外部接続の更なる高速化，増強化の実現に向けて整備していく必要がある。

図書館では，卒業研究やものづくり教育等で図書館を利用したグループ学習のための独立した学習室の設置が必要である。

（３）自己評価の概要

本校の目的や教育課程に対応した校地・校舎・教室・図書館棟・情報処理センター・体育館・運動場等の施設が整備されているほか，教育用の機械器具・計測機器等の設備も適切に整備され，それぞれ有効に活用されている。また，学内の情報ネットワークについては，校内ＬＡＮの高速化，学外接続の高速化を最大限に図って来ているほか，情報セキュリティの面からもウィルスに対処する仕組みを整備するなど教育や学生のニーズを満たすものとして適切に整備され，有効に活用されている。

図書館については，学生及び教員のニーズに応じて系統的に収集された図書，学術雑誌，視聴覚資料等の教育研究上必要な資料が充実した状態で整備されている。また，書架の配置や検索用のパソコン等の設備，並びに土・日曜日や夜間に開館するなど利便性が十分に考慮されており，学生からも有効に活用されている。

以上のとおり，施設・設備が整備され，有効に活用されているほか，情報ネットワークも十分なセキュリティ管理下で適切に整備され図書，学術雑誌，視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料も整備されている。

９　教育の質の向上及び改善のためのシステム

（１）観点ごとの分析

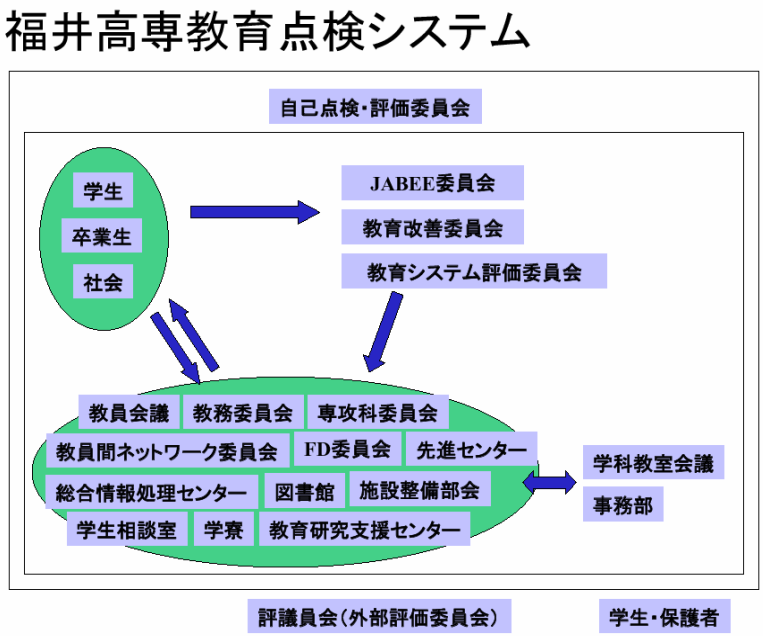
観点９－１－①：　教育の状況について，教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され，評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

（観点に係る状況）

本校には教育を点検・評価する「教育点検システム」（資料９－１－①－１）が存在する。自己点検・評価委員会は教育点検システム全体を俯瞰的に評価し，本校全体を評議員会が評価する。各委員会でも内部的に点検を行っているほか，教育改善委員会等からも点検される仕組みとなっている。

（資料９－１－①－１）

「福井工業高等専門学校教育点検システム構成図」



（出典　ウェブページ）

平成１４年に自己点検・評価報告書「２１世紀に輝く福井工業高等専門学校の教育と研究」を取りまとめた。これを受け，平成１６年に教育システム評価委員会が発足した。同年には日本技術者教育認定機構（ＪＡＢＥＥ）へ「環境生産システム工学自己点検書」を提出した。その指摘事項は関連する委員会等にフィードバックされ，同年１２月に改善報告書を提出，平成１７年５月に認定を受けた。平成１７年度には最新の自己点検・評価報告書を発行する予定である。

以上の教育点検システムで求められる教育活動実態は，シラバスや教員総覧等においてまとめられ，開示されている。この他，教育活動評価，研究活動評価，教員の教育業績等評価（校長表彰）において教員個々の業績を把握している。

特に，授業に関する活動実態は，半期毎に実施される授業アンケートや公開授業（資料９－１－①－２）で収集されると共に，成績評価資料（資料９－１－①－３）として保管され，必要に応じ教員が相互に確認できる体制となっている。

（資料９－１－①－２）

「平成１６年度公開授業（抜粋）」

実施教員 前川 公男
授業科目 電子回路Ⅱ
実施日　　平成 16 年 10 月 6 日　　1 限目　4Ei
関連教員 1　　野村 保之
科内教員 1　　井上 昭浩
他学科教員 1　　吉崎 保夫　　荒川 正和
改善委員 野村 保之
懇談会日 平成 16 年 10 月 7 日
懇談会場所　　電子情報工学科図書会議室（15:15～16:15）

実施教員 井上 清一
授業科目 自動制御
実施日　　平成 16 年 10 月 6 日　　3 限目　5M
関連教員 1　　佐藤 匡
科内教員 1　　吉崎 保夫
他学科教員 1　　青山 義弘　　井之上 和代
改善委員 芳賀 正和
懇談会日 平成 16 年 10 月 6 日
懇談会場所　　専攻科棟ゼミ室１（16:30～17:15）

（後略）

（出典　学生課）

（資料９－１－①－３）

「成績評価資料」

成績評価資料について

教務主事

JABEE 審査は一応終わりましたが、今後とも下記の成績評価資料が必要ですのでご協力をよろしくお願いいたします.

○シラバス
□4 月に学生に配布したシラバスのコピー.
□シラバスを修正した場合は，修正したシラバスのコピー.
・試験問題，レポート課題の内容はシラバスに一致していること.

○教科書
□授業に使用した教科書の表紙および目次のコピー.（実地審査のときは現物）
□教科書と同程度の重要性をもって配布したプリントのコピー（含む実験指導書）.
□講義ノートのコピー（教科書を使用せず，プリントも配布しなかった場合）.
・教科書とシラバスを見れば，授業内容のレベルがわかります．そのレベルが大学レベルであることが上記のもので確認できます.

○成績評価表
□最終成績を算出する評価式（シラバスの記載と一致していること）.
・例　0.4*中間試験得点+0.4*期末試験得点+0.2*レポート得点
□各定期試験の成績一覧表（現在教務係へ，前期中間試験，前期成績，後期中間試験および学年成績一覧を提出していますが，それに加えて前期期末試験および後期期末試験成績一覧が必要です.）

（出典　学生課）

また，教育活動に関する資料のデータベース化を図るために，認証評価委員会の中にデータベースＷＧが設けられ，資料の電子化が進められている。

（分析結果とその根拠理由）

教育を点検・評価できる「教育点検システム」が整備されており，このシステムに従って教育活動の実態を示すデータや資料が適切に蓄積され，適切に評価が行われている。評価方法は自己評価，相互評価，学生からの評価，外部評価と多様であり，結果が的確にフィードバックされている。その成果として数報の自己点検書を提出・開示しており，今後も継続的な自己点検の実施が定まっている。

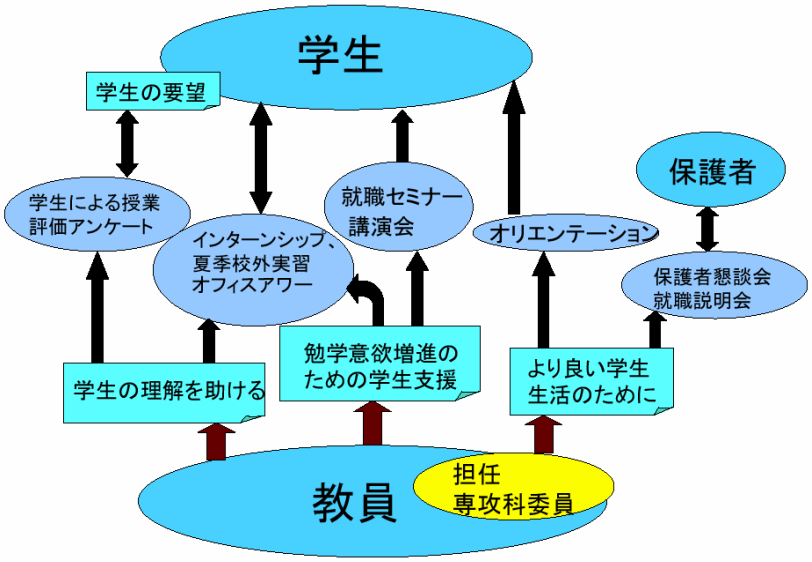
観点９－１－②：　学生の意見の聴取（例えば，授業評価，満足度評価，学習環境評価等が考えられる。）が行なわれており，教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

（観点に係る状況）

本校では「学生支援体制」（資料９－１－②－１）が定められ，ウェブページで開示されている。

（資料９－１－②－１）

「学生支援体制」



学生支援の仕組み

（出典　ウェブページ）

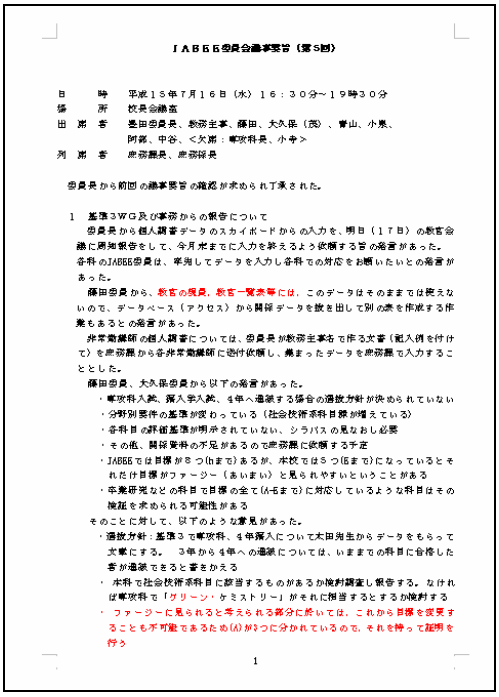
授業アンケートは，準学士課程，専攻科課程共にこれまで５回実施されている。平成１６年度以降，前期最終週（第１５週）ならびに後期最終週（第３０週）の授業時間中に授業アンケートを実施できるよう年間計画が定められ，シラバスにも明記されている。科目担当者は，授業アンケート結果に基づき，結果の分析や改善課題等を記入し提出している。これをまとめた報告書は図書館等において開示されている。

学生生活や教育環境への要望の集約のために，平成１５年度および平成１７年度に学生支援アンケートを実施している。学生支援アンケートの集計結果は関係部署にフィードバックされ，回答書が作成されている。図書館，総合情報処理センター，学寮各施設において回答書が掲示されている。これ

らの対応については，自己点検書に明記されている。

（資料９－１－②－２）

「学生支援アンケートの実施状況に関する記載」



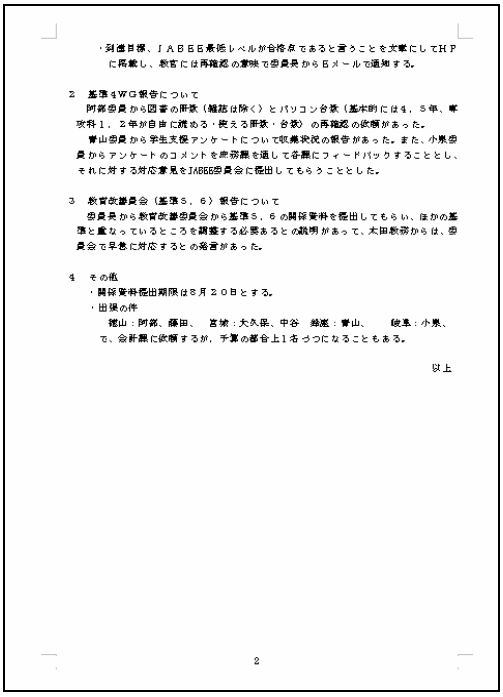
ＪＡＢＥＥ委員会議事要旨（第５回）

日　　時　　平成１５年７月１６日（水）１６：３０分～１９時３０分
場　　所　　校長会議室
出 席 者　　吳田委員長、教務主事、藤田、大久保（西）、青山、小泉、
　　阿部、中谷、＜欠席：軍攻科長、小寺＞
列 席 者　　庶務課長、庶務係長

委員長から前回の議事要旨の確認が求められ了承された。

１　基準３ＷＧ及び事務からの報告について
　委員長から個人調書データのスカイボードからの入力を、明日（１７日）の教官会議に周知報告をして、今月末までに入力を終えるよう依頼する旨の発言があった。
各科のJABEE委員は、率先してデータを入力し各科での対応をお願いたいとの発言があった。
　藤田委員から、教官の負担、教官一覧表等には、このデータはそのままでは使えないので、データベース（アクセス）から関係データを抜き出して別の表を作成する作業もあるとの発言があった。
　非常勤講師の個人調書については、委員長が教務主事名で作る文書（記入例を付けて）を庶務課から各非常勤講師に送付依頼し、集まったデータを庶務課で入力することとした。
　藤田委員、大久保委員から以下の発言があった。
・軍攻科入試、編入学入試、４年へ進級する場合の通放方針が決められていない
・分野別要件の基準が変わっている（社会技術系科目群が増えている）
・各科目の評価基準が明示されていない、シラバスの見なおし必要
・その他、関係資料の不足があるので庶務課に依頼する予定
・JABEEでは目標が８つ(hまで)あるが、本校では５つ(Eまで)になっているとそれだけ目標がファージー（あいまい）と見られやすいということがある
・卒業研究などの科目で目標の全て(A-Eまで)に対応しているような科目はその検証を求められる可能性がある
　そのことに対して、以下のような意見があった。
・通放方針：基準３で軍攻科、４年編入について大田尚生からデータをもらって文章にする。　３年から４年への進級については、いままでの科目に合格した者が進級できると書きかえる
・　本科で社会技術系科目に該当するものがあるか検討調査し報告する。なければ軍攻科で「グリーン・ケミストリー」がそれに相当するとするか検討する
・　ファージーに見られると考えられる部分に於いては、これから目標を変更することも不可能であるため(A)が３つに分かれているので，それを持って証明を行う

1



・到達目標、ＪＡＢＥＥ最低レベルが合格点であると言うことを文章にしてＨＰに掲載し、教官には再確認の意味で委員長からＥメールで通知する。

２　基準４ＷＧ報告について
　阿部委員から図書の冊数（雑誌は除く）とパソコン台数（基本的には４，５年、軍攻科１，２年が自由に流める・使える冊数・台数）の再確認の依頼があった。
　青山委員から学生支援アンケートについて収集状況の報告があった。また、小泉委員からアンケートのコメントを庶務課を通して各課にフィードバックすることとし、それに対する対応意見をJABEE委員会に提出してもらうこととした。

３　教育改善委員会（基準５，６）報告について
　委員長から教育改善委員会から基準５，６の関係資料を提出してもらい、ほかの基準と重なっているところを調整する必要あるとの説明があって、太田教務からは、委員会で早急に対応するとの発言があった。

４　その他
・関係資料提出期限は８月２０日とする。
・出張の件
　補山：阿部、藤田、　宮城：大久保、中谷　綾瀬：青山、　　徳島：小泉、
で、会計課に依頼するが，予算の都合上１名づつになることもある。

以上

2

（出典　平成１５年度第５回ＪＡＢＥＥ委員会議事要旨）

（分析結果とその根拠理由）

授業アンケート，学生支援アンケート，公開授業が行なわれており，学生の要望に対する回答が開示されている。特に授業アンケート結果は，教員による分析・課題等を加筆した上で報告書として開示されている。

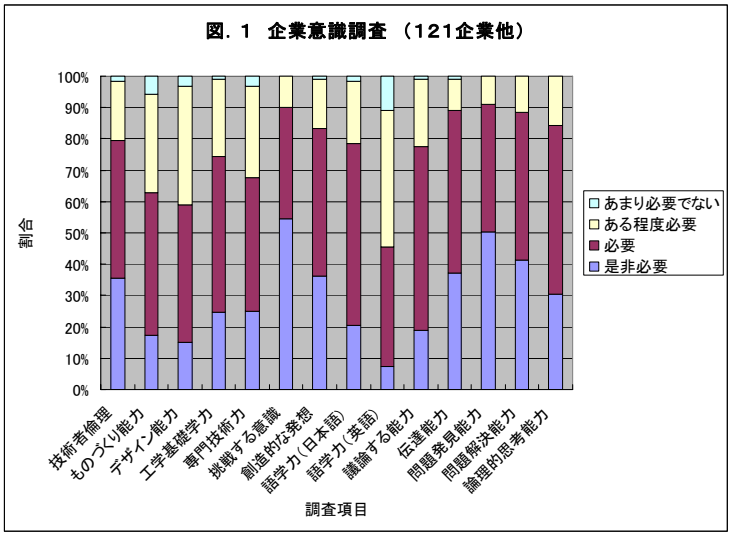
観点９－１－③：　学外関係者（例えば，卒業（修了）生，就職先等の関係者等が考えられる。）の意見が，教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

（観点に係る状況）

平成１５年度，卒業生（修了生）に対してアンケートを実施し，学校に対する意見を収集している。平成１６年よりインターンシップ実施時に，訪問先の企業等全てに対し「企業からみた学習・教育目標への要望および福井高専卒業生に求める能力・資質の把握」に関するアンケートを実施している。これらの結果は教員会議で報告され，自己点検書に明記されている。

（資料９－１－③－１）

「企業からみた学習・教育目標への要望および福井高専卒業生に求める能力・資質の把握」



（出典　教員会議資料）

（分析結果とその根拠理由）

学外関係者からの意見聴取については不定期ではあるが実施され，開示されている。今後も継続的にアンケートを実施することが予定されている。

観点９－１－④：　各種の評価（例えば，自己点検・評価，教員の教育活動に関する評価，学生による達成度評価等が考えられる。）の結果を教育の質の向上，改善に結び付けられるようなシステムが整備され，教育課程の見直しなど具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

（観点に係る状況）

本校には「教育点検・改善システム」が存在する。各委員会が，Plan（計画）→Do（実施および運用）→Check（点検・検証）→Action（見直し，改善）という４段階の役割を果たしている。各段階に議論の中心をなす委員会（Plan に関しては協議会および将来構想検討委員会，同様に Do は教員会議，Check は自己点検・評価委員会（内部評価）および評議員会（外部評価），Action は教育システム評価委員会および将来構想検討委員会）があり，そこでの議論に則して他の委員会が各段階を実行する仕組みとなっている。

近年，学習・教育目標３５項目の設定，工学基礎コースの新設ならびに混合学級の導入，県内大学との単位互換制度の導入，海外の大学との交換留学制度の検討，公開授業の制度化等継続的な改善を行っている。平成１７年度には基本理念に基づき近隣市町村との地域連携協定を締結し，積極的な地域貢献を行っている。

（分析結果とその根拠理由）

評価結果を教育の質の向上，改善に結び付けられるシステムが整備されている。既に，教育課程等の改善が進んでおり，公開授業による授業改善も積極的に，かつ適切に実施されている。

観点９－１－⑤：　個々の教員は，評価結果に基づいて，それぞれの質の向上を図るとともに，授業内容，教材，教授技術等の継続的改善を行っているか。また，個々の教員の改善活動状況を，学校として把握しているか。

（観点に係る状況）

公開授業に関する申し合わせ事項に従い，公開授業後に参加教員によって懇談会が開催された上で個々の指摘事項をフィードバックし，報告書を提出する仕組みとなっている。また，指摘事項については参加教員の再度の公開授業への参加により改善状況を確認することが義務付けられている。したがって，授業アンケートによる学生の意見収集・フィードバック→アンケート集計結果の個人分析・開示→公開授業による個人分析の確認ならびに相互評価・フィードバック・報告書の提出→再度の公開授業による指摘事項の改善確認，というプロセスで改善成果を学校として確認できる体制となっている。

科目間の連携に関しては，教員間ネットワーク会議において関連教員の参加のもと，その具体的改善策について議論されている。

この他，平成１６年度に実施した「ＦＤに関するアンケート」結果においては，教授方法に関するＦＤの希望が出されている。これを踏まえ，ＦＤ委員会において平成１７年度のＦＤ計画が検討されている。

（分析結果とその根拠理由）

個々の教員は，授業アンケート，公開授業等の評価結果に基づいて，それぞれの質の向上を図り，学校として確認できる仕組みとなっている。

観点９－１－⑥：　研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

（観点に係る状況）

本校では卒業研究発表会や特別研究発表会の他，共同研究発表会や学協会等での発表等，学生が直接先進技術に触れる機会を奨励している。

教育目標に基づき，平成１６年度からは専攻科生による「研究シーズ発表会」を地元の商工会議所と共同で開催し，ポスター発表を通してコミュニケーション能力の育成を図っている。校内の研究紀要においては学生が共著者となっている論文も多く，教育方法等の研究発表も積極的に実施されている。

また，基本理念に基づき，地元鯖江市，武生市ならびに福井市の商工会議所との交流・懇談の場が設けられており，研究のシーズの提供と社会からのニーズの集約を行い学生研究テーマの設定等にも役立てている。近隣市町に対しては，地域連携協定を締結し，共同研究や専攻科生のインターンシップ等の協働体制を整えている。

（資料９－１－⑥－１）

「専攻科生による技術シーズ発表会」

VOL. 36　No. 2

○　専攻科生による技術シーズ発表会開催

本校では、8月25・26日の両日に地元の鯖江商工会議所との共催により、専攻科生による技術シーズ発表会を同会議所の「鯖江ギャラリー新」にてポスター発表形式で開催した。

この発表会は、専攻科生が取り組んできた専門的な研究成果を平易な言葉でわかり易く説明するコミュニケーション能力の育成の一環として実施したもので，本年度専攻科修了を目指す29名の専攻科生によって熱心にプレゼンテーションが行われ，両日とも学内外から多数の参加があった。

発表会終了時には学外者の投票により優秀発表者を選出し、鯖江商工会議所会頭賞を生産システム工学専攻の兼田知明君に、校長賞を環境システム工学専攻の中浦真澄さんに、専攻科長賞を生産システム工学専攻の高橋恵一郎君と環境システム工学専攻の酒井隆晃君に、それぞれ贈った。

（出典　校報３６巻２号２４頁）

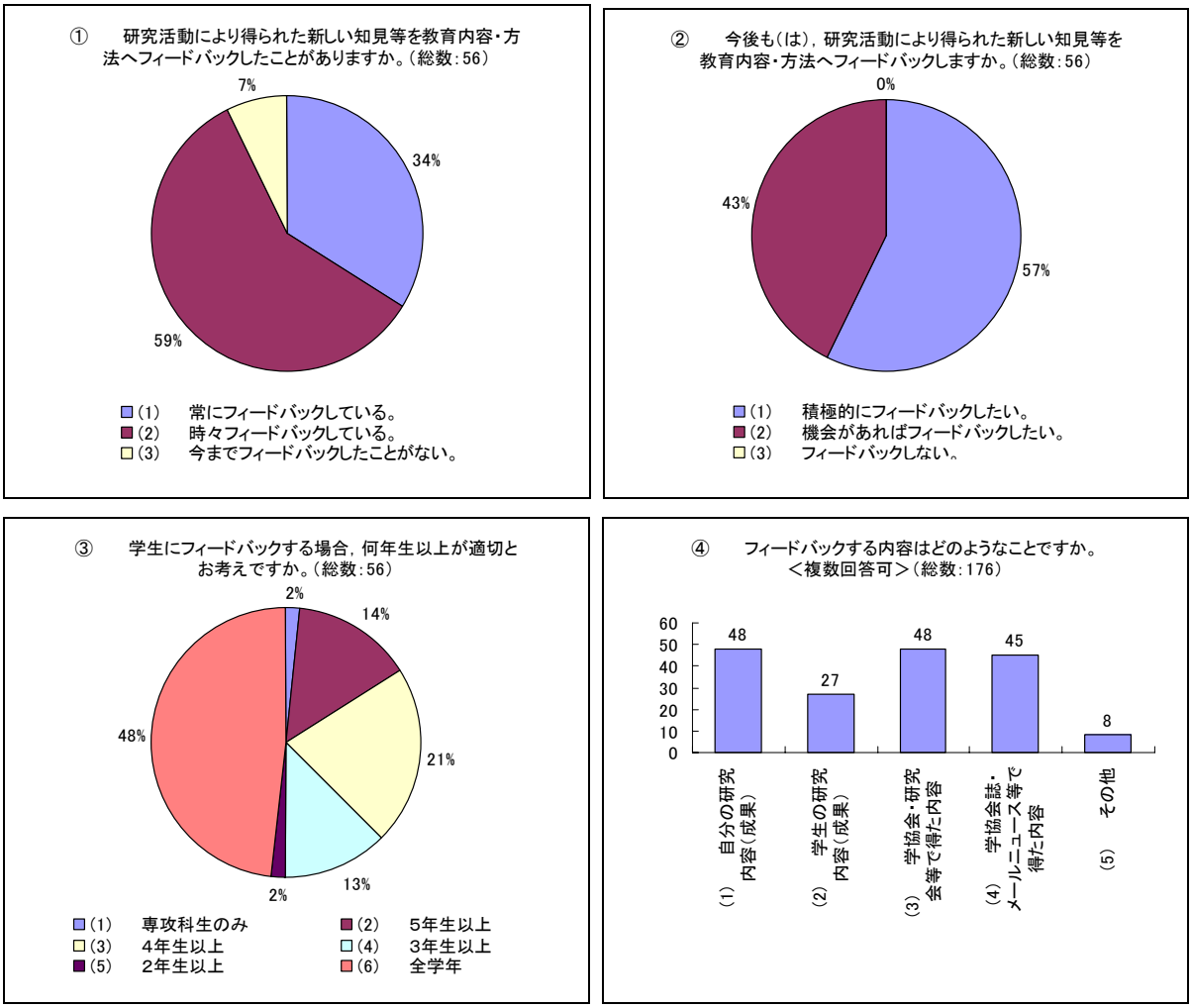
（資料９－１－⑥－２）
「過去３年分の校内研究紀要，高専教育，工学教育における報告件数」

	平成１４年度	平成１５年度	平成１６年度
研究紀要 （内学生共著）	１７件 （６件）	２１件 （６件）	１２件 （６件）
高専教育	５件	１件	３件
工学教育	２件	１件	０件

（出典　福井工業高等専門学校研究紀要，高専教育，工学教育）

平成１７年１月には，研究活動の教育へのフィードバックに関するアンケートが実施されている。アンケートで得られたフィードバック内容や事例は教育改善委員会によってまとめられている。

（資料９－１－⑥－３）
「教育の質の向上及び改善に関するアンケート結果」



（出典　平成１６年度ＦＤ活動資料集）

（分析結果とその根拠理由）

学生の積極的な研究活動への参加による研究の活性化が図られている。研究テーマの設定に関しては地域連携協定のもと，地元産業界との交流の場が適切に設けられている。教育方法等に関する研究も実施されている。学協会等で得られた知見等は多くの教員が学生にフィードバックしている。

観点９－２－①：　ファカルティ・ディベロップメントについて，組織として適切な方法で実施されているか。

（観点に係る状況）

校内外におけるファカルティ・ディベロップメント（以下，ＦＤ）を実施するＦＤ委員はＦＤ活動を一覧として整理開示している。

厚生補導担当職員研究会や共同研究発表会・交流会，ＪＯＩＮＴフォーラム等は毎年実施されており，特に共同研究発表会は平成１６年度で１４回(交流会は１５回)を数える。また，地元の企業との連携強化を目的として，武生商工会議所については平成４年度から，鯖江商工会議所については平成６年度から交流会が開催されている。これらのＦＤは内容に応じて学生にも周知され参加が促されている。

この他，文部科学省在外研究員や内地研究員，国際研究集会派遣研究員も積極的に派遣している。豊橋技術科学大学及び長岡技術科学大学との間では交流人事の実績がある。

以上の有益なＦＤの成果の記録は，ＦＤ活動資料集としてまとめられ，開示されている。

（資料９－２－①－１）

「平成１６年度ＦＤ活動資料集の目次」

目　次

○　はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

○　平成１６年度 FD 活動計画一覧表

・全教職員または広範囲の教職員を対象とするもの　・・・・・・・・・・　2

・一部の教職員を対象とするもの・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

○　JABEE 自己点検書説明会

・説明会資料　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6

・福井高専「環境生産システム工学」教育プログラム　・・・・・・・・　１７

○　公開授業に関する資料

・公開授業に関する事項　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１９

・公開授業一覧表　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２４

・公開授業実施報告書　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２７

○　教育の質の向上及び改善に関するアンケート

・アンケート（様式）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３６

・アンケート集計結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３９

（出典　平成１６年度ＦＤ活動資料集）

（分析結果とその根拠理由）

校内外においてＦＤの機会が数多く設けられている。これらＦＤは教職員（内容に応じて学生に対しても）に開示され，効果的に実施されている。ＦＤの内容は教育場面で必要な事項について幅広く用意されている。各ＦＤへの参加率も高く，教職員全体のＦＤに対する意識の高さが表れている。永年に渡って継続的に実施されているＦＤも多く，ＦＤ委員会発足とともにＦＤに関する記録（資料集）が残されている。

観点９－２－②：　ファカルティ・ディベロップメントが，教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

（観点に係る状況）

ＦＤの教育への効果に関するアンケートが平成１７年１月に実施され，その集計結果が整理・開示されている。この中では，具体的な改善内容についても整理されている。

（資料９－２－②－１）

「平成１６年度ＦＤアンケート結果」

FD が教育の質の向上及び改善に役に立ちましたか？（該当する箇所に○）				
FD名称（開催日）	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	合計
非常勤講師の先生方との懇談会（4月13日）	10	11	1	22
学生指導担当職員研修会（Ⅰ）（7月22日）	4	30	1	35
学生指導担当職員研修会（Ⅱ）（7月28日）	5	29	0	34
「技術士制度について」の講演会（6月24日）	12	32	1	45
JABEE自己点検書説明会（10月21日）	12	40	1	53
JABEE特別講演会（10月5日）	11	42	1	54
職員のためのセクシュアル・ハラスメント防止に関する講演会（12月9日）	9	22	1	32
労働安全衛生に関する講演会（11月18日）	18	27	1	46
校長裁量経費にかかる報告会（前年度分）（9月16日）	15	27	0	42
教員の授業達成度評価（10月，3月）	20	31	0	51
公開授業	4	27	0	31
JOINT　FORUM（6月11日）	13	13	1	27
第 14 回福井高専共同研究発表会（12月3日）	8	13	0	21
科学研究費補助金制度説明会（10月8日）	16	15	3	34
特許講習会（9月30日）	6	21	2	29
北信越工学教育協会第3回FD講演会	4	1	0	5
日本設計工学会　北陸支部講演会（平成17年6月26日）	0	1	0	1
福井県 IT フォーラム(2004,10/14,15)	0	1	0	1
全国高専プログラミングコンテスト(2004,10/9,10)	0	1	0	1
日数教　年会	0	1	0	1
T3Japan　年会	0	1	0	1
北陸地区 T3	0	1	0	1
北四	0	1	0	1
グラフ電卓研究会	0	2	0	2
SPP	0	1	0	1

表中の数値はアンケート回答者の総計であり，実際の参加者数とは異なります。

（出典　平成１６年度ＦＤ活動資料集）

（資料９－２－②－２）

「ＦＤが教育の質の向上及び改善に結びついた例」

５－１

名　称：公開授業
開催日：平成 16 年 10 月 26 日
内　容：４Ｂコンクリート構造学Ｉにて実施．話し方についての指摘が自分では気がついていないことであったので，これ以降注意している．このように，他教員にみてもらい評価を受けることは，自分の気がついていないことを発見していただくよい機会であるので，これからも実施したい．

５－２

名　称：「技術士制度について」の講演会（６月２４日）
開催日：平成１６年６月２４日
内　容：技術士第一次試験に関して、県内の技術士会会員の方にその概要を伺った。ＪＡＢＥＥによる技術士第一次試験免除も重要であるが、二次試験に向けてやはり、第一次試験を受けることの重要性を感じた。その結果、本年度、当研究室の笹島君が建設部門で、担当科目である上下水道部門（環境衛生工学）で藤田君が合格を果たした。いずれも、専攻科へ進学し、福井高専における研究活動に反映していく予定である。また。後輩への指導も検討中である。

５－３

名　称：校長裁量経費にかかる報告会（前年度分）
開催日：平成１６年９月１６日
内　容：実験実習におけるアイデアを考えるきっかけとなった．

５－４

名　称：「技術士制度について」
開催日：平成１６年６月２４日
内　容：技術に求められる継続教育の責務について，これを年間５０CPD とする内容を学生に伝えることで学生の学習意欲の向上を促すきっかけとなった。

（出典　平成１６年度ＦＤ活動資料集）

公開授業については，参加した教員からの指摘事項の改善を確認することが規則で定められている。また，基本理念に基づき，地元産業界との交流会が積極的に実施されており，卒業研究や特別研究成果が外部発表に結び付いている。

（分析結果とその根拠理由）

ＦＤが教育の質の向上及び授業の改善に結びついているかのアンケートが実施されている。また，具体的な改善事例についても整理されている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

本校の教育評価に関する取り組みは，教育点検・改善システムとして機能しており，自己点検結果が適切に開示されている。また，今後も継続的に自己点検・評価報告書を作成することが決まっている。

（改善を要する点）

点検システムならびに改善システムが現状のかたちで整備されてから時間が経っておらず，システムの持続的や健全性について完全に検証されているわけではない。今後，これらのシステムに従った実績を蓄積の上，点検・評価を継続していくことが望まれる。

（３）自己評価の概要

教育を点検・評価できるシステムが整備されており，このシステムに従って教育活動の実態を示すデータや資料が適切に蓄積され，適切に評価が行われている。評価方法は自己評価，相互評価，学生からの評価，外部評価と多様であり，結果が的確にフィードバックされている。その成果として数報の自己点検書を提出・開示しており，今後も継続的な自己点検の実施が定まっている。

授業アンケート，学生支援アンケート，公開授業が行なわれており，学生の要望に対する回答が開示されている。特に授業アンケート結果は，教員による分析・課題等を加筆した上で報告書として開示されている。

学外関係者からの意見聴取については不定期ではあるが実施され，開示されている。今後も継続的にアンケートを実施することが予定されている。

評価結果を教育の質の向上，改善に結び付けられるシステムが整備されている。既に，教育課程等の改善が進んでおり，公開授業による授業改善も積極的に，かつ適切に実施されている。

個々の教員は，授業アンケート，公開授業等の評価結果に基づいて，それぞれの質の向上を図り，学校として確認できる仕組みとなっている。

学生の積極的な研究活動への参加による研究の活性化が図られている。研究テーマの設定に関しては地域連携協定のもと，地元産業界との交流の場が適切に設けられている。教育方法等に関する研究も実施されている。学協会等で得られた知見等は多くの教員が学生にフィードバックしている。

校内外においてファカルティ・ディベロップメント（ＦＤ）の機会が数多く設けられている。これらＦＤは教職員に（内容に応じて学生に対しても）開示され，効果的に実施されている。ＦＤの内容は教育場面で必要な事項について幅広く用意されている。各ＦＤへの参加率も高く，教職員全体のＦＤに対する意識の高さが表れている。永年に渡って継続的に実施されているＦＤも多く，ＦＤ委員会発足とともにＦＤに関する記録（資料集）が残されている。

ＦＤが教育の質の向上及び授業の改善に結びついているかのアンケートが実施されている。また，具体的な改善事例についても整理されている。

10　財務

（１）観点ごとの自己評価

観点10－１－①:　学校の目的に沿った教育活動を安定して遂行できる資産を有しているか。また，債務が過大ではないか。

（観点に係る状況）

本校の資産については，文部科学省から出資された土地及び建物・立木竹，工作物の資産を有しており，教育活動等を将来にわたって適切かつ安定して遂行するため高等専門学校設置基準に基づいた必要な資産を有している。平成１７年４月末現在におけるその資産現在額は，資料10－１－①－１のとおりである。

また，債務については，運営費交付金等の範囲内で健全に運営している。

（資料１０－１－①－１）

「資産現在額一覧表」

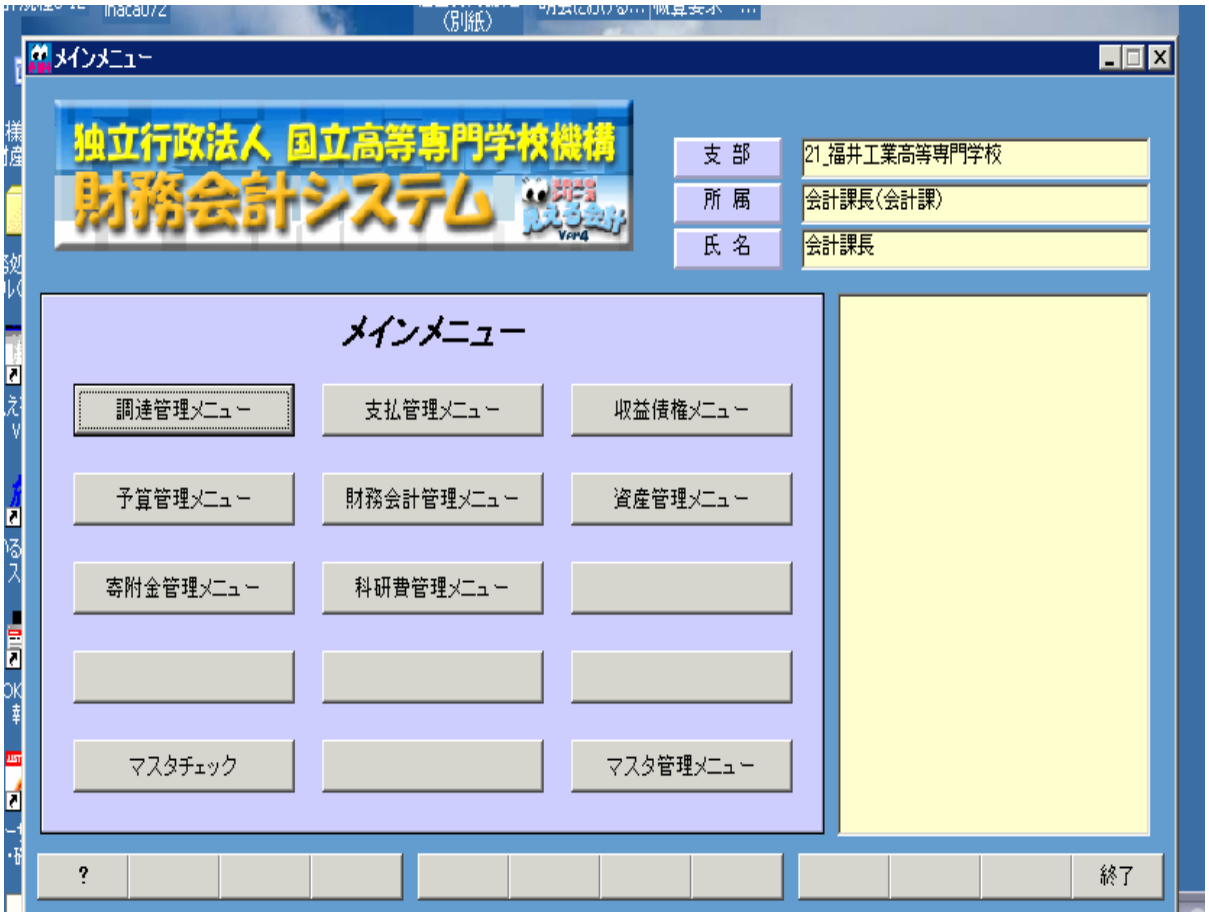
固定資産　（単位：円）

	種　類		数　量	単　位	金　額
有形固定資産	土地		101,564	m²	2,244,900,000
	建物	建面積	15,934	m²	1,907,607,964
		延べ面積	32,764		
	構築物		1	式	132,645,492
	工具器具備品		1	式	95,274,661
	車両運搬具		1	式	3,139,150
	計				4,383,567,267
無形固定資産	電話加入権		1	式	308,000
合　計					4,383,875,267

（出典　財務会計システム）

（資料１０－１－①－2）

「財務会計システム」



（出典　財務会計システム）

（分析結果とその根拠理由）

平成１６年度に独立行政法人へ移行するにあたり，国から現物出資を受けた国有財産について，本校が管理する資産（国有財産：土地，建物，工作物，立木竹）の時価評価を行い独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則第３４号第３１条の３において「固定資産は，その増減及び異動を帳簿によって物件別に管理するものとする。」ことから財務会計システム（資料10－１－①－2）の資産管理メニューによる固定資産データ一覧で管理し，財務会計管理メニューでは，損益計算書，キャッシュフロー精算書，決算精算表により財政状態及び運営状況を明らかにしていることから健全な運営および十分な財政基盤を有している。

観点10－１－②：　**学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための，経常的収入が継続的に確保されているか。**

（観点に係る状況）

高専機構から予算配分される運営費交付金（資料10－１－②－１）および授業料等収入等（資料10－１－②－２）を教育活動等の基本的財源とし，これらに加え奨学寄附金，共同研究・受託研究，科学研究費補助金（資料10－１－②－３）などの外部資金獲得により経常的収入が継続的に確保されている。

（資料１０－１－②－１）

「国立学校特別会計・運営費交付金関係」

予算・決算額（年度別）　（単位：千円）

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
国立学校	1,542,243	1,776,824	1,659,949	1,435,264	
運営費交付金等					1,397,330

（出典　学校要覧）

＊運営費交付金は，自己収入を含む。

（資料１０－１－②－２）

「授業料・入学料・検定料収入額（年度別）」

授業料・入学料・検定料収入額（年度別）　（単位：　円）

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
授　業　料	211,790,900	215,676,500	230,738,700	192,175,400
入学料及び検定料	26,784,400	28,256,700	25,929,300	25,804,200
講　習　料	369,600	420,100	321,700	78,800

（出典　歳入決算書）

（資料１０－１－②－３）
「外部資金関係」

奨学寄附金・受入額(年度別)　（単位：件，千円）

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
受入件数	36	30	28	23	27
金　額	12,243	14,919	15,868	12,456	13,906

共同研究・受託研究受入額(年度別)　（単位：件，千円）

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
共同受入件数	8	7	5	10	18
金　額	5,920	4,950	5,100	5,250	9,607
受託受入件数	6	2	4	3	3
金　額	9,352	1,150	2,284	2,294	2,770

科学研究費補助金受入額(年度別)　（単位：件，千円）

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
申請件数	49	46	47	46	72
採択件数	14	10	14	12	17
交付金額	28,430	15,200	18,920	21,400	49,990

（出典　学校要覧）

（分析結果とその根拠理由）

運営費交付金等の基本的財源は勿論のこと，高専機構等の各種競争的資金及び外部資金獲得にも積極的に取り組み，安定した教育研究活動等が展開できるような体制を整備している。特に，平成１６年度科学研究費補助金の獲得においては，全国高専の中で１位を占めるなど外部資金獲得に校長のリーダーシップのもと全校あげて取り組んでいる。

また，平成１７年度からは毎年度運営費交付金（特定の人件費を除く。）が前年度の１％（効率化係数）削減となり，業務の効率化，経費の節減・節約に努めるとともに今後さらなる収入の確保が必要となる。

観点10－２－①：　学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として，適切な収支に係る計画等が策定され，関係者に明示されているか。

（観点に係る状況）

本校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として予算配分計画を策定し，協議会において審議を行い，予算配分（資料 10－２－①－１）として教育研究及び管理運営に必要な経費を配分している。その審議内容，決定事項については，随時，教員会議，事務連絡会議を通じ，周知をしているとともに，財務に関しては，収支予算決算額を学校要覧

に掲載し貸借対照表及び損益計算書をグループウェア（スカイボード）に掲載して関係者に明示している。

なお，予算配分に当たっては，「法人化後の本校の運営指針」（資料１０－２－①－２）に則り配分している。

（資料１０－２－①－１）

「平成１６年度予算配分書」

１６　７　１
協議会資料No.１

平　成　１　６　年　度

予　　算　　配　　分　　書

福　井　工　業　高　等　専　門　学　校

（出典　平成１６年７月１日協議会議資料No.１）

（資料１０－２－①－２）
「法人化後の本校の運営指針について」

H15.12.24
教官会議資料No.5

平成15年12月24日

法人化後の本校の運営指針について（改改）

校長

1．法人化後の自己収入確保について

・科学研究費、奨学寄付金、共同研究、受託研究に対してオーバーヘッドを賦課する。

・オーバーヘッドの額は、獲得金額の10%とし、全額校長裁量経費に組み入れる。ただし、間接経費が付随する研究費については、間接経費をオーバーヘッドとし、別途オーバーヘッドを課さない。また、共同研究、受託研究については、これを奨励するためオーバーヘッド徴収後、別途奨励金を支給する。

理由：法人化後の運営費交付金減に対応するため。

2．予算配分について

・教育研究基盤校費（教官数積算分）は、教員一人当たり積算単価（平成15年度の1/2　42,500円、平成15年度は85,000円）に次の指数を乗じた額を、教員現員数に応じ各学科（教室）に配分する。

	専門科目	一般科目			補等
		物理・化学・応物・情報処理	数学・保体・応数	国語・倫社・歴史・英語・海外	
教授、助教授、講師	8.16	8.16	6.24	2.4	
助手	3.40	3.40	－	－	

残額は全額校長裁量経費とし、前年度の教育・研究の実績を勘案して、各教員に配分する。実績は、前年度の科学研究費申請の有無、科学研究費獲得状況、奨学寄付金獲得状況、その他の外部資金獲得状況、教育実績（国立高専教員顕彰受賞者、授業評価高得点獲得教員、TOEIC目標値達成時の英語担当教員、体育大会優勝時の顧問、ロボコン・プロコン成績値達成時の指導教員、出前講義等）、研究実績、校務への貢献度（分担状況、クラブ顧問、会議出席率）等を考慮する。

（出典　平成１５年１２月２４日教員会議資料№.５）

（分析結果とその根拠理由）

財務に係る計画等については，本校の目的を達成するため独立行政法人国立高等専門学校機構が掲げている中期目標，中期計画を踏まえて策定している。

なお，本校の予算配分書（資料 10－２－①－１）については，法人化後の本校の運営指針（資料 10－２－①－２）を基に協議会において審議され教員会議等を通して教職員に示され，その具体的施策についても協議会及び教員会議で周知を図り実施されている。

観点10－２－②：　収支の状況において，過大な支出超過となっていないか。

（観点にかかる状況）

予算は，学内事業内容及び規模を表すものであることから，事業内容及び規模を的確に表現できる予算科目とした。また，決算は，高専機構会計基準に基づく財務諸表により公表されることから損益計算書科目に準拠した予算科目を設定した。特定の事業を実施する経費については予算科目を設定し，他の経費と混同して使用しても差し支えない経費については積算事項とした。但し，予算配分書（資料１１－２－①－１）の予算配分方針にあるように予算の執行に当たっては，説明責任の観点から適正な執行となるように協議会及び教員会議等で周知徹底している。

なお，支出については，機構本部が一括管理している財務会計システムにおいて毎月締め作業を行い管理しているので過大な支出超過にはなっていない。

（分析結果とその根拠理由）

収支決算については，財務会計システムで一元管理されており毎月締め作業を行い確認しているため過大な支出超過になっていない。

観点10－２－③：　学校の目的を達成するため，教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し，適切な資源配分がなされているか。

（観点にかかる状況）

教育研究活動に対する予算配分については，予算配分書の予算配分方針に基づき，管理運営費（人件費，管理運営費），学科（教室）等教育研究経費（教育研究に必要な経費，学生支援に必要な経費），施設等維持管理経費に区分して事務・事業の継続性及び円滑な実施に配慮した予算配分となっている。また，教育研究活動の活性化を図るため，競争的資金（校長裁量経費）をプロジェクト計画経費，実験・実習用等設備経費として教育研究経費の１０％を確保し各学科，教員等からの申請により校長によるヒヤリングを実施し重点配分している。（校長裁量経費の採択及び配分状況（資料１０－２－③－１））

（資料１０－２－③－１）
「校長裁量経費の採択及び配分状況一覧」

校長裁量経費の採択及び配分状況　　平成１６年度　　（単位:円）

種　　別	予　算　額	申請	申　請　金　額	採択	採択金額
プロジェクト計画経費	15,100,000	10	18,716,000	5	3,900,000
実験・実習用等設備経費		15	21,712,000	12	11,200,000
合　　計	15,100,000	25	40,428,000	17	15,100,000

（出典　協議会資料）

（分析結果とその根拠理由）

学内の予算配分では，事業の継続性及び円滑な実施に配慮した予算配分となっており，教育研究活動の活性化を図るため競争的環境を創出し，その質の向上と充実した教育環境の整備を行い，競争的資金の確保により，適切な資源の重点配分がなされている。

なお，平成１６年度からは，自己収入金及び高専機構からの運営費交付金とで賄うこととなり，更に，１７年度からは特定の人件費を除き毎年１％の効率化係数による削減となり更なる合理化，効率化を図るため本校においては，法人化後の本校の運営指針（資料１０－２－①－２）のとおり中期計画の具体化，外部資金に対するオーバーヘッド，教育評価に基づく配分等により業務の効率化，経費の節減・節約に努めている。

観点10－３－①：　学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。

（観点にかかる状況）

本校の財務諸表等については，資料10－３－①－１に示すとおり独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則第４３条，第４４条及び独立行政法人国立高等専門学校機構会計事務取扱規則１７条，１８条，１９条，２０条において財務会計システムにより決算書類を作成し，理事長に提出することとなっている。なお，本校の財務諸表等については，グループウェア（スカイボード）に掲載し関係者に明示している。

（資料１０－３－①－１）

「関連法令等」

○　独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則

（月次決算）

第４３条　出納命令役は，毎月末日において総勘定元帳を締め切り，月次の財政状況を明らかにするため，合計残高試算表を作成し，翌月１５日までに理事長に提出しなければならない。

（年度末決算）

第４４条　年度末決算に際しては，当該年度末における資産・負債の残高並びに当該期間における損益に関し真正な数値を把握するための各帳簿の締め切りを行い，資産の評価，債権・債務の整理，その他決算整理を的確に行って，所定の手続きに従って決算数値を確定しなければならない。

２　理事長は，前項の整理を行った後，翌事業年度５月末日までに次の各号に掲げる書類を作成しなければならない。

一　貸借対照表

二　損益計算書

三　キャッシュ・フロー計算書

四　利益の処分又は損失の処理に関する書類

五　行政サービス実施コスト計算書

六　附属明細書

３　前項各号の書類の様式は，別に定めるものとする。

○　独立行政法人国立高等専門学校機構会計事務取扱規則

（月次決算）

第１７条　出納命令役は，会計規則第４３条の規定による合計残高試算表を提出する場合は，予算執行状況集計表を添付しなければならない。

２　出納命令役は，月次決算にあたり，次の各号の事項を実行しなければならない。

一　預金残高，借入金残高について，通帳等の残高と預金出納帳等の残高との照合を行う。

二　固定資産について，資産管理システムと財務会計システムのデータの照合を行い，取得，売却，廃棄及び異動等の処理が適切になされていることの検証を行う。

三　運営費交付債務及び授業料債務については，収益化の基準により処理を行う。

四　債権・債務及び仮勘定の内容について検証を行う。

（年度末決算）

第１８条　出納命令役は，毎事業年度末における資産，負債及び資本並びに収益及び費用について，次の各号に掲げるところにより年度末決算を行わなければならない。

一　預金残高及び借入金残高について，金融機関等から残高証明書を取り寄せ，残高を確かめ，預金出納帳等と照合する。差異があるときは，銀行等勘定調整表を作成し，必要に応じて修正する。

二　棚卸資産について，実地にその在高を検証する。

三　償却を要すべき固定資産については，定額法を採用するものとし，毎事業年度において減価償却資産の耐用年数等に関する省令（昭和４０年大蔵省令第１５号）別表を考慮のうえ減価償却を行うものとする。

四　経過勘定項目について，必要に応じた計算を行い，振替伝票により決裁を受けるものとする

五　運営費交付金債務及び授業料債務については，収益化の基準により処理を行う。

六　その他決算整理に関する修正処理について，振替伝票により決裁を受けるものとする。

（様式等）

第１９条　会計規則第４４条第３項に規定する書類（第六号による附属明細書を除く）は，次の各号に掲げるとおりとする。なお，その様式については，電子媒体によるものを含み，別に定めるものとする。

一　貸借対照表

二　損益計算書

三　キャッシュ・フロー計算書

四　利益の処分又は損失の処理に関する書類

五　行政サービス実施コスト計算書

２　会計規則第４４条第２項第六号による附属明細書は，それぞれ担当する会計機関で作成する。

（財務諸表及び決算報告書）

第２０条　機構本部の出納命令役は，年度末決算の結果を取りまとめ，財務諸表及び決算　報告書を作成し，会計規則第４４条に規定する年度末決算に必要な決算書類を作成し，翌事業年度５月末日までに理事長に提出しなければならない。

（出典　独立行政法人国立高等専門学校機構規則）

（分析結果とその根拠理由）

独立行政法人国立高等専門学校機構による財務会計システムについては，本支店会計処理機能により支店である高専各校の合計残高試算表データを取り込み，機構本部において本支店合算の損益計算書及び貸借対照表を作成し文部科学省へ提出することとなっている。なお，財務諸表については，機構本部において独立行政法人通則法第３８条により当該事業年度終了後三ヶ月以内に主務大臣に提出し，承認を受けた後，官報に公示し，書面を備え置き，また，ウェブサイトへ掲載する予定である。

観点10－３－②：　財務に対して，会計監査等が適正に行われているか。

（観点にかかる状況）

本校の会計監査等については，独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則第４５条の規定に基づき資料10－３－②－１に示すとおり本校における内部監査要項に従い会計経理についてその事態を把握し，これが常に適正かつ効率的に執行されるよう指導，監督することになっている。

（分析結果とその根拠理由）

会計内部監査結果報告書で示すように本校の内部監査要項に基づき会計処理に熟知した事務職員により適正な監査を受けている。なお，平成１７年１月には，機構本部による監事監査および内部監査が実施され平成１６年１１月には東海北陸地区の国立高専相互会計監査も行われた。

以上のことから，十分に監査が行われている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

本校の学習・教育目標を達成するための財源確保並びに予算の重点的配分など，適正かつ効率的な予算の執行に対する努力が行われている。

（改善を要する点）

今後，運営費交付金の減額及び中期計画における効率化に対応するためにも外部資金による自己収入確保が重要になってくる。よって，科学研究費補助金の採択率を上げるための取組みあるいは奨学寄付金，受託研究，共同研究などの各種財団等の教育・研究助成等の申請など一層推進する必要がある。

（３）自己評価の概要

本校における教育活動等を将来にわたって適切かつ安定して遂行するために，必要な校地・校舎・設備等の資産を有するとともに，授業料・入学検定料・入学料等の諸収入の状況や国立高等専門学校機構運営費からの学校運営に必要な基本的財源は勿論のこと，外部資金獲得（奨学寄付金，共同研究，受託研究，科学研究費補助金）にも積極的に取り組み，安定した教育研究活動等が展開できるように体制を整備している。

財務に関する項目を含めた中期計画が運営委員会で決定され，その内容がウェブサイト等で関係者に明示されている。また，予算配分に関しては，限られた予算を効果的に配分するため，校長のリーダーシップの基で教育研究経費の１０％を確保し競争的資金「校長裁量経費」として各学科，教員等からの申請により重点配分している。そのことにより教育研究活動の活性化とその環境の整備を図る他，競争的資金による研究に伴った共同研究への発展が見込まれるなど，地域社会との連携強化を推進する上でも有効な配分となっている。

なお，法人化後，監査法人等における監査機関において順次監査が実施され適正な財務会計処理が行われている。

以上のことから本校の財政基盤の安定が図られ，収支に関する計画等の策定・履行も十分になされており，更に財務関係の監査等が適切に実施されている。

11　管理運営

（１）観点ごとの分析

観点11－１－①：　学校の目的を達成するために，校長，各主事，委員会等の役割が明確になっており，効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

（観点に係る状況）

学校教育法第７０条の７により校長及び教授等の役割が明記されおり，校長が最終意思決定をするため，本校では校長のリーダーシップのもとに，副校長（３主事及び専攻科長）を配置し次のとおり業務を割り振り，校長を補佐している。

・教務主事は教育計画の立案，その他教務に関する事項について

・学生主事は学生の厚生補導に関する事項について（寮務主事の所掌を除く）

・寮務主事は学寮における学生の厚生補導に関する事項について

・専攻科長は専攻科の運営に関する事項について

副校長等の配置及び業務内容については「福井工業高等専門学校学則」及び「福井工業高等専門学校内部組織規則」に定められている。

また，校長の命により設置された各種委員会では定められた審議事項等を検討し，その結果を本校の最高議決権を有する協議会（構成員：校長，各主事，専攻科長，各学科(教室)主任，図書館長，各センター長，事務部長，その他校長が必要と認めた者）やそのもとに置かれている将来構想検討委員会，自己点検・評価委員会，施設整備委員会に諮り，審議を経て実行に移している。

具体的には「観点３－２－②の観点に係る状況」のとおり，ＰＤＣＡサイクル（前出資料３－２－②－１，「学校要覧」２９頁）により実行している。例えば，技術者教育プログラムの認定を得るため，校長の命によりＪＡＢＥＥ対策委員会を発足させ，受審のための予備準備を行い，次に具体的な対応をするために対策委員会をＪＡＢＥＥ委員会に発展させ，資料の収集や会議を重ねるとともに主な事項を協議会に報告しＪＡＢＥＥ受審に向けて準備した。その結果，平成１７年５月にＪＡＢＥＥ技術者認定プログラムに認定されたが，事項によっては再考しなければならいため，ＪＡＢＥＥ委員会で現在も検討している。

この協議会は毎月第一木曜日を定例日として開催し，必要に応じて臨時に開催することもある。

なお，これらの決定事項等（議事要旨）は学内ＬＡＮによるグループウェア（資料１１－１－①－１）で全教職員が閲覧できる体制になっている。この他にも必要事項については専任の教授，助教授，講師及び助手で組織する教員会議並びに事務職員（事務部長，各課長，専門職員，各係長）及び技術職員（技術長，各班長）で組織する事務連絡会議にて周知している。

（資料１１－１－①－１）

「学内ＬＡＮによるグループウェア」

平成１７年５月定例協議会議事要旨

日　　時　　平成１７年５月１２日（月）１５：００～１６：２５
場　　所　　校長会議室
出　席　者　　校長、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科長、
田中、川本、前川、吉村(忠)、武井、小寺、坪川各学科(教室)主任、
図書館長、総合情報処理センター長、地域連携テクノセンター長、
教育研究支援センター長、阿部JABEE委員長
欠　席　者　　事務部長
列　席　者　　庶務課長、会計課長、庶務係長

校長から４月協議会の議事要旨及び５月臨時協議会の議事要旨の確認が行われ了承された。

Ⅰ　審議事項
１　福井工業高等専門学校学則の一部を改正する学則（案）について

（出典　スカイボード）

（分析結果とその根拠理由）

本校においては，校長のリーダーシップのもとに副校長，図書館長，各センター長及び事務部長等が配置されており，また，協議会を含め４０を超える委員会等も整備され機能しているとともに，その議事の周知方法についても構築されており，学校の目的達成に向け効果的な意思決定が行える態勢となっている。

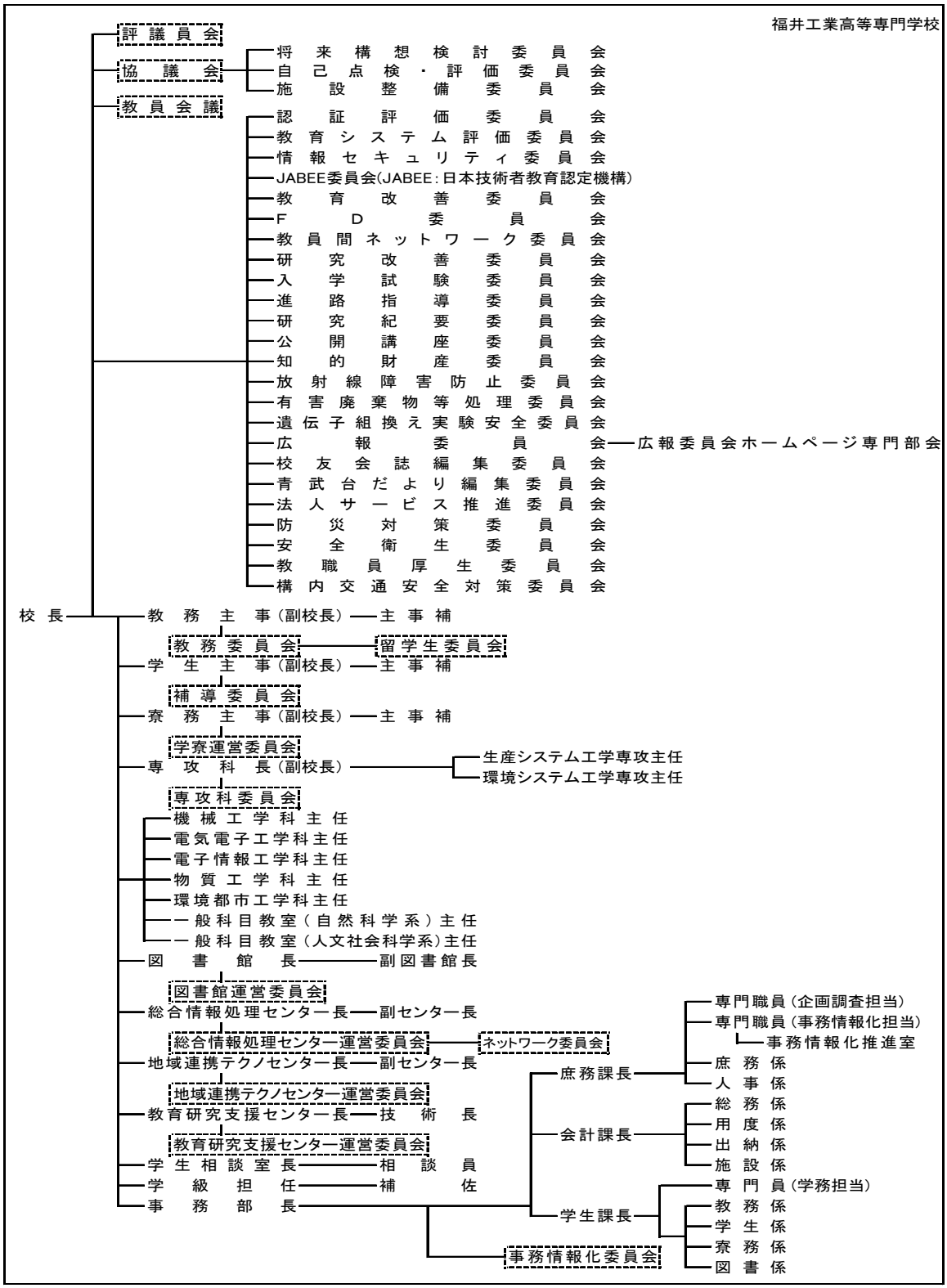
観点11－１－②：　管理運営に関する各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し，効果的に活動しているか。

（観点に係る状況）

管理運営組織は「運営組織図」（資料 11－１－②－１）のとおり，各委員会の役割は「福井工業高等専門学校規則集抜粋」（資料 11－１－②－２）において明確に定められている。また，教員は各学科に所属し，それぞれの校務を「校務分掌表」（資料 11－１－②－３）のとおり行なっている。

（資料１１－１－②－１）

「運営組織図」



（出典　学校要覧）

（資料１１－１－②－２）

「福井工業高等専門学校規則集抜粋」

「規 則 及 び 各 種 委 員 会 の 目 的 等」

福井工業高等専門学校

規則（委員会等）	構成メンバー	目的又は主な職務内容
福井工業高等専門学校学則	校長，教授，助教授，講師，助手，事務職員，技術職員	教育基本法及び学校教育法に基づき深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とする。
内部組織規則	校長，主事，専攻科長，学科（教室）主任，図書館長，総合情報処理センター長，地域連携テクノセンター長，教育研究支援センター長，事務部長，その他校長が特に必要と認めた者	国立学校設置法施行規則第37条及び学則第11条に基づき内部組織（事務部組織を除く）
（協議会）		管理運営の重要事項について審議（定期的に毎月1回及び必要に応じ臨時に開催）
事務組織規則	事務部長，課長，専門員，専門職員，係長，係員	国立学校設置法施行規則第36条及び学則第10条に基づく事務部組織
教員会議	専任の教授，助教授，講師，助手	校長の諮問した事項，学生の入学・卒業・懲戒等に関する判定，諸規定の制定・改廃の審議
評議員会	本校教職員以外の有識者10名以内	教育研究目標・計画，自己評価，その他本校の運営に関する重要事項の審議及び評価
将来構想検討委員会	校長，主事，専攻科長，地域連携テクノセンター長，事務部長，その他校長が特に必要と認めた者	将来を展望した在り方について調査審議
自己点検・評価委員会	校長，主事，専攻科長，学科（教室）主任，図書館長，総合情報処理センター長，地域連携テクノセンター，教育研究支援センター，事務部長	高等専門学校学設置基準第3条に規定する自己点検・評価を実施する際の必要な事項について審議
施設整備委員会	教務主事，学科主任が推薦する者各学科1名，教室主任が推薦する者各学科1名	施設及び設備の有効活用に関すること，施設・設備及び環境整備の点検・評価に関すること，点検・評価等調査結果による使用面積の再配分にかんすること，その他施設設備に関する専門的事項
認証評価委員会	教務主事，総合情報処理センター長，総合情報処理センター運営委員若干名，庶務課長，会計課長，学生課長，その他校長が特に必要と認めた者	機関別認証評価及び関連する事項の調査，その他機関別認証評価に関すること
教育システム評価委員会	主要10委員会の構成員各1名，その他教員1名	自己点検・評価に基づく改善の指針，外部評価並びに第三者評価に基づく改善の指針，その他教育システムの改善に関する審議
情報セキュリティ委員会	校長，教務主事，学生主事，専攻科長，学科（教室）主任，教育研究支援センター長，総合情報処理センター長，事務部長	情報セキュリティポリシーの策定及び改訂，情報セキュリティポリシーの遵守の励行及び違反に対する措置，情報セキュリティに関する啓発及び教育，その他情報セキュリティに関する重要事項の審議
ＪＡＢＥＥ委員会	教務主事，専攻科長，教その他員14名	JABEEの認定審査及び関連する事項の調査
教育改善委員会	教務主事，各学科（教室）から教員1名，その他校長が特に必要と認めた者	学習・教育目標に基づく教育の実施，教育効果の現状分析，教育方法の改善及び教育技術の向上，教員の業績評価，その他教育改善の推進に関すること
ＦＤ委員会	JABEE委員長，主事，専攻科長，教育改善委員6名，その他教員1名，事務部長	FDに関する企画立案・情報収集，FDに関して収集した情報の教員等への提供，FDに関する講演会及び研修会等の企画・実施，その他FDに関すること
教員間ネットワーク委員会	教務主事，各学科（教室）から教員1名，その他校長が特に必要と認めた者	専門科目と一般科目の連携を図ること，各専門基礎科目の連携を図ること，同系科目間の連携を図ること，非常勤講師との連携を図ること，その他教員間ネットワークに関すること
研究改善委員会	教務主事，各学科1名，一般科目教室1名，その他校長が特に必要と認めた者	研究環境の改善，教員の研究業績評価，その他研究の推進に関すること
入学試験委員会	教務主事，教務主事補，学科（教室）主任，事務部長	学生募集，入学者選抜の実施，入学者選抜の合格候補者の選考に関する事項の審議
進路指導委員会	教務主事，学生主事，専攻科長，学科（教室）主任，専攻科委員，3・4・5年学級担任，学生課長	学生の進学，学生の就職，その他校長が特に諮問した事項について審議
研究紀要委員会	各学科及び各教室より教員1名	研究紀要の発行計画，論文の募集及び審査，研究紀要の編集，研究紀要の配布先，その他研究紀要の編集及び発行に関する事項の審議
公開講座委員会	教務主事，学科（教室）主任，庶務課長	公開講座に実施に関する企画立案及び連絡調整
知的財産委員会	地域テクノセンター長，教育研究支援センター長，専攻科から推薦された教員1名，各学科（教室）から推薦された教員1名，庶務課長，会計課長	教職員等の職務発明等に係る発明の特許性及び市場性の評価並びに帰属の予備審査，知的財産の権利化，知的財産の活用に関する審議
放射線障害防止委員会	教務主事，放射線取扱主任者，放射線発生装置を使用している教員から校長が任命する4名，庶務課長，会計課長，その他校長が特に必要と認める者	放射線障害に対する対策及び処置，放射線施設及び装置の新設・拡充並びに改廃等，放射線障害予防に必要な校内規則等の制定及び改廃，その他放射線障害防止に関し必要な事項の審議
有害廃棄物等処理委員会	産業廃棄物管理責任者，各学科教員1名，教室（自然科学系）教員1名，技術職員1名，会計課長，その他校長が特に必要と認めた者	有害廃棄物等の処理方法，処理施設の整備，環境汚染の防止，規則等の制定及び改廃，その他有害廃棄物等に関する必要な事項に関する審議
遺伝子組換え実験安全委員会	安全主任者，実験責任者若干名，実験に関係しない教員若干名，地域連携テクノセンター長，教育研究支援センター長，庶務課長，その他校長が必要と認める者若干名	実験に関する校内規則等の制定及び改廃，実験計画と法及び省令並びに校内規則等に対する適合性，実験に係る教育訓練及び健康管理，事故発生の際の必要な処置及び改善，その他実験の安全確保に関し必要な事項の処理に関する審議
広報委員会	主事，図書館長，総合情報処理センター長，地域連携テクノセンター長，課長，その他校長が特に必要と認めた者	広報活動の基本方針及びその他必要と認められる事項を審議する
広報委員会ホームページ専門部会	総合情報処理センター長，同センター員，図書館長，課長，広報委員会委員長が指名する者若干名	ホームページの運営方法及び維持管理，ホームページの企画及び拡充，その他ホームページに関することの審議とその業務
校友会誌編集委員会	学生主事，図書館長，各学科教員1名，各教室教員1名	学生，職員及び卒業生の意見等を発表し，校友相互の理解と向上を図ることを目的とした校友会誌の編集方針，名称，発行計画，配布先，その他校友会誌の編集・発行等に関することの審議

（出典　福井工業高等専門学校規則集）

（資料１１－１－②－３）

「福井工業高等専門学校規則集抜粋」

青武台だより編集委員会	学生主事，学生主事補1名，各学科教員1名，教室教員1名，学生課長	学生の学校生活，学校行事等厚生補導に関する広報誌（青武台だより）の編集方針，掲載記事，発行計画，その他青武台だよりの編集・発行等に関することの審議
法人サービス推進委員会	主事，図書館長，事務部長，課長	窓口サービス業務，施設の公共利用サービス，国民と接触する公務サービスについて審議
防災対策委員会	防災管理者（事務部長），主事，専攻科長，学科（教室）主任，課長	防災計画，災害予防，災害応急対策，災害復旧・復興，その他防災に関することについて審議
安全衛生委員会	教務主事，衛生管理者，安全管理者，産業医，衛生に関する経験者1名，安全に関する経験者2名	教職員の健康障害を防止するための基本となるべき対策，教職員の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策，労働災害の原因及び再発防止対策で衛生に係るものに関する審議
教職員厚生委員会	校長が任命する教員6名，校長が任命する事務・技術職員5名	職員厚生事業の企画・運営，その他職員厚生事業に関することを審議
構内交通安全対策委員会	主事，各学科（教室）教員6名，事務部長	構内の交通規制，駐車場，その他構内の交通安全に関することを審議
教務委員会	教務主事，教務主事補，学科（教室）主任，学生課長	教育課程及び授業時間割の編成等授業実施，特別活動・学校行事等，退学・休学・進級及び卒業の認定等，その他教務に関する重要事項の審議
留学生委員会	教務主事，学生主事補，寮務主事，留学生主任，留学生指導教官4名，学生課専門員	留学生の教育課程編成その他留学生に関し必要な事項を審議
補導委員会	学生主事，学生主事補，寮務主事，学級担任，学生課長	学生の保健管理，福利厚生，規律及び風紀，育英奨学，学生会，その他学生の補導に関する重要な事項の審議
学寮運営委員会	寮務主事，学生主事，各学科・各教室から教員1名，学生課長	学生の入寮及び退寮，寮生の指導，学寮の施設・設備の管理，寮生の保健衛生・福利厚生，その他学寮の運営上重要な事項の審議
専攻科委員会	専攻科長，専攻主任，学科（教室）教員5名，学生課長	専攻科にの入学者選抜等，教育課程の編成及び教育計画の立案，学生の進学及び就職，学生の厚生補導，その他専攻科の運営に関すること
図書館運営委員会	図書館長，副図書館長，各学科及び各教室の教員1名，事務部長，学生課長	図書館の運営，図書の選定，その他図書館に関する重要な事項の審議
総合情報処理センター運営委員会	総合情報処理センター長，副センター長，教務主事，図書館長，各学科（副センター長所属の学科を除く）及び教室の教員1名，事務部長，その他校長が特に必要と認めた者	情報処理に関する教育・研究への支援及び普及，マルチメディアを利用した情報教育，センターの予算，センターの利用，その他センターの管理運営に関する事項の審議
ネットワーク委員会	総合情報処理センター長，副センター長，教務主事，図書館長，庶務課長，ネットワーク支線管理者，総合情報処理センター員	ネットワークの利用環境の整備・充実，利用者に対する技術的支援及び知識の普及，運用・保守，将来計画，本校と学外機関との接続に関する事項の審議
地域連携テクノセンター運営委員会	地域連携テクノセンター長，副センター長，各学科及び各教室の教員1名，その他校長が必要と認めた者	センターの業務計画，予算，その他センターに関する重要事項の審議
教育研究支援センター運営委員会	教育研究支援センター長，各学科及び各教室の教員1名，総合情報処理センター長，地域連携テクノセンター長，技術長，技術班長	教育研究支援センターの運営に関する基本方針，業務，技術職員の配置計画，学科・教室等との連絡調整，その他センターの運営に関し必要な事項の審議
事務情報化委員会	事務部長，課長，事務情報化推進室長（専門職員事務情報化担当），その他事務部長が特に必要と認めた者	事務情報化推進の基本方針の決定，実施計画の策定，研修会の企画及び実施，その他事務情報化の推進に関する事項の審議

（出典　福井工業高等専門学校規則集）

（資料１１－１－②－４）

「校務分掌表」

平成１７年度　校務分掌表　　校長の校務分掌（協議会，将来構想検討委員会，自己点検・評価委員会、情報セキュリティ委員会）

		その他の役職等 （　）内は補，補佐又は副	学級担任 （補）	協議会	将来構想検討委員会	施設整備委員会	認証評価委員会	自己点検評価委員会	教育システム評価委員会	情報セキュリティ委員会	JABEE委員会	教育改善委員会	FD委員会	教員間ネットワーク委員会	研究改善委員会	専攻科委員会	教務委員会	留学生委員会	補導委員会	学寮運営委員会	入学試験委員会	進路指導委員会	研究紀要委員会	公開講座委員会	知的財産委員会	放射線障害防止委員会	有害廃棄物等処理委員会	遺伝子組換え実験安全委員会	図書館運営委員会	総合情報センター運営委員会	ネットワーク委員会	地域連携テクノセンター運営委員会	教育研究支援センター運営委員会	広報委員会	広報委員会ホームページ専門部会	校友会誌編集委員会	青武台だより編集委員会	法人サービス推進委員会	防災対策委員会	安全衛生委員会	教職員厚生委員会	構内交通安全対策委員会	部・同好会	
機械工学科	阪口　健一																																										阪口
	井上　清一	学生相談室長，計測制御部門長，（主任）													◎				○																								井上
	安丸　尚樹	副校長・学生主事，材料副部門長		○	○			○		○			○						◎	○		○				○		○						○		○	◎	○	○			○	ハンドボール	安丸
	吉崎　保夫		5M			○													○			○																					吉崎
	田中嘉津彦	主任	(4M)	○					◎	○							○				○	○		○	○																		田中嘉
	加藤　寛敬	（地域連携テクノセンター長）	(F1)		○							○				○						○				○						○											加藤
	藤田　克志	（教務主事）	(5M)						○			○	○	○	○		○				○																						藤田
	芳賀　正和	支線管理者(M棟)	3M				○												○			○									○												ハンドボール	芳賀
	村中　貴幸		4M																○			○																				○	バスケ（男）	村中
	鈴木　秀和	情報センター員	(2M)						○											○									○	○				○									鈴木
	岡田　将人	（寮務主事）																					○																	○		バスケ（女）	岡田
電気電子工学科	新谷　邦弘	(学生主事)	(2E)																○																	○							新谷
	前多　信博	図書館長，（主任），放射線取扱主任者		○				○																		○			◎	○	○		○	○	○	◎		○				コレクトロメーキング	前多
	原田　望	支援センター長，計測制御副部門長，教員会議議長	5E	○		○		○		○					○							○			○			○					◎							○		ソーラープレーン	原田
	大久保　茂	副校長・専攻科長		○	○			○		○	○		○			◎						○	○															○				大久保
	川本　・	主任		○				○		○							○				○	○		○	○		○											○				ソーラーカー	川本
	山本　幸男	（教務主事）	(F2)									○	○	○			○				○										○												山本
	荒川　正和		4E				○		○										○																						○	プラスバンド	荒川
	佐藤　臣		(5E)								○					○						○			○															○			佐藤
	米田　知晃		3E								○								○	○		○															○					バスケ（男）	米田
	丸山　晃生	（寮務主事），情報センター員，支線管理者(E棟)	(4E)																										○	○				○									剣道	丸山
電子情報工学科	藤原　正敏	（寮務主事）	(5Ei)																													○											ソフトテニス	藤原
	井上　昭浩	(学生主事)							○						○				○						○	○	○												○	○			井上
	廣田　晃	情報センター長，（主任）	(F5)	○			○	○		○													○						◎	◎		○	○	◎									陸上	廣田
	前川　公男		(4Ei)	○				○		○							○				○	○		○				○				○							○			○	天文	前川
	野村　保之	（教務主事）	(2Ei)		○		○					○	○	○			○				○																							野村
	下條　雅史	生産ｼｽﾃﾑ工学専攻主任，情報処理部門長，教員会議議長				○						○				○						○							○														ソフトテニス	下條
	青山　義弘		5Ei																○	○		○																					卓球	青山
	斉藤　徹	支線管理者(EI棟)，情報処理副部門長	4Ei				○					○						○	○			○									○												バドミントン	斉藤
	高久　有一	情報センター員，支線管理者（専攻科棟・学寮	3Ei				○											○	○			○							○	○				○									卓球，日本経済学	高久
	石川　和彦																																										ブィッシング	石川
	西　仁司																																			○	○						西
物質工学科	松井　修一	学生相談員	(2C)																										○												○		松井
	吉村　芳武	特別管理産業廃棄物管理責任者	(4C)												○								○				◎														◎		吉村芳
	吉村忠興志	主任，安全主任者	(5C)	○				○		○							○				○	○		○			○	◎					○						○				ブィッシング	吉村忠
	小泉　貞之	（主任），環境部門長，環境システム工学専攻主任									○					○						○				○																	小泉
	上島　晃智	地域連携テクノセンター長，バイオ副門長，支線管理者（地セ棟）		○	○		○	○																	◎			○				◎	○	○									バドミントン	上島
	津田　良弘	（教務主事）	(F3)		○		○				○	○	○	○			○			○	○															○							津田
	常光　幸美																																											常光
	髙山　勝己		5C																○			○			○			○															高山
	平井　恵子	情報センター員	3C																○	○		○							○	○				○									茶道	平井
	加藤　敏		4C			○													○			○																					水泳	加藤
	松井　栄樹	(学生主事)																	○																		○						松井
	大嶋　俊一	（寮務主事），支線管理者(C棟)																													○											サッカー	大嶋
	川村　敏之																											○															川村
環境都市工学科	前島　正彦	（主任）	(2B)																						○			○														○	囲碁・将棋	前島
	廣部　英一		5B			○													○	○		○														○							廣部
	武井　幸久		(5B)	○				○		○					○		○				○	○	◎	○									○						○				武井
	山田　幹雄	（寮務主事）																				◎																					山田
	阿部　孝弘		4B	○							◎		◎						○			○																					バスケ（男）	阿部
	奥村　充司	バイオ副部門長									○					○						○			○	○	○																野球	奥村
	吉田　雅穂	環境副部門長																																										吉田
	辻子　裕二	（地域連携テクノセンター長）	3B		○		○												○			○										○										○	陸上，剣道，ソフトボール	辻子
	辻野　和彦	（教務主事），支線管理者(B棟)，留学生主任	(F4)									○	○	○		○	○				○										○	○				○							野球	辻野
	田安　正茂	（学生主事），情報センター員	(4B)																○	○	○									○	○				○								陸上，バレー（男），ソフト	田安
一般科目教室（自然系）	坪川　武弘	主任		○				○		○							○				○	○		○	○																	バレー（女）	坪川
	長水　壽寛	学生相談員	(3M)									○																															サッカー	長水
	宮田　一郎		F1																○				○																				柔道	宮田
	柳原　祐治		2E																○																	○								柳原
	井之上和代		2C																○																								ペーパークラフト	井之上
	朝倉　相一		F5			○			○										○													○											バレー（男）	朝倉
	中谷　実伸	（総合情報処理センター長）	F2						○										○											○	○				○								剣道	中谷
	岡本　拓夫		2B																○	○												○											天文，少林寺	岡本
	太田　泰雄	副校長・教務主事，材料部門長，職員相談員		○	○	◎	◎	○	○	○	○	◎	○	◎	○		◎	◎			◎	○		◎		◎				○	○			◎			◎	○	◎		◎	ラグビー，合気道	太田
	北浦　守		(3B)					○		○					○							○														○							テニス	北浦
	山本　裕之	(学生主事)，（主任）													○				○								○																バレー（女），写真	山本
	島田　茂	副校長・寮務主事		○	○			○					○					○	○	◎														○			○	○			○	テニス	島田
	小林　秀紹	（教務主事）			○		○					○	○	○			○				○																					陸上，アロースティック	小林
	山田　孝禎								○																			○															山田孝
一般科目教室（人文系）	前田　安信	(学生主事)，（主任）	(3C)																○	○																					○	野球	前田
	大久保　弘	（寮務主事）																																		○							大久保
	中村　・　秀	（図書館長）	2M									○							○										○														モダンミュージック	中村
	森　芳周																															○												森　芳
	廣重準四郎		F3												○				○				○																					廣重
	荻野　繁春	支線管理者（一般教育棟）	2Ei																○												○												文芸	荻野
	小寺　光雄	主任			○			○		○							○				○	○		○	○													○				英語，映画制作	小寺
	森　貞	教員会議議長	(3Ei)								○					○						○																					モダンミュージック	森　貞
	原口　治		F4			○													○																						○		英語	原口
	・川　直美	職員相談員，学生相談員	(3E)																																								バスケ（女）	瀬川
	吉田　三郎				○																											○												吉田三
事務部・教育研究支援センター	事務部　長	防災管理者		○	○			○		○											○								○	○								○	◎			○		事務部長
	庶務課　長	ｾｸｼｭｱﾙ・ﾊﾗｽﾒﾝﾄ職員相談員					○																	○	○	○		○			○		○	○			○	○					庶務課長
	会計課　長	安全管理者				○	○																		○	○	○						○	○			○	○	○				会計課長
	学生課　長						○									○	○		○	○		○							○				○	○		○	○	○					学生課長
	専門職員（情報）	事務情報化推進室長，情報センター員，支線管理者(管理棟)																													○			○									専（情報）
	人事係　長																																							○			人事係長
	総務係　長																																							○			総務係長
	専門員（学務）																		○																								専門員
	技術　長																															○											技術長
	第一技術班長																															○											第一班長
	第三技術班長																															○											第三班長
	山本　益示	支線管理者(図書館棟)																													○												山本益
	三好　敦子	ｾｸｼｭｱﾙ・ﾊﾗｽﾒﾝﾄ職員相談員																																									三好
	荒木　俊幸																																					○					荒木
	大西　淑子	衛生管理者																																				○					大西
	片岡　裕一																										○																片岡
	西野　正敏																																							○			西野
	立花　健二																																							○			立花
	岩田　憲保																																							○			岩田
	孝久　和郎																																							○			孝久
	朝倉　奈苗																																							○			朝倉
	野尻　裕之	産業医																																				○					野尻

（出典　庶務課）

本校では協議会で管理運営（重要事項）について審議し，その結果を各々担当する委員会（将来構想検討委員会，自己点検・評価委員会，情報セキュリティ委員会等）に割り当て，各委員会において検討し，担当の部署で計画・実施している。また，各委員会には事務部の代表として事務部長又は当該担当課長が委員として出席し，委員会の決定事項を末端までリアルタイムに周知している。さらに，事務部長及び各課長で構成する「部課長会」を月に２回開催し，各課の懸案事項等について協議を行い，共通認識の下に業務にあたっている。また，その内容について，事務連絡会議（「事務連絡会議事次第」で報告することにより，事務職員及び技術職員の担当者に直接周知する体制を整えている。

一方，平成１６年度には技術職員の効率のよい業務体制を構築するとともに，教育研究の支援強化を図るため，各学科等に所属していた技術職員を集中化し，教育研究支援センターを設置した。また，協議会等の議事要旨を学内ＬＡＮによるグループウェアで全教職員が閲覧できることにより職員の一人ひとりが学校の現状を把握することができる。

（分析結果とその根拠理由）

本校の目的を達成するために，各種委員会で審議・協議し，協議会の決定事項については教職員が連携協力して速やかに業務を遂行しており，効果的な活動を果たしている。

観点11－１－③：　管理運営の諸規定が整備されているか。

（観点に係る状況）

本校の管理運営に関する諸規程については，「福井工業高等専門学校学則」，「福井工業高等専門学校内部組織規則」，「福井工業高等専門学校事務組織規則」等のほか各種委員会規則等も校務分掌表のとおり整備されており，十分にその役割を果たしている。

（分析結果とその根拠理由）

管理運営に関する諸規程の整備については，従前から行っており適切に運営されている。今後は各種委員会の統廃合を行うなど，効率的な体制づくりを検討することとしている。

観点11－２－①：　外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映されているか。

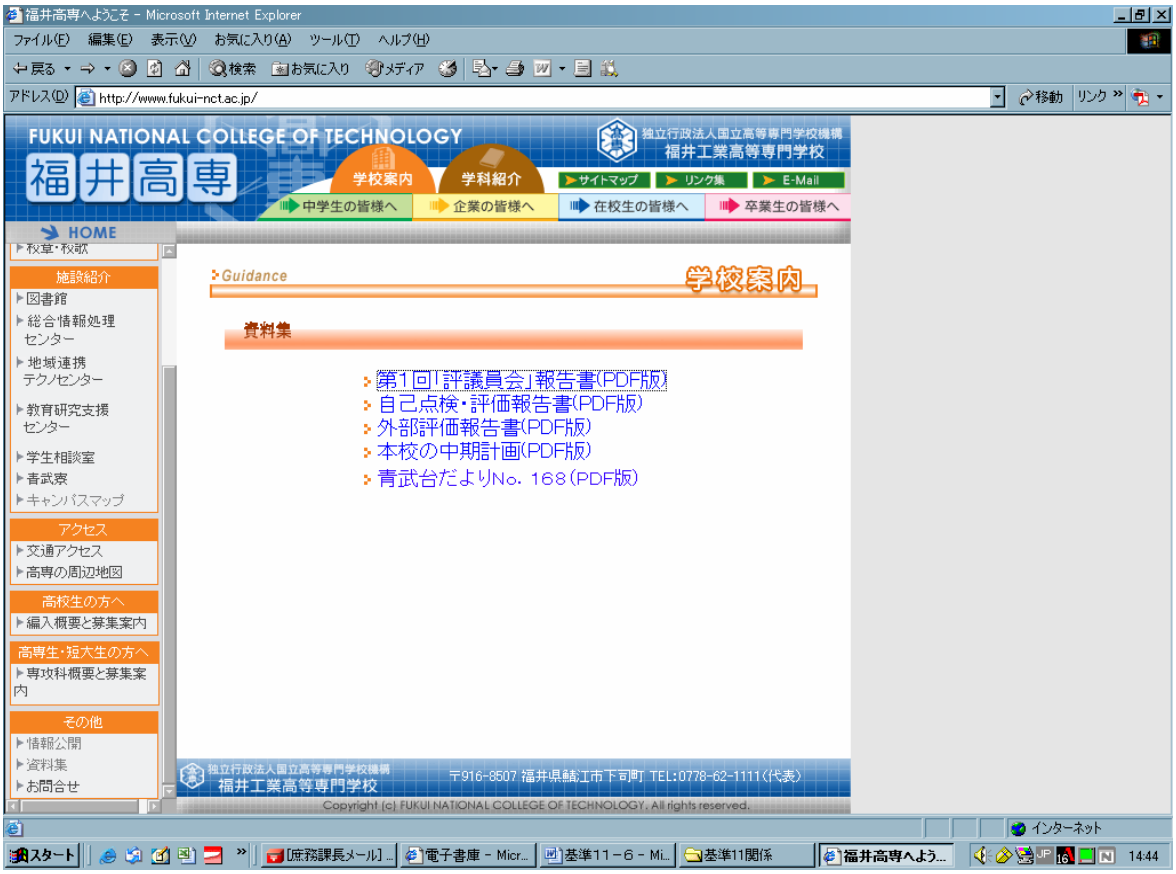
（観点に係る状況）

平成１４年１２月に福井工業高等専門学校外部評価実施要項を制定し，平成１５年２月に外部評価を実施した。その評価結果を「外部評価報告書」（資料１１－２－①－１）に取り纏め，関係機関へ配付するとともにホームページに掲載した。また，平成１６年５月にはこの要項を福井工業高等専門学校評議員会規則に改め，高等教育機関の教員，本校の所在する地域の教育関係者，地方自治体等研究機関の研究者，産業界の有識者，報道機関の有識者で構成される評議員会を年に１回以上開催し，教育目標・計画，自己評価，中期計画，その他本校の運営に関する重要事項について審議・評価を受けている。その結果を第１回「評議員会」報告書に取り纏め関係者に配付及びホームページに掲載するとともに，管理運営のうえで重要な意見については協議会において検討し，その結果，改善等を要す

る事項については担当する委員会等に要請している。次に，委員会等は要請により改善等を実施し，その結果を協議会に報告している。また，改善内容等については次回開催の評議員会で報告することにより，外部有識者の意見を反映している。

（資料１１－２－①－１）

「第１回「評議員会」報告書」



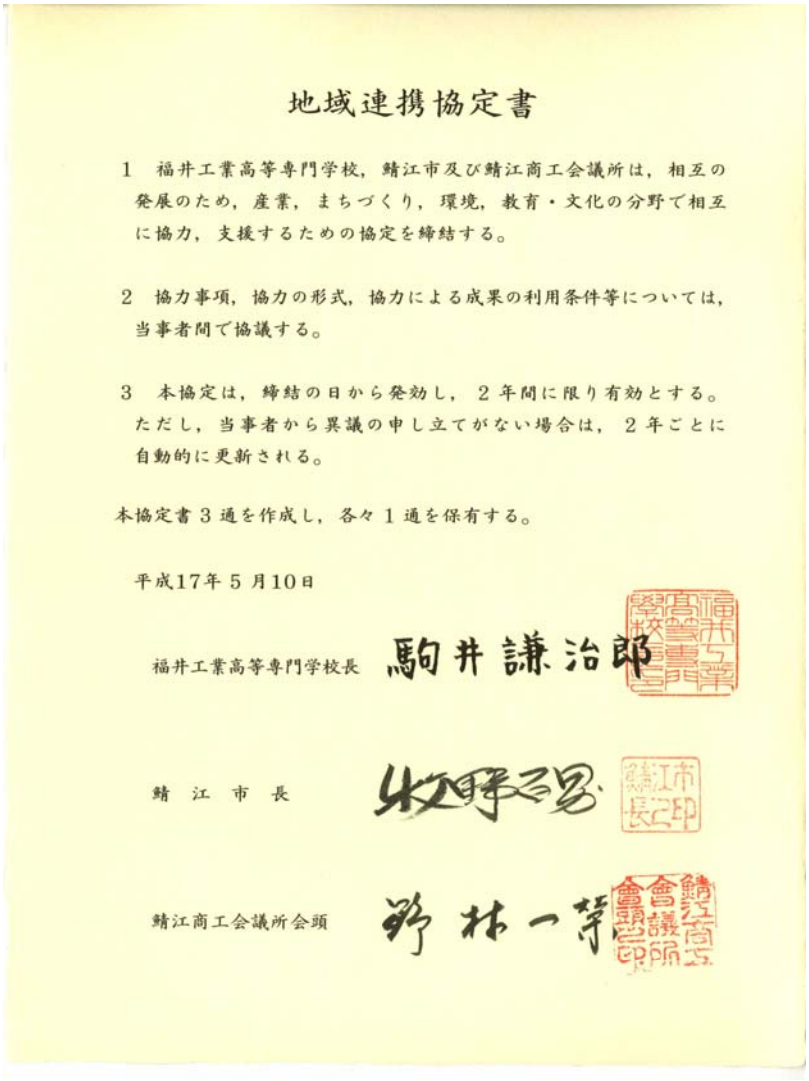
（出典　福井工業高等専門学校ホームページ）

平成１６年９月に実施した評議員会報告書の一つの事例として，伝統産業の支援については積極的に取り組んでおり評価するが，地場産業においても支援を期待する旨の要望があり，昨年度設置した伝統産業支援室につづいて今年度は地場産業支援室を設置するとともに，平成１７年５月には地元の市町及び商工会議所等との三者による地域連携協定（資料１１－２－①－２）を結び地元の産業界及び行政機関との関係をより親密にした。

また，人口の半分を占める女性にものづくりの楽しさや技術の必要性を持たせることも重要なことと思われるため，女子学生を受け入れる努力を要請する旨の依頼があり将来検討委員会等で検討した。

（資料１１－２－①－２）

「地域連携協定書」



地域連携協定書

1　福井工業高等専門学校，鯖江市及び鯖江商工会議所は，相互の発展のため，産業，まちづくり，環境，教育・文化の分野で相互に協力，支援するための協定を締結する。

2　協力事項，協力の形式，協力による成果の利用条件等については，当事者間で協議する。

3　本協定は，締結の日から発効し，２年間に限り有効とする。ただし，当事者から異議の申し立てがない場合は，２年ごとに自動的に更新される。

本協定書３通を作成し，各々１通を保有する。

平成17年５月10日

福井工業高等専門学校長　駒井謙治郎

鯖　江　市　長

鯖江商工会議所会頭　野林一等

（出典：庶務課）

（分析結果とその根拠理由）

評議員会を開催し，産官学の各界から広く要望等を求め，提言事項については，協議会，その他関係する各委員会等で実現に向け改善策等を検討するなど，外部の意見は反映されている。

観点 11－３－①：　自己点検・評価（や第三者評価）が高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ，かつ，それらの評価結果が公表されているか。

（観点に係る状況）

自己点検・評価，評議員会，ＪＡＢＥＥの受審，学生へのアンケート調査（「平成１６年度教育環境要望調査アンケート」）及び企業へのアンケート調査（「第１回「評議員会」報

告書」の４４頁に掲載）を行い，教育・研究，組織・運営，施設・設備について偏りのない公平な判断をするとともに，その評価結果を報告書に取り纏めるとともにホームページで公表している。また，学生へのアンケート調査結果による改善策等の学生への周知は学級担任が行うとともに，寮関係は寮の掲示板，図書館関係は図書館入り口の掲示板で表示した。

（資料１１－３－①－１）

「平成１６年度教育環境要望調査アンケート」

平成 16 年度教育環境要望調査アンケート　①結果分析

＜本科：1ー5 年＞

１．施設

講義室に対して不満と回答した学生が 64%と極めて高い結果となった. 不満理由として大半が空調の未整備を挙げた．７月にアンケート調査を実施したこと，県立高校では既に空調整備が成されているところもあることも要因として考えられる．その他の施設に関しては，約２割が不満と回答し，施設利用の利便性について不満をもつ者が多かった.

２．福利厚生施設

食堂，売店のサービスに対して不満と回答した学生が約 15%であり，改善を求める意見も寄せられた．その他の福利厚生施設に関しては，不満と回答した学生は１割程度以下であり，概ね不満が少ないという結果が得られた.

３．その他施設

約６割の学生が学生駐車場に対して不満と回答した．その要望意見としては，舗装あるいは整地，駐車スペース間隔の拡張などであった．これに対しては，駐車許可証発行時などにおいて十分な説明の必要があるであろう．学寮に対して不満と回答した寮生が約４割にのぼり，その不満理由として空調の未整備，隣室の騒音，部屋面積などが挙げられた．その他，駐輪場，校内環境・美化に対する不満が２割程度であり，今後校内環境整備の必要も考慮する必要があると思われる.

＜専攻科：1ー2 年＞

１．施設

主として専攻科棟（エアコン完備）にて講義を受けるため，講義室に対する不満は少ない．情報処理センターおよび図書館に対する不満が約２ー３割と若干不満と感じている学生数が多いといえる．情報処理センターへの要望では，コンピュータなどのハード環境に対する不満とインターネット利用に制限がある不満が挙げられた．図書館に対する要望としては，専門書，文献の充実を求める意見が寄せられた.

２．福利厚生施設

売店に対する不満が２割弱と若干の不満がみられた．売店で専門書を販売してほしいという要望が寄せられた．その他に関しては，概ね満足率が高いと考えられる.

３．その他施設

約７割の学生が学生駐車場に対して不満と回答した．その要望意見としては，舗装あるいは整地，駐車区画を示すラインの明確化などであった．これに対しては，駐車許可証発行時などにおいて十分な説明の必要があるであろう．その他，駐輪場，校内環境・美化に対する不満が約２ー３割であり，今後校内環境整備の必要も考慮する必要があると思われる.

*専攻科学生の要望には，図書館の専門書，文献の不足，コンピュータ，インターネット環境および利用の充実など勉学意欲を示す意見が多く見られたのが特徴的であった.

（出典　庶務課）

（資料１１－３－①－２）
「平成１６年度教育環境要望調査アンケート」

平成 16 年度教育環境要望調査アンケート　②要望意見（施設別）

◎は、特に要望が多かったもの
〇は、要望が多かったもの

施設
◎教室および校内建物・施設が汚い，暑い，狭い，古い
◎クーラーが欲しい
◎毛虫をなんとかして欲しい（特にプールなどの野外施設、教室付近）
〇黒板が古い、汚い
〇教室の風通しが悪い
〇パソコン，インターネット環境が古い，処理速度が遅い
〇図書館の本，専門書，文献が少ない・古い
〇情報処理センターの利用時間が短い
〇Ｗｅｂ閲覧ができる環境が欲しい
〇施設利用時間が短い
〇屋外施設を利用しやすくしてほしい（部員以外利用しにくい），利用方法がわからない
第二体育館の暗幕がとれるので直してほしい
プールが汚い・古い

福利厚生施設，利用環境
〇食堂，売店が狭く混雑する
〇売店で専門書を販売してほしい
保健室に先生が不在なことが多い。特に、部活動時。
保健室のベッド数が少ない

その他施設
◎駐輪場が狭い
〇学生駐車場を舗装してほしい，でこぼこを直してほしい，駐車区画がわかりにくい
〇休息場所（日陰，ベンチ）がほしい
水たまりを直してほしい
心和館内が汚い

寮
〇寮にクーラーがなく、勉強に集中できない，寝不足気味
狭い
汚い
隣室の騒音

（出典　庶務課）

（資料１１－３－①－３）

「平成１６年度教育環境要望調査アンケート」

平成 16 年度教育環境要望調査アンケート　③要望意見（学年別）

◎は、特に要望が多かったもの
〇は、要望が多かったもの

１年

◎クーラーが欲しい、暑すぎる
◎毛虫をなんとかして欲しい（特にプールなどの野外施設、教室付近）
〇パソコンが古い
〇図書館の本が少ない・古い
Ｗｅｂ閲覧ができる環境が欲しい
寮にクーラーがなく、寝不足気味
駐輪場の段差が高い
保健室に先生が不在なことが多い。特に、部活動時。
プールが汚い・古い

２年

◎クーラーが欲しい、暑くて勉強に集中できない
◎虫が多い
◎売店が狭い
◎駐輪場が狭い
〇教室が狭い
〇黒板が古い、汚い
保健室に先生がいない
パソコンが古い
Ｗｅｂ閲覧ができる環境が欲しい
プールが汚い・古い
寮が暑くて勉強に集中できない
寮が狭い，汚い，隣室の騒音

3 年

◎教室および校内建物・施設が汚い，暑い，狭い，古い
◎クーラーが欲しい
〇図書館の蔵書が少ない
〇パソコンが古い，処理速度が遅い
〇情報処理センターの利用時間が短い
〇休息場所（日陰，ベンチ）がほしい
〇食堂，売店が狭い
水たまりを直してほしい
駐輪場が狭い

（出典　庶務課）

本校では，国立高等専門学校機構が作成した中期計画を基に本校独自の中期計画を設定するにあたり，将来構想検討委員会にて中期計画の案を作成し，その案を評議員会において各委員の意見等を聴取及び審議したうえで本校の中期計画とした。

また，専攻科の教育プログラムが社会で必要とする多様な能力を持つ技術者の育成教育として構築されているか外部有識者の評価を得るため，平成１６年度に日本技術者教育認定機構（ＪＡＢＥＥ）の審査を受け，平成１７年５月にＪＡＢＥＥ技術者プログラムとして認定された（認定プログラム名：環境生産システム工学，認定分野：工学（融合複合・新領域）関連分野）。

この中期計画及びＪＡＢＥＥ技術者プログラムの認定についてはホームページで公表している。

この他，教職員の勤務意欲と本校の活性化を図るため「福井工業高等専門学校校長表彰規則」を平成１６年１月に制定し，選考委員会の評価のもとに，毎年年度末に数名の表彰を行い，スカイボードで公表している。

（分析結果とその根拠理由）

自己点検・評価や外部評価を実施し，その結果を報告書及びホームページ等で公表している。

観点11－３－②：　評価結果がフィードバックされ，高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるような，システムが整備され，有効に運営されているか。

（観点に係る状況）

自己点検・評価，評議員会，ＪＡＢＥＥの受審，学生へのアンケート調査及び企業へのアンケート調査の評価結果を協議会等で審議のうえ，それぞれ担当する委員会にて具体的な方策を検討し改善している。

例えば，自己点検・評価委員会では補導委員会が行った学生アンケートの結果を受け，各委員の関係する委員会で「改善策」を講じるとともに実施し，その改善状況を「将来構想検討委員会」に報告している。また，評議員会の意見等についても「校長メモ」により「協議会議事要旨」や「将来構想検討委員会議事要旨」のように各担当委員等に問題を提起し，「将来構想検討委員会議事要旨」のとおり取り組んでいる。

（資料１１－３－②－１）

「改善策」

平成１６年度教育環境調査アンケート　②要望意見（施設別）

◎は特に要望が多かったもの　○は要望が多かったもの　・は要望があったもの

施設

◎教室および校内建物・施設が汚い、暑い、狭い、古い

平成１７年度施設整備概算要求で校舎全面改修を要求

現有教室を１．５倍に広げる。

各学科で現有使用の実験室、製図室、コンピュータ室の共用化を図る。

◎クーラーが欲しい

校舎全面改修時に教室及び実験室等にクーラーを設置する。

◎毛虫を何とかして欲しい（特にプールなどの野外施設、教室付近）

定期的（年２回）に駆除しているが、要望があれば会計課に連絡願います。

○黒板が古い、汚い

校舎全面改修時に教室等に設置している黒板については更新される。

○教室の風通しが悪い

校舎全面改修時にロッカー等を含めた教室の教育環境を整備する。

○パソコン、インターネット環境が古い、処理速度が遅い

平成１６年度契約「教育用電子計算機システム」更新に伴い、サーバは２台となり、

ＰＣは１５０台が導入される。

またメールサーバー（教職員・学生用）も更新予定である。

○図書館の本，専門書，文献が少ない・古い

毎年、予算の範囲内で各学科及び各クラスから推薦のあった専門書等を購入している。なお、今年度は校長裁量経費の配分により例年より多く購入予定である。また、新書はブックカバーをつけ目に付きやすくした。

○情報処理センターの利用時間が短い

基本的には午前８時３０分から午後５時１５分であるが「総合情報処理センター時間外利用許可願」を提出すれば午後１０時まで利用可能である。利用時間帯等についてはセンター内と本校のホームページ及び当初の授業開始時に案内している。

（平成１６年４月～９月の時間外利用件数　９２件）

○Web 閲覧ができる環境が欲しい

現在は図書館のパソコン２台が閲覧できるが平成１６年度契約「教育用電子計算機システム」更新に伴い総合情報処理センターに１０４台、ものづくりアトリエに４６台のパソコンが納入され平成１７年４月より全て閲覧が可能になる。

○施設利用時間が短い

課外活動で時間外に体育施設等を使用する場合は「課外活動届」を７日前までに提出し、許可を受ければ午後１０時まで利用できる。利用時間帯等については再度学生に周知する。

○屋外施設を利用しやすくしてほしい（部員以外利用しにくい），利用方法が分からない

「施設使用願い」を学生課に提出し、クラブ代表者の了解を得て利用することができる。ただし、課外活動が優先されるので時間帯、曜日等の制限がある。

・第二体育館の暗幕がとれているので直して欲しい

暗幕業者に依頼済

・プールが汚い、古い

営繕工事要求として機構本部に要求する。

福利厚生施設，利用環境

○食堂，売店が狭く混雑する

本年４月から食堂業者が代わり、サービス、メニューなどが向上したことから、学生の利用者が増大したこともあって、お昼時間の一時に混雑するようになった。食堂を今すぐに拡張することはできないので、空いている場所にテーブル（４台）と椅子（２４脚）を平成１６年１０月に設置し、混雑の解消を図った。

（出典　庶務課）

○売店で専門書を販売してほしい

専門書は販売数も少なく、また、現在の売店経営形態及びスペースでは書籍を並べることは難しい。但し、売店に備え付けの書籍注文書に必要事項を記入のうえ店員に渡せば専門書等の書籍購入は可能である。（１０／２０売店責任者に確認）

・保健室に先生が不在なことが多い。特に部活動時

非常勤の看護師が午前９時４５分～午後４時３０分まで勤務している。部活動時についての学生の世話は顧問の先生にお願いしたい。また、勤務時間外に怪我等した場合は「事件・事故発生の緊急連絡網」により対応していただきたい。

・保健室のベッドが少ない

現在ベッドは３台有り、体調不良を訴えてくる学生の症状により、ベッドで休養を取らせている。しかし、保健室のスペースも小さくベッドをこれ以上増やすことは難しい状況なので、比較的軽い症状の学生にはソファーや診察台等で対応したい。また、現在も行っているが、症状が回復しない学生には、早め早めに医療機関にかかり、帰宅するよう指導している。

その他施設

◎駐輪場が狭い

駐輪場の収容台数は、①校舎西側駐輪場約２６０台、②電情棟南側駐輪場約２２０台の計４８０台である。現在学生が乗ってきている自転車台数は、①約２８０台、②１６０台で合計すると収容台数を下回っていることから、現状の乱雑な自転車の置き方の指導と、指定駐輪場への駐輪を徹底すれば混雑は解消可能である。

寮の駐輪場については、南寮に増設した。

○学生駐車場を舗装してほしい，でこぼこを直してほしい，駐車区画がわかりにくい

駐車場は、武生市･鯖江市の共有地を教育後援会が借り受けしており、所用の整備をしているが、舗装については工事費が高額でありまた、返還するときには現状復帰の条件が課せられていることもあり、舗装をしていない。でこぼこの補修及び駐車区画については、経費の面もあるので、業者に見積もらせた後、できるものから実施したい。（教育後援会が実施する）

○休息場所（日陰，ベンチ）がほしい

校内には高木も多く休息場所も少なくないと考えている。

ベンチは校内の数カ所に設置してあり、冬期の除雪作業を考慮すれば現状で対応したい。

・水たまりを直して欲しい

整備する。

・心和館内が汚い

心和館を利用したものが、退去時に必ず清掃等をすることになっている。今後はより入念な清掃をするよう指導する。

寮

○寮にクーラーがなく、勉強に集中できない，寝不足気味

今のところ、予算上、各居室にはクーラーは設置できません。クーラーは，図書室に設置されており、通常は午後１１時まで利用可能ですが試験期間中は午前１時まで延長できます。

・狭い

学寮各居室の平均面積は１０．５㎡ですが、周辺の賃貸アパートも（玄関、便所、浴室、キッチン等の面積を除くと）約１１㎡で，学寮居室が格段に狭いとも言えない。

・汚い

清掃状況の問題であるとすれば，週２日の当番制では不充分であるということになる。寮生会役員と一度検討してみる。施設面での問題であれば、東、北寮は平成５・６年に改修が終わり南寮は平成８年に新築している。また東寮の居室の壁紙の剥がれも平成１５年に張り替えを行い整備済みである。

・隣室の騒音

隣室の寮生相互のマナーの問題であると思うが，解決しづらいようであれば，区長か寮務主事団に申し出てほしい。

（出典　庶務課）

（資料１１－３－②－２）

第１回福井工業高等専門学校評議員会（校長メモ）

日時：平成１６年９月７日〔火〕　１０時―１５時１５分

外部評価委員会委員

児嶋眞平（福井大学長），小島　陽（長岡技術科学大学長），茨田隆信（鯖江市中学校校長会会長），中野孝太郎（福井県産業支援センター常務理事），野村一栄（鯖江商工会議所会頭），本島正勝（信越化学工業（株）磁性材料研究所長），橋詰武宏（(株）福井新聞社役員待遇論説委員長）

本校

校長，教務主事，学生主事，寮務主事，専攻科長，各学科（教室）主任，図書館長，各センター長，事務部長，各課長，JABEE 委員長　　以上　合計 28 名

講評概要

児嶋委員長総評

・　工学基礎コース設置を意欲的取り組みとして評価する．今後発展することを期待する．
・　寮生対応，担任制，学年主任制等，学生にきめの細かい配慮をしている．
・　専攻科と本科の連携に不安がある．大学３年への編入学の増加する状況下で専攻科入学生を如何に確保するのか．また，専攻科修了生の大学院への進学を奨励するのか，就職を前提とするのか等，専攻科をどのように今後運営しようとしているのか．（将来構想検討委員，専攻科委員会）
・　研究面では共同研究が急増し充実しているが，教育との兼ね合い，研究時間の都合を考慮のこと．
・　研究費は科研費実績を評価する．運営交付金減に備えること．
・　教育環境が劣化している．整備に努めること．（施設整備部会）
・　産学連携を手広くやるのは期待倒れの恐れあり．意欲的に取り組んでおり成果ありと認める．

小島委員

・　連携大学院を推進されたい．（専攻科委員会）

茨田委員

・　広報活動が弱いので，活発化し小中学校との繋がりを強化されたい．高校は積極的である．小中学校への宣伝活動を積極的に，また，教員研修や出前授業を考えて欲しい．（広報委員会）

中野委員

・　研究活動の裏付け，産官学連携について，もっと具体的に中期計画に記載されたい．（中期計画手直し）

野村委員

・　丹南地域の伝統産業は和紙以外に，漆器や打ち刃物があることを忘れないこと．的を絞って産官学連携を推進されたい．（先進技術教育研究センター運営委員会）

本島委員

・　英語力の強化を期待する．（一般科目教室主任）

橋詰委員

・　小学生をターゲットにした物づくり，理科，科学技術への関心強化に努める（広報委員会）．
・　国際化対応を．留学制度や海外とのネットワーク開拓に努めること．（教務委員会）
・　人口の半分を占める女子学生に手に技術を持たせるニーズがある．之に応えること．（各学科主任）

（出典　庶務課）

（資料１１－３－②－３）
「協議会議事要旨」

平成１６年９月定例協議会議事要旨

日　　時　　平成１６年9月9日（木）１５：３５～１６：００
場　　所　　校長会議室
出　席　者　　校長、教務主事、学生主事、寮務主事、事務部長、
田中、前川、松井(修)、前島、小寺、坪川(武)各学科(教室)主任、
総合情報処理センター長、先進技術教育研究センター長、大久保(茂)JABEE委員長
代理出席者　　小泉専攻科環境システム工学専攻主任
欠　席　者　　専攻科長、新谷主任、図書館長、教育研究支援センター長
列　席　者　　庶務課長、会計課長、学生課長、庶務係長

校長から前回の議事要旨（８月臨時協議会、第２回福井豪雨支援室会議）の確認が行われ了承された。

Ⅰ　審議事項

１　学則の一部改正について

小泉専攻主任から教育課程の改訂に至る経緯について、また学生課長から学則新旧対照表に基づきそれぞれ説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

Ⅱ　報告事項

１　校長報告

(1) 平成１６年度第１回福井工業高等専門学校評議員会について

去る９月７日に本校で開催された評議員会について、校長から報告があった。

２　先進技術教育研究センター長所管事項報告

(1) 第２回全国高専テクノフォーラムについて

センター長から報告があった。併せて、９月３０日に大講義室で「特許講習会」を開催する旨案内があった。

(2) 第１２回高度技術者研修について

センター長から今月２８～２９日に実施する旨案内があった。

(3) 武生商工会議所ならびに会員企業と福井工業高等専門学校との交流会の開催について

センター長から明日（１０日）に開催する旨案内があった。

（出典　スカイボード）

（資料１１－３－②－４）
「将来構想検討委員会議事要旨」

第５回将来構想検討委員会議事要旨

日　　時　　平成１６年９月９日（木）１６：００～１６：２５
場　　所　　校長会議室
出　席　者　　校長、教務主事、学生主事、寮務主事、事務部長、
田中、前川、松井(修)、前島、小寺、坪川(武)各学科(教室)主任、
総合情報処理センター長、先進技術教育研究センター長、大久保(茂)JABEE委員長
代理出席者　　小泉専攻科環境システム工学専攻主任
欠　席　者　　専攻科長、新谷主任、図書館長、教育研究支援センター長
列　席　者　　庶務課長、会計課長、学生課長、庶務係長

議事に先立ち、校長から前回の議事要旨の確認が行われ了承された。

議　題
１　評議員会を踏まえての本校中期計画について
　庶務課長から、評議員会での審議を受けて中期計画の修正箇所について説明があった。校長から、今回の修正で本校の中期計画（最終版）が完成したので、今後この計画に沿ってそれぞれの部署で対応願いたい旨発言があった。
２　今後の高等専門学校の整備の在り方に関する調査研究について
　機構本部から依頼のあった調査研究の本校としての回答（９月１５日締め切り）について、教務主事から説明があった。校長から、学校基本調査の高等専門学校入学状況資料に基づき説明があった。校長から、この説明内容で機構本部に回答するとの発言があり、委員には今後この内容を中期計画と共に各部署の将来構想に活かすよう依頼があった。

　次回は、評議員会での校長メモで依頼をしている事項について、各部署のできるところから報告願いたい旨依頼があった。

（出典　スカイボード）

（資料１１－３－②－５）
「将来構想検討委員会議事要旨」

第８回将来構想検討委員会議事要旨

日　　時　　平成１６年１２月２日（木）１５：３０～１７：３０
　　（１６：３０～１６：５０　永年勤続者表彰式のため中断）
場　　所　　校長会議室
出　席　者　　校長、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科長、事務部長、
　　田中、新谷、前川、松井(修)、坪川、小寺、各学科(教室)主任、
　　図書館長、総合情報処理センター長、先進技術教育研究センター長、
　　教育研究支援センター長
代理出席者　　武井（前島代理）
特別出席者　　JABEE委員長
列　席　者　　会計課長、学生課長、庶務係長

議事に先立ち、校長から前回の議事要旨の確認が行われ了承された。

議　題
１　第１回福井工業高等専門学校評議員会（校長メモ）を受けての検討事項について
　(1) 女子学生対策について
　　1) 環境都市工学科を志望する女子中学生への対応（環境都市工学科）
　　武井教授から、中学校と女子中学生への綿密な情報提供（進路情報も含む）を行うことを中心に報告があった。
　　2) 女子志願者増加による入試倍率向上の方策について（電子情報工学科）
　　前川委員から、女子志願者増の方策について報告があった
　(2) 英語力強化策について
　　小寺委員から、英単語・熟語一斉テストや、習熟度別講座の実施などについて報告があった。

（出典　スカイボード）

このシステムについては「観点９－１－④の観点に係る状況」に記載のとおり，ＰＤＣＡにより実行している。

（分析結果とその根拠理由）

改善を必要とする評価結果については，事項ごとに担当する委員会等へ提起し，具体的な改善方策等の検討からその実施と協議会への報告まで一貫したシステムが構築され，有効に運用されている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

・校長のリーダーシップのもとに，副校長，各種委員会の管理運営体制及び事務組織が整備され，その役割も果たされており，また，外部有識者の意見が反映するシステムも構築されている。
・多様な評価を実施し，その評価結果は学校全体の教育システムの改善に反映されている。
・委員会等の議事要旨を学内ＬＡＮによるグループウェアに掲載することにより全教職員へ滞りなく周知している。

（改善を要する点）

各種委員会の数が４０を超えており，教職員が複数の委員会の委員となっているため，会議に要する時間が多くなっている。このため，今後は内容を精査し委員会を統廃合する必要がある。

（３）自己評価の概要

学校の目的を達成するため，校長が最終責任者として意思決定を行うための補佐体制として，教育計画，学生の厚生補導，学寮の厚生補導及び専攻科の運営について４人の副校長を置いている。このほかにも校長のリーダーシップのもとに図書館長，各センター長及び事務部長を中心とした態勢を整えるとともに，学則や内部組織規則等の諸規定を整備している。また，学校の管理運営に関する重要事項を審議する協議会のほか将来構想検討委員会等の各種委員会を目的ごとに設置し，担当者を校務分掌表のとおり定めている。

協議会等の議事については学内ＬＡＮ（スカイボード）により閲覧できる態勢を整えており，また，重要な事項については教員会議や事務連絡会で周知し，全教職員が学内の情報を共有するとともに，教職員の管理運営に対する意識の向上を図っている。

外部評価については，教育関係者や地方自治体等の研究機関の研究者等の有識者で構成される評議員会を開催し，教育目標・計画，自己評価，中期計画，その他本校の運営に関する重要事項について審議・評価を受け，その意見等を協議会で検討のうえ，その結果，改善等を要する事項については担当する委員会等に要請している。また，改善等の実施及びその結果については各委員会から協議会に報告するとともに次回の評議員会で報告（回答）している。

また，自己点検・評価，評議員会，ＪＡＢＥＥの受審，学生へのアンケート調査，及び

企業へのアンケートを行い，本校の活動状況を確認するとともに，その調査結果により改善等を要する事項については担当の委員会等で検討し実施している。

以上より，本校の目的を達成するために必要な管理運営体制は整っている。

12　研究活動の状況

（１）観点ごとの分析

観点12－①：　高等専門学校の研究の目的に照らして，研究体制及び支援体制が適切に整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

本校の教育理念である，「創造性豊かな人材の育成」，「幅広い工学的素養，基礎能力及び応用能力の育成を目指す実践教育」，「高度に情報化した国際社会に対応する教育」，「環境を意識し，地域社会に根ざしたものづくり教育」，「地域と連携した産官学共同研究の推進を図る」を実現するために，全校的な研究体制，研究支援体制を作り，実施している。このように教育理念を実現するため，また，教育的資質を向上させるため，教員の研究活動は欠かせないと考えられる。さらに，この教育理念の一つである，地域に根ざした教育として，地域における産官学共同研究は教育的にも，地域社会にとっても重要である。

このような観点から，本校では平成３年度に校内に自助努力で，「先進技術教育研究センター」を設置し，地域との産官学共同研究の窓口として，このセンターに大型設備を集中させ，共同研究にあたって来た。平成１７年４月には，このセンターを「地域連携テクノセンター」と改組し，さらに地域と連携を深めた共同研究施設としている。現在，下記のような教育的研究事項に取り組んでいる。

①　地域の産業界からの技術相談と地域産業に密着した研究テーマの設定（伝統産業支援，地場産業支援を引き続き進める）。

②　地域産業界の技術者・研究者の欲している高度技術の習得を目的とした高度技術者研修の開催。

③　地域の産官学共同研究関係者を集めて行う，講演会と情報交換会であるＪＯＩＮＴフォーラムの開催。

④　産業界・教育界の将来を担う若者の「ものづくり」への興味喚起と理科離れ対策として実施している「マグネットコンテスト」，「さばえめがねワク waku コンテスト」の開催。

⑤　本校の有する専門的・総合的な教育機能を利用した技術的な公開講座の開催。

⑥　教員の研究内容を掲載した広報誌（教員総覧・ＪＯＩＮＴ・アニュアルレポート）を年１回発行。

⑦　地元商工会議所等との情報交換・懇談会のより一層の推進による地域産業界からの技術相談・

⑧　共同研究の機会拡大と研究テーマの発掘。

⑨　各学科保有研究設備のリストアップ（担当教員の明示）の公開

⑩　教員の研究内容，技術シーズの公開。

⑪　高度な分析・観察設備を用いた卒業研究，特別研究支援

⑫　伝統産業支援室を設置して，和紙工業などへの技術支援。

⑬　地場産業室を設置して，眼鏡枠工業などへの技術支援。

本校の地域連携テクノセンターは，材料部門，情報処理部門，バイオ部門，環境部門，計測制御部門，原子核工学・基礎部門の６部門制をとっている。それぞれの部門に部門長，副部門長を置き，技術相談，共同研究にあたっている。また，地域連携テクノセンターの運営のため，連携テクノセンター運営委員会を設置している。同センターにはセンター長１名，副センター２名を配置し，センターの的確な企画・運営にあたっている。成果は毎年 1 回の共同研究発表会で発表している。運営についての評価は自己点検・評価委員会で行うほか，評議員会（外部評価）を行っている。技術的な支援体制としては，技術員からなる教育研究支援センターが存在し，教育と研究の支援を行っている。

（分析結果とその根拠理由）

本校教育理念に沿った教育及び地域社会への支援を行うために，地域連携テクノセンターを設置して，地域社会との共同研究や技術相談を行っている。また，地域連携テクノセンター運営委員会によって運営を行っている。評価は自己点検・評価委員会，外部評価である評議員会で行っている。センターは，たくさんの共同研究，技術相談の受け入れの窓口となっている。これらにより，適切に体制が作られ，支援体制も適切であると言える。

観点12－②：　研究の目的に沿った活動の成果が上げられているか。

（観点に係る状況）

［１］地域連携テクノセンターを中心とする，近隣市町との共同研究は学校と市町全体への友好協定へと前進している。

本校が位置する福井県丹南地方は県下最大の工業集積地である。地域の中心地である武生市は越前打ち刃物工業，電子材料工業が盛んである。隣接する今立町は，平安時代より和紙製造では，全国屈指の産地となっている。また，鯖江市は世界でも有数の眼鏡枠工業の集積地として有名である。地域の課題としては，全国屈指の産業である眼鏡や繊維などの振興と地域の活性化を結びつけた「まちづくり」が求められている。また，伝統産業の後継者不足，需要の低迷に対する振興策が求められている。

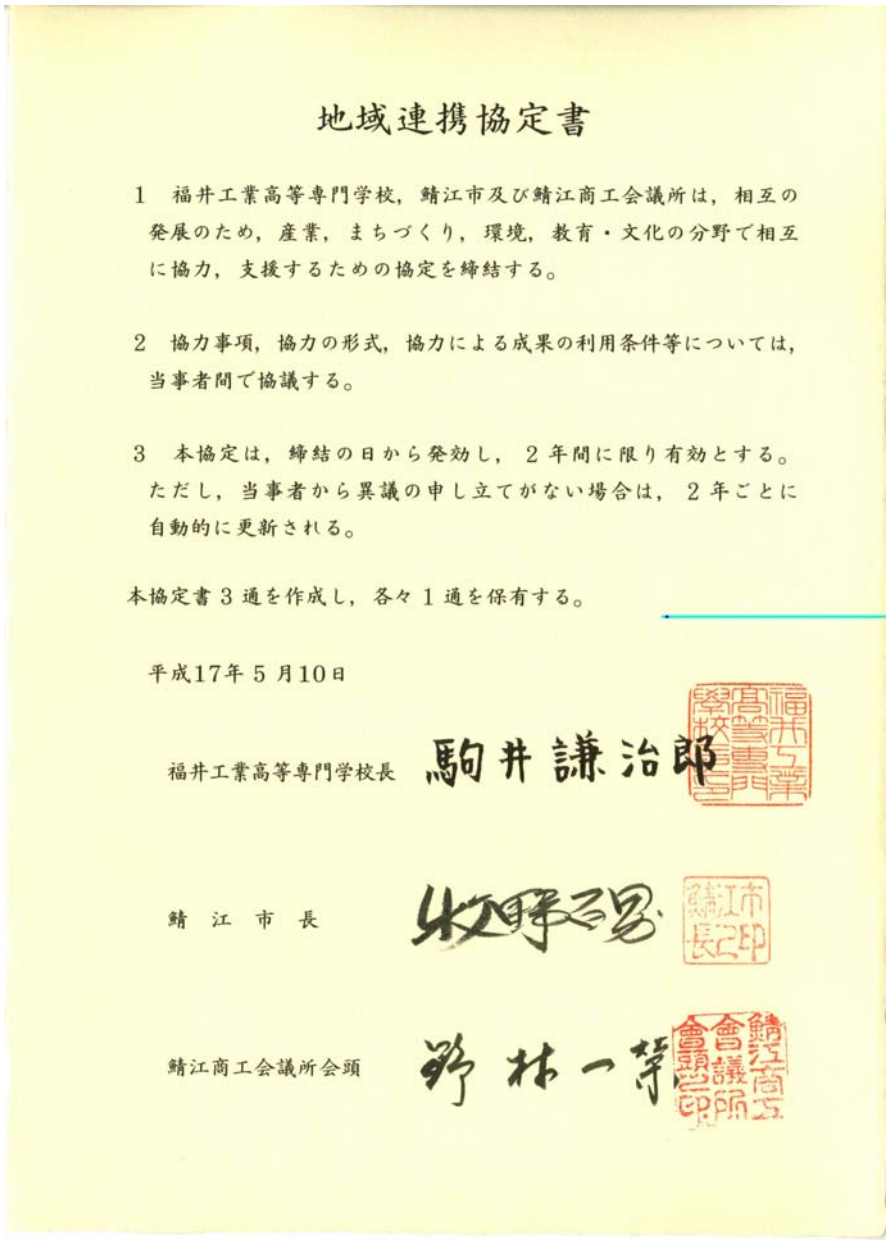
地場産業である眼鏡工業は近年のアジア諸国の低価格攻勢に悩み，毎年のように複数の企業が倒産に追い込まれている。この地域ではこれらの産業に従事する住民が多く，行政も大きな問題として取り上げている。

このような中，平成１６年に和紙工業組合と眼鏡工業組合から，本校に共同研究の依頼があった。本校はこれらの依頼により共同研究を開始した。その後，これらの共同研究を行っている，鯖江市・武生市・今立町と，包括的な友好協定である「地域連携協定」を結ぶこととなった。平成１７年５月１０日に，地域の商工会議所も参加して協定が締結された。「地域連携協定」に関する鯖江市・武生市・今立町との協定書の鯖江市との例をに示す。この協定により，地域の伝統産業である，和紙製造工業，地場産業

である眼鏡枠工業などとのような共同研究を進めていく。

（資料 12－②－１）

「地域連携協定書」



地域連携協定書

1　福井工業高等専門学校，鯖江市及び鯖江商工会議所は，相互の発展のため，産業，まちづくり，環境，教育・文化の分野で相互に協力，支援するための協定を締結する。

2　協力事項，協力の形式，協力による成果の利用条件等については，当事者間で協議する。

3　本協定は，締結の日から発効し，２年間に限り有効とする。ただし，当事者から異議の申し立てがない場合は，２年ごとに自動的に更新される。

本協定書３通を作成し，各々１通を保有する。

平成17年５月10日

福井工業高等専門学校長　駒井謙治郎

鯖　江　市　長　牧野百男

鯖江商工会議所会頭　野林一等

（出典　庶務課）

（資料 12－②－２）

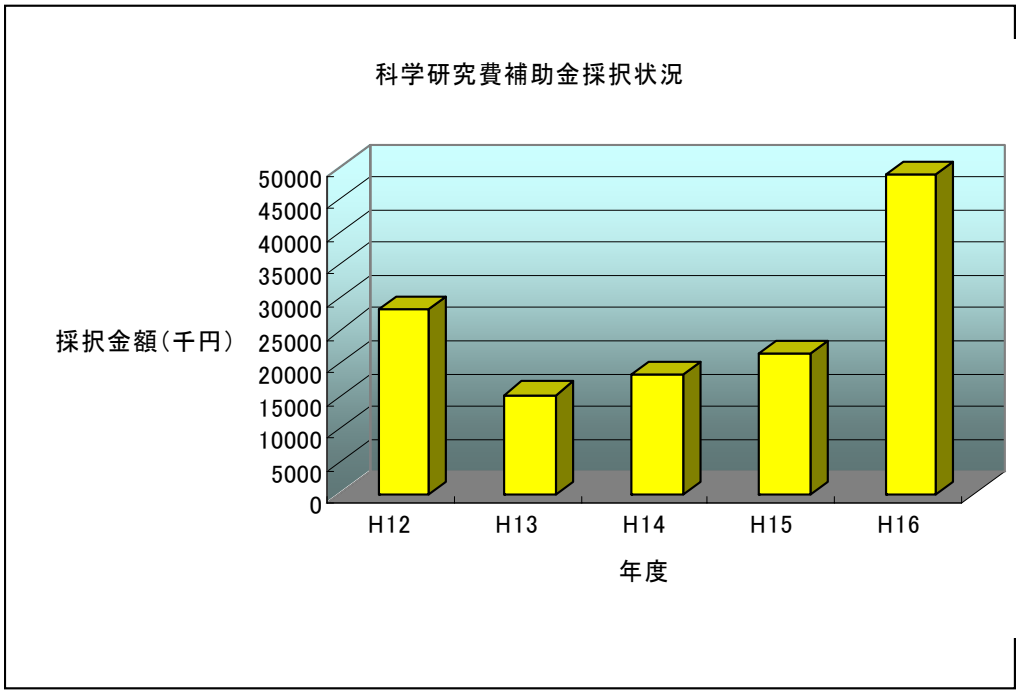
「地域連携協定による共同研究テーマ」

実施年度	共 同 研 究 テ ー マ	依頼先企業等
平成 17～18 年度	製紙に用いる粘着剤保存法と代替物の開発	福井県和紙工業協同組合
平成 17～18 年度	製紙に伴う河川の環境問題の対策法	福井県和紙工業協同組合
平成 17～18 年度	眼鏡枠金属新素材の開発	福井県眼鏡協会
平成 17～18 年度	眼鏡枠機能面・デザイントレンドを考慮したデザイン開発	福井県眼鏡協会
平成 17～18 年度	打ち刃物材料であるクラッド材の改良	地元金属材料企業
平成 17～18 年度	微生物反応と電極反応を応用した新規環境浄化技術の開発	地元繊維企業
平成 17～18 年度	ナノめっき技術による機能性粒子の創製	地元繊維企業

（出典　庶務課）

［２］本校は材料科学，環境科学関係を専門とする教員が多く，特に，金属材料，電子材料，新素材，などの開発や，表面処理技術などの分野で多くの共同研究を行っている。また，生物化学の研究者も多い。したがって，地元の眼鏡工業企業より金属フレームの加工や新材料に関する多数の技術相談，共同研究依頼が寄せられている。福井県は古くから織物業が盛んであるが，近年，これらの企業が電子部品工業に業種転換している場合も多いが，電子部品関連の技術相談も多い。これらにより，科学研究費補助金をはじめとして，共同研究，受託研究，奨学寄附金等で相当の実績をあげており，これらの数値は全国５５高専中すべて高位に入っている。特に，科学研究費補助金の採択件数は例年高位に位置し，平成１６年度に採択された科学研究費補助金額は全国高等専門学校中１位である。本校の科学研究費補助金の採択状況を（資料 12－②－３）に示す。

（資料 12－②－３）
「近年における本校の科学研究補助金採択額」



（出典　庶務課）

［３］国，県などとの共同研究事業である，大型の産官学共同研究にも多数参加しており，（独）科学技術振興機構事業である，福井県地域結集型共同研究事業（平成１２年～平成１７年）や，福井県都市エリア型共同研究事業（平成１５年～平成１８年）などの大型産官学共同研究に多数の教員が参加中であり，特に，スパッタリング法やメッキ法による表面処理技術では福井県内では既に定評があるところである。福井県地域結集型共同研究事業では本校教員がグループリーダーを務めている。平成１４年度から平成１６年度までの２年間の大型の産官学共同研究例を（資料 12－②－４）に示す。

（資料 12－②－４）

「(独)科学技術振興機構などとの大型の産官学共同研究例」

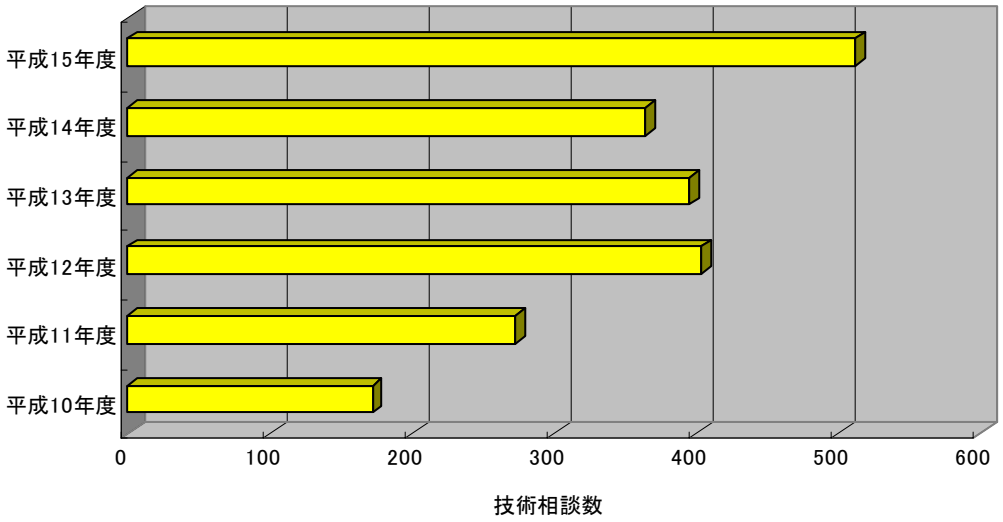
実施年度	共 同 研 究 名	相手先企業名など	事 業 名
平成14年度～16年度	長寿命HIDランプの開発		福井県結集型共同研究（(独)科学技術振興機構）
平成 14 年度～16年度	シリコン基板を用いたハードディスク用次世代薄膜磁性媒体の開発	地元電子材料大企業	福井県結集型共同研究（(独)科学技術振興機構）
平成 14 年度～16年度	レーザ誘起光化学反応による低音薄膜成長技術の開発	地元化学企業	福井県結集型共同研究（(独)科学技術振興機構）
平成 14 年度～16年度	シリコン基板の垂直記録方式用基板の開発	地元電子材料大企業	福井県戦略型地域産官学共同研究（福井県）
平成 15 年度～16年度	ナノ領域制御の薄膜形成と機能性材料創生技術開発	地元繊維企業・化学企業	都市エリア型産官学連携促進事業（文部科学省）受託研究

（出典　庶務課）

［４］「地域連携テクノセンター」を中心に共同研究を行っているが，共同研究に進む前に，先ず企業からの技術相談が寄せられる。この技術相談が共同研究に進展するので，本校では技術相談件数を重要視している。近年，地域企業からの技術相談も多く，（資料 12－②－５）のように，平成１５年度には５００件を超えている。現在，交流会などにおいて，高専は敷居が低く相談しやすいとの感想が企業より聞かれるが今後とも相談しやすい高専を目指したい。

（資料 12－②－５）

「技術相談件数の変移」



（出典　庶務課）

［５］地域の企業が本校の教育と研究を支援する「福井高専教育研究振興会」が平成６年度に設置された。これは高松高専などに続き，全国の高専でも最も早い設立であった。本年，平成１７年４月より，本校が地域企業を支援する会として，「福井高専地域連携アカデミア」として発展的に改組され，３７の企業が参加している。現在，この「福井高専地域連携アカデミア」を中心に地域の企業との様々な連携が既に行われている。同アカデミアの事務局は福井商工会議所内に置かれ，地元の経済界が福井高専の教育研究を支援する組織となっており，福井県も参加している。

本校の地域における産官学共同研究，特に，伝統産業・地場産業支援は福井県内でも大きな話題となっており，（財）ふくい産業支援センターが本校の地域で取り組む事業に連携を申し出ている。また，このような本校の取り組みは新聞などでも数多く取り上げられ，平成１６年６月には（資料 12－②－６）のようにＮＨＫニュースの東海北陸版で放映された。

（資料 12－②－６）
「本校の共同研究を伝えるニュース」

［６］本校，教員が最近５ヵ年に出願あるいは取得した，特許は（資料 12－②－７）のように数多い。

（資料 12－②－７）

「最近５ヵ年に本校教員が出願あるいは取得した特許」

出願番号	発明の名称	出願人名
特願 2002-012391	超短パルスレーザーを用いた微細加工方法及びその加工物	安丸尚樹
特願 2003-368423	炭素薄膜構造並びに炭素薄膜の加工方法及び製造方法	安丸尚樹
United States Patent, Patent No. 6043510	MOLECULE-DOPED TYPE NEGATIVE-RESISTANCE DEVICE AND METHOD FOR MANUFACTURING THE SAME	川本　昂
特許第 3142005 号	分子分散型負性抵抗素子とその製造方法	川本　昂
日本特許出願 2004-170379	「カーボンナノチューブ，カーボンナノワイヤおよびその製造方法」	川本　昂
European Patent EP 0844672 B1（ＥＰＣ） DE, FR, GB	MOLECULE-DOPED TYPE NEGATIVE-RESISTANCE DEVICE AND METHOD FOR MANUFACTURING THE SAME	川本　昂
Deutsches Patent 0844672（ドイツ）	NEGATIVER WIDERSTAND DES MOLEKUL ARDISPERSIONS TYPS UND VERFAHREN ZUR HERSTELLUNG	川本　昂
French Patent 0844672（フランス）	RESISTANCE NEGATIVE DU TYPE A DISPERSION DE MOLECULES ET SON PROCEDE DE PRODUCTION	川本　昂

（出典　教員会議資料）

［７］本校教員は授業などに用いるテキスト，参考書を数多く著わしており，最近に本校教員が出版した，テキスト参考書を（資料 12－②－８）に示す。

（資料 12－②－８）

「本校教員の最近の著作」

著作本名	著者（単著・共著）	出版社	出版年
テキスト「保健体育」	島田　茂（共著）	大修館	2002 年
技術者入門	原口　治（共著）	学術図書出版社	2004 年
技術者倫理	原口　治（共著）	学術図書出版社	2004 年
電気・電子系教科書シリーズ　電気機器工学	新谷邦弘　（共著）	コロナ社	2001 年
地球環境	吉村忠与志（単著）	サイエンスハウス	2004 年
技術者倫理入門	吉村忠与志（共著）	オーム社	2003 年
コンピュータ化学	吉村忠与志（共著）	サイエンスハウス	2003 年
技術者のための Excel 活用研究	吉村忠与志（共著）	CQ 出版	2002 年
グリーン・ケミストリー	吉村忠与志（単著）	三共出版	2004 年
有機薄膜及び有機・無機複合膜の作製・評価と機能化 ーデバイス応用の現状と課題	川本　昂（共著）	電気学会	2004 年
初めて学ぶ基礎材料学	太田泰雄（共著）	日刊工業新聞社	2004 年
融雪期の地すべり	太田泰雄（共著）	日本雪工学会	2004 年
ネットワーク社会における情報の活用と技術	藤原正敏（共著）	実教出版	2005 年

（出典　教員会議資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校教育理念の「創造性豊かな人材の育成」，「幅広い工学的素養，基礎能力及び応用能力の育成を目指す実践教育」，「高度に情報化した国際社会に対応する教育」，「環境を意識し，地域社会に根ざしたものづくり教育」を沿った研究体制，研究支援体制を作り，実施している。特に，地域社会に連携した教育研究が進められている。

その結果，地域社会と，「地域連携協定」を締結し，今後，数多くの共同研究を行うこととなった。また，技術相談は年間５００件を超え，地域での技術センターとしての役目を果たしている。また，国・県などと共に参加する大型の産官学共同研究にも多く参加している。特に伝統産業・地場産業支援を積極的に行っている。このような様子はテレビでも紹介されている。したがって，これらにより，目的に沿った成果が上がっていると言える。

観点12－③：　研究活動等の実施状況や問題点を把握し，改善を図っていくための体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

［１］校内に研究改善委員会を設置し，毎年度１回，教員の前年度の研究活動評価に関するアンケートを行い，報告書をまとめている。

［２］このような研究改善委員会での調査結果を基に，学校長，副校長，各学科主任などにより構成される「自己点検・評価委員会」において，毎年度ごとに評価を適正に行っている。

［３］二つの市と一つの町と地域連携協定を本年５月１０日に結んだが，その中に，学と市が絶えず共同研究事項などについて協議を行い，進行状況について評価を行う条項が入っている。評価を行政と本校により定期的に行う。

［４］本校内に，国立の複数大学長，中学校長，商工会議所会頭，大企業研究所長，報道関係役員などの外部有識者からなる評議員会を設置している。毎年１回，評議員会を開催し，本校の教育と研究の評価を行っている。教員の研究活動についても，実績や今後の研究活動について詳しい検討を行っている。

［５］これらの評価結果は報告書やホームページで公開している。

（分析結果とその根拠理由）

研究改善委員会が設置され，十分な活動を行っている。また，自己点検・評価委員会でも教育研究評価を行っている。さらに，評議員会では外部有識者がさまざま観点から，本校の教育研究を見て，評価し，それに対して，翌年度に改良点の報告を行っている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

地域共同研究センターが全国の高専でほとんど設置されていなかった平成３年より，本校では地域との共同研究を支援するセンターを自助努力で立ち上げ，地域に対する支援を行ってきた。その運営体制，支援体制も存在し，機能している。また，本校に対する教育・研究の振興会も地元産業会により設置され，これも全国で最も早い地元からの支援である。共同研究・技術相談も順調に増加しており，これらにより，科学研究費補助金も全国高専で飛びぬけた採択額となっている。地域の伝統産業支援，地場産業支援も「地域連携協定」締結により積極的に行われている。全国の児童・生徒・学生を対象としたアイデアコンテストを１１年前より実施，青少年の理科離れ，地域情報の発信などに大きな実績を上げている。また，研究改善委員会の設置など，いろいろな評価体制も整っている。

（改善を要する点）

特に改善する点はないが，今後とも本校の基本理念に則り，地元と連携し，地域への支援を続けていきたい。

（３）自己評価の概要

本校の教育理念である，「環境を意識し，地域社会に根ざしたものづくり教育」，「地域と連携した産官学共同研究の推進を図る」に則り，全校的に研究体制，研究支援体制として，平成３年に「先進技術教育研究センター」を設置し，現在は発展的に改組して「地域連携テクノセンター」として地域との共同研究にあたっている。この地域連携テクノセンターは，現在，福井県の産官学共同研究のネットワークの拠点の一つとなっており，福井県の企業・行政から産官学共同研究の中核機関として大きな期待が寄せられている。本校の産官学共同研究は，地域への支援であると共に，教員の教育的資質を向上させるためでもある。また，地域の共同研究を行っている企業に学生をインターンシップとして派遣し，学生への教育ともなっている。これらの結果，共同研究・技術相談は順調に増加しており，科学研究費補助金も全国高専で飛びぬけた採択額となっている。

また，平成１７年５月１０日に本校と近隣の福井県武生市，鯖江市，今立町，及び地域の商工会議所は「地域連携協定」を結んだ。この協定により，本校は，これら地域の産業界との共同研究，地域住民に対するリカレント教育，小中学校への出前授業などを行うことを約束した。この，連携協定を結んだ地域は，福井県の第２次産業が集積した「ものづくり」地域であり，和紙工業や打ち刃物工業などの古くからの伝統産業や，眼鏡枠工業などの地場産業が盛んである。この伝統産業・地場産業支援を本校の産官学共同研究の大きな目的とすると共に，その成果を学生への教育に還元したい。

（４）目的の達成状況の判断

目的の達成状況が非常に優れている。

13　正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

（１）観点ごとの分析

観点13－①：　高等専門学校の教育サービスの目的に照らして，公開講座等の正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施されているか。

（観点に係る状況）

本校は基本理念に「環境を意識し，地域社会に根ざしたものづくり教育を行う」を掲げ，次のような地域・国民に対する幅広い活動を行っている。

［１］出前授業は毎年，５０件以上行っており，福井県内の高等教育機関としては最も多数の出前授業を行っている。平成１６年度に行った出前授業のテーマと対象者，参加者の一部を（資料１３－①－１）
に示す。

（資料１３－①－１）

「平成１６年度に実施した出前授業の例」

開催した出前授業名	対　　象	参加者数
水生生物による水質調査	小学生，保護者，地域住民	52 名
ふるさとの水を守る	小学生，保護者，地域住民	50 名
自然観察会	小学生，中学生，地域住民	50 名
人と生き物のくらしと水	地域住民	43 名
ロボコンをやってみよう	小学生，保護者，地域住民	120 名
自分さがしから自分つくりへ	地域住民	200 名
液体窒素ってなあに	小学生，中学生，地域住民	23 名
ソーラーカーの走行と説明	小学生，保護者，地域住民	50 名
機械設計の基本	地域住民	75 名
環境マップを作ろう	小学生，中学生，地域住民	23 名
地震による液状化被害	地域住民	20 名
燃料電池を作ろう	小学生，中学生，地域住民	45 名

（出典　庶務課）

さらに，平成１７年度より，本校が出前授業に派遣する教員・学生を「サイエンスの達人」と名づけ，地域連携協定を結んだ市町の小学校・中学校を中心に派遣している。

本校の出前授業の特徴は派遣する教員のほか，ほとんどの場合，学生を帯同する。特に，中学校への出前授業は，出前授業を開催する中学校の出身学生を出前授業に参加させ，後輩に成長した先輩の様子を見てもらうこととしている。学生も後輩に誇らしく実験を行うようである。

また，環境都市工学科では，河川の水質や水生動物と河川の汚染の関係など，住民に身近な話題で環境問題の意識を高めている。また，福井県越前海岸は第三紀層の地質の

ため，急斜面の崩落・地すべりが多く発生し，数年前にはマイクロバスが土砂に飲み込まれる事故も発生した。本校は環境都市工学科を中心に，その観測を行い，安全のための説明会も実施している。

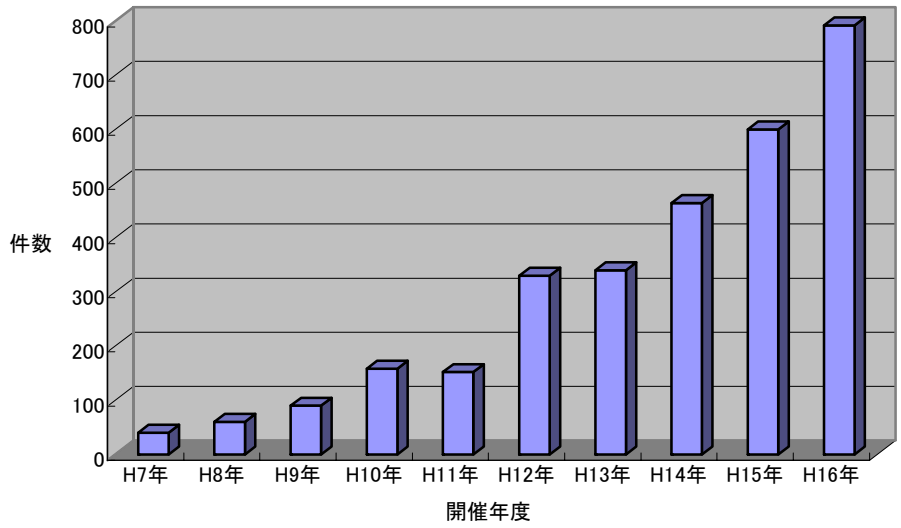
［２］福井県生涯学習大学開放講座協議会に参加し，地域住民対象開放講座である，福井ライフ・アカデミー「人づくり・まちづくり講座」に毎年，哲学，環境関係の講師を派遣して，事後のアンケートで好評を博している。特に昨年は哲学部門の講演会が人気であった。平成 17 年度も多くの本校プログラムを県民に提示している。

［３］福井県は強力磁石の世界的な生産拠点となっている。この本校近隣の武生市の新しい地場産業である，強力磁石を製造する企業とともに，児童・生徒，学生の理科離れを防ぐために，マグネットを用いたアイデアコンテストを平成７年度より実施し，全国の小中学生，高校生，大学生から寄せられるアイデア数は７００件を超えている。応募状況を（資料１３－①－２）に示す。これらのアイデアは優秀作を実際に製作し，（資料１３－①－３）のように，（独）若狭湾少年自然の家の玄関前に設置され，同自然の家を訪れる小・中学生にアイデアを紹介し，科学に対する興味を喚起している。また，平成１６年度より，福井県の代表な地場産業である眼鏡工業組合と共同で，全国の児童・生徒・学生対象に眼鏡に関するアイデアコンテストを開始した。１年目であるが，やはり８００件以上の応募があった。

これらは単に理科離れを防ぐのみならず，地元企業の全国への情報発信，本校の知名度向上などともなっている。

（資料１３－①－２）

「マグネットコンテスト応募者の推移」



（出典　庶務課）

（資料１３－①－3）
「マグネットコンテスト優秀作の製作例」

（出典　庶務課）

［４］平成１７年５月に提携した，地域連携協定に則り，地域の青年・壮年・高齢者・女性などの団体と連携し，地域の人々に対する学習ニーズに応えるため，公開講座，高度技術者研修などを実施し，リカレント教育を実施している。この地域では高齢化が進み，生涯学習，健康を目指す生涯スポーツなどのニーズがたかまっている。本校はこのようなニーズに応えると同時に，本校の体育関係の施設の地域への開放を行って行きたい。

［５］平成１７年度より，本校に多数の受験生を送っている県内の約２０の中学校と本校は提携を行う，「提携中学校制度」を準備中である。この制度により，本年度より，提携した中学校では出前授業などを開催することとなっている。

（分析結果とその根拠理由）

本校の基本理念に則り，数多くの正課外の教育サービスを社会に提供している。特に平成１７年５月に締結された地域連携協定により，多数の出前授業，公開講座を始めた。また，技術者講習である高度技術者研修などを開催し，企業への教育研究サービスを行っている。特に，全国の児童・生徒・学生対象にアイデアコンテストを実施している。強力磁石を用いたアイデアを募集する，マグネットコンテストは１１年目となっており，青少年の理科離れ防止に早くから対処してきた。これらにより，学校目的に沿って，教育サービスを十分行っていると言える。

観点13－②：　サービス享受者数やその満足度等から判断して，活動の成果が上がっているか。また，改善のためのシステムがあり，機能しているか。

（観点に係る状況）

平成１６年度の出前授業，公開講座などの開催数は５０回以上であり，福井県内高等教育機関で最も多い回数となっている。また，入場者も多い場合は２００名を超えている。下記（資料１３－②－１～資料１３－②－２）に平成１６年度に実施した公開講座の名称，開設対象者，募集人数一覧を示す。

（資料１３－②－１）

「平成１６年度実施公開講座（１）」

講　座　名	日　時	受講料	対象者	募集人数	講　師
機械設計入門講座	5/17(　月　) ～ 5/20(木), 5/24(　月　) ～ 5/27(木), 5/31(　月　) ～ 6/3(木), 6/　7(　月　) ～ 6/10(木), 19:00～21:00 (16 日間：32 時間)	無料	市民一般 (機械系技術者)	20 人	≪機械工学科≫ 教　授　阪口健一 教　授　井上清一 教　授　吉崎保夫 教　授　田中嘉津彦 助教授　加藤寛敬 助教授　藤田克志 助教授　芳賀正和 助　手　岡田将人
技術者のためのExcel活用実習	6/5(土),6/12(土), 6/19(土), 6/26(土) 13:00～16:00 (4 日間：12 時間)	無料	市民一般 (Excel利用者, 統計を取扱う人)	20 人	≪物質工学科≫ 教　授　吉村忠與志
英検３級合格をめざして「春季コース」	6/5(土),6(日) 10:00～12:00 (2 日間：4 時間)	無料	中 学 生	20 人	≪一般科目教室≫ 教　授　小寺光雄 助教授　壬生正博 助教授　森　　貞 助教授　瀬川直美
Java Applet を使った簡単なコンピュータグラフィックス	7/24(土), 7/25(日) 10:00～12:00 (2 日間：4 時間)	無料	市民一般 (中学生以上)	15 人	≪電子情報工学科≫ 全教官
おもちゃづくりから学ぶサイエンス	7/26(月), 7/27(火) 9:00～16:00 (2 日間：12 時間)	無料	中 学 生	20 人	≪機械工学科≫ 教　授　井上清一 教　授　田中嘉津彦 助教授　藤田克志 助教授　芳賀正和 講　師　村中貴幸
楽しい電子回路入門 －マイコンでロボットを動かしてみよう！－	7/31(　土　) ～ 8/2(月) 13:00～18:00 (3 日間：15 時間)	3,600 円	中 学 生	15 人	≪電気工学科≫ 教　授　前多信博
電気実験講座	8/2(月) 9:00～16:30 (1 日間：7 時間)	無料	小中学校の理科系教諭	15 人	≪電気工学科≫ 教　授　新谷邦弘 教　授　原田　望 教　授　大久保　茂 助教授　山本幸男 助　手　丸山晃生

（出典　庶務課）

（資料１３－②－２）

「平成１６年度実施公開講座（２）」

講　座　名	日　時	受講料	対象者	募集人数	講　師
ブリッジコンテスト 2004 －橋をつくってみようー	8/3(火),8/4(水) 9:30～15:30 （2 日間：10 時間）	無料	中 学 生	15 人	≪環境都市工学科≫ 教　授　前島正彦 助教授　阿部孝弘 助教授　吉田雅穂 助　手　辻野和彦
初心者テニス教室	8/28(土),29(日), 9/4(土),5(日) 9:30～12:00 （4 日間：10 時間）	200 円 傷害 保険料	市民一般 （小学校高学年以上でラケットを持っている人）	20 人	≪一般科目教室≫ 教　授　島田　茂
身のまわりの統計学	10/2(土) 9:00～11:00 （1 日間：2 時間）	無料	市民一般	15 人	≪一般科目教室≫ 教　授　朝倉相一
身の回りの“もの”を作ってみよう　－高分子材料－	10/2(土)，10/3(日) 10:00～17:00 （2 日間：12 時間）	無料	中 学 生	10 人	≪物質工学科≫ 講　師　加藤　敏
英検３級合格をめざして 「秋季コース」	10/9(土),10(日) 10:00～12:00 （2 日間：4 時間）	無料	中 学 生	20 人	≪一般科目教室≫ 教　授　小寺光雄 助教授　壬生正博 助教授　森　　貞 助教授　瀬川直美

（出典　庶務課）

（分析結果とその根拠理由）

（分析結果とその根拠理由）

公開講座の実施を続け，ほとんどの講座が定員を満たしている。また，出前授業，公開講座，高度技術者研修の開催数は福井県の高等機関中最も多い。また，参加者は下記（資料１３－②－３）のように概ね，満足している結果となっている。

（資料１３－②－３）

「平成１６年度実施公開講座満足度」

公開講座名称	開設時間	受講対象者	満足度
機械設計入門講座	32 時間	一般市民	73%
おもちゃ作りから学ぶサイエンス	12 時間	中学生	63%
電気実験講座	7 時間	小中学理科教諭	91%
ブリッジコンテスト（橋を作ってみよう）	15 時間	中学生	100%
計	66 時間		82%

（出典　庶務課）

公開講座の企画は広報委員会で行っているが，開催後，広報委員会で満足度の調査を行い，集計をする。この結果を基に，学校長，副校長，各学科主任などにより構成される自己点検・評価委員会において，毎年度ごとの評価を適正に行っている。

また，本校内に，国立の複数大学長，中学校長，商工会議所会頭，大企業研究所長，報道関係役員などの外部有識者からなる評議員会を設置しており，毎年１回，評議員会を開催し，本校の教育と研究の評価を行っている。出前授業，公開講座などの活動についても，実績や今後の研究活動について詳しい検討を行っている。

本校は，二つの市と一つの町と地域連携協定を本年５月１０日に結び，学と市が絶えず協定事項について協議を行い，進行状況について評価を行うこととしている。評価を行政と本校により定期的に行うものである。

以上により，出前授業，公開講座などの評価を行い，次年度に活かしている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

平成１６年度に小学校・中学校対象を対象に実施した出前授業は，５０回を超えている。

また，平成７年度より，強力磁石を用いたアイデアを募集する「マグネットコンテスト」を全国の小・中学生，高校生，高専生，大学生を対象に開催し，昨年のアイデア応募数は８００件近くあった。さらに，平成１６年度より眼鏡に関するアイデアを募集する「めがねワクwakuコンテスト」を同様に開催したところ，アイデア応募数は初回にもかかわらず８００件を超えた。これらのコンテストは青少年の理科離れを防ぐ意義により始めたものであるが，本校の正課以外の教育サービスの中でも特筆されるものである。

また，本校のロボットコンテストの成績が良いことより，地元中学校，地域社会でのロボット実演要請が多く，地元の科学への興味の喚起に寄与している。

（改善を要する点）

現在，出前授業は各学科が主体となって行っているので，これを窓口として一元化したい。

（３）自己評価の概要

本校は基本理念に「環境を意識し，地域社会に根ざしたものづくり教育を行う」を掲げ，地域・国民に対する幅広い活動を行っている。地元社会に開かれた学校として，出前授業は毎年５０件以上行っている。本校の小・中学校への出前授業はほとんどの場合，その小・中学校出身の学生が帯同し教員と協力して出前授業を行っている。これにより，授業に参加する児童・生徒の興味が増し，実験を手伝う学生も誇りを持って行っている。また，地域の高齢化社会・健康志向社会などによる学習ニーズのたかまりに応えるため，生涯スポーツや各種の公開講座を実施している。さらに，本校主催の公開講座の他に，福井県教育

委員会主催の福井県生涯学習大学開放講座協議会にも参加し地域住民への講座を開催している。本校の NHK ロボットコンテストの成績は，これまで大賞を２度取るなど地域では有名である。このため，地元の小・中学校，地域社会でのロボット実演，実験指導依頼が多く，地元の科学への興味の喚起に寄与している。

さらに，青少年の理科離れを防ぐ目的で，全国の生徒・学生対象に強力磁石を用いたアイデアコンテストを１０年前より開催している。インターネットによる公募もあって，応募者は次第に増加している。このコンテストは青少年の理科離れを防ぐだけでなく，地域社会の情報や本校を全国に紹介する役目も担ってきた。さらに，昨年より，地元眼鏡工業組合と共に，眼鏡に関するアイデアコンテストも主催して開催している。平成１６年度は初回にも拘わらず，全国より８００件を超えるアイデアが寄せられた。また，平成１７年５月に提携した「地域連携協定」により，地域の住民への生涯教育や公開講座，講演，出前授業など多岐にわたる教育サービスを開始した。

昨年の「福井豪雨」には，多数の学生・教職員が数度にわたって，組織的にボランティア活動した。ボランティア活動は地域への支援とともに，学生の人間性の涵養をも目的としている。今後も地域のボランティア社会の構築のために，積極的に参加し地域社会に貢献したい。

（４）目的の達成状況の判断

目的の達成状況が非常に優れている。

資　料　集

科学研究費補助金採択一覧

（　上段：件数，下段：金額(千円)　）

区　　分	１４年度	15 年度	１６年度	１７年度
重点領域研究				
試験研究（B）				
一般研究（C）				
奨励研究（A）				
特定領域研究		1	1	1
		25,000	7,300	6,600
基盤研究（B）	2	2	4	3
	8,700	6,000	24,700	11,000
基盤研究（C）	7	5	6	6
	5,800	2,700	10,200	5,100
萌芽研究		1	2	3
		4,837	2,900	3,800
若手研究（B）	2	3	3	2
	3,700	8,033	4,200	3,600
計	11	12	16	15
	18,200	46,570	49,300	30,100

科学研究費補助金採択内訳

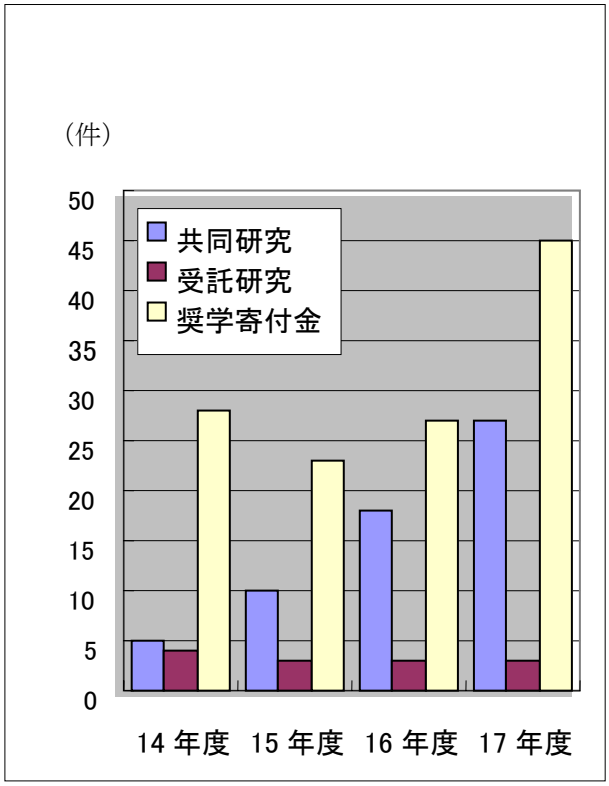
	研究科目	所　　属	職　　名	氏　　名	申請額	研　　究　　課　　題
平成14年度	基盤研究（B）		校長	生越久晴	5,100	高等専門学校における「ものづくり教育」の新しい展開
		機械工学科	教授	安丸尚樹	3,600	３次元ﾌｪﾑﾄ秒ﾚｰｻﾞｰﾌﾟﾛｾｽによる超ﾄﾗｲﾎﾞﾛｼﾞｰ複合膜の研究開発
	基盤研究（C）	一般科目	教授	坪川武弘	1,200	地球環境科学における数理ﾓﾃﾞﾙと実ﾃﾞｰﾀを用いた体系的な応用数学課程の構築
		一般科目	助教授	山本裕之	1,100	バクテリアセルロースを用いた天然セルロースの溶解挙動に関する研究
		一般科目	教授	荻野繁春	500	壷・甕の容積をはかるために必要なソフトウェアの開発
		一般科目	助教授	壬生正博	400	中英語による異界夢文学の翻訳及び写本図像との比較研究
		機械工学科	助教授	加藤寛敬	1,300	粉末の摩擦面への供給によるマイルド磨耗遷移
		環境都市工学科	教授	山田幹雄	600	酸性発生土の固化処理を目的とした貝殻焼成石灰の利用法
		物質工学科	助教授	常光幸美	700	電析磁性金属ﾅﾉ構造の機能性
	若手研究（B）	物質工学科	助教授	吉田雅穂	2,300	ﾘｻｲｸﾙ材料を用いた液状化対策工法の開発
		機械工学科	助手	村中貴幸	1,400	底部圧縮加工を利用した複合深絞り加工法の開発
	合　　計			11件	18,200	
平成15年度	特定領域	一般科目	教授	荻野繁春	25,000	中世考古資料の電子化もよる分析とﾃﾞｰﾀｰﾍﾞｰｽ化に関する研究
	基盤研究（B）		校長	生越久晴	3,800	高等専門学校における「ものづくり教育」の新しい展開
		機械工学科	教授	安丸尚樹	2,200	３次元ﾌｪﾑﾄ秒ﾚｰｻﾞｰﾌﾟﾛｾｽによる超ﾄﾗｲﾎﾞﾛｼﾞｰ複合膜の研究開発
	基盤研究（C）	機械工学科	助教授	加藤寛敬	500	粉末の摩擦面への供給によるﾏｲﾝﾄﾞ磨耗遷移
		物質工学科	助教授	常光幸美	700	電析磁性金属ﾅﾉ構造の機能性
		環境都市工学科	教授	山田幹雄	500	酸性発生土の固化処理を目的とした貝殻焼成石灰の利用法
		一般科目	教授	坪川武弘	500	地球環境科学における数理ﾓﾃﾞﾙと実ﾃﾞｰﾀを用いた体系的な応用数学課程の構築
		一般科目	助教授	山本裕之	500	ﾊﾞｸﾃﾘｱｾﾙﾛｰｽを用いた天然ｾﾙﾛｰｽの溶解挙動に関する研究
	萌芽研究	機械工学科	教授	安丸尚樹	4,837	ﾌｪﾑﾄ秒ﾚｰｻﾞｰによるﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞ状炭素膜のﾅﾉ構造制御表面の創成
	若手研究（B）	環境都市工学科	助教授	吉田雅穂	600	ﾘｻｲｸﾙ材料を用いた液状化対策工法の開発
		一般科目	助教授	小林秀紹	3,723	青年期の慢性疲労を規定する要因
		環境都市工学科	講師	辻子裕二	3,710	火災による森林機能の低下機構とその再生過程を考慮した時系列ﾊｻﾞｰﾄﾞﾏｯﾌﾟの構築
	合　　計			１２件	46,570	

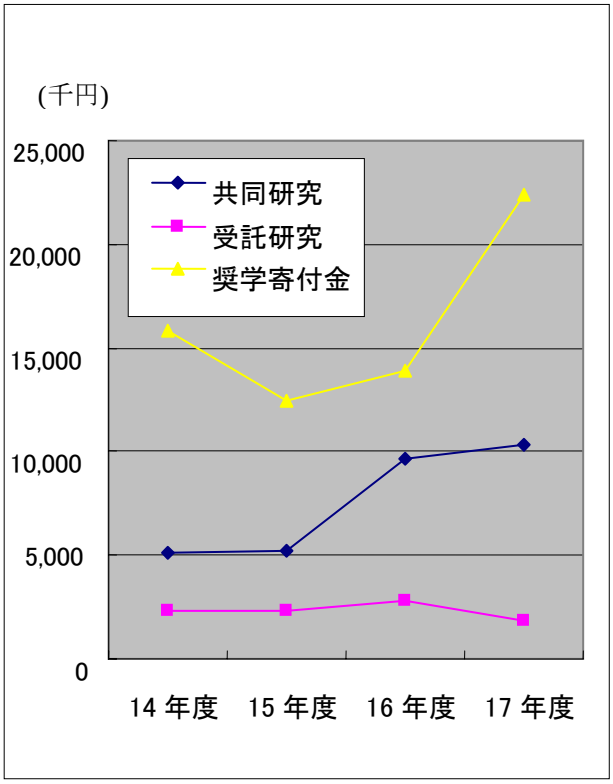
	研究科目	所　　属	職　　名	氏　　名	申請額	研　　究　　課　　題
平成16年度	特定領域	一般科目	教授	荻野繁春	7,300	中世考古資料の電子化もよる分析とﾃﾞｰﾀｰﾍﾞｰｽ化に関する研究
	基盤研究（B）	一般科目	教授	太田泰雄	2,700	高等専門学校における「ものづくり教育」の新しい展開
		機械工学科	教授	安丸尚樹	1,600	３次元ﾌｪﾑﾄ秒ﾚｰｻﾞｰﾌﾟﾛｾｽによる超ﾄﾗｲﾎﾞﾛｼﾞｰ複合膜の研究開発
			校長	駒井謙治郎	10,300	環境質制御ﾄﾗｲﾎﾞﾃｽﾀｰの試作とﾌｪﾑﾄ秒ﾚｰｻﾞｰ加工硬質膜のﾄﾗｲﾎﾞ特性評価
		機械工学科	助教授	加藤寛敬	10,100	ﾅﾉ超微粒子の摩擦焼結による創造的ﾄﾗｲﾎﾞ膜の創製
	基盤研究（C）	一般科目	教授	坪川武弘	500	地球環境科学における数理ﾓﾃﾞﾙと実ﾃﾞｰﾀを用いた体系的な応用数学課程の構築
		一般科目	助教授	長水壽寛	500	新たな数学教育の実践を目指したｶﾘｷｭﾗﾑから評価方法までの総合的な研究
		一般科目	助教授	山本裕之	2,800	ﾊﾞｸﾃﾘｱｾﾙﾛｰｽを用いた疎水性ｾﾙﾛｰｽ膜および無機複合材料の開発
		一般科目	教授	廣重準四郎	1,700	救貧法委員会・救貧法庁『年次報告書』付録統計資料のﾃﾞｰﾀｰﾍﾞｰｽ化とその分析
		環境都市工学科	教授	山田幹雄	2,300	貝殻粉砕物の吸水性，中和促進性を活用した強酸性発生土の安定処理策
		電気工学科	助教授	山本幸男	2,400	高品質ＣＩＡ薄膜をﾍﾞｰｽ化とした太陽電池の試作および放射光照射特性
	萌芽研究	機械工学科	教授	安丸尚樹	1,000	ﾌｪﾑﾄ秒ﾚｰｻﾞｰによるﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞ状炭素膜のﾅﾉ構造制御表面の創成
		物質工学科	教授	吉村忠與志	1,900	嗅覚ｱﾐｭｰｽﾞﾒﾝﾄ性を生かした科学教材ｼｽﾃﾑの開発と科学教育への活用
	若手研究（B）	一般科目	助教授	小林秀紹	1,300	青年期の慢性疲労を規定する要因
		環境都市工学科	助教授	辻子裕二	900	火災による森林機能の低下機構とその再生過程を考慮した時系列ﾊｻﾞｰﾄﾞﾏｯﾌﾟの構築
		電子情報工学科	助手	綴木潤	2,000	空間的相関を持つﾉｲｽﾞを除去する画像ﾌｨﾙﾀの開発
	合　　計			16件	49,300	
平成17年度	特定領域	一般科目	教授	荻野繁春	6,600	中世考古資料の電子化もよる分析とﾃﾞｰﾀｰﾍﾞｰｽ化に関する研究
	基盤研究（B）		校長	駒井謙治郎	3,800	環境質制御ﾄﾗｲﾎﾞﾃｽﾀｰの試作とﾌｪﾑﾄ秒ﾚｰｻﾞｰ加工硬質膜のﾄﾗｲﾎﾞ特性評価
		機械工学科	助教授	加藤寛敬	700	ﾅﾉ超微粒子の摩擦焼結による創造的ﾄﾗｲﾎﾞ膜の創製
		機械工学科	教授	安丸尚樹	6,500	ﾌｪﾑﾄ秒ﾚｰｻﾞｰによる超低摩擦・局部導電性ﾅﾉ構造炭素薄膜の開発研究
	基盤研究（C）	一般科目	助教授	長水壽寛	500	新たな数学教育の実践を目指したｶﾘｷｭﾗﾑから評価方法までの総合的な研究
		一般科目	助教授	山本裕之	600	ﾊﾞｸﾃﾘｱｾﾙﾛｰｽを用いた疎水性ｾﾙﾛｰｽ膜および無機複合材料の開発
		一般科目	教授	廣重準四郎	500	救貧法委員会・救貧法庁『年次報告書』付録統計資料のﾃﾞｰﾀｰﾍﾞｰｽ化とその分析
		環境都市工学科	教授	山田幹雄	700	貝殻粉砕物の吸水性，中和促進性を活用した強酸性発生土の安定処理策
		電気工学科	助教授	山本幸男	800	高品質ＣＩＡ薄膜をﾍﾞｰｽ化とした太陽電池の試作および放射光照射特性
		一般科目	教授	太田泰雄	2,000	融雪期における地すべり地の粘土層生成機構の解析と観察に関する研究
	萌芽研究	機械工学科	教授	安丸尚樹	800	ﾌｪﾑﾄ秒ﾚｰｻﾞｰによるﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞ状炭素膜のﾅﾉ構造制御表面の創成
		物質工学科	教授	吉村忠與志	900	嗅覚ｱﾐｭｰｽﾞﾒﾝﾄ性を生かした科学教材ｼｽﾃﾑの開発と科学教育への活用
			校長	駒井謙治郎	2,100	ﾌｪﾑﾄ秒ﾚｰｻﾞｰによるﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞ状炭素膜のﾅﾉ構造制御とｾﾞﾛ磨耗面の実現
	若手研究（B）	一般科目	助教授	小林秀紹	1,300	慢性疲労と抑うつの個人差を規定する遺伝子と神経・内分泌系ﾊﾟﾗﾒｰﾀの解析
		一般科目	助教授	北浦守	2,300	電子状態解析に基づいたﾗﾝｶﾞｻｲﾄ系新規圧電結晶の量子材料設定
	合　　計			１5件	30,100	

外部資金受入一覧

（単位：件，千円）

区　　分	14 年度		15 年度		16 年度		17 年度	
	件数	金　額	件数	金　額	件数	金　額	件数	金　額
共 同 研 究	5	5,100	10	5,250	18	9,607	27	10,340
受 託 研 究	4	2,284	3	2,294	3	2,770	3	1,830
奨学寄付金	28	15,868	23	12,456	27	13,906	45	22,360
計	37	23,252	36	20,000	48	26,283	75	34,530





民間等との共同研究受入一覧

年度	研　究　題　目	申　請　企　業	研究担当教官	研究期間	受入額　(円)
14年度	カーボン粉体を用いた製品化に向けての技術開発	岡野コンクリート㈱	環境都市工学科　助教授　奥村充司	平成14.4.17～平成14.11.30	350,000
	超小型ＨＩＤランプの開発	ハリソン東芝ライティング㈱	電子情報工学科　教　授　井上昭浩	平成14.5.1～平成15.3.31	3,000,000
	耐高温ハロゲン化金属薄膜創成とレーザ応用表面改質装置および長寿命ＨＩＤランプの開発	（財）福井県産業支援センター	電子情報工学科　教　授　井上昭浩	平成14.7.1～平成15.3.31	500,000
	高密度薄膜磁性媒体の開発のためのスパッタ条件などの探索	（財）福井県産業支援センター	電気工学科　助教授　山本幸男	平成14.7.1～平成15.3.31	500,000
	山林火災が及ぼす森林機能への影響評価の研究	大日コンサルタント（株）	環境都市工学科　講　師　辻子裕二	平成14.8.1～平成15.3.31	750,000
	計	５件			5100000
15年度	磁気定方位センシングシステムの開発	㈱田中地質コンサルタント	電気工学科　教　授　原田　望	平成15.4.14～平成16.3.31	500,000
	タッチパネルセンサの高機能化	東芝電子エンジニアリング㈱	電気工学科　教　授　原田　望	平成15.4.30～平成16.3.31	500,000
	車輌搭載路面センサーの実用化研究	山田技研㈱	電子情報工学科　助教授　野村保之 助教授　青山義弘	平成15.5.29～平成15.6.30	250,000
	レーザ応用表面改質装置および長寿命ＨＩＤランプの開発	（財）福井県産業支援センター	電子情報工学科　教　授　井上昭浩	平成15.6.23～平成16.3.31	500,000
	有機金属原料およびV族元素水素化物原料の光化学反応過程に関する研究	（財）福井県産業支援センター	物質工学科　助教授　高山勝己	平成15.6.23～平成16.3.31	1,500,000
	超小型ＨＩＤランプの開発（１）	ハリソン東芝ライティング㈱	電子情報工学科　教　授　井上昭浩	平成15.6.26～平成16.3.31	1,000,000
	超小型ＨＩＤランプの開発（２）	ハリソン東芝ライティング㈱	電子情報工学科　教　授　井上昭浩	平成15.12.18～平成16.3.31	1,000,000
	ナノめっき多孔性炭素材料の大容量キャパシタへの応用展開 ＊受託研究受入分（本省の指導により共同研究契約を締結）	サカイオーベックス㈱	物質工学科　教　授　豊田昌宏 助教授　常光幸美	平成16.1.5～平成16.3.31	研究費は，（財）福井県産業支援センターが負担。（受託研究で受入）
		清川メッキ工業㈱		平成16.1.5～平成16.3.31	
		福井県工業技術センター		平成16.1.5～平成16.3.31	
	計	１０件			5,250,000

民間等との共同研究受入一覧

年度	研　究　題　目	申　請　企　業	研究担当教官	研究期間	受入額　(円)
16年度	磁気定方位センシングシステムの開発	㈱田中地質コンサルタント	電気工学科　教　授　原田　望	平成16.5.21～平成17.3.31	500,000
	地中の自然電磁波解析を用いた地下探査装置の開発に関する研究	㈱田中地質コンサルタント	電子情報工学科　助　手　石川和彦	平成16.5.21～平成17.3.31	500,000
	携帯電話の位置情報を利用したシステム開発	合資会社　エムディエス	電気工学科　教　授　大久保　茂	平成16.5.21～平成17.3.31	100,000
	超小型ＨＩＤランプの開発	ハリソン東芝ライティング㈱	電子情報工学科　教　授　井上昭浩	平成16.6.1～平成16.9.30	1,000,000
	タッチパネルセンサの多機能化	東芝電子エンジニアリング㈱	電気工学科　教　授　原田　望	平成16.6.7～平成17.3.31	600,000
	カーボンナノチューブのポリマー分散技術の開発およびナノ構造有機複合膜の機能化・デバイス応用に関する研究	日東シンコー㈱	電気工学科　教　授　川本　昂	平成16.6.28～平成17.3.31	600,000
	有用微生物群を用いた河川浄化の研究	福井県和紙工業組合	物質工学科　教　授　上島晃智	平成16.7.9～平成17.3.31	250,000
	トロロアオイ保存剤の劣化緩和並びに有用な処理法の研究	福井県和紙工業組合	物質工学科　教　授　上島晃智	平成16.7.9～平成17.3.31	150,000
	ナノめっき技術による機能性微粒子の創製と新型燃料電池システムの開発 ＊受託研究受入分（文部科学省の指導により共同研究契約を締結）	サカイオーベックス㈱	物質工学科　助教授　常光幸美	平成16.7.13～平成17.3.31	研究費は，（財）福井県産業支援センターが負担。（受託研究で受入）
		清川メッキ工業㈱		平成16.7.13～平成17.3.31	
		福井県工業技術センター		平成16.7.13～平成17.3.31	
	レーザ応用表面改質装置および長寿命ＨＩＤランプの開発	（財）福井県産業支援センター	電子情報工学科　教　授　井上昭浩	平成16.8.6～平成17.3.31	500,000
	有機金属原料およびV族元素水素化物原料の光化学反応過程に関する研究	（財）福井県産業支援センター	物質工学科　助教授　高山勝己	平成16.8.6～平成17.3.31	1,400,000
	機能面及びデザイントレンドを考慮した眼鏡等のデザイン開発	鯖江商工会議所	先進技術教育研究センターセンター長	平成16.8.16～平成17.3.31	1,000,000
	防音素材開発研究	株式会社ユティック	電気工学科　教　授　川本　昂	平成16.10.5～平成17.2.28	857,000
	微生物反応と電極反応を応用した新規環境浄化技術に関する調査研究	セーレン㈱	物質工学科　助教授　高山勝己	平成16.12.6～平成17.2.28	1,050,000
	超小型ＨＩＤランプの開発	ハリソン東芝ライティング㈱	電子情報工学科　教　授　井上昭浩	平成16.12 .21～平成17.3.31	1,000,000
	地域の自立支援ソフト「コミュニティ・サイト支援システム」	㈱サイエンスクラフト	電子情報工学科　助教授　斉藤　徹	平成16.12.27～平成17.2.15	100,000
	計	１８件			9,607,000

民間等との共同研究受入一覧

年度	研　究　題　目	申　請　企　業	研究担当教員	研究期間	受入額　(円)
17年度	食品中に存在する異質物の簡易的分析法の確立	㈱ふじや食品	物質工学科　教　授　小泉貞之	平成17.6.1～平成18.3.31	150,000
	重心動揺計測制御ソフトの開発	インターリハ㈱	一般科目　助教授　小林秀紹	平成17.6.1～平成18.3.31	130,000
	リモートセンシングによる遺跡探査研究	㈱田中地質コンサルタント	環境都市工学科　助教授　辻子裕二	平成17.6.9～平成18.3.31	200,000
	レーザ応用表面改質装置および長寿命ＨＩＤランプの開発	(財)ふくい産業支援センター	電子情報工学科　教　授　井上昭浩	平成17.6.15～平成17.12.18	500,000
	有機金属原料およびV族元素水素化物原料の光化学反応過程に関する研究	(財)ふくい産業支援センター	物質工学科　助教授　高山勝己	平成17.6.15～平成17.12.18	1,000,000
	食品用天然ナノカルシウムの製法と分散に関する研究	カワイ㈱	物質工学科　講　師　加藤　敏	平成17.6.13～平成17.12.31	200,000
	光源用機能膜の開発	ハリソン東芝ライティング㈱	電子情報工学科　教　授　井上昭浩	平成17.7.1～平成17.9.30	1,000,000
	新潟･神戸･福井における水害および地震災害の実体と相互比較	長岡技術科学大学	環境都市工学科	平成17.7.2～平成18.3.31	300,000
	タッチパネルセンサの多機能化	東芝電子エンジニアリング㈱	電気電子工学科　教　授　原田　望	平成17.7.13～平成18.3.31	600,000
	機能面及びデザイントレンドを考慮した眼鏡等のデザイン開発	鯖江商工会議所	地域連携テクノセンターセンター長	平成17.7.27～平成18.3.31	1,000,000
	有用微生物群を用いた河川浄化の研究	福井県和紙工業組合	物質工学科　教　授　上島晃智	平成17.8.5～平成18.3.31	250,000
	トロロアオイ保存剤の劣化緩和並びに有用な処理法の研究	福井県和紙工業組合	物質工学科　教　授　上島晃智	平成17.8.5～平成18.3.31	150,000
	バーミキュライトの化学膨潤による無機紙の開発	(有)岩六製紙所	物質工学科　教　授　松井修一	平成17.8.6～18.3.31	600,000
	ナノめっき技術による機能性微粒子の創製と新型燃料電池システムの開発 ＊受託研究受入分（文部科学省の指導により共同研究契約を締結）	サカイオーベックス㈱	物質工学科　助　手　大嶋俊一	平成17.8.8～平成18.3.31	研究費は，（財）福井県産業支援センターが負担。（受託研究で受入）
		清川メッキ工業㈱		平成17.8.8～平成18.3.31	
		福井県工業技術センター		平成17.8.8～平成18.3.31	
	エレクトロケミカル反応を組み込んだバイオプロセスによる有色廃水処理技術に関する調査研究	セーレン㈱	物質工学科　助教授　高山勝己	平成17.9.7～18.2.28	1,000,000
	カーボンナノチューブのポリマー分散技術の開発およびナノ構造有機複合膜の機能化・デバイス応用に関する研究	日東シンコー㈱	電気電子工学科　教　授　川本　昂	平成17.8.26～平成18.3.31	600,000
	新型魚道の開発	丸一調査設計㈱	環境都市工学科　教　授　廣部英一	平成17.9.27～平成18.3.31	150,000
	新型魚道の開発	岡野コンクリート㈱	環境都市工学科　教　授　廣部英一	平成17.9.27～平成18.3.31	150,000
	大豆加工食品副産物高度利用研究開発	豊橋技術科学大学	物質工学科　助教授　高山勝己	平成17.11.2～平成18.3.31	350,000

民間等との共同研究受入一覧

年度	研　究　題　目	申　請　企　業	研究担当教官	研究期間	受入額　(円)
17年度	マイクロ水力によるエネルギー利用	山田技研株式会社	機械工学科　助教授　藤田克志	平成17.11.16～平成18.3.31	200,000
	廃棄貝を利用した凝集剤開発へ向けた研究	大洋潜水工事株式会社	物質工学科　教　授　小泉貞之	平成17.11.17～平成18.3.31	500,000
	新規抗菌砂の開発	協和化学株式会社	物質工学科　助教授　高山勝己	平成18.1.17～平成18.3.31	10,000
	次世代光源の開発	ハリソン東芝ライティング㈱	電子情報工学科　教　授　井上昭浩	平成18.2.1～平成18.3.31	1,000,000
	散水循環による油分除去システムの開発	有限会社笠川鋼産	物質工学科　教　授　上島晃智	平成18.2.4～平成18.3.31	200,000
	「安全ベルト」の実用化・商品化に向けた研究	有限会社　北陸プロフト	機械工学科　教　授　井上清一	平成18.2.7～平成18.3.31	100,000
	計	27件			2,010,000

受託研究受入一覧

年度	研　究　題　目	委　託　者	研究担当教官	研究期間	受入額（円）
14年度	武生市内の小水路における藻類の水質浄化効果とユスリカ抑制対策としての藻類除去効果に関する研究	（福井県） 武生市	環境都市工学科 助教授　奥村充司	平成14.6.3　～ 平成15.3.31	150,000
	カキ殻の土木材料への応用	（石川県） 石川県中島町	環境都市工学科 教　授　山田幹雄	平成14.6.17　～ 平成15.3.31	500,000
	微生物の製剤化に関する研究	（石川県） 石川県	物質工学科 助教授　杉森大助	平成14.7.11　～ 平成15.3.31	500,000
	油分解微生物製剤の油脂分解性能評価試験	（石川県） 株式会社ゲイト	物質工学科 助教授　杉森大助	平成15.2.3～ 平成15.3.31	1,134,000
	合　計	４件			2,284,000
15年度	武生市内の河川の水生生物調査およびデータベース化に関する研究	武生市	環境都市工学科 助教授　奥村充司	平成15.6.2　～ 平成16.3.31	100,000
	武生市内のきれいな水保全活動に関する調査およびデータベース化に関する研究	武生市	環境都市工学科 助教授　奥村充司	平成15.6.2　～ 平成16.3.31	100,000
	ナノめっき多孔性炭素材料の大容量キャパシタへの応用展開	財団法人福井県産業支援センター	物質工学科 教　授　豊田昌宏 助教授　常光幸美	平成16.1.5　～ 平成16.3.31	2,094,000
	合　計	３件			2,294,000

受託研究受入一覧

年度	研　究　題　目	委　託　者	研究担当教員	研究期間	受入額（円）
16年度	武生市内のホタル生息地の生態学的調査およびデータベース化に関する研究	武生市	環境都市工学科 助教授　奥村充司	平成16.6.11　～ 平成17.3.31	150,000
	ナノめっき技術による機能性微粒子の創製と新型燃料電池システムの開発	財団法人福井県産業支援センター	物質工学科 助教授　常光幸美	平成16.7.13　～ 平成17.3.31	1,620,000
	次世代自己潤滑性トライボロジー焼結材料の開発	独立行政法人科学技術振興機構	機械工学科 助教授　加藤寛敬	平成16.10.1　～ 平成17.3.31	1,000,000
	合　計	３件			2,770,000
17年度	近赤外線・近紫外線による筋疲労軽減効果	ＮＥＣライティング株式会社	一般科目教室 助教授　小林秀紹	平成17.4.12　～ 平成18.3.31	100,000
	携帯電話におけるe-Learning System.の研究開発	株式会社jig.jp	電子情報工学科 教　授　蘆田　昇	平成17.5.27　～ 平成18.3.31	260,000
	ナノめっき技術による機能性微粒子の創製と新型燃料電池システムの開発	財団法人ふくい産業支援センター	物質工学科 助　手　大嶋俊一	平成17.8.8　～ 平成18.3.31	1,470,000
	合　計	３件			1,830,000

平成14年度奨学寄附金受入一覧

寄附金の名称	寄附の目的	受入額（円）	寄附者名	寄附者住所
教育研究奨励金	機械工学科　田中貞行教官の教育研究助成	100,000	福岡重光	福井県鯖江市横越町13－13
教育研究奨励金	物質工学科　吉村忠與志教官の教育研究助成	500,000	真晃機材株式会社	福井県福井市和田東2-808
教育研究奨励金	先進技術教育研究センターの教育研究助成	100,000	株式会社ミツヤ	福井県福井市山室町69-1
教育研究奨励金	先進技術教育研究センターの教育研究助成	100,000	丸一調査設計株式会社	福井県福井市開発町20-6
教育研究奨励金	先進技術教育研究センターの教育研究助成	1,000,000	信越化学工業株式会社武生工場	福井県武生市北府2-1-5
教育研究奨励金	福井工業高等専門学校の教育研究助成	2,500,000	福井工業高等専門学校教育後援会	福井県鯖江市下司町
教育研究奨励金	先進技術教育研究センターの教育研究助成	100,000	増永眼鏡株式会社	福井県福井市今市町4-15
教育研究奨励金	先進技術教育研究センターの教育研究助成	200,000	大和建設株式会社	福井県武生市村国2-13-12
教育研究奨励金	先進技術教育研究センターの教育研究助成	100,000	株式会社ｸｫｰﾄﾞｺｰﾎﾟﾚｰｼｮﾝ	福井県福井市中荒井町5-5
教育研究奨励金	電気工学科　原田望教官の教育研究助成	500,000	東芝電子ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ株式会社	横浜市磯子区新杉田町８
教育研究奨励金	先進技術教育研究センターの教育研究助成	100,000	株式会社ﾎｸｺﾝ	福井県武生市北府1-2-38
教育研究奨励金	電子情報工学科　井上昭浩教官の教育研究助成	400,000	ﾊﾘｿﾝ東芝ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ株式会社	愛媛県今治市旭町5-2-1
教育研究奨励金	先進技術教育研究センターの教育研究助成	200,000	酒井化学工業株式会社	福井県鯖江市川去町32字-2-1
教育研究奨励金	環境都市工学科　山田幹雄教官の教育研究助成	500,000	北陸ｴｰｽｺﾝ工業株式会社	石川県金沢市辰己町ロ21

平成14年度奨学寄附金受入一覧

寄附金の名称	寄附の目的	受入額（円）	寄附者名	寄附者住所
教育研究奨励金	物質工学科　杉森大助教官の教育研究助成	500,000	長瀬産業株式会社合成樹脂事業部・大阪地区	大阪市西区新町1-1-17
教育研究奨励金	先進技術教育研究センターの教育研究助成	100,000	丸文通商株式会社福井支店	福井県福井市林町62-3
教育研究奨励金	物質工学科　豊田昌宏教官の教育研究助成	1,500,000	轟産業株式会社	福井県福井市毛矢3-2-4
教育研究奨励金	福井工業高等専門学校の教育研究助成	1,000,000	福井工業高等専門学校教育後援会	福井県鯖江市下司町
教育研究奨励金	物質工学科　杉森大助教官の教育研究助成	300,000	長瀬産業株式会社研究開発センター	神戸市西区室谷2-2-3
教育研究奨励金	機械工学科　仲西恒夫教官の教育研究助成	500,000	富士電機株式会社	東京都品川区大崎1-11-2（ｹﾞｰﾄｼﾃｨ大崎ｲｰｽﾄﾀﾜｰ）
教育研究奨励金	先進技術教育研究センター	100,000	鯖江商工会議所	福井県鯖江市本町3-2-12
教育研究奨励金	電子情報工学科　井上昭浩教官の教育研究助成	400,000	株式会社オーク製作所	東京都調布市調布ケ丘3-34-1
教育研究奨励金	福井工業高等専門学校の教育研究助成	1,000,000	福井工業高等専門学校教育後援会	福井県鯖江市下司町
教育研究奨励金	福井工業高等専門学校の教育研究助成	868,000	福井工業高等専門学校教育後援会	福井県鯖江市下司町
教育研究奨励金	電子情報工学科　井上昭浩教官の教育研究助成	400,000	ﾊﾘｿﾝ東芝ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ株式会社	愛媛県今治市旭町5-2-1
教育研究奨励金	先進技術教育研究センターの教育研究助成	100,000	株式会社ミルコン	福井県福井市長本町２０２番地
教育研究奨励金	物質工学科　常光幸美教官の教育研究助成	1,000,000	信越化学工業（株）磁性材料研究所	福井県武生市北府2-1-5
教育研究奨励金	物質工学科　豊田昌宏教官の教育研究助成	1,700,000	株式会社ナード研究所	尼崎市西長洲町2-6-1
計	28件	15,868,000		

平成15年度奨学寄附金受入一覧

寄附金の名称	寄附の目的	受入額（円）	寄附社名	寄附者住所
教育研究奨励金	福井工業高等専門学校の教育研究助成	300,000	福井工業高等専門学校教育後援会	福井県鯖江市下司町
教育研究奨励金	先進技術教育研究センターの教育研究助成	1,000,000	信越化学工業株式会社武生工場	福井県武生市北府2-1-5
教育研究奨励金	先進技術教育研究センターの教育研究助成	100,000	株式会社ミツヤ	福井県福井市山室町69-1
教育研究奨励金	先進技術教育研究センターの教育研究助成	200,000	酒井化学工業株式会社	福井県鯖江市川去町32字-2-1
教育研究奨励金	福井工業高等専門学校の教育研究助成	2,500,000	福井工業高等専門学校教育後援会	福井県鯖江市下司町
教育研究奨励金	先進技術教育研究センターの教育研究助成	100,000	丸一調査設計株式会社	福井県福井市開発町20-6
教育研究奨励金	先進技術教育研究センターの教育研究助成	200,000	大和建設株式会社	福井県武生市村国2-13-12
教育研究奨励金	物質工学科　吉村忠與志教官の教育研究助成	200,000	山田技研株式会社	福井県福井市花堂南2-5-12
教育研究奨励金	電子情報工学科　井上昭浩教官の教育研究助成	400,000	ﾊﾘｿﾝ東芝ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ株式会社	愛媛県今治市旭町5-2-1
教育研究奨励金	物質工学科　吉村忠與志教官の教育研究助成	500,000	株式会社オリオンエンジニアリング	武生市家久町46-20
教育研究奨励金	環境都市工学科　山田幹雄教官の教育研究助成	500,000	北陸ｴｰｽｺﾝ工業株式会社	石川県金沢市辰己町ロ21
教育研究奨励金	環境都市工学科　辻子裕二教官の教育研究助成	200,000	大日コンサルタント株式会社	岐阜県岐阜市藪田南3-1-21
教育研究奨励金	福井工業高等専門学校の教育研究助成	1,000,000	福井工業高等専門学校教育後援会	福井県鯖江市下司町
教育研究奨励金	機械工学科　加藤寛敬教官の教育研究助成	50,000	福井鋲螺株式会社	福井県坂井郡金津町指中59-115

平成15年度奨学寄附金受入一覧

寄附金の名称	寄附の目的	受入額（円）	寄附社名	寄附者住所
教育研究奨励金	福井工業高等専門学校の教育研究助成	1,000,000	福井工業高等専門学校教育後援会	福井県鯖江市下司町
教育研究奨励金	福井工業高等専門学校の教育研究助成	1,000,000	福井工業高等専門学校教育後援会	福井県鯖江市下司町
教育研究奨励金	物質工学科　常光幸美教官の教育研究助成	1,000,000	信越化学工業（株）磁性材料研究所	福井県武生市北府2-1-5
教育研究奨励金	電子情報工学科　井上　昭浩教授	400,000	ﾊﾘｿﾝ東芝ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ株式会社	愛媛県今治市旭町5-2-1
教育研究奨励金	先進技術教育研究センターの教育研究助成	100,000	株式会社ﾎｸｺﾝ	福井県武生市北府1-2-38
教育研究奨励金	物質工学科　杉森大助教官の教育研究助成	1,000,000	財団法人関西ｴﾈﾙｷﾞｰ･ﾘｻｲｸﾙ科学研究振興財団	大阪市北区中之島3-6-32ﾀﾞｲﾋﾞﾙ305号
教育研究奨励金	福井工業高等専門学校の教育研究助成	541,000	福井工業高等専門学校教育後援会	福井県鯖江市下司町
教育研究奨励金	環境都市工学科　辻子裕二教官の教育研究助成	65,000	大日ｺﾝｻﾙﾀﾝﾄ㈱	岐阜県岐阜市藪田南3-1-21
教育研究奨励金	先進技術教育研究センターの教育研究助成	100,000	丸文通商株式会社福井支店	福井県福井市林町62-3
計	23件	12,456,000		

平成16年度奨学寄附金受入一覧

寄附金の名称	寄附の目的	受入額（円）	寄附者名	寄附者住所
教育研究奨励金	物質工学科　松井栄樹教員の教育研究助成	550,000	福井工業高等専門学校物質工学科　松井栄樹	福井市引目町1-1-3
教育研究奨励金	電気工学科　原田望教員の教育研究助成	100,000	株式会社田中地質ｺﾝｻﾙﾀﾝﾄ	福井県武生市国高2-324-7
教育研究奨励金	電子情報工学科　井上昭浩教員の教育研究助成	400,000	ﾊﾘｿﾝ東芝ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ株式会社	愛媛県今治市旭町5-2-1
教育研究奨励金	先進技術教育研究センターの教育研究助成	1,000,000	信越化学工業株式会社武生工場	福井県武生市北府2-1-5
教育研究奨励金	先進技術教育研究センターの教育研究助成	200,000	大和建設株式会社	福井県武生市村国2-13-12
教育研究奨励金	物質工学科　杉森大助教員の教育研究助成	600,000	ﾅｶﾞｾｹﾑﾃｯｸｽ株式会社	大阪市西区新町1-1-17
教育研究奨励金	先進技術教育研究センターの教育研究助成	200,000	酒井化学工業株式会社	福井県鯖江市川去町32字-2-1
教育研究奨励金	電気工学科　川本昂教員の教育研究助成	300,000	日東シンコー株式会社	福井県坂井郡丸岡町舟寄110-1-1
教育研究奨励金	先進技術教育研究センターの教育研究助成	100,000	丸一調査設計株式会社	福井県福井市開発町20-6
教育研究奨励金	先進技術教育研究センターの教育研究助成	100,000	株式会社ミツヤ	福井県福井市山室町69-1
教育研究奨励金	福井工業高等専門学校の教育研究助成	2,500,000	福井工業高等専門学校教育後援会	福井県鯖江市下司町
教育研究奨励金	電気工学科　川本昂教員の教育研究助成	30,000	合資会社ｴﾑﾃﾞｨｴｽ	福井県鯖江市本町4-8-25
教育研究奨励金	環境都市工学科　辻子裕二教員の教育研究助成	200,000	大日コンサルタント株式会社	岐阜県岐阜市藪田南3-1-21
教育研究奨励金	環境都市工学科　辻野和彦教員の教育研究助成	500,000	大日コンサルタント株式会社	岐阜県岐阜市藪田南3-1-21

平成16年度奨学寄附金受入一覧

寄附金の名称	寄附の目的	受入額（円）	寄附者名	寄附者住所
教育研究奨励金	物質工学科　杉森大助教員の教育研究助成	150,000	財団法人　地球環境財団	新宿区市谷薬王寺町52-5宮尾ﾋﾞﾙ2Ｆ
教育研究奨励金	機械工学科　安丸尚樹教員の教育研究助成	200,000	武生特殊鋼材株式会社	福井県武生市四郎丸町21-2-1
教育研究奨励金	環境都市工学科　山田幹雄教員の教育研究助成	800,000	前田工繊株式会社	福井県坂井郡春江町沖布目38-3
教育研究奨励金	機械工学科　田中嘉津彦教員の教育研究助成	500,000	日立建機株式会社土浦工場	茨城県土浦市神立町650
教育研究奨励金	電子情報工学科　井上昭浩教員の教育研究助成	400,000	ﾊﾘｿﾝ東芝ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ株式会社	愛媛県今治市旭町5-2-1
教育研究奨励金	先進技術教育研究センターの教育研究助成	100,000	株式会社ﾎｸｺﾝ	福井県武生市北府1-2-38
教育研究奨励金	福井工業高等専門学校の教育研究助成	1,500,000	福井工業高等専門学校教育後援会	福井県鯖江市下司町
教育研究奨励金	環境都市工学科　山田幹雄教員の教育研究助成	300,000	北陸ｴｰｽｺﾝ株式会社	石川県金沢市辰己町ロ21
教育研究奨励金	環境都市工学科　吉田雅穂教員の教育研究助成	1,000,000	財団法人関西ｴﾈﾙｷﾞｰ･ﾘｻｲｸﾙ科学研究振興財団	大阪市北区中之島3-6-32ﾀﾞｲﾋﾞﾙ305号
教育研究奨励金	福井工業高等専門学校の教育研究助成	1,776,000	福井工業高等専門学校教育後援会	福井県鯖江市下司町
教育研究奨励金	機械工学科　村中貴幸教員の教育研究助成	200,000	財団法人　理工学振興会	東京都目黒区大岡山2-12-1
教育研究奨励金	先進技術教育研究センターの教育研究助成	100,000	丸文通商株式会社福井支店	福井県福井市林町62-3
教育研究奨励金	先進技術教育研究センターの教育研究助成	100,000	日華化学株式会社	福井県福井市文京4-23-1
計	27件	13,906,000		

平成17年度奨学寄附金受入一覧

寄附金の名称	寄附の目的	受入額（円）	寄附者名	寄附者住所
教育研究奨励金	環境都市工学科阿部教員の教育研究助成	300,000	株式会社イワタ	福井県福井市江端町18-51-5
教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	200,000	大和建設株式会社	福井県武生市村国2-13-12
教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	20,000	株式会社アタゴ	福井県福井市みのり4-13-1
教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	20,000	株式会社ミルコン	福井県福井市長本町202
教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	20,000	株式会社ホクシン	福井県福井市経田1-104
教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	60,000	株式会社ミツヤ	福井県福井市山室町69-1
教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	20,000	日東シンコー株式会社	福井県坂井郡丸岡町舟寄110-1-1
教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	20,000	新道繊維工業株式会社	福井県あわら市伊井第60-1
教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	100,000	株式会社大虫電工	福井県武生市上太田町45-38
教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	100,000	丸一調査設計株式会社	福井県福井市開発町20-6
教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	20,000	武生特殊鋼材株式会社	福井県武生市四郎丸町21-2-1
教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	40,000	テラオライテック株式会社	福井県武生市本保町8-5-1
教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	1,000,000	信越化学工業株式会社武生工場	福井県武生市北府2-1-5
教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	100,000	丸文通商（株）福井支店	福井県福井市林町62-3
教育研究奨励金	物質工学科加藤教員の教育研究助成	300,000	カワイ株式会社	福井県武生市上太田町29-15-1
教育研究奨励金	物質工学科大嶋教員の教育研究助成	500,000	大嶋　俊一	鯖江市北野町2-15-16
教育研究奨励金	物質工学科吉村忠教員の教育研究助成	300,000	エヌ・ジェイ・化成株式会社	福井県坂井郡三国町米納津2-5-2
教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	100,000	株式会社ホクコン	福井県武生市北府1-2-38
教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	60,000	旭日繊維株式会社	福井県今立郡今立町粟田部5-44
教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	20,000	増永眼鏡株式会社	福井県福井市今市町4-15
教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	20,000	株式会社サンルックス	福井県鯖江市丸山町3-5-25
教育研究奨励金	電子情報工学科井上昭浩教員の教育研究助成	400,000	ハリソン東芝ライティング株式会社	愛媛県今治市旭町5-2-1
教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	20,000	（株）カズマ	福井県福井市八重巻町105

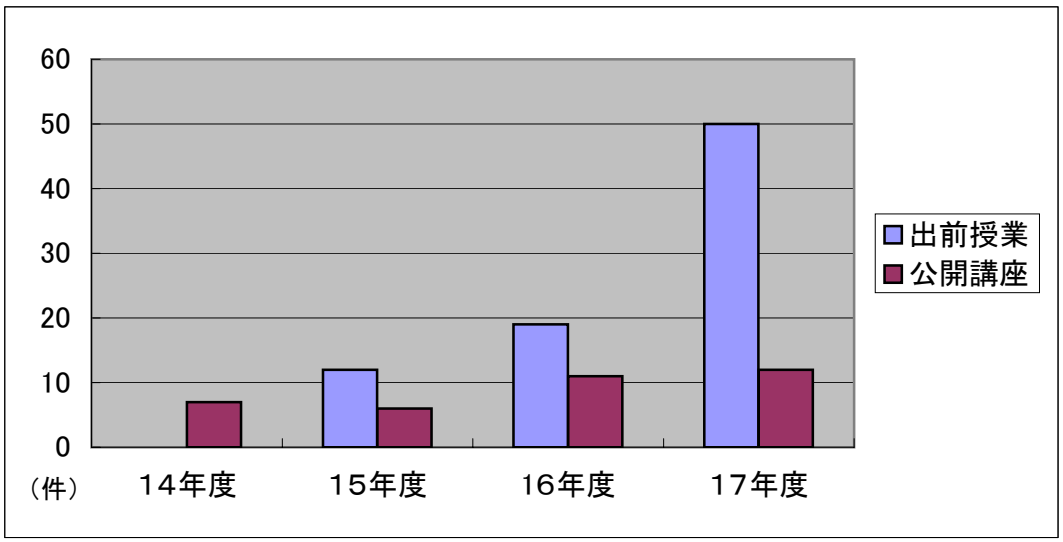
平成17年度奨学寄附金受入一覧

寄附金の名称	寄附の目的	受入額（円）	寄附者名	寄附者住所
教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	200,000	酒井化学工業（株）	福井県鯖江市川去町32-2-1
教育研究奨励金	環境都市工学科山田教員の教育研究助成	600,000	前田工繊株式会社	福井県坂井郡春江町沖布目38-3
教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	40,000	揚原織物工業株式会社	福井県鯖江市有定町1-3-26
教育研究奨励金	福井工業高等専門学校の教育研究奨励	11,288,150	記念事業準備委員会委員長	福井県鯖江市下司町
教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	20,000	株式会社松浦機械製作所	福井県福井市漆原町壱字沼壱番地
教育研究奨励金	福井工業高等専門学校の教育研究奨励	99,880	記念事業準備委員会委員長	福井県鯖江市下司町
教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	40,000	株式会社ホリカワ	福井県鯖江市川去町6-8
教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	20,000	サカイオーベックス株式会社	福井県福井市花堂中2-15-1
教育研究奨励金	福井工業高等専門学校の教育研究奨励	44,810	記念事業準備委員会委員長	福井県鯖江市下司町
教育研究奨励金	電気電子工学科川本教員の教育研究助成	100,000	株式会社柿本商会	石川県金沢市藤江南2-28
教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	40,000	福井めがね工業株式会社	福井県鯖江市北野町2-2-11
教育研究奨励金	福井工業高等専門学校の教育研究奨励	9,930	記念事業準備委員会委員長	福井県鯖江市下司町
教育研究奨励金	電気電子工学科川本教員の教育研究助成	300,000	日東シンコー株式会社	福井県坂井郡丸岡町舟寄110-1-1
教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	20,000	株式会社福井銀行	福井県福井市順化1-3-3
教育研究奨励金	福井工業高等専門学校の教育研究助成	2,500,000	福井工業高等専門学校教育後援会	福井県鯖江市下司町
教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	20,000	山田技研㈱	福井県福井市花堂南2-5-12
教育研究奨励金	電子情報工学科井上昭浩教員の教育研究助成	400,000	ハリソン東芝ライティング株式会社	福井県鯖江市下司町
教育研究奨励金	福井工業高等専門学校の教育研究奨励	327,740	記念事業準備委員会委員長	愛媛県今治市旭町5-2-1
教育研究奨励金	物質工学科川村敏之教員の教育研究助成	600,000	（財）住友財団	東京都港区芝大門1-12-16
教育研究奨励金	福井工業高等専門学校の教育研究奨励	49,880	記念事業準備委員会委員長	福井県鯖江市下司町
教育研究奨励金	福井工業高等専門学校の教育研究助成	1,000,000	福井工業高等専門学校教育後援会	福井県鯖江市下司町
教育研究奨励金	高齢者向け科学実験ゲーム開発のための研究（電気電子工学科川本教員）	900,000	（財）中山隼雄科学技術文化財団	東京都港区白金台3－4－12
計	45件	22,360,390		

出前授業・公開講座実施一覧

（件数）

年　度	出前授業	公開講座	合計
14年度		7	7
15年度	12	6	18
16年度	19	11	30
17年度	50	12	62
合計	81	36	117



平成15年度出前授業実施内訳

一般科目

実　施　日	出前授業先	概　　要	担当教職員	対象者（参加者数）
11月20日	鯖江中学校	面白い科学実験	太田泰雄	中学生・教員
1月11日	今庄町町民センター	有名なものの強さ、無名なものの深さ	戸島貴代志	地域住民
3月7日		福井県ライフアカデミー人間学講座Ⅱ ―自分さがしから自分つくりへ―	戸島貴代志	地域住民
6月2日		福井県ライフアカデミー人間学講座Ⅲ ―つくられる自分つくる自分―	戸島貴代志	地域住民
11月6日	武生市民センター	武生市生涯学習講座―古き道―	戸島貴代志	地域住民

環境都市工学科

実　施　日	出前授業先	概　　要	担当教職員	対象者（参加者数）
7月26日 8月4,8日		水生生物による水質の簡易調査	奥村充司	小学生・中学生・教員・地元住民
8月29日		ふるさとの身近な水環境を守る	奥村充司	地域住民
10月4日		城山自然観察会	奥村充司	地域住民
10月26日		人と生き物のくらしと水	奥村充司	地域住民
2月11日		リモートセンシングの利用例	辻子裕二	地域住民

平成16年度出前授業実施報告書

機械工学科

実　施　日	出前授業先	概　　要	担当教職員	対象者（参加者数）
10月10日	今立町岡本小学校	親子でトライ ―ﾛﾎﾞｯﾄ探索隊ﾛﾎﾞｯﾄに関する授業―	井上清一	小学生・教員

電気工学科

実　施　日	出前授業先	概　　要	担当教職員	対象者（参加者数）
11月22日	敦賀市黒河小学校	未来を開く燃料電池	川本昂，丸山晃生	小学生
11月30日	今庄中学校	未来を開く燃料電池	川本昂，新谷邦弘	中学生

電子情報工学科

実　施　日	出前授業先	概　　要	担当教職員	対象者（参加者数）
9月28日	美浜南小学校	ｴﾈﾙｷﾞｰに関する総合学習の中で人力発電機を使った消費電力の体験と仕組みについてﾃﾞﾓ実験	堀井直宏	小学生・教員

物質工学科

実　施　日	出前授業先	概　　要	担当教職員	対象者（参加者数）
9月19日		都市との交流事業－緑のダムについて-	上島寛敬	東京港区の児童保護者と地域住民
9月22日	鯖江中学校	液体窒素ってなーに	松島修一，上島寛敬，松井栄樹	中学生・教員
10/15,29	王子保小学校	爆発実験，リズム反応	小泉貞之，片岡裕一	小学生
11月7日		地域交流事業-大徳山のﾌﾞﾅ林について-	上島寛敬	大野市五箇地区住民
11月10日	足羽中学校	蛍の光を見てみよう	上島寛敬，松井栄樹	中学生
11月16日	大安寺小・中学校	科学はおもしろい	松井修一，上島寛敬	小・中学生

環境都市工学科

実　施　日	出前授業先	概　　要	担当教職員	対象者（参加者数）
4月21日		近年の地震による液状化被害とその被害軽減策	吉田雅穂	地域住民
6月5日， 7月25日， 8月3,11日		水生生物による水質の簡易調査	奥村充司	地域住民
9月11日		環境マップをつくろう	辻子裕二	小学校・中学校・教員
12月2日		地盤の支持力および基礎の設計	吉田雅穂	福井県技術職員
12月3日		鉄筋コンクリート構造物の設計	阿部孝弘	福井県技術職員

平成17年度出前授業実施内訳

機械工学科

実　施　日	出前授業先	概　　要	担当教職員	対象者（参加者数）
10月13,14日	福井県産業会館	歩行型ロボットの制御	鈴木秀和	地域住民
11月30日	越前市大虫小学校	おもちゃのサイエンス	田中嘉津彦，藤田克志，芳賀正和，村中貴幸	小学6年生，66名
12月9日	越前市王子保小学校	おもちゃのサイエンス	田中嘉津彦，藤田克志，村中貴幸	小学6年生，23名
2月1日	越前市味真野小学校	AIBOロボットと遊ぶ（教員へのﾃﾞﾓ･打ち合わせ）	鈴木秀和（機械科），前川公男，西仁司（電子情報科）	教員10名
2月8日	越前市味真野小学校	AIBOロボットと遊ぶ	鈴木秀和（機械科），前川公男，西仁司（電子情報科）	科学クラブ　16名

電気電子工学科

実　施　日	出前授業先	概　　要	担当教職員	対象者（参加者数）
6月25日	鯖江環境フェア	ソーラーカーとは，試乗会	川本昂	小，中学生，保護者　約30名
7月4日	越前市万葉中学校	生活の中の電気電子技術（電気電子技術の概要）	新谷邦弘，丸山晃生	理科選択（3年生）　32名
7月7日	越前市万葉中学校	雷と遊ぼう（静電気，放電）	川本昂	理科選択（3年生）　32名
7月11日	越前市万葉中学校	発電機を作ろう（磁気の性質，電流と磁気，電磁誘導）	新谷邦弘，丸山晃生	理科選択（3年生）　32名
7月14日	越前市万葉中学校	次世代の太陽電池を作ろう（電圧の発生，環境意識の啓発）	川本昂	理科選択（3年生）　32名
7月29日	福井県民生協環境講座	ソーラーカー作り，試乗会	川本昂	小学生，保護者　約50名
8月3日	ｻｲｴﾝｽ・ﾊﾟｰﾄﾅｰｼｯﾌﾟ・ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ自然ｴﾈﾙｷﾞｰﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ	模型ｿｰﾗｰｶｰを製作して太陽電池のはたらきを楽しく理解させる授業つくり	川本昂，原田望，丸山晃生	鯖江市の小，中学校理科教諭，20名

平成17年度出前授業実施内訳

実　施　日	出前授業先	概　　要	担当教職員	対象者（参加者数）
8月7日	2005ＦＵＫＵＩ	ソーラーカーとは，試乗会	川本昂	小，中学生，保護者　約60名
10/15,16	つるが観光物産フェア	ソーラーカーとは，試乗会	川本昂	小，中学生　240名
11/5,6	アクアトムフェア	電気の歴史をたどろう，花の色素を使った新型太陽電池を作ろう	荒川正和，川本昂	小，中学生　60名
12月8日	越前市万葉中学校	～超低温の世界～一超伝導体を	川本昂，新谷邦弘	理科選択（3年生）　32名
12月12日	越前市万葉中学校	ライントレースマシーン	新谷邦弘，米田智晃	理科選択（3年生）　32名
12月19日	越前市万葉中学校	蒸気船スチームロケット	川本昂，新谷邦弘	理科選択（3年生）　32名
1月16日	越前市万葉中学校	虹をつくろう	川本昂	理科選択（3年生）　32名
2月17日	越前市王子保小学校	雷と遊ぼう	川本昂	小学生（科学クラブ），教職員

電子情報工学科

実　施　日	出前授業先	概　　要	担当教職員	対象者（参加者数）
8月27日	福井市社会福祉協議会	聴覚障害者向けソフトの利用講習会のサ	斉藤 徹	聴覚障害者　5名
10月5日	福井県工業技術センター	ふくいソフトウェアコンペティション２００５審査委員会	青山義弘	審査委員等12名，審査作品17件
10月13日	福井県産業会館	ふくいソフトウェアコンペティション２００５表彰式	青山義弘	受賞関係者，審査員等約30名
10月30日	奥越地場産業センター	ITアトラクション　ペット型ロボット自走型ロボットの実演	前川公男,蘆田昇,齊藤徹,石川和彦,西仁司	国民文化祭参加住民約300名
12月21日	越前市武生西小学校	段ボールでＢＳアンテナを作る	前川公男	科学クラブ22名
1月18日	越前市武生西小学校	電波の不思議	前川公男	科学クラブ　22名

平成17年度出前授業実施内訳

実　施　日	出前授業先	概　　要	担当教職員	対象者（参加者数）
2月15日	越前市味真野小学校	段ボールでＢＳアンテナを作ろう	前川公男	科学クラブ　16名
2月22日	越前市味真野小学校	電波の不思議	前川公男	科学クラブ　16名
2月15日	越前市武生西小学校	AIBOロボットと遊ぶ	西　仁司	科学クラブ　22名
2月22日	越前市神山小学校	AIBOロボットと遊ぶ	西　仁司	6年生　29名

物質工学科

実　施　日	出前授業先	概　　要	担当教職員	対象者（参加者数）
6月15日	越前市味真野小学校	液体窒素を使った実験	吉村忠与志，野村栄市	小学生・教諭　　21名
6月29日	越前市味真野小学校	ホタルの光についてルミナール反応	松井修一，上島晃智 松井栄樹	小学生・教諭　　21名
7月13日	越前市味真野小学校	花火と金属Ｎａ Ｍａ ＮＩ３のエネルギー実験	小泉貞之，川村敏之 野村栄一	小学生・教諭　　21名
10月1日	福井市東藤島小学校	液体窒素を用いた化学実験など	吉村忠與志，野村栄市	小学生・父兄・教諭，約60名
10月28日	越前市味真野小学校	魔法の水，めだかの卵観察など	川村敏之	味真野小学校科学クラブ，教職員，約40名/日
10月29日	越前市岡本小学校	液体窒素を用いた化学実験など	松井修一，上島晃智，小泉貞之，松井栄樹，大島俊一，野村栄市，片岡裕一	小学生・教諭，約360名/日
11月11日	越前市王子保小学校	液体窒素を使った実験	小泉貞之，野村栄市	王子保小学校科学クラブ，教職員，約30名/日
12月4日	越前市国高公民館	液体窒素を用いた化学実験など	吉村忠與志，上嶋晃智，加藤敏，松井栄樹，大島俊一	小学生・教諭・父兄，約80名/日
2月10日	越前市王子保小学校	酸化と還元反応を利用した化学	小泉貞之，片岡裕一	王子保小学校科学クラブ，教職員

平成17年度出前授業実施内訳

環境都市工学科

実　施　日	出前授業先	概　　要	担当教職員	対象者（参加者数）
6月16日	南越前町文化会館（南条区）	宇宙考古学による文明遺産保全へのロマン	辻子裕二	一般 30名
6月25日	鯖江市饗応会館	環境フェア・開会のフォーラム	武井幸久	一般 100名
6月25日	鯖江市饗応会館	環境フェア・食のフォーラム　パネラー	武井幸久	一般 30名
8月11日	エコネットさばえ	環境教育の課題と方法　コーディネイト	武井幸久	県内の小中学校の教諭50名
9月17日	エコネットさばえ	環境マップづくり	辻子裕二	鯖江市内小学生１５名，保護者，ボランティアスタッフ（10名）
9月28日	若狭町三方庁舎　会議室	若狭湾国定公園ワーク・ショップ・コメンテーター	武井幸久	一般 30名
10月13日	鯖江市片上公民館	ディスカバーさばえin片上	武井幸久	一般（親子）　20名
10月20日	美浜町庁舎 小ホール	若狭湾国定公園ワーク・ショップ・コメンテーター	武井幸久	一般 30名

平成14年度　公開講座実施内訳

実施日	講　　座　　名	受講対象者／募集定員	受講者数
7 月 22, 23 日	メカトロで遊んで，ロボットに強くなろう	中学生 （小学校高学年も可） ２０名	２１名
7 月 24, 26 日	ブリッジコンテスト２００２ ー橋をつくってみようー	中学生 １５名	９名
8 月 3, 4, 5 日	楽しい電子回路入門 ーマイコンでロボットを動かしてみよう！ー	中学生 ２０名	２２名
8 月 12, 13 日	バイオテクノロジー入門 ー身の回りの微生物と細胞の顕微鏡観察ー	中学生 （小学校高学年も可） １５名	９名
8 月 12, 13 日	Linuxによるサーバ構築	市民一般 １５名	６名
8 月 31 日, 9 月 1, 7, 8 日	テ　ニ　ス　教　室	市民一般 （中学生以上） ２４名	２１名
9 月 26, 27 日	高度技術者研修 －先端高機能材料と最近の材料分析評価技術－	県内企業の技術者･研究者 ８名	１２名
計	７件		

平成15年度　公開講座実施内訳

実施日	講　　座　　名	受講対象者／募集定員	受講者数
7 月 24, 25 日	ブリッジコンテスト２００３ 　　－橋をつくってみようー	中学生 １５名	１５名
7 月 25, 27 日	小学校のための夏休み理科教室 　　－身近な野菜，果物で炭を作ろう，電気を起こそうー	小学生 １５名	８名
8 月 2, 3, 4 日	楽しい電子回路入門 　　－マイコンでロボットを動かしてみようー	中学生 １５名	１９名
8 月 22, 29 日	Ｐｅｒｌでつくる CGＩ入門 　　－アクセスカウンターを作ろうー	市民一般 １５名	４名
8 月 30, 31 日, 9 月 6, 7 日	テニス教室　　－中級コースー	市民一般２０名	１８名
9 月 27 日, 10 月 4, 25 日 11 月 1, 8 日	機械設計入門講座	市民一般 ２０名	４１名
計	６件		

平成16年度　公開講座実施内訳

実施日	講　　座　　名	受講対象者／募集定員	受講者数
5月17～20日,24～27日, 5月31日～6月3日,6/7～10日	機械設計入門講座	市民一般 ２０名	２１名
6月5,12,19,26日	技術者のためのExcel活用実習	市民一般 ２０名	２名
6月5,6日	英検３級合格をめざして「春季コース」	中学生 ２０名	２名
7月24,25日	Java Appletを使った簡単な コンピュータグラフィックス	市民一般 １５名	１５名
7月26,27日	おもちゃづくりから学ぶサイエンス	中学生 ２０名	１７名
7月31日～8月2日	楽しい電子回路入門 ーマイコンでロボットを動かしてみよう！ー	中学生 １５名	１５名
8月3,4日	ブリッジコンテスト２００４ ー橋をつくってみようー	中学生 １５名	１３名
8月28,29日, 9月4,5日	テニス教室　ー初心者コースー	市民一般 ２０名	１９名
10月2日	身のまわりの統計学	市民一般 １５名	
10月2,3日	身の回りの“もの”を作ってみよう ー高分子材料ー	中学生 １０名	
10月9,10日	英検３級合格をめざして「秋季コース」	中学生 ２０名	
計	１１件		

平成17年度 公開講座実施内訳

実施日	講　　座　　名	受講対象者／募集定員	受講者数
5 月 16 日～6 月 9 日	機械設計入門講座	市民一般 ２０名	２２名
6 月 4, 5 日	英検３級合格をめざして「春季コース」	中学生 ２０名	
7 月 2 日	放射線計測講習会 　　－エックス線作業主任者試験に向けて－	市民一般 １０名	３名
7 月 23, 24 日	おうちで簡単ＬＡＮ活用	市民一般 ８名	
7 月 25, 26 日	おもちゃづくりから学ぶサイエンス	中学生 ２０名	６名
7 月 28, 29 日	ブリッジコンテスト 2005－橋をつくってみよう－	中学生 １５名	３名
7 月 29 ～31 日	楽しい電子回路入門 　　－マイコンでロボットを動かしてみよう－	中学生 １５名	１６名
8 月 20, 21, 27, 28 日	やさしいテニス（親子・初心者・だれでもコース）	市民一般 １６名	３名
10 月 1, 2 日	身の回りの“もの”を作ってみよう　－高分子材料－	中学生 １０名	４名
10 月 3～6 日	技術者のための Excel 活用実習	市民一般 ２０名	３名
10 月 8, 9 日	英検３級合格をめざして「秋季コース」	中学生 ２０名	１名
10 月 15 日	身の回りの微生物と細胞の顕微鏡観察	中学生 ９名	１名
計	１２件		

公　開　授　業　実　施　一　覧

年度	実施教員	授業科目	実施日	立 会 教 員
16年度	前川 公男	電子回路Ⅱ	平成16年10月6日	野村 保之，井上 昭浩，吉崎 保夫，荒川 正和
	井上 清一	自動制御	平成16年10月6日	佐藤匡，吉崎 保夫，青山 義弘，井之上 和代，芳賀 正和
	前島 正彦	構造力学Ⅰ	平成16年10月12日	阿部 孝弘，辻野 和彦，坪川 武弘，平井 惠子，辻子 裕二
	杉森 大助	生物化学Ⅰ	平成16年10月25日	高山 勝己，松井 修一，瀬川 直美，山本 幸男，上島 晃智
	阿部 孝弘	ｺﾝｸﾘｰﾄ構造学Ⅰ	平成16年10月26日	前島 正彦，吉田 雅穂，大久保 弦，加藤 敏，辻子 裕二
	原田 望	情報処理ｼｽﾃﾑ論Ⅰ	平成16年11月15日	米田 知晃，新谷 邦弘，平井 惠子，村中 貴幸，辻子 裕二
	新谷 邦弘	電気回路Ⅰ	平成16年12月17日	原田 望，米田 知晃，柳原 祐治，杉森 大助，山本 幸男
	坪川 武弘	基礎解析	平成17年1月21日	井之上和代，朝倉相一，藤原正敏，野村 保之，小林 秀紹
	中村 吉秀	国語	平成17年1月27日	小寺 光雄，武井 幸久，松井 栄樹，辻子 裕二
17年度	井上 昭浩	電気回路Ⅱ	平成17年5月30日	野村 保之，青山 義弘，坪川 武弘，荒川 正和
	吉崎 保夫	機構学	平成17年6月28日	井上 清一，芳賀 正和，阿部 孝弘，米田 知晃，太田 泰雄
	朝倉 相一	応用数学	平成17年7月4日	坪川 武弘，北浦 守，吉崎 保夫，，米田 知晃，小林 秀紹
	田中 嘉津彦	振動工学	平成17年11月9日	阪口 健一，吉崎 保夫坪，川 武弘，中村 吉秀，藤田 克志
	岡本 拓夫	物理	平成17年11月15日	太田 泰雄，坪川 武弘，前島 正彦，荒川 正和，小林 秀紹
	蘆田 昇	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ基礎Ⅱ	平成18年1月19日	高久 有一，野村 保之，鈴木 秀和，米田 知晃
	廣部 英一	水理学Ⅰ	平成18年1月23日	田安 正茂，辻子 裕二，井上 清一，藤田 克志，辻野 和彦
	前多 信博	電気磁気学Ⅰ	平成18年2月3日	佐藤 匡，丸山 晃生，野村 保之，中谷 実伸，山本 幸男

自己点検・評価委員会委員名簿

委　員　長	駒　井　謙治郎	校　長
委　　員	太　田　泰　雄	副校長（教務主事）
委　　員	安　丸　尚　樹	副校長（学生主事）
委　　員	島　田　　茂	副校長（寮務主事）
委　　員	大久保　　茂	副校長（専攻科長）
委　　員	田　中　嘉津彦	機械工学科主任
委　　員	川　本　　昂	電気電子工学科主任
委　　員	前　川　公　男	電子情報工学科主任
委　　員	吉　村　忠與志	物質工学科主任
委　　員	武　井　幸　久	環境都市工学科主任
委　　員	坪　川　武　弘	一般科目教室（自然科学系）主任
委　　員	小　寺　光　雄	一般科目教室（人文社会科学系）主任
委　　員	前　多　信　博	図書館長
委　　員	蘆　田　　昇	総合情報処理センター長
委　　員	上　島　晃　智	地域連携テクノセンター長
委　　員	原　田　　望	教育研究支援センター長
委　　員	阿　部　孝　弘	JABEE 委員会委員長
委　　員	田　中　嘉津彦	教育システム評価委員会委員長
委　　員	糸　崎　喜　一	事務部長

平成１８年３月発行

編　集　福井工業高等専門学校自己点検・評価委員会

発行者　**独立行政法人　国立高等専門学校機構**
福井工業高等専門学校
〒916－8507　福井県鯖江市下司町
TEL 0778－62－1111（代）
FAX 0778－62－2597（庶務課）
URL http://www.fukui-nct.ac.jp